

2022年度
事業報告書

社会福祉法人
聖隷福祉事業団

2022年度 事業報告書 目次

2022年度事業報告	…	1
2022年度事業成績報告	…	6
聖隷三方原病院	…	8
聖隷おおぞら療育センター	…	12
三方原ベテルホーム	…	14
聖隷浜松病院	…	16
聖隷淡路病院	…	19
聖隷横浜病院	…	21
聖隷佐倉市民病院	…	23
浜松市リハビリテーション病院	…	25
聖隷袋井市民病院	…	27
保健事業部	…	29
聖隷健康診断センター	…	31
聖隷予防検診センター	…	33
聖隷健康サポートセンターShizuoka	…	35
地域・企業健診センター	…	37
在宅・福祉サービス事業部	…	39
＜和合せいれの里＞ 和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき 障害者支援施設みるとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター 聖隷放課後クラブはなえみ 聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合 聖隷チャレンジ工房和合 障害者相談支援事業所くすのき 浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和合 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉	…	43
＜聖隷ケアセンター初生＞ 和合愛光園初生サテライト 聖隷デイサービスセンター初生	…	47
＜聖隷ケアセンター高丘＞ 訪問看護ステーション高丘 聖隷リハビリプラザIN高丘 地域包括支援センター高丘 聖隷ケアプランセンター浜松 訪問看護ステーション住吉第二 聖隷コミュニティケアセンター 浜松市生活自立相談支援センターつながり	…	49
＜聖隷厚生園信生＞ 聖隷厚生園信生寮 聖隷厚生園まじわりの家 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江 聖隷ヘルパーセンター浜松北	…	56
＜聖隷厚生園讃栄＞ 聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド 地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド 福祉共同住宅ファーストステップ 聖隷厚生園ナルド工房	…	58
＜浜松学園＞ 聖隷チャレンジ工房浜松学園 聖隷ワース工房浜松学園 聖隷ステップサポート	…	62
もくせいの里	…	65
＜いなさ愛光園＞ いなさ愛光園特別養護老人ホーム いなさ愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターいなさ いなさ愛光園在宅介護支援センター いなさ愛光園ヘルパーステーション ほのぼのケアガーデン	…	67
＜聖隷ケアセンターいなさ＞ 地域包括支援センター細江 聖隷ケアプランセンターいなさ南部 聖隷リハビリプラザいなさ	…	69

【 対応する拠点区分（会計） 】

聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター あさひ 児童発達支援センターひかりの子
三方原ベテルホーム
聖隷浜松病院
聖隷淡路病院
聖隷横浜病院
聖隷佐倉市民病院
浜松市リハビリテーション病院
聖隷袋井市民病院
保健事業部
聖隷健康診断センター
聖隷予防検診センター
聖隷健康サポートセンターShizuoka
聖隷予防検診センター
在宅・福祉サービス事業部
和合せいれの里（介護） 和合せいれの里（児童） 和合せいれの里（障害）
聖隷ケアセンター初生
聖隷リハビリプラザIN高丘 高丘地区在宅複合事業（公益）
訪問看護ステーション住吉第二 聖隷コミュニティケアセンター 浜松市生活自立相談支援センターつながり
聖隷厚生園信生寮
聖隷厚生園讃栄寮 聖隷厚生園障害在宅事業（浜松）
聖隷厚生園ナルド工房
浜松学園
もくせいの里
いなさ愛光園
聖隷リハビリプラザいなさ 引佐地区在宅複合事業

2022年度 事業報告書 目次

＜聖隷ケアセンター三方原＞ 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原 聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	… 71
＜浜北愛光園＞ 浜北愛光園特別養護老人ホーム 浜北愛光園デイサービスセンター 障害者相談支援事業所浜松東 聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜 訪問看護ステーション貴布祢 聖隷チャレンジ工房浜北	… 74
＜森町愛光園＞ 森町愛光園特別養護老人ホーム 森町愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター森町 森町愛光園ホームヘルパーステーション 森町愛光園天宮サテライト 聖隷放課後クラブはなえみ森町	… 77
＜聖隷びゅあセンター磐田＞ 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田 磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび 磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター	… 80
＜浅田地区在宅複合事業＞ 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	… 83
＜浦安市高洲高齢者福祉施設及び 猫実高齢者デイサービスセンター＞ 浦安市特別養護老人ホーム 浦安市ケアハウス 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	… 85
浦安愛光園 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ浦安	… 88
浦安ベテルホーム	… 90
聖隷訪問看護ステーション浦安	… 92
聖隷ケアプランセンター浦安	… 94
浦安市高洲地域包括支援センター	… 95
＜松戸愛光園＞ 松戸愛光園特別養護老人ホーム 松戸愛光園デイサービスセンター 松戸愛光園ケアプランセンター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸	… 96
＜横須賀愛光園＞ 横須賀愛光園特別養護老人ホーム 横須賀愛光園デイサービスセンター 西第二地域包括支援センター 聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ヘルパーステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀	… 98
＜宝塚せいれいの里＞ 宝塚すみれ栄光園特別養護老人ホーム 宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターすみれ 宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター ケアハウス宝塚 結いホーム宝塚 宝塚栄光園	… 100 … 102 … 104 … 106
＜聖隷ケアセンター宝塚＞ 聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター宝塚 聖隷訪問看護ステーション宝塚 逆瀬川地域包括支援センター 聖隷逆瀬台デイサービスセンター 聖隷デイサービスセンターあゆむ 聖隷デイサービスセンター結い 聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	… 108 … 111 … 112 … 114

聖隷デイサービスセンター三方原 三方原地区在宅複合事業
聖隷訪問看護ステーション三ヶ日
浜北愛光園
森町愛光園（介護） 森町愛光園（障害児者）
聖隷びゅあセンター磐田
浅田地区在宅複合事業
浦安市特別養護老人ホーム（特養） 浦安市特別養護老人ホーム（短期入所） 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市ケアハウス 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター
浦安愛光園
浦安ベテルホーム
聖隷訪問看護ステーション浦安
聖隷ケアプランセンター浦安
浦安市高洲地域包括支援センター
松戸愛光園
横須賀愛光園
宝塚すみれ栄光園
ケアハウス宝塚
結いホーム宝塚
宝塚栄光園
宝塚第二地区中州在宅複合事業（社福） 宝塚第二地区中州在宅複合事業（公益）
宝塚第二地区逆瀬台在宅複合事業
聖隷デイサービスセンター結い
聖隷コミュニティケアセンター宝塚

2022年度 事業報告書 目次

＜花屋敷せいれいの里＞ 花屋敷栄光園特別養護老人ホーム 花屋敷デイサービスセンター 花屋敷地域包括支援センター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷 聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷	… 115
ケアハウス花屋敷	… 117
聖隷訪問看護ステーション北神戸 聖隷ケアプランセンター北神戸	… 119
＜聖隷カーネーションホーム＞ 聖隷カーネーションホーム特別養護老人ホーム 聖隷カーネーションホームデイサービスセンター 聖隷カーネーションホーム デイサービスセンターうつつこ 聖隷在宅介護支援センター淡路 聖隷ケアプランセンター淡路	… 121
＜淡路栄光園＞ 淡路栄光園特別養護老人ホーム デイサービスセンター淡路	… 123
＜聖隷ケアセンター津名＞ 聖隷訪問看護ステーション淡路 聖隷ケアプランセンター淡路第二 聖隷ヘルパーステーション淡路 聖隷ライフサポート津名	… 125
聖隷こども園夢舞台	… 127
野上あゆみ保育園	… 129
野上児童館	… 131
逆瀬川あゆみ保育園	… 133
御殿山あゆみ保育園	… 135
御殿山児童館	… 137
＜奄美佳南園＞ 奄美佳南園特別養護老人ホーム 奄美佳南園デイサービスセンター 奄美佳南園在宅介護支援センター 奄美佳南園ホームヘルプ事業所 奄美佳南園訪問入浴事業所 奄美佳南園春日デイサービスセンター 聖隷チャレンジ工房カナン	… 139
春日保育園	… 141
のぞみ園	… 143
聖隷かがやき	… 145
聖隷こども園わかば	… 147
聖隷こども園桜ヶ丘	… 149
聖隷こども園ひかりの子	… 151
聖隷こども園めぐみ	… 153
聖隷浜松病院ひばり保育園	… 155
聖隷のあ保育園	… 157
こうのとり保育園	… 159
聖隷こども園こうのとり東	… 161
聖隷こども園こうのとり豊田	… 163
＜聖隷こうのとり富丘＞ 聖隷こども園こうのとり富丘 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘	… 165
高齢者公益事業部	… 168
浜名湖エデンの園	… 170
宝塚エデンの園	… 172
松山エデンの園	… 174
油壺エデンの園	… 176
浦安エデンの園	… 178
横浜エデンの園	… 180

花屋敷栄光園
ケアハウス花屋敷
北神戸地区在宅複合事業（公益）
聖隷カーネーションホーム
淡路栄光園
淡路地区在宅複合事業（社福） 淡路地区在宅複合事業（公益）
聖隷こども園夢舞台
野上あゆみ保育園
逆瀬川あゆみ保育園
御殿山あゆみ保育園
奄美佳南園
春日保育園
のぞみ園
聖隷かがやき
聖隷こども園わかば
聖隷こども園桜ヶ丘
聖隷こども園ひかりの子
聖隷こども園めぐみ
聖隷浜松病院ひばり保育園
聖隷のあ保育園
こうのとり保育園
聖隷こども園こうのとり東
聖隷こども園こうのとり豊田
聖隷このとり富丘
高齢者公益事業部 浜名湖エデンの園 入園金会計 宝塚エデンの園 入園金会計 松山エデンの園 入園金会計 油壺エデンの園 入園金会計 浦安エデンの園 入園金会計 横浜エデンの園 入園金会計 藤沢エデンの園一番館 入園金会計 藤沢エデンの園二番館 入園金会計
浜名湖エデンの園 施設有料 浜名湖エデンの園 施設診療
宝塚エデンの園 施設有料 宝塚エデンの園 施設診療
松山エデンの園 施設有料
油壺エデンの園 施設有料 油壺エデンの園 施設診療
浦安エデンの園 施設有料
横浜エデンの園 施設有料

2022年度 事業報告書 目次

＜聖隷藤沢ウェルフェアタウン＞	
藤沢エデンの園一番館	
藤沢エデンの園二番館	
藤沢愛光園	… 182
聖隷デイサービスセンター藤沢	
聖隷ケアプランセンター藤沢	
聖隷ヘルパーステーション藤沢	
聖隷訪問看護ステーション藤沢	
奈良ニッセイエデンの園	… 186
松戸ニッセイエデンの園	… 192
明日見らいふ南大沢	… 194
法人本部	… 196
2022年度施設整備事業報告	… 201
法人の概要	… 202
実施する事業の概要	… 203
役員の状況／理事会、評議員会運営の状況	… 216
附属明細書	… 217

藤沢愛光園	
藤沢エデンの園一番館	施設有料
藤沢エデンの園二番館	施設有料
－	
－	
高齢者公益事業部	
法人本部	

2022 年度 事業報告

理事長 青木善治

2022 年度は、長期化する新型コロナウイルス感染症対応に翻弄された 1 年となりました。病院では発熱外来、専用病床確保を継続、感染対策では面会制限を始め、事業特性に合わせた対策の徹底、職員の行動制限を継続しました。オミクロン株流行時は、大変厳しい事業運営を迫られましたが、職員が一丸となりこの危機を乗り越え、事業が途切れることなく地域の医療・福祉を守ることができたと考えています。

社会情勢が事業運営にも大きな影響を及ぼし、水光熱費を始め事業費の増加が続いています。この中でも、経営改善を進めている聖隷淡路病院、聖隷横浜病院、聖隷佐倉市民病院は、予算を達成し経営基盤の安定化を着実に進めることができました。一方、保健事業では、新たに導入した健診システムへの対応が遅れ、健診結果、請求書送付が滞るなど大変なご迷惑をお掛けし、皆さまの信頼を失う結果となりました。重要な経営課題として、信頼回復に努める所存です。新たな事業として、静岡県指定管理にて運営してきました浜松学園の移譲を受けました。次に、磐田市の受託事業として磐田市地域活動支援センターを開設しました。2023 年度に竣工・開設を迎える、聖隷浜松病院 S 棟増改築工事、横須賀愛光園大規模改修工事、かるみあ和合建築工事も着実に進みました。

「聖隷 DX」では、見守りシステムの積極的な導入が図られ、有料老人ホームで 70%、特養・老健等で 50%に達しています。コンピューターウイルスの脅威に対しても対策強化を行いました。そして、2030 年創立 100 周年に向けて「聖隷みらい創造プロジェクト」を始動しました。若い人達より様々な提言を頂きましたので、さらに推し進めていきます。

健康経営については、健康経営優良法人「ホワイト 500」の再認定を受けることができました。認定取得が目的ではなく、健康で、安心して、やりがいを持って働く環境を作ることによって、質の高いサービス提供と、人材確保にもつながると考えています。

この他、「ウクライナ希望のつばさ SHIZUOKA」へ参画し、避難民に住宅・物資の提供を行いました。トルコ・シリア大地震では、国際緊急援助隊医療チームの一員として 2 名の医師が被災地へ赴き、診療活動を行いました。そして、職員皆さまよりお預かりした救護金は、受付団体を通して寄付させて頂きました。

厳しい社会情勢の中、社会課題、事業課題にしっかりと向き合い、質の高いサービスを提供する姿勢など、聖隷福祉事業団の事業・サービスをご支持いただき、適正な成績を残すことができました。引き続き、地域の医療・福祉ニーズに貢献していくとともに、将来にわたり安定した経営基盤づくりを推進してまいります。地域の皆様をはじめご支援、ご指導をいただいた方々に厚く御礼を申し上げ、ご報告とさせていただきます。

基本理念

キリスト教精神に基づく
「隣人愛」

使命

- ・いのちと尊厳のために
- ・利用される人々のために
- ・地域社会とともに
- ・未来を築く
- ・最高のものを

Vision2025

地域連携体制の強化・デジタル改革・
経営基盤の安定化を実現し、
未来につなげる地域共生社会をつくる

中期事業計画2021-2025

事業部中期事業計画

事業団年度目標

事業部年度目標

職員行動指針

わたしたちは、
ひとりひとりの
命と尊厳を守ります

わたしたちは、
サービスを求める
すべての人々に、
誠実かつ献身的に仕え、
その自立を支援します

わたしたちは、
「保健・医療・福祉・介護」
サービスを通して
社会に貢献し、
地域の人々との
強い絆を育みます

わたしたちは、
先駆的・開拓的精神で
新たなニーズの発見に努め、
常に課題に挑戦します

わたしたちは、
ひとりひとりが専門職としての
倫理と誇りを持ち、
最高の技術を提供します

基本理念

聖隷福祉事業団が事業を行なう上で根底にある考え方。

使命

聖隷福祉事業団の存在意義。

Vision2025

2025年、聖隷福祉事業団はこうなっている。

中期事業計画2021-2025

Vision2025へ到達するために、7つの重要課題およびテーマを提示し5年間かけて達成を目指す計画。

職員行動指針

使命をもとに職員が共有し実践する具体的な行動を示した指針。

Vision2025

地域連携体制の強化・デジタル改革・経営基盤の安定化
を実現し、未来につなげる地域共生社会をつくる

A 2025 年、聖隷福祉事業団はこうなっている

B 重要課題

事業

質の高い事業を行う

地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し、また先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦し、最高の質を追求した事業を展開している。



1 社会福祉法人として最高の質を追求した事業を展開する

組織

組織力を活かす

地域課題の解決に繋がる事業部間連携や聖隷の質と規模を維持する人材の確保ができている。大規模広域法人に適した購入や物流、情報システムを構築し、大規模災害に対する連携の強化等、より一層の協働した組織となっている。



2 地域ごとの課題解決に繋がる事業部間の連携を構築する

3 人材の確保と育成を推進する

4 大規模広域法人としての強みを活かした仕組化を推進する

運営

生産性の高い運営体制を築く

ICT・AI・ロボット等を活用し、少人数であっても質の高いサービスを提供できる効率性の高い業務体制を構築している。外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティが進み、働きがいのある仕事を推進している。



5 聖隷DX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進する

6 ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する

財務

財務体質を強化する

新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営環境を学びにし、需要減少時でも安定する経営構造を構築している。また、予期せぬ経営環境の急変にも揺るがない骨太の財務体質となっている。



7 現有資源を有効に活用し経営環境の急変にも揺るがない財務体質とする

C テーマ

- ・地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し挑戦する
- ・先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦する

- ・事業部を越えた職員間で情報交換しやすい環境、検討する場を設ける等、地域ごとで事業部間が連携し、利便性の向上や課題解決に繋がる仕組みを構築する

- ・生産年齢人口が減少する中、需要拡大が見込まれる聖隷の事業を支える人材確保を図る
- ・聖隷の質を体現・継承できる「聖隷人」の育成を推進する
※聖隷人（せいれいびと）
基本理念および使命を理解し、職員行動指針を実践している人

- ・大規模広域法人としてのメリットを活かし、人事・資材・資金・情報システムなどの一層の効率性を追求する
- ・広域な大規模災害に対する BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）対応と連携を強化する

- ・ICT、AI、ロボット等を活用して少人数であっても質の高いサービスを提供できる、効率性の高い業務体制を追求する
- ・事業部を越えた利用者情報の共有ネットワークシステムの整備、データヘルスサービスなど医療・介護・健康分野の情報化を推進する

- ・健康経営の推進、働き方改革等の制度へ対応するとともに、外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティを推進する

- ・成長性：サービス活動収益の成長率 前年比 2%以上
- ・収益性：税引前当期活動増減差額 年 15 億円以上
- ・効率性：総資産に対し税引前当期活動増減差額率（ROA）年 1%以上
- ・安定性：純資産比率 45%以上（2025 年度末）

D 中期事業計画 2021-2025 における 聖隷福祉事業団と SDGs の関わり

事業 組織 運営 財務



事 生活困窮者支援などが当たります。



事 災害時の食事提供や健康寿命延伸に向けた栄養指導などが当たります。**組** 災害時にも安心して食事の提供ができる体制が必要です。BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）策定など準備を進めます。



事 新たなニーズや制度の狭間など支援が届いていない方への支援、より質の高い医療福祉の提供を目指します。



事 健康、介護予防教育や生活困窮の負の連鎖に対する教育支援などが当たります。**組** 優秀な人材の確保、育成は事業の質を維持するうえで極めて重要です。今後も人材育成に注力します。



組 育児支援など女性が働きやすい職場をつくと共に女性の経営職の増加を目指します。**運** 職員へより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。



財 エネルギー使用量を削減する取り組みを継続します。



運 職員へのより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。**財** 地域に必要な事業は行わねばなりません。法人として健全な成長を目指します。



運 医療福祉の領域での DX をはじめとした情報化やロボットなど自動化を推進し、生産性の向上と新たな価値創造に繋げて強みにしていきます。**財** 強靱で、より持続可能な施設設備を維持する管理を推進します。また DX やロボットなど先進的な技術の導入を推進します。



運 地域共生社会の実現を先導する組織として、内部でも年齢、性別、障がい、外国人などに関わらず活躍できるダイバーシティを推進します。



事 住み続けられるまちづくりは地域共生社会の理念と同一であり、地域包括ケアシステムなどを用いて社会福祉法人に求められています。



組 環境への影響を配慮された物品の使用や電気ガス等の効率的な使用が求められます。**財** 将来にわたり社会を支えていける様に、事業の持続性を確立します。



組 台風や大雨の激甚化など温暖化による大規模災害が増加していますので、災害に対する準備が一層必要になります。



事 子ども達により良い環境を提供することも私たちの大切な事業となります。



組 各所との連携体制の構築は最も重要なテーマの一つです。内部の連携強化と共に、外部組織とも連携を強めていきます。

2022 年度 事業成績報告

常務執行役員 井上英樹

(1) 事業の経過及びその成果

新型コロナが拡大する中、診療制限、利用制限による減収と人件費、材料費、光熱水費の高騰による費用増に見舞われたが、新型コロナ入院患者受入れに対する補助金交付等もあり、事業団全体の経営を維持することができた。

(2) 医療事業

医療事業においては、全ての直営病院で新型コロナ専用病床を確保すると共に、発熱外来や PCR 検査、ワクチン接種等コロナ関連の対応を行った。感染拡大期においては診療制限による減収もあったが、第 8 波終息後は紹介患者数、手術件数ともに増加傾向を示し、収益の改善が見られた。

聖隷三方原病院では、帰国者接触外来等地域と連携した感染対策を継続し、手術室の効率化、医師の働き方改革に取り組んだ結果、税引前当期活動増減差額 16.5 億円を計上した。

聖隷浜松病院では、各部門において、時間・場所・設備の使い方を見直すことで業務改善が進み、入院・外来患者数、単価共にコロナ前の水準を越え、税引前当期活動増減差額 17.1 億円を計上した。現在、2023 年 7 月竣工予定の新 S 棟（眼科棟）建築工事を継続中である。

聖隷淡路病院では、地域包括ケア病床において、状態が悪化した在宅患者やレスパイト目的の患者等を幅広く受け入れ、税引前当期活動増減差額は 0.6 億円まで改善した。

聖隷横浜病院においても、積極的な救急受入れ、外来診療体制やドック・健診事業の充実により、税引前当期活動増減差額は▲4.8 億円まで改善した。

聖隷佐倉市民病院では、コロナ診療と一般診療の両立を図り、院内における多職種連携に取り組んだ結果、税引前当期活動増減差額は 1.6 億円を計上した。

指定管理病院である浜松市リハビリテーション病院では、えんげ、スポーツ、高次脳機能センター機能を充実させ、IT 機器を活用した質の高いリハビリテーションを提供した。聖隷袋井市民病院では患者様の退院後の生活支援に注力すべく、訪問診療を開始すると共に訪問リハビリテーションの拡充を図った。

(3) 保健事業

保健事業においては、健診システムの更新完了が遅れたことにより契約団体様に多大なご迷惑をおかけした。さらには膨大な作業の発生により人件費、業務委託費の予算超過を招いた。受診者数については巡回住民検診受診者および高齢の方の人間ドック受診者が減少し、税引前当期活動増減差額は▲3.5 億円となった。また、2023 年 4 月に事業譲渡予定の聖隷健康診断センター東伊場クリニックの開設準備を行った。

(4) 在宅・福祉サービス事業

静岡県より浜松学園の経営移譲を受け、浜松市内における障害者生活支援および就労支援の一大拠点としての新たな事業を開始した。

特別養護老人ホーム、児童保育事業については順調であったが、通所系・訪問系サービスについては新型コロナ感染拡大による営業自粛と利用控えにより利用者が大幅に減少した。

投資については、横須賀愛光園において大規模改修並びに看護小規模多機能型施設横須賀（2023 年 4 月開設）の建築工事を実施した。なお同時期に開設予定であった和合児童発達支援センターは建築資材の調達難により工事開始が遅れ、2023 年 8 月の事業開始となる予定である。

税引前当期活動増減差額は 10.3 億円を計上した。

(5) 高齢者公益事業

エデンの園事業は、感染防止策を徹底した上で季節ごとの園内行事を再開し、入居者募集活動においても少人数制セミナーや施設見学会等を徐々に開催することができた。139 件のご契約を頂き、45.1 億円の入居一時金を計上した。3 月末時点の入居率は 91.1%。特に浜松および関東地区施設が高稼働となっており、税引前当期活動増減差額は 2.8 億円を計上することができた。

(6) 財務の状況

現預金は、期首より 20.1 億円増加し、期末残高は 179.4 億円となった。設備投資については、事業団全体で 59.3 億円の固定資産整備を実施した。有利子負債は期末残高が 299.6 億円まで減少し、サービス活動収益に対する有利子負債比率は 24.5%。純資産比率も 46.3%となり、経営基盤の安定を図ることができた。

《2022 年度 事業区分別事業活動計算書》

(単位：百万円)

勘定科目	社会福祉事業	公益事業	収益事業	合計	内部取引消去	法人合計
サービス活動収益	70,692	61,002	2	131,696	-573	131,123
サービス活動費用	68,235	58,242	2	126,479	-617	125,862
税引前当期活動増減差額	3,563	1,820	0	5,383	0	5,383

《中期事業目標の進捗状況》

指 標			2022 年度
サービス活動収益成長率	【年】	2%	0.9%
当期活動増減差額	【年】	15 億円以上	53.8 億円
総資産税引前当期活動増減差額率 (ROA)	【年】	1%以上	3.3%
純資産比率	【2025 年度末】	45%以上	46.3%

医療保護施設 総合病院 聖隷三方原病院

2022 年度は新型コロナウイルス感染症の変異株が猛威を振るい、日本全国で病床逼迫など医療提供体制が危機的状況に陥っていた。当院でもクラスターが発生し、患者受け入れの制限や業務調整に追われる日々もあった。感染患者の受け入れや地域住民の新型コロナワクチン接種、帰国者接触者外来（PCR 検査体制）など、地域と連携した感染対策を継続し当院の新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての使命は果たせたと考える。年度末から、感染拡大が落ち着き、新型コロナワクチン接種会場となっていた障がい者リハビリテーションセンターでも、障がい者スポーツが再開され、少しずつ本来の姿を取り戻していく兆しが見えてきた。

また、2024 年 4 月から開始される医師の働き方改革については、取り組むべき課題として、当直体制の見直しや超過勤務で過度に個人差が生じないような業務調整、夜間に労働する医師数を最小限で遂行できる体制などを整える必要がある。診療部の協力のもと労働時間と自己研鑽の線引きなど、新しい考えも取り入れ改革は着実に進んでいる。特定行為実践看護師の人数も着実に増えており、タスク・シフト／シェアをより推進し医師の労働環境改善に努めていきたい。

医師の確保に関しては、初期研修医が 15 名フルマッチとなり、専攻医は 4 名が当院のプログラムで研修することになった。さらなる医師の確保に向け、今後も継続したフォローアップを行っていく。

2022 年 7 月に「一般病院 2」「緩和ケア病院（副機能）」、10 月に「救急・災害時の医療」の日本医療機能評価機構が認定する病院機能評価を受審し、3 分野について無事に更新ができた。約 5 年ぶりに実施された東海北陸厚生局による適時調査では、診療報酬の返還対象となる指摘はなく、適切な施設基準管理ができたといえる。

病床機能報告では、地域医療構想を踏まえ当院の病床機能の見直しを行った。また、地域での外来機能の役割を明確化するための外来機能報告制度が始まり、紹介受診重点医療機関の手上げに向けて準備を行った。

看護師特定行為研修については、2022 年度は 9 名の修了者を輩出し、合計で 27 名が在籍している。研修を修了した看護師の更なる活躍を期待したい。

新たな医療提供として、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた新術式が外科及び泌尿器科で開始され、整形外科では大腿骨近位部骨折の週末手術が開始されるなど、手術室の効率化に努めた。2023 年度開設予定の外傷センターに関する準備も行い、病院機能としての充実を進めた。

ICT 分野においては、患者サービス向上を目的とした患者用 Wi-Fi の導入作業を進め、2023 年度に運用開始となる。当院を利用される患者へのサービスが大きく向上すると期待したい。

今後は、厚生労働省の推し進めるデータヘルス改革など ICT 分野の動向に注視し、地域の方々によりよい医療を提供できるよう体制の確立に取り組んでいく。

	予 算	実 績	対予算	対前年		予 算	実 績	対予算	対前年
入院患者数	590 名	576 名	97.6%	99.8%	外来患者数	910 名	922 名	101.3%	101.5%
入 院 単 価	70,400 円	71,876 円	102.0%	101.6%	外 来 単 価	22,500 円	23,411 円	104.0%	101.8%
職 員 数	1,562 名	1,548 名	99.1%	100.0%	病床利用率	76.6%	74.8%	97.6%	99.9%

（注：外来患者数、外来単価は歯科を除く）

1. 安全で質の高い医療の提供

(ア) 安全な医療の提供

①医療安全管理の促進

医療安全管理室会議・委員会を定期的に開催し患者誤認減少を目的とした働きかけを行い、2021年度100件から74件に減少し、院内発生率も2.31%から1.79%に減少した。

②感染管理体制の更なる充実

新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行い、地域の医療提供体制に貢献した。また、新型コロナウイルス感染症や耐性菌の院内感染予防と院内発生時の拡大防止に努めた。

(イ) 質の高い医療の提供

①各部門の専門特化した医療体制の確立

整形外科で骨折リエゾンサービス (FLS) チームを発足し、二次骨折予防の取組みを開始。

②専門性の高い看護師の更なる活用

診療看護師、呼吸器疾患看護認定看護師各1名が教育課程修了。特定看護師が9名育成され合計27名となり特定看護師も活躍。手順書29個を運用し、特定行為2627件の実践。

(ウ) 新たな病院機能の提供

③各種センター設立に向けた検討

各診療科から新規センター設立に対する意見・方針を聴取、2023年度より開設予定の外傷センターについて検討を開始した。

④地域障がい者総合リハビリテーションセンターの活用

新型コロナワクチン接種を2月で終了、障がい者スポーツのボッチャを7回開催した。

2. ディーセント・ワークの推進と人づくり文化の継承

(ア) 「医師の働き方改革」への対応

①医師の勤務実態（日当直業務・業務と自己研鑽）の把握

「労働時間と自己研鑽の線引きとなる考え方」をタスクフォースで検討、超過勤務申請用紙を刷新し診療部長会で公表した。

③タスク・シフト／シェアの推進

事務による医師代行症例登録3事業（NCD、JOANR、JND）を継続、循環器科医師から臨床工学技士へ治療記録と画像上病変レポート作成の運用を開始した。

(イ) 医師・看護師・介護職の人材確保と定着

①専門医・専攻医採用の強化

当院初期研修医内科プログラム1名、聖隷浜松初期研修医小児科プログラム1名、他院で初期研修修了者2名を受入れた。

②看護師・介護職・看護助手の安定した確保

SNS（LINE等）を活用し学生が求める情報提供を適宜実施。看護師エントリー数74名、採用数61名。看護助手採用数3名、介護職採用数3名となった。

(ウ) 職員教育の充実

③OJTの強力な推進

パートナーシップナーシングシステムを取り入れ、OJTを積極的に行った。

(エ) 多様な雇用形態の促進

①障がい者雇用の維持

退職補充を確実にを行い法定雇用率 2.3%に対して 3.23%と継続して高い雇用率を維持。

②エルダー職の活用

魅力的な職場環境を提供することでエルダーA 職 10 名の雇用ができた。

③両立支援が必要な人達の雇用

女性育児休暇 128 名(医師 4 名、看護 76 名、医療技術 23 名、事務部 25 名)男性育児休暇 11 名(看護 6 名、医療技術 4 名、事務部 1 名)と多くの職員が制度を活用した。

3. 地域より求められる病院機能の整備

(ア) 新型コロナウイルス感染症への対応

①新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての体制維持

静岡県からの増床要請により、8 月 24 日から新型コロナウイルス感染症病床 42 床から 56 床(重症 14・中等症以下 40・疑い患者 2)へ増床。3 つの病棟にて受入れを行った。

②集団免疫獲得に向けたワクチン接種の継続

浜松市からの要請により、障がい者リハビリテーションセンターで新型コロナワクチン接種を継続、2021 年 3 月 5 日から延 114,000 回の接種を実施した。

③地域と連携した感染対策の推進

連携病院へ訪問指導(2 施設各 2 回)、院内カンファレンス(4 回/年)を実施した。

(イ) 各種認定施設としての機能の充実

①高度救命救急センター

a) 重症救急患者の受け入れ体制の充実

救急医療を円滑に行うため、地域医療機関や消防機関などの関係機関と連携を維持。

②基幹型認知症疾患医療センター

a) 他医療機関との連携システムの整備

浜松市認知症疾患医療連携協議会を開催し、認知症サポート医や地域包括支援センターと情報共有及び意見交換を行った。

③精神科病棟

b) 西部精神科救急指定病院の体制充実

休日・夜間、精神症状が悪化した患者が入院できるよう調整し全患者を受入れ。また、急性期の患者対応を安全に行うため包括的暴力対応プログラムの勉強会を実施。

④災害拠点病院

a) 大規模災害に向けた地域連携

大規模地震時の医療活動訓練に DMAT が参加し、国・各関係機関と連携して当該活動に係る組織体制の機能と実効性の検証、災害時の協力体制の円滑化を図った。

⑤地域がん診療連携拠点病院

c) がんゲノム医療連携の体制維持

がん遺伝子パネル検査は 22 件実施、2021 年度から 4 件増加した。紹介患者は 8 件あり 2021 年度から 2 件増加した。

⑥地域医療支援病院

a) 病診・病病連携の強化

新たな医師の赴任による近隣医療機関への定期訪問、連携手続きの説明を行った。

⑦基幹型臨床研修病院

a) 臨床研修医の確保

初期臨床研修医採用、15 名フルマッチとなった。

b) 指導体制・プログラムの充実

臨床研修センターのセンター長が交代となった。初期研修プログラムでは協力施設として順天堂大学医学部附属静岡病院が加わり、初期研修プログラムの相互関係を築いた。

(ウ) 利用者サービスの向上

①地域のニーズに即した情報発信の強化

病院ホームページを効果的に使用し、面会制限の周知や新型コロナワクチンの接種案内、院内感染状況の情報提供を行った。また、病院 LINE アカウントを新規開設した。

(エ) 病院機能評価の認定更新

日本医療機能評価機構 病院機能評価受審、「一般病院 2」「緩和ケア病院（副機能）」
日本医療機能評価機構 高度・専門機能評価受審、「救急・災害時の医療」を認定更新した。

(キ) 環境保全のための省エネ活動の継続

院内照明 LED 化は 58.2%（おおぞら療育センターを含む）であり、更に適切な空調管理を行い、約 4%のエネルギー使用量削減に努めた。

4. 地域完結型医療実現への取り組み

(ア) 地域医療構想への対応

①病床・外来機能の検討

「定量的な基準(静岡方式)」が更新され再検討した病床機能の登録を行った。また、外来機能報告制度が始まり紹介受診重点医療機関の手上げに向け試算を行った。

5. 安定した経営基盤の確保

(ア) 診療報酬改定への対応

DPC 標準病院群から DPC 特定病院群に指定変更された。院内への情報発信し、部門横断的に新設項目（感染対策向上加算 I など）の取得を行った。

6. その他公共事業

将来医師を目指す高校生に向け「こころざし育成セミナー」を開催し 16 名が参加。高校生看護体験 41 名を受入れ。市民公開講座は WebLive 配信を併用し 1 回実施し 42 名の参加があった。産後ケア事業 37 件であった。

〈医療保護施設・無料低額事業・入院助産〉

生活困窮者、無保険者、外国人労働者などに対する医療費・室料の減免を行った。引き続き福祉施設などへの医師・薬剤師・理学療法士などの派遣協力を行った。入院助産は 4 件であった。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

「医療型障害児入所施設/療養介護(重症心身障害児施設)・短期入所 ショートステイ」

聖隷おおぞら療育センターの施設入所サービスは、2012年の障害者総合支援法の成立以降、医療型障害児入所施設(18歳未満)と療養介護(18歳以上)の並立施設運用になっている。2022年度の利用実績は、4月時点の入所者は121人であったが、年度内の入所者15人(期間限定13人含む)、退所者19人(期間限定13人含む)で、2023年3月末では117人となった。また、地域の在宅利用者の家庭の事情により一時的な入所が必要と判断したケースで実施している期間限定の入所受け入れは2022年度13人(静岡県12人、愛知県1人)で、緊急時など必要な時に安心して利用できる施設として役割を果たすことができた。重症心身障害で医療ニーズが高い当施設のサービス利用者にとって新型コロナウイルスへの感染は生命危機に直結する問題であり、施設への感染持込み防止対策を最重要課題として、継続するための働きかけに注力した。

入所利用者のご家族等の面会は2021年6月から完全予約制にして、感染拡大時期は屋外からの窓越し面会とし、感染が沈静化している時期は館内面会室を設けて短時間の直接面会とした。

2022年4月に館内3病棟の入所利用者及び職員配置の再編成を実施し、利用者のADL、発達レベル、医療必要度等に応じた生活環境を整える事ができた。

入所利用者への新型コロナワクチン接種では、2月までに12歳以上の児・者97名に5回目の2価ワクチン接種を実施した。

ショートステイの2022年度利用実績は、1日平均利用者数が4.8人(定員20人)、利用登録者の総数は338人であった。入所病棟で新型コロナウイルス感染症が発生した影響で7月、8月、9月、10月、12月、1月はサービス提供の制限を実施した。2022年1月からサービス利用開始前に抗原定量検査を実施したことで在宅利用者を起因とするウィルス感染はゼロに抑制できたが、これまで自由だった受入れ曜日や時間帯が平日の9時と14時に限定された影響もあって、利用数が減る要因ともなった。

2022年度からZoom等のオンライン会議用のPC・TV設備等を導入し、施設内外職員が参加する多職種勉強会のオンライン配信や、行政主催の支援連絡会への更なる参加促進に繋がった。また、訪問看護や相談支援事業所など他事業職員が参加する緩和ケアやACP(アドバンス・ケア・プランニング)等の合同カンファレンスも定期開催となり、在宅利用者のケア連携の活性化に寄与できた。

2023年1月に浜松市社会福祉施設等施設整備費補助金(防災減災対策)により、2号館の非常用自家発電設備の更新工事を実施した。これにより館内全病棟が災害発生後72時間の事業継続が可能となった。

あさひ(生活介護)

2022年度は、利用登録者数48人でスタートし、年度内の利用開始者0人、利用終了者3人で、45人で年度を終了した。利用実績は、1日平均利用者数26.4人(定員35人)となった。職員配置では、常勤専従の看護師・生活支援員の配置を維持し、安定した日中活動支援を継続的に提供することができた。重度の医療的ケアの必要な方が増えている中で、小グループ単位で日中活動に重きを置いたサービスを提供することができた。

2021 年度より開始した祝日営業は、利用者に毎週月～金曜日は定期的に利用できるという安心感に繋がるとともにショートステイ利用が制限されている期間の受入れ先としても機能できた。

新型コロナウイルス対策として、国評価レベル基準に応じてサービス利用の制限を実施した。また、利用開始前の体調確認や受付を行うゾーンを設け、職員以外がサービス提供ゾーンに入らない仕組みを通年で継続・徹底した。

児童発達支援センターひかりの子

〈児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援〉

児童発達支援センターは、通所利用障害児への支援だけでなく、在宅障害児の支援を積極的に行い、地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たす必要がある。

児童発達支援は、障害や発達に沿った遊びや保育を重視して実践した。2022 年度は、利用登録者数 11 人でスタートし、年度内の利用開始者 1 人、利用終了者 0 人で、最終的には 12 人となった。利用実績は、1 日平均利用者数 7.2 人(定員 15 人)となった。新型コロナウイルス対策として、国評価レベル基準に応じてサービス利用の制限を実施した。また、利用開始前の体調確認や受付を行うゾーンを設け、職員以外がサービス提供するゾーンに入らない仕組みを通年で継続・徹底した。

放課後等デイサービスは、静岡県西部圏域の特別支援学校に通う医療的ケアのある重症心身障害児を主な対象とし、学校の授業終了後や休日に利用できるサービスである。2022 年度は、利用登録者数 39 人からスタートし、年度内の利用開始者 0 人、利用終了者 1 人で、最終的には 38 人となった。利用実績は、1 日平均利用者数 4.7 人(定員 5 人)となった。新型コロナウイルス対策として、国評価レベル基準に応じてサービス利用の制限を実施した。市内学校や他サービス事業所での感染多発もあって、10 月まで特別支援学校放課後からの営業を中止した。放課後営業再開後も通所サービス間での職員感染管理徹底のため、年度内は週 2 日間の営業日数に限定した。

相談支援事業所おおぞらは、児童を対象とした障害児相談支援と主に成人を対象とした特定相談支援を行っている。2022 年度は新規契約者 6 人、契約終了者 9 人で、最終的な登録者数は 182 人となった。

	入 所		短期入所		あさひ		ひかりの子	
	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績	予 算	実 績
入院患者・利用者数	132 人	124 人	13 人	5 人	—	—	—	—
入院単価(医療)	29,700 円	30,199 円	—	—	—	—	—	—
入院単価(福祉)	9,500 円	9,642 円	30,700 円	34,168 円	—	—	—	—
外来患者・利用者数	25 人	20 人	—	—	34 人	31 人	12 人	12 人
外来単価(医療)	4,500 円	4,936 円	—	—	12,500 円	12,804 円	15,850 円	15,716 円

(注:外来患者数、外来単価は歯科を除く)

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2021 年度末から 2022 年度 4 月にかけて新型コロナウイルス感染症クラスターを経験し、組織として感染への対応力が向上した。その後もワクチン接種や抗原検査によるスクリーニングを推進、感染防止対策を強化し利用者の安全と安心確保に努めた。さらに地域からの多様なニーズに応えた結果、在宅からの入所者（44.9%）が聖隷三方原病院からの入所者（32.1%）を超え、地域を担う老人保健施設としての役割を果たすことができた。重介護者でも退所後の在宅支援を充実させることで在宅生活を可能とし、年間を通し超強化型の類型を維持し事業を継続している。1000 件/月以上の集中リハビリテーション件数と科学的介護情報システムに関わる加算の取得で、入所・通所ともに高単価を維持し、安定した事業運営となった。9 月からは ICT 化の一環として見守りシステムが本格稼働、さらに 3 月には通所リハビリテーションの介助浴槽が更新され、利用者へのサービス向上と職員の負担軽減を進めることができた。また、終末期の ACP（アドバンス・ケア・プランニング）のツールである「私の願い」のマニュアルが完成し、「私の願い」家族版の運用も確立できた。

1. 地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進

在宅復帰率は 68.8%となった。医療依存度の高い方、終末期の方、緊急入所、緊急ショートステイを受入れ、積極的に施設内治療と在宅調整を行い、在宅復帰率に寄与した。ホスピスからの入所者や終末期の方もご自宅に退所されている。重度者であっても複数サービスの利用や緊急入所、かかりつけ医との連携により在宅生活継続ができた。

2. 安定的に事業継続できる体制の構築

感染症 BCP（事業継続計画）に取り組みつつ、クラスターの経験を基に徐々に体制を整えた。特に聖隷三方原病院との強い連携によりワクチン接種・クラスター対応が非常に円滑に実施できた。またリハビリテーションが地域で高く評価され、新規利用者が増加している。

3. 安全で質の高いケアの提供

個々の利用者への適切な医療とケアにより医療機関受診件数が 108 件、入院件数は 19 件となった。コロナ禍であったが、感染対策を徹底しご家族と共に秋祭りを行う事もできた。見守りシステムの導入により転倒件数は減らなかったが、コール音がなくなり、訪室回数も減り夜間の静かな環境が提供できた。

4. 次世代を担う人材育成と働く支援

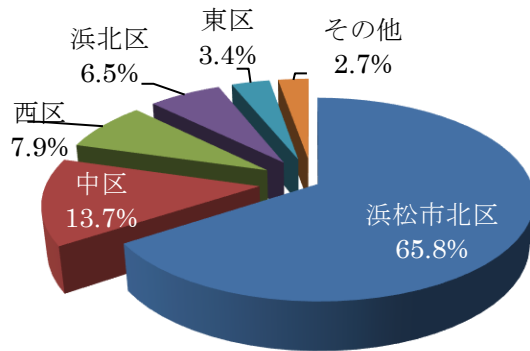
DCM（認知症ケアマッピング）を全フロアで実施、認知症への対応力が向上した。また、全ての職員が ACP の勉強会に出席し、終末期意志決定支援ができる体制となった。独自の施設看護師ラダーを作成、運用を開始した。EPA（経済連携協定）による介護福祉士候補生の育成では、2021 年 2 月より 2 名をインドネシアから受入れ、静岡県並びにインドネシアからの視察に対応した。

5. 地域社会に貢献できる施設づくり

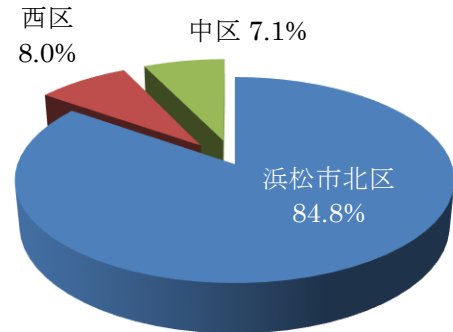
コロナ禍で、集会等が開催できないなかでも、施設内で地域に向けたフレイル予防教室を 2 回開催した。また低額利用事業として生活困難者への経済的支援により生活自立に繋いだ。

【数値実績】

入所者 地区別利用状況



通所者 地区別利用状況



入所者 性別年齢別状況 (%)

	男 (40.8)	女 (59.2)
65 歳未満	1.4	1.4
65 歳～	2.7	0.7
70 歳～	3.1	2.1
75 歳～	6.8	4.8
80 歳～	5.8	9.2
85 歳～	11.3	14.7
90 歳～	7.2	15.4
95 歳～	2.4	11.0

通所者 性別年齢別状況 (%)

	男 (50.5)	女 (49.5)
65 歳未満	1.8	2.7
65 歳～	1.8	1.8
70 歳～	9.0	4.5
75 歳～	6.3	6.3
80 歳～	11.7	6.3
85 歳～	7.2	9.0
90 歳～	9.9	11.7
95 歳～	2.7	7.2

入所(短期含)利用状況 (定員 150 人/日)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 日平均(人)	115.7	123.7	124.8	124.4	132.3	132.7	123.1	128.0	130.1	125.7	124.5	121.7	125.6
延人数(人)	3473	3835	3744	3856	4102	3979	3815	3838	4035	3896	3488	3770	45,831
稼働率(%)	77.1	82.5	83.2	82.9	88.2	88.5	82.1	85.3	86.7	83.8	83.0	81.1	83.7
平均要介護度	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.2	3.2	3.1	3.0	2.9	2.8	2.9	3.3

通所リハビリテーション利用状況 (定員 50 人/日)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 日平均(人)	25.6	27.0	27.8	27.2	26.3	26.7	28.4	26.8	26.8	27.1	26.6	27.8	27.0
延人数(人)	435	702	723	706	710	694	738	696	643	650	639	751	8,087
稼働率(%)	51.2	54.0	55.6	54.4	52.6	53.4	56.8	53.6	53.6	54.2	53.2	55.6	54.0
平均要介護度	2.3	2.2	2.2	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.4	2.3

訪問リハビリテーション利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
延人数(人)	8	4	2	0	5	10	8	6	3	4	4	5	59
平均要介護度	3.5	3	5	－	1.2	1.5	1.5	1.5	1	1	1	1	1.8

総合病院 聖隷浜松病院

2022 年度は「With コロナ」を前提に社会経済活動の制限が少しずつ緩和されてきたが、当院では 2 度にわたる一般病棟の閉鎖や全科診療制限など、第 7 波、第 8 波の影響はこれまで以上に大きかった。また、不安定な世界情勢を背景に、安定しない医療資源の供給状況、急激な物価高や光熱費高騰もあり、厳しい状況下での事業運営であった。そのような状況下においても、「Shift」をテーマに、各部門で時間・場所・設備の使い方を見直すことで業務の改善が進み、電子問診票導入をはじめとする医療 DX の推進に向けた取り組みが開始される 1 年となった。

2023 年度は 7 月に新 S 棟が開設され、長年の課題であったスペース不足の問題も改善される。60 年築き上げてきた伝統を継承しつつ、院内そして事業団内連携も含め様々な変化に対応し、利用者ニーズに応え、当院の目指す医療を実践する。

【病院使命】

人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します

【病院理念】

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ

【運営方針 2025】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します ■地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます ■働きやすい環境を作ります ■健全な経営を継続します
- 災害・感染対策を強化します ■環境に対する責任を果たします

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足の向上

（ア）選ばれ続ける病院

- ①患者満足度調査結果（LINE3 回）この病院に満足している 肯定回答率 90%以上
(実績：86.3%)
- ②接遇に関する患者満足度調査結果（LINE3 回）
医師や職員は礼儀正しく親切で丁寧だった 肯定回答率 90%以上 (実績：84.3%)
- ③新入院患者数 1,800 人/月以上 (実績：1,711 人)

（イ）職員負担軽減（ジョブダイエット）

- ①職員満足度調査結果（デスクネッツ年 3 回）
お互い協力し合って業務を遂行する 肯定回答率 75%以上 (実績：81.6%)
- ②定着率（看護・事務・医技）95%以上 (実績：92.9%)
- ③超勤時間
医師：80 時間/月超 7 名以下 (実績：9 名)
看護・事務・医療技術：30 時間/月超 80 名以下 (実績：41 名)

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）

2. 地域に必要とされる高度・急性期医療の充実

（ア）断らない医療の徹底

①救急車制限時間（重症患者制限）60 時間以下（実績：133 時間）

②紹介患者断り率 3%以下（実績：16.6%）

（イ）地域連携の充実

①転院患者の DPCⅡ期以内比率 33%以上（実績：24.4%）

②初診率（放射線科・救急科除く）7.9%以上（実績：6.4%）

③紹介初診患者数

総数 2,050 人/月以上（実績：1,912 人）

同一開設者 220 人/月以上（実績：192 人）

（ウ）入院機能の有効活用

①HCU 算定率（8 月算定開始）70%以上（実績：0%）

②病棟別稼働率の差異

7:1 対象病棟 20%以下（実績：20.4%）

全病棟（C3 病床除く）20%以下（実績：32.9%）

（エ）外来機能の有効活用

①内視鏡検査実施件数 780 件/月以上（実績：733 件）

②外来化学療法室実施件数 640 件/月以上（実績：686 件）

（オ）手術室・カテーテル室の有効活用

①8:30～19:00 の手術室稼働率 65%以上（実績：64%）

②19:00 以降終了の予定手術件数 40 件/月以下（実績：64 件）

③9:00～17:00 のカテーテル室稼働率 60%以上（実績：51.5%）

（カ）がん診療の推進

①サイバーナイフ件数 14 件/月以上（実績：18 件）

②新規がん患者数 141 件/月以上（実績：148 件）

（キ）DX の推進

①ID-Link の閲覧回数 300 回/月以上（実績：325 回）

②電子問診票導入診療科数（年度末時点）5 診療科以上（実績：1 診療科）

3. 医療の質と安全の保証

（ア）災害・感染・環境対策

①ANPIC 返信率 2 時間以内 60%以上（実績：57.3%）

②手指衛生実施率 医師 50%以上・看護 80%以上・事務医技 65%以上

（実績：医師 52.0%、看護 80.5%、事務・医療技術 82.4%）

③CO2 排出削減 電気使用量前年同月比 3%削減（実績：0.5%減）

ペーパーレス会議の実施率 60%以上（実績：77.0%）

（イ）安全な職場風土の醸成

- ①RRS（院内迅速対応システム）件数 15 件/月以上（実績：10 件）
- ②医師の IA レポート数 50 件/月以上（実績：48 件）
- ③患者誤認発生率事象レベル 1 以上 0.27%以下（実績：0.30%）
- ④麻薬・ハイアラート薬品関連の IA 発生率 事象レベル 2 以上 0.09%以下（実績 0.09%）
- ⑤転倒・転落による負傷発生率 事象レベル 2 以上 0.75%以下（実績：0.90%）

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

4. 明日を担う人材育成と活用

（ア）共に育ち認め合う職場づくり

- ①e-ラーニング必須研修受講率 100%（実績：83.5%）
- ②目標参画面談実施率 医師 100% 看護・事務・医技 95%以上
（実績：医師 100%、看護 97.6%、事務・医療技術 95.5%）

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

5. 目指す医療ができる安定した財務

（ア）年度予算の達成

- ①収益（サービス活動収益） 34,613 百万円以上（実績：35,601 百万円）
- ②費用（サービス活動費用） 33,236 百万円以下（実績：33,444 百万円）
- ③利益（税引前当期活動増減差額）1,000 百万円以上（実績：1,715 百万円）

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
入 院 患 者 数	690 名	654 名	94.8%	95.1%
入 院 単 価	91,300 円	93,319 円	102.2%	102.6%
外 来 患 者 数	1,600 名	1,606 名	100.4%	99.1%
外 来 単 価	22,000 円	22,821 円	103.7%	101.9%
病 床 稼働率	92.2%	87.4%	94.8%	95.2%
職 員 数	2,182 名	2,122 名	97.3%	99.4%

（注：入院単価、外来単価は歯科を除く）

【地域における公益的な取組】

患者に対する支援活動では、治療と仕事の両立支援として、がんや脳卒中に罹患した長期療養者に対しハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに相談会を定期開催した。また、がん罹患した従業員の対応に困難を抱える事業主に、浜松商工会議所と連携し当院の「がん相談支援センター」を相談窓口とした取り組みを継続した。

【助産施設 聖隷浜松病院併設助産所】

2022 年度は社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方 1 名が利用した。

聖隷淡路病院

2022 年度は“挑戦”を病院運営のキーワードとして掲げ、“With/After コロナ”を見据えながら経営課題に取り組む年度とした。新型コロナウイルス感染症に対する対応は 2020 年度に兵庫県の「発熱等診療・検査医療機関」の指定を受け、2021 年 4 月からは陽性の入院患者を受け入れる「協力医療機関」、さらに 2022 年 10 月から「重点医療機関」の指定を受けて、主に淡路島内の中等症Ⅱの入院患者を受け入れた。病院全体では新型コロナウイルス感染症の 2 度目のクラスター感染を経験したが、1 度目（2022 年 1 月）の経験を活かして、迅速かつ冷静に対応することができた。新型コロナウイルス感染症への対応は 2023 年度以降も行政機関の方針に従って、終焉を迎えるまで地域内の役割を継続していく。

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する

3 階病棟の地域包括ケア病床（47 床）は、急性期治療を終えた院内の転棟患者や急性期病院からの転院患者を受け入れるだけでなく、在宅から状態が悪化した患者やレスパイト目的の患者など幅広く受け入れを行った。診療報酬で定められた地域包括ケア病床の算定期間内に必要なリハビリテーションの提供だけでなく、在宅復帰のための支援を看護師ほかコメディカルスタッフが積極的に行うことに取り組んだ。地域包括ケア病床をさらに増床すべく、外部コンサルタントを入れた検討を進め、3 階病棟の全床地域包括ケア病床化と 4 階病棟内への増床を決定した。2023 年 5 月の運用開始を目標として施設基準申請の準備を開始した。5 階病棟は年度を通じてコロナ陽性患者の受け入れを行ったが、本来の病棟の機能である長期療養や緩和ケアを目的とした患者の受け入れも継続して行うことができた。

保健事業は効率的な健診運営により受診者数を増やしたが、一方で事務処理の課題も明確になった。2023 年度は組織を再編し、院内外に向けて健診事業を行う窓口を明確にし、さらなる拡大を目指していく。

2022 年 4 月に採用した常勤医師の経歴を活かして新たに総合診療科を開設した。総合診療科の新設により、断らない医療に努め、より複合的に疾患に対応する診療能力を発揮し、家族・社会・行政とも連携した診療提供や、在宅医療・終末期医療等を包括的かつ総合的に診療を行う体制づくりを行った。

2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する

組織体制や委員会・会議の再構築により、組織運営のガバナンス強化に努めた。医療安全・感染予防・医療倫理などの病院が取り組むべき重要な課題は 2021 年度に受審した「病院機能評価」の審査結果をもとに質的な改善に取り組んだ。

初期臨床研修における地域医療研修の受け入れを継続し、月交代で 2～3 名の 2 年目研修医の研修を行った。さらに明石の民間病院の総合診療専門研修のプログラム連携施設として後期研修医（専攻医）1 名の受け入れを行い、内科を中心とした 6 ヶ月間の専門研修を行った。2022 年度は神戸の民間病院との間で同様のプログラム連携を行い、年度を通じて計 4 名の後期研修医の受け入れを行った。

医師募集活動においては淡路島に生活拠点を置く非常勤医師の応募や、淡路島という立地に惹かれ、地域医療に貢献したい医師の応募など、募集に対する問い合わせ件数も増え、これまでにない追い風を感じた１年であった。募集活動の成果として、2023 年 4 月 1 日付の常勤医師の採用が内定した。

3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す

2020 年度から開始した「産後ケア事業」は淡路市・洲本市・明石市の 3 市との契約を更新した。2022 年 4 月に当院 OB の助産師が開設した淡路島内唯一の助産院に対し、使用していない機器・備品の譲渡や当院の非常勤医師と嘱託医契約を結ぶなど全面的な運営協力を行った。

淡路市内の聖隷福祉事業団が運営する施設と施設長間の交流だけでなく、看護師・リハビリテーション職・管理栄養士・相談員といった共通の専門職種との密な連携が進んだ。人材の欠員補充だけでなく人材育成を前提とした人事交流計画で看護師と理学療法士の人事異動を行った。今後も聖隷の各事業が提供する質の高いサービスを淡路島内の地域住民に対して提供し続けることを共に目指していく。

4. 経営基盤の確立

患者数は予算目標に未達であったが、診療単価は新型コロナウイルス感染症の診断目的の検査や入院患者に対する診療報酬加算が増えたこと、また地域包括ケア病床を活かした入院管理を徹底したことにより、予算を超える結果となった。

新型コロナウイルス感染症の対応に対する国・県の補助金収入があり、予算目標を超える医療事業収益が得られ、結果、2022 年度は開院以来初めての黒字決算となった。

5. 地域における公益的な取り組み

無料または低額診療事業を行う施設として、行政や医療機関・施設の相談員など関係機関への周知を行い、「生計困難者」だけでなく「生活困窮者」が必要な医療を受けられるよう医療費の減免を行った。2022 年度は戦争被害を逃れて母国から淡路島に避難してきたウクライナ人も減免対象とした。無料低額診療事業は 2022 年度も国が定める減免基準 10%以上を超える実績となった。

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	128 名	122 名	95.3%	98.4%
外 来 単 価	11,000 円	11,514 円	104.7%	102.2%
入 院 患 者 数	129 名	118 名	91.5%	98.3%
入 院 単 価	31,500 円	33,692 円	107.0%	106.2%
病 床 稼働率	84.9%	77.6%	91.4%	98.4%
職 員 数	196 名	192 名	98.0%	100.0%

聖隷横浜病院

2022 年度も新型コロナウイルス感染症への対応に追われる日々が続いた。新型コロナウイルス感染症の感染管理は困難を極め、合計 4 回の院内クラスターを経験した。特に 12 月後半に発生したクラスターは 1 ヶ月間で陽性患者延数 738 名、陽性・濃厚接触等による職員の出勤停止延数 610 名となり、最大 7 病棟で新規入院患者の受け入れ停止を与儀なくされた。こういった状況ではあったが、神奈川モデルにおける重点医療機関協力病院・陽性患者受入病床（国の重点医療機関に相当）として、陽性患者の受け入れを可能な限り行い、地域医療に貢献し続けた。

10 月より病院長として就任し、「みんなで作る聖隷横浜」を合言葉に、職員ひとりひとりが考え、意見が言える病院作りに励んだ。その代表的な取り組みとして、幹部連絡会で、診療科の現状把握と問題解決策を診療科毎に議論し、進むべき道を各診療科と共有する取り組みを開始した。こうした取り組みを今後も拡大し、経営を職員全員で担っていくという意識付けを行っていく。

診療体制においては、脳神経外科の常勤医師の退職もあり脳卒中ケアユニット（SCU）の存続が危ぶまれたが、診療科と連携を図り、非常勤医師の活用や新規患者の一部受け入れ制限を行うことで、SCU の機能を維持した。

院外においても病・病、病・診連携ならびに市内救急隊など行政との連携強化を推進した。さらには、市民公開講座の開催など、利用者に当院を知ってもらうための活動を積極的に行った。

2023 年 3 月に当院は開院 20 年の節目を迎えた。今まで支え続けてくれた全職員の努力と取り組みに感謝するとともに、更なる質の高い医療サービスの提供を心がけて、地域から愛され続ける病院づくりを継続していく。

1. 安全で良質な医療の提供

（ア）医療安全管理体制および感染管理体制の充実

新型コロナウイルス感染症への対策として、全ての入館者に体調確認を実施した。加えて ICD（感染制御医師）および感染管理認定看護師を中心に新型コロナウイルス感染症対策会議を毎週開催し、情報共有や必要施策の検討を行った。

（イ）救急診療体制の強化と充実

横浜市内の救急隊向けの勉強会である救急フォーラムの開催や救急隊への訪問活動などを継続的に実施し、コロナ禍においても応需率向上に向けて病院全体で取り組み、4,072 件（目標：4,500 件）の救急搬送を受け入れた。併せて日々の救急車応需詳細を確認し問題と思われる事例について委員会で共有、個別対応し病院全体の意識強化に努めた。

（ウ）外来診療科体制の充実

当院の強みである心疾患治療を更に充実化させるために心大血管リハビリテーションを行うための体制や設備を整え、医療提供サービスの向上に努めた。

（エ）ドック・健診事業の充実

日曜乳がん検診を 2 回/年と増枠し、婦人科検診も同時開催した。精密検査対象者への受診勧奨を行い外来診療への案内強化を図った。

2. 地域包括ケアシステムの構築と推進

(ア) 地域完結型医療の実践

診療報酬改定への対応として、院内転棟率を 60%未満にするため、転院だけでなく、眼科の白内障患者やレスパイトの患者を直接地域包括ケア病棟で受け入れる取り組みを開始した。

(イ) 地域連携及び広報活動の強化

紹介状に対する即日返信を推進し、即日返信率 98.2%を達成した。また、病院長をはじめ各診療科医師と協働でクリニック訪問を行った。これらの取り組みにより、病・診連携強化を図り、紹介件数は 9,819 件(目標：10,200 件)となった。併せて、市民公開講座を対面で 1 回、YouTube 配信で 13 回実施し病院の情報や魅力の発信を強化した。

3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践

診療部と協働で各科の特徴に応じた指標と行動計画を策定し、取り組みを推進した。人件費率単月 60%を目指し、収入確保、費用削減に取り組んだ結果、予算を大幅に上回ることができた。

また、手術室運用の実態調査を行い、問題提起を行い、効率的な運用の構築を検討した。結果手術件数は 1,990 件(目標：1,800 件)となった。引き続き変革を実行していく。

4. 多様な人材確保と育成

両立支援制度（育休・介護休等利用 32 名、短時間勤務・ワークシェア等利用 29 名）

5. 最適な環境づくりの推進

2023 年 12 月の病院機能評価 Ver. 3.0 受審に向けて部門横断のプロジェクトを立ち上げ、診療体制の見直しならびに労働環境整備の準備を開始した。働き方改革への対応として、医師の勤務実態調査を実施し宿日直許可申請の準備を進めた。

全病棟のデイルームに Wi-Fi 環境を整備し利用者サービスの向上に努めた。併せて老朽化した病棟の外壁塗装を継続的に実施し、壁面クラックならびにサッシからの雨漏り対策およびナースステーション内空調機の高効率機種への更新を行った。

<地域における公益的な取り組み>

低所得者に対し広く事業を実施し、国が定める基準 10.0%であった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
外来患者数	556 名	578 名	103.9%	103.7%
外来単価	16,942 円	17,297 円	102.0%	99.6%
入院患者数	300 名	297 名	99.0%	97.3%
入院単価	56,425 円	56,728 円	100.5%	102.1%
病床稼働率	81.7%	80.9%	99.0%	97.3%
職員数	698 名	690 名	98.8%	98.4%

聖隷佐倉市民病院

2022 年度は、コロナ診療と一般診療の両立に加え、病院機能評価、診療報酬改定、適時調査などにも対応し、質の向上と経営改善の両面に取り組んだ 1 年であった。

コロナ診療においては、2022 年 7 月に職員と入院患者の感染が拡大したため、B4 病棟を休棟しコロナ病棟（C3 病棟）を再開した。11 月には一般病床が満床となり、C3 病棟を継続しつつ B4 病棟にて入院患者の受け入れを再開した。そして、2023 年 1 月には、再びコロナ入院患者が急増したため、急遽コロナ病棟を C3 病棟から B4 病棟へ変更し、さらに A5 病棟を縮小しマンパワーを B4 病棟へ集約した。これらの柔軟な病棟編成により、最大 26 名のコロナ入院患者を受け入れることができた。一般診療においては、2021 年度に引き続き、救急車の積極的な受け入れ、地域連携の強化に取り組んだ。C3 病棟再開により一般病棟は実質 315 床となったが、柔軟性と機動力を活かし稼働率 9 割を維持することができた。これらの努力の結果、3 ヶ年経営改善計画 2 年目となる 2022 年度も予算を達成することができた。

1. 地域医療に貢献し、信頼され、選ばれる病院づくり

コロナワクチン接種、発熱外来を継続した。また、救急医療においては、コロナ陽性患者を含む年間 2,068 台の救急車を受け入れ、地域の救急要請に迅速に対応した。待ち時間対策として、外来診療開始時間の徹底や予約枠の見直しなどを実施した。また、利用者の声（投書）の運用を見直し、意見を広く集め、早期に対応し、改善ができる仕組みを整備した。

2. 安心・安全で質の高いサービスの提供

医療安全体制の整備に努め、専従の医療安全管理者を配置し、医療安全対策加算 1 を取得した。マニュアルの更新を行い、コロナ禍で滞っていた実地研修を感染管理室と協力し対策を講じて再開した。2022 年 10 月には病院機能評価を受審し、4 回目の更新を行った。訪問審査時のさまざまな視点からの意見を、当院の質向上に活用している。

3. 地域連携、院内連携により、地域に寄り添った No.1 の病院を目指す

地域連携では、1 週間以内返書の取り組みを継続した。また、歯科医との連携による周術期口腔管理の取り組みを 2022 年 4 月から開始し、69 件の実績を上げた。院内連携では、健診センターと協働し、患者の要望の多いインフルエンザワクチンの接種枠を拡張した。また、2022 年 4 月より大腿骨近位部骨折のデータベース登録を開始し、医師、看護師、理学療法士、事務が多職種協働で実施した。

4. この病院で働きたい、働き続けたいと思える環境づくり

医師の働き方改革では、勤務時間管理を通じて、労働実態の把握や超勤ルールの明確化を行った。また各職場で、超勤申請状況の定期配信や長時間労働職場、私用時間状況の共有を毎月行い、時間外労働が削減した。また、職員の理解促進や職場運営面の工夫により、男性職員の育児休職

が7名と大幅に増加した。

5. 変化する外部環境に対応した持続可能な経営基盤の構築

診療報酬改定では新たに20件の新規施設基準を取得した。コロナ感染の拡大に伴い、一般診療への影響が発生したが、日々の感染状況や一般診療への影響、病院方針を共有し、一般診療とコロナ診療の両立に取り組んだ。健診部門においては週次で予約の空き状況を共有する工夫を行った結果、人間ドックは前年比105%、8,219名を受け入れることができた。また、大規模災害を想定し、外部からの透析や外来などの流れを整備したBCP（事業継続計画）を策定し、運用を開始した。

6. 地域における公益的な取り組み

コロナの影響により市民公開講座は開催できなかったが、地域情報誌を活用した病気予防、健康寿命延伸に繋がるための情報発信を行った。

【数値指標】

〈病院〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
外来患者数	830名	832名	100.2%	100.4%	入院患者数	310名	293名	94.5%	94.5%
外来単価	14,500円	14,940円	103.0%	99.6%	入院単価	53,900円	55,956円	103.8%	102.6%
職員数	805名	780名	96.8%	100.1%	病床稼働率	82.2%	77.7%	94.5%	94.5%

〈健診センター〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
受診者数	200名	194名	97.0%	100.0%	単 価	16,800円	16,560円	98.6%	101.9%

〈せいいい訪問看護ステーション佐倉〉

介護保険	予 算	実 績	対予算	対前年	医療保険	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	360件	327件	90.8%	104.5%	利用回数	130件	128件	98.5%	123.1%
単 価	8,200円	8,020円	97.8%	97.3%	単 価	10,500円	10,519円	100.2%	93.9%

〈せいいいケアプランセンター佐倉〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年	項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数	58件	59件	101.7%	168.6%	単 価	10,400円	10,398円	100.0%	96.1%

せいいい訪問看護ステーション佐倉/せいいいケアプランセンター佐倉

2022年度は新型コロナウイルス感染症患者が安心して療養生活が過ごせるよう感染症対策及び整備を強化し感染者への訪問を行った。また、訪問看護では理学療法士を1名採用し、リハビリの充実を図った。ケアプランセンターでは、職員が1名増員となり支援体制の強化を図ることができた。

＜無料又は低額診療事業＞

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、減免実施率は20.5%であった。

浜松市リハビリテーション病院

2022 年度は浜松市指定管理者受託後 15 年が経過し、5 年契約の 4 年目を終えた。新型コロナウイルス感染症の院内クラスターが数回発生した影響で病床稼働が安定せず、またスタッフも複数人同時に自宅療養となったことで通常診療が困難となり、一時的に転入院中止、病棟閉鎖を余儀なくされた時期もあった。それでも地域の「リハビリテーション医療を止めない」という方針のもと、年間で 94 名のポストコロナ患者を受け入れた。

2022 年 5 月に回復期リハビリテーション病棟入院料 1 が算定可能な病棟を 4 病棟で取得し、回復期病棟の体制を強化した。8 月に地域連携・患者サポートセンターを新設し、患者や家族、地域の関係者が利用しやすい窓口体制を整えた。同時に入退院調整の要として、急性期病院と連携を密にとり、転院待機日数の減少と、スムーズな転院につなげる運営を強化した。

2018 年度「えんげセンター」、2019 年度「スポーツ医学センター」、2020 年度「高次脳機能センター」、2021 年度「市民いきいきトレーナー養成事業」に引き続き、2022 年度浜松市医療奨励賞に野本歯科医師の「地域での口腔管理を支える退院時歯科連携システムの構築活動」が選出され、5 年連続での受賞となり、当院での取り組みが高く評価された。

1. 地域共生社会の実現に向けた連携の具体化

訪問診療についてはプロジェクトを発足させ、開設に向けた運用の作成、地域医療機関等への訪問など準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開始には至らず、2023 年度への継続目標となった。退院後の生活を支援するために、医療機関と協働して退院前に療養指導を実施することで得られる介護保険連携指導料も 16 件/月算定し、地域につながる連携を具体的に実施出来た。障害者雇用率は 2.42%と目標達成したが、障害者雇用率が段階的に引き上げられる 2026 年度に向け、当院で実施している就労ボランティアから障害者雇用につなげる社会復帰支援モデルを早急に仕組み化する必要がある。

2. 地域に期待される質の高いリハビリテーション医療の提供

自宅退院した嚥下障害患者のうち退院後もフォローした件数が 112%（2021 年度比）となり、入院中のみならず退院後の生活を支援する形が定着した。医療安全については、インシデント報告件数は 1,116 件（2021 年度：1,316 件）と微減したものの、3b 以上のアクシデント件数を 4 件（2021 年度：11 件）から大幅に改善することができ、医療安全意識を高める施策の効果が現れた。コロナ禍で利用者、職員に様々な制約はあったものの、日本医療機能評価機構の利用者満足度、職員満足度スケールを用いた調査では、ともに 2021 年度の結果を上回った。

3. 効果的・効率的なチーム医療体制の確立

専門職が専門性を効率よく発揮できるよう、カンファレンスや面談の実施方法を見直し、スリム化と効率化を図った結果、開始前の 11 月との比較で入院初期のカンファレンスを 50%、面談件数を 75%に削減した。また院内で実施される会議を Web で実施できるイントラネットを構築し、カンファレンスや委員会、会議などネットセキュリティを担保しつつ、感染対策および効率化を

同時に実施できる仕組みを構築した。その結果、退職や休職により、常勤職員が対予算 20 名未達の状況においても、超過勤務時間を 2021 年度比 91.6%に抑えられた。

4. 安定した経営基盤の確立

新型コロナ感染者が発生するたびに、病棟の診療制限やゾーニングを実施したことで入院患者数は平均 209.9 名/日（予算：214 名）と予算を下回った。また、感染対策によりリハビリテーションが十分に実施出来ない状況下で、療法士一人あたりの実績も予算未達であったことから、入院収益は対予算で 5,600 万円未達であった。一方、外来実績では、ボツリヌス治療へのニーズが増加したことに加え、コロナ検査も多かったことから、外来収益が対予算 131.5%に増加した。介護保険事業は引き続き好調で予算を上回る実績を示した。入院中に退院後のサービス調整を開始する運用を強化したことで病棟からの紹介件数が 9.9 件/月増加した。訪問リハビリテーションでは言語聴覚療法のニーズが高く 27 件/月の実績があり、2023 年度は人員を増やし利用者増加に対応していく。

5. 地域における公益的な取り組み

2011 年より実施している「市民いきいきトレーナー養成事業」は新型コロナ感染症の影響で集合形式での講習会の開催が困難であったため、予定数 90 名の育成は未達であったが、オンライン講習会の形で開催し、トレーナー育成を継続できた。和合・泉町自治会との地域防災連携連絡会および防災訓練に 2022 年度も参加し、災害時の地域避難所との連携を確認出来た。

介助・介護法などリハビリテーションに有益な情報を動画編集したコンテンツをホームページに掲載した。年間の視聴数は 3,500 件を超え、入院患者、家族がいつでも視聴できる情報提供の体制に一定の効果が得られた。

【数値指標】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	134.0 名	155.1 名	115.7%	103.6%
外 来 単 価	8,880 円	10,313 円	116.1%	114.5%
入 院 患 者 数	214.0 名	209.9 名	98.1%	98.0%
入 院 単 価	41,000 円	41,189 円	100.5%	104.5%
病 床 稼働率	95.1%	93.3%	98.1%	98.0%
職 員 数	439.0 名	417.8 名	95.2%	100.5%

〈介護保険事業〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
通所リハビリ利用回数	719 件	775 件	107.8%	132.0%
単価	4,510 円	4,750 円	105.3%	103.8%
訪問リハビリ利用回数	328 件	317 件	96.6%	121.9%
単価	8,900 円	8,167 円	91.8%	97.9%

聖隷袋井市民病院

開設 10 年目となった 2022 年度は、長引くコロナ禍、さらには全国的な新型コロナウイルス感染拡大によって医療提供体制の見直しが行われ、後方支援を担う当院でも感染者の治療を行った。感染者や濃厚接触者の区域を分けた上で職員が感染対策を講じて治療やケアにあたることを経験するとともに、急性期病院の病床確保のため早期に転院を受け入れる態勢をとった。発熱外来および在宅療養者の経過観察、ワクチン接種を継続しつつ、地域医療を守るために臨機応変な対応が必要とされた、そんな一年であった。

“選ばれる病院『地域 No. 1』を目指す”をキーワードとした事業計画は、係長以上が策定から進捗管理まで関わった初めての取り組みであった。現場の課題を病院や地域の課題と捉え、職員自らの活動で改善していく風土を醸成すること、病院運営に参画している実感を得ることを目的として開始した。当初の目的に加え、職員の活動がみえる効果ももたらしてくれた。

10 月には病院長が交代し新たな組織体制となった。『地域 No. 1』の回復期・慢性期医療を提供するため、10 年かけて培ってきたノウハウを昇華させて、さらに質の高い医療を提供できるよう進化を続けていく。

【事業・運営計画】

選ばれる病院『地域 No. 1』を目指す

1. 安全で質の高い医療サービスの提供

継続的に質改善できる組織を目指して、職場や委員会での取り組みや実績の可視化を図ることを継続している。認知症ケアについては、新規プロジェクトを立ち上げ、患者への具体的支援に向けた情報収集方法の検討や知識の向上に取り組んでいる。患者動線はコロナ対応をきっかけとした見直しで、患者の利便性は上がったが、職員の負荷軽減が課題となっている。

医療安全管理では、患者誤認や薬剤関連のエラーを減らすべく取り組んだ。しかし、平行して安全文化醸成のためのヒヤリハット報告を推進したことで、報告件数が増える結果となったため、継続的に評価する必要がある。感染管理では、市中感染拡大の影響を受け集団感染が起きたが、迅速な対応により病棟内に抑えることができ、他の病棟で患者の受け入れを継続できる環境を保ち、地域への影響を最小限に抑えることができた。

リハビリテーション医療については、2021 年度導入したロボットを効果的に活用するために職員教育を進めた。高次脳機能障害患者への自動車運転再開支援については、中東遠地域で初めてとなる自動車学校との連携を 5 月に開始、4 名が実車評価を受けることができた。

2. 地域包括ケアシステムの推進

4 月からは、在宅主治医から紹介されたケースにリハビリテーション科としての専門的な訪問診療を開始した。また、退院支援機能向上や地域医療について学ぶため 9 月から県看護協会の訪問看護出向事業に参加、ルピナス袋井に 2 名が出向した。報告会・勉強会には出向先だけでなく地域の訪問看護ステーションや介護保険事業所なども参加し連携が深まった。ACP（アドバンス・ケア・プランニング）については、袋井市職員を含んだ新規プロジェクトを開始、職員への教育とともに「こころのノート」普及に向けた準備に取りかかっており、訪問リハビリテーション利用者にも活用してもらうことを始めている。

3. 人材の確保・育成および働きやすい職場環境づくり

採用困難職種である看護補助者採用強化のため、学校訪問、指定校推薦卒の増枠など取り組んだが新卒採用には至らなかった。回覧版の活用により採用数は満たしたが、雇用継続が課題である。整形外科については、聖隷浜松病院の協力により入院診療を継続することができた。経験豊富な専門医の診断によって手術に繋がるなど、患者にとっても選択肢が増える結果となった。

看護師1名が「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の特定行為研修を修了したため、今後の活躍の場を構築していく。業務の効率化においては、病棟の申し送り時間を見直したことでより患者対応や情報収集等に活用できるようになり、事務職では属人化からの脱却を図り業務の平たん化を図った。また、腰痛の実態を把握するアンケートを職員に実施したため、2023年度に腰痛予防に繋げていく。

4. 経営基盤の安定化

入院患者数は予算を下回る結果であったが、集団感染発生の際にも患者を受け入れる環境を維持し、急性期病床確保のための転院を早期に受け入れことに注力した。上半期の低迷はあったが、下半期の稼働率向上は目覚ましく、半期だけ見れば過去最高の稼働率であったことは今後に繋がる結果である。発熱外来の増枠や年末年始の実施、ワクチン接種等、市の健康政策の柱として応えた結果、外来収益や予防活動収益が増加した。

介護保険事業である訪問リハビリテーションは、感染拡大による影響を受けたものの、新規利用者を獲得し続け、月平均792回（2021年度平均675回）と拡大した。BCP（事業継続計画）を策定して3年目となった。設備や備蓄は可能な限り改善したため、職員教育を考える訓練を継続している。年々、有事の際を想定した対応ができていることに成長を感じている。

5. 地域における公益的な取り組み

市からの要請による医師の講演会講師派遣、政策である認知症初期集中支援チーム活動、市総合事業へのリハビリ専門職の派遣を継続している。住民がん検診に当院を利用してもらうことで、バリアフリーで密を避けた環境の提供、受診者数の増加、機器の有効活用も継続している。

【数値実績】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患 者 数	60 名	43 名	71.6%	81.1%
外 来 単 価	7,028 円	8,921 円	126.9%	112.6%
入 院 患 者 数	131 名	125 名	95.4%	100%
入 院 単 価	28,324 円	27,947 円	98.6%	99.2%
病 床 稼働率	87.3%	83.3%	95.4%	100%
職 員 数	200 名	188 名	94.0%	101.0%

〈訪問リハビリテーション〉

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
利用回数（月平均）	767 件	792 件	103.2%	115.2%
単価	3,339 円	3,335 円	99.8%	98.2%

保健事業部

2022年4月の新健診システムの更新において、保健事業部としての準備不足、ベンダーとの連携不足など様々な要因により、問診票、結果帳票類や請求書の提出遅延などシステム更新により顧客へご迷惑をかけ、結果としてこれまで築いてきた信頼を大きく損ねた1年となってしまった。

システム更新により、職員の業務負荷も増大し長時間労働が発生するなど健康経営を率先しなければならない事業部においてこのような事態になってしまったことは反省しなければならない。

また、市町村住民健診における予約体制を外注化しコールセンターにて行う運用に変更したが、電話がつかないなど、ご迷惑をおかけした。いずれも、新規業務に対する準備や対策が不足しており、事業部内の情報共有も図れていなかったことが大きな原因であった。

これらを改善すべく、2023年度には顧客からの信頼回復に努めるべく、健診の入口から出口まで安心して受診できるよう、体制・運営・業務を見直す。また、健診の質を担保するには、新健診システムの精度を上げることが必須となる。2022年度に滞ったところはもちろん精度向上に取り組むことが喫緊の大きな課題である。

新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの事業を継続していくという厳しいミッションであった。第8波の感染拡大期において多くの職員が休みに入る中でも職員同士がカバーしあい、利用者が安心して受診できる環境を整備した。

新健診システム更新における予約制限や、新型コロナウイルス感染症流行による施設内利用者の減少、職域健診の中止や延期、市町村の住民健診・がん検診を控える動きは止まらず、経営的には非常に厳しい状況が続いた。

これらを繰り返すことのないよう、事業部全体が一丸となって突き付けられた健診システムの安定稼働と職場の労働環境の整備、経営改善、組織改善に取り組んでいかなければならない。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供

利用者が安心・安全に受診できる環境にしていくためには、システムが安定稼働されていることが前提条件となる。施設内健診は、職員のカバーによって受診者への影響は最小限にとどめられたが、判定違いや結果票の相違など受診者への不利益が生じた。その都度、システムの修正を行いながら対応していることから質の高いサービスの提供とは程遠いものとなってしまった。

2. 経営基盤強化の取り組み

施設内健診、巡回健診とも大きく予算を下回る結果となった。施設内においてはシステム導入当初における予約制限やコロナ禍における人間ドックキャンセル、受診勧奨遅れによる精密外来の減少など大きな影響となった。巡回健診においても、市町村健診の受診者数の減少が大きく予算との乖離が大きかった。

3. 人材の育成・確保と働き方改革への対応

医師の採用においては、常勤医師 4 名が入職された。産業医科大学からも修練医を派遣いただくなど大学との連携が実を結んだ。

新健診システム導入にあたり、各職場で大幅に超過勤務が増加したため、働き方改革への対応はできず、課題が残った。次年度は繰り返さないように対応していく。

4. 健康経営の実践と発信

保健事業部職員の健康診断受診率向上のため、衛生委員会を中心として健診受診勧奨、精密受診勧奨を行った。また、禁煙への研修会や紙上研修を通して健康管理を促した。

保健事業部が支援を行った企業が健康優良法人ホワイト 500 に認定されたことは大きな成果であった。次年度も継続して認定されるよう支援を強化していく。

5. データヘルス計画に向けて

浜松ウェルネスプロジェクトの一環として、浜松市、浜松医科大学、静岡大学共同で保健事業部が蓄積する受診者データを用いた解析を行い、第 32 回日本疫学会にて解析結果を報告。次年度以降もデータを活用し、利用者に有益な情報を提供できるよう努める。

6. 連携の強化

健診事業においては、芙蓉協会、恵愛会、聖隷淡路病院、聖隷佐倉健診センターなどとの連携が進んだ。他業種との連携も強化できた。

7. 社会福祉法人の使命として地域共生社会の実現

新型コロナウイルスワクチン接種については、市町村の集団ワクチン接種、施設内個別ワクチン接種等対応し、地域経済活動へ貢献できた。

【数値実績】

	予算	実績	対予算 (%)	対 2021 年度 (%)
人間ドック	65,508 名	64,260 名	98.1%	100.4%
健康診断	679,537 名	672,255 名	98.9%	82.5%
外来精密	40,940 名	39,799 名	97.2%	98.3%

聖隷健康診断センター

健康診断システムの新規導入にあたり、多くの団体や利用者に結果報告及び請求書送付の遅延等大変な迷惑をかけてしまう一年となってしまった。深くお詫び申し上げたい。現時点において課題は解決しつつあるものの準備不足を猛省し、2023年度は信頼回復を重点的な目標としてとらえ運営する。

事業については、新システム稼働に伴い4月における利用者受入れ制限、前年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響にも苦慮した運営であった。感染症が蔓延状態にある時期は、特に市町の補助を利用される方々は受診を敬遠される傾向であった。しかしながら、その方々が年度内で受診できるよう人間ドックの受診枠を調整し可能な限り受け入れた。人間ドック利用者の状況は27,219名。2021年対比101.6%と、目標人数も達成できた。しかし、枠の増加により施設内の混雑状態について利用者から多くの指摘があり、滞在時間短縮への対策が急務であった。健診順路の調整、スピードドック（正午までに終了できるドック）の導入を行い、精度を担保しつつ成果を出すことができた。

新システムの導入初年度で確認作業等業務も増大し、職員の肉体的負担・精神的負担が増してしまった。それら負担を軽減する効果的な打開策を講ずることができず、職員満足度をも低下させてしまった。DXを活用した業務軽減や労働環境についても改善を図り、職員の働きやすい職場づくりを目指す。

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供

順路変更に伴い、受付後、看護職による問診から人間ドック及び健康診断を受診するスタイルへと変更した。検査前に健康情報の確認にあわせ、利用者にあったオプション検査の提案を実施し「オーダーメイド」化を図っている。利用者と施設の相互メリットに期待したい。

滞在時間短縮を目的に8月にスピードドックを開始した。1日2～3名程度であるものの、利用された方々には好評であり枠の拡大を目指し要望に応じていく。さらには、検体分析及び結果判定の時間帯をより早め、効率化を推進し全項目結果説明ができる「リアルタイム・ドック」の実現に向けて検討する。

重症化予防対策としては「労災二次健診」の枠拡大を図り、年間1,090名（2021年対比105.8%）の受診があった。健康に対してリスクがある対象者であり、放置されないように働きかけると受診できる環境を継続して整備していく。

2. 経営基盤強化のための取り組み

年々増加する胃カメラ検査の要望に応えるため受診枠を拡大、10,576名の利用を得た。今後も効率化に努め、午後の健康診断枠の増加をはじめとする全体の受診枠の拡大に取り組む。

毎週水曜日の「午後ドック」も5年目を迎え、「胃カメラ付きの短時間コース」という認知が定着してきた実感がある。職員の利用増加にあわせ、近隣の健康保険組合や事業所との連携により、年間164件の利用があった。金曜日の追加開催の要望が多く対応を検討していきたい。

3. 人材（人財）の育成と確保

年度末退職予定の医師 3 名の欠員補充にあわせ、東伊場クリニックの開設に伴う医師の確保に努めた。両施設、診療枠に対する医師は確保できたものの、非常勤医師に頼る状況は続いている。売上に対する人件費には注視していきたい。

東伊場クリニック開設にあたり、役職者及び中堅職員にてプロジェクトを立ち上げ運用検討してきた。双方の職員の意見交換により新たな運用が構築された。施設稼働後も中堅職員の活躍できる場として、改善検討には積極的に関わってもらう。

労働衛生コンサルタントの育成活動としては、職員向け「第一種衛生管理者講習会」を開催、3 名の合格者を輩出した。

4. 「健康経営」の実践

新型コロナウイルス感染者及び看護職の役職者に限定しテレワークを導入した。月 5 件程度であるが毎月活用があり、集中できる環境での作業により生産性の向上という成果がでている。業務の特性上、対象者の大幅な拡大は期待できないが効率的に活用していく。

5. 連携の強化

聖隷浜松病院地域連携室の職員が当センターに待機し、人間ドック結果説明後に精密検査や病院受診についての相談を受けた。月間 20 名から 30 名であるものの聖隷浜松病院への受診予約がなされ、当日受診のケースもでている。利用者からは大変好評であり、聖隷浜松病院と協同して利用者の健康の実現を目指す。

聖隷健康保険組合と連携した糖尿病予防プログラムも定着してきた。事業団内の職員の健康管理、増進についても継続支援する。また、浜松市をはじめ近隣地域には糖尿病予備軍の方が多い傾向にあり、利用者の重症化予防としてニーズにあった健康づくり活動を提供していく。

6. 地域における公益的な活動

8 月に開催したこども向け医療体験イベント「メディカルフェスティバル」は 18 名の参加者を迎えた。参加者からは「医療職を目指したい」等の会の目的にあった意見が多数寄せられた。例年、参加希望も多く、参加者の満足度も高い。また、新入職員が活躍できるイベントとして今後も開催を予定していく。婦人科健診の啓発活動としては、年 3 回イベントを継続し、若年層への医療情報の提供や、子宮頸がん・乳がんの受診勧奨、HPV ワクチン接種の啓発等を実施してきた。継続すべきイベントであるにとらえている。

【数値実績】

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
27,024 名	195 名	44,123 名	7,187 名	22,296 名
特殊健診	外 来	合 計	職員数	
2,295 名	17,214 名	120,334 名	193 名	

聖隷予防検診センター

2022年度は、3年に渡るコロナ禍によりやく薄日が差し始めた中、4月に稼働開始した新健診システムの障害等に起因する様々な要因により、利用者受入れの制限や結果および請求書送付の遅延など、顧客に対し多大なご迷惑をかけた一年となったことに、まずは深くお詫びを申し上げます。

現在、課題はほぼ解決し、結果および請求書について遅延無く対応が出来ている一方で、運用面においてはまだ改善の余地があり、信頼回復に向け総力を挙げ対応を進めている。

事業としては、引き続き国の施策である新型コロナワクチン接種事業に取り組むとともに、コロナ禍による健康意識の変化等により人間ドックから健康診断へシフトを検討されている方に向けてナッジ理論を用いた販促活動を積極的に行うことにより、過去最高である20,099名（2021年度比+49名、100.2%）の利用数となった。

また、健康経営への取り組みや産学官連携も積極的に推進、聖隷クリストファー大学と行う婦人科検診啓発活動「SGE♥プロジェクト（※）」では浜松市とともに啓発活動を実施、メディアや行政等からも注目され高い評価を受けた。その結果、浜松市が目指す予防・健幸都市実現の推進に寄与し、他企業や団体等の模範となる事業・取り組みを表彰する「浜松ウエルネスアワード2023」において、健康経営とSGE♥プロジェクトの取り組みに対し、それぞれ優秀賞を獲得したことは大変名誉であった。

2022年度の総受診者数は84,134名（対予算94.4%）となり予算を下回ったものの、前述通り、人間ドックにおいては20,099名と過去最高の利用数となった。

2023年度は、システムの安定稼働が達成された後も顧客からの信頼回復や原材料費の高騰及び水道光熱費の上昇などのコスト増への対策、コロナ禍で変化した人間ドックや検診受診に対する行動変容ステージの変化など、解決すべき課題は山積している。今後も利用者には選ばれるため、DXを活用した生産性の向上や経費コントロールを確実にしながらも、サービスの本質である「人が提供する温かみや優しさ」は大切に守り、職員がワクワクしながら生き活きと活躍できる環境を提供、「職員も利用者も『また来たくなる』予検センター」を目指す。

※SGE♥プロジェクト S…聖隷 G…gynecology（婦人科） E…enlightenment（啓発）に
対して♥（愛）を持って活動する

1. 全ての職員が生き活きと働くことができる職場づくりの実践（健「幸」経営）

「健康がスタッフを支え、スタッフがセンターを支える」の考えのもと、センターをあげて健康経営の推進を行った。ストレスチェックのサマリレポートに基づきストレスチェック結果の振り返りと職場環境改善事例について報告会を行った。また健康イベント等も積極的に開催、タフフィットネスやよけん図書館等の取り組みが評価され、浜松ウエルネスアワード2023の健康経営部門において優秀賞を獲得した。

2. 良質な予防医療を永続的に提供するための安定した経営基盤の確立

2021 年度から引き続き午前の一般健診枠を午後に大きくシフトし、人間ドック枠の拡大を目指す「ピークシフト計画」を継続、受入態勢を整えた。引き続き高齢者の受診が伸び悩んだが、職員一丸となって営業に取り組んだ結果、予算には届かなかったものの、人間ドックは過去最高の 20,099 名の利用数となった。

3. 利用者目線に立った質の高いサービスの提供

感染予防対策を万全に行いながらもワンランク上のおもてなしを目指し、質の高いサービスの提供を行った。センターの「売り」であるスピードドック稼働率は 94%を超え、3 密回避の一助となった。婦人科は丁寧な問診とともに追加検査を提案、経膈エコー検査数が 7,100 件（2021 年度比 102.3%）になるなど、利用者目線でのサービス提供と成果を両立できた。

4. 地域における公益的な活動

前年度同様、国の施策である新型コロナワクチン接種に積極的に取り組み、計 2,221 名に接種を実施した。また聖隷クリストファー大学との SGE♥プロジェクトでは、ドック健康食の共同開発の他、市中での啓発活動や浜松市との連携による HPV ワクチン接種勧奨などを実施、AYA 世代に向けた啓発活動を積極的に推進した。この取組みは、浜松ウェルネスアワード 2023 の市民健幸部門において優秀賞を獲得した。その他、市内の老舗和菓子店とコラボを行い、浜松市の健康課題である糖尿病予備群の方でも気軽に楽しめる和菓子「私菓心（わがし）」や、バレーボール V リーグ「ブレス浜松」とのコラボによる若い女性に向けた「健幸スムージー」の開発など、地域企業や団体との連携による新たな価値の創造を行った。

このような行政や地域資源との連携による新たな取組みは、メディアや他企業からも注目されており、引き続き地域の課題解決に向けた新企画も進行中である。今後も保健事業部が保有する「知を財に変える」知財変換事業を推進し、市場変動に左右されない持続可能な成長を目指していく。

【数値資料】

ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科検診	特殊健診
20,099 名	29,713 名	4,437 名	15,695 名	2,297 名
外 来	合 計	職員数 ※		
11,893 名	84,134 名	319 名		

※地域・企業健診センターとの合計

聖隷健康サポートセンター *Shizuoka*

2022 年度、聖隷健康サポートセンター *Shizuoka* (以下サポートセンター) は、開設から 12 年が経過、これまでに、聖隷静岡健診クリニックの開設や巡回健診事業を開始し、地域ニーズに合わせた事業拡大を進めてきた。2022 年度は 4 月から基幹システム変更という大きなイベントがある年度となったが、十分な検証と訓練が出来ずスタートした為、顧客に対し多大な迷惑と経営に対する大きな損失を発生させてしまうこととなった。その他、施設内では、長引く新型コロナウイルスと台風 15 号の災害の影響により当日のキャンセルが多発したため、予算との乖離が大きくなった。巡回健診では浜松地区からの業務移譲分として約 7,000 万円を見込んでいたが、新型コロナウイルスの影響により富士市・富士宮市がん検診の受診控えが続いている事と、2022 年度より外部委託を行った住民健診予約センター運用の不具合により、巡回健診においても予算との乖離が発生した。

2022 年度、サポートセンターの特徴である婦人科外来併設の強みを生かし、地域に先駆けて予防医療、プレコンセプションケア（注 1）に特化した仕組みを構築し本格運用を開始した。運用開始後間もないため、実施数は少ないものの他にはない取組みとして静岡地区でのアピールを強化していく。

長引く新型コロナウイルスの影響や巡回健診の受託状況を鑑み、2023 年度は大幅な増収増益は難しいと考える。そのため、今ある人材と資源を最大限活用しながら、以下の 3 事業を展開する。

- ・サポートセンター：労災二次健診の増枠・閑散期におけるドック受診者対策（キャッシュバックキャンペーン等）
- ・聖隷静岡健診クリニック：静岡駅隣接の強みを生かした営業活動（近隣事業所へのリーフ配布等）
- ・巡回健診：徹底した出勤の平準化による人件費を軸とした経費削減による利益率の追求

サポートセンターはさまざまな情報をいち早く収集、対応し、「選ばれ続ける総合保健施設」として、静岡地区で最高の質の保健・医療サービスを提供するため、“職員一人ひとりが自ら気づき考え行動する自立した組織”をさらに目指していく。

注 1：「妊娠する前からのケア」という概念。妊娠前の生殖年齢の女性に医学的・行動的・社会的な保健介入を行うこと。病気の予防と健康管理を通じて女性の健康状態を改善していくことを目的とする。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供

質を維持するための設備投資として、計画的な医療機器設備更新を行った。利用者からの

投書に対しては、週 1 回開催する職場長会で共有し、迅速な対応が必要な場合にはその場で決定、全体で考える案件は業務改善委員会にて検討した。

2. 経営基盤強化と新たなサービスの創造

巡回健診として、富士市・富士宮市等の検診を浜松から移譲実施する為に、検診車を 2 台増車して対応する事ができた。2022 年 1 月より本格的な「プレコンセプションケア健診」を開始し、年間と通し運用する事ができた。

3. 人材育成・確保

2021 年度に引き続き、業務改善委員会が中心となり、各課で小チームを作り経費削減について検討・実行する「ライズアップ計画」に取組みを推進することで、職員が組織への貢献意欲ややりがい、達成感を感じられる取組みとなった。また、役職者を対象とした人材育成研修を実施した。

4. 健康経営の実現

ストレスチェックの結果を基に職場環境改善の実施を推進した。すべての職場が管理会議にてアクションプランの振り返りと、職場環境改善の発表を行った。

5. データヘルス計画に向けて

全国健康保険協会（協会けんぽ）静岡支部と連携し、東伊豆の住民健診時に加入者が特定健診を受診できる仕組みを構築、2023 年度から実施を行うこととした。

6. 連携の可視化

巡回健診では、地域・企業健診センターや聖隷富士病院と双方の窓口を定め、人員応援を強化することにより、無駄のない人員配置を実現した。

静岡済生会病院への読影依頼を積極的に行い、今年度から増加する巡回健診にも対応する体制を構築した。

7. 地域共生社会への取組

静岡市中山間地住民の受診率アップ対策として、静岡健診クリニックへの送迎付き健診を実施。静岡市のイベント（大浜ビーチフェスタ 2022）への看護師派遣を行った。

【数値資料】

ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科検診	特殊健診
16,942 名	91,519 名	1,736 名	17,479 名	7,634 名
外 来	合 計	職員数		
10,692 名	146,002 名	165 名		

地域・企業健診センター

2022年度は、「質の高いサービスの提供」「経営基盤安定に向けた取組み」の両立の2点を重点目標として、職員が働きがいのある組織風土の醸成に向けた取組みを推進したが、4月に稼働を開始した新健診システムの障害等により、多くの関係者に対し多大な負担を強いてしまった一年となった。現時点においてシステム起因の課題は解決方向にはあるが、巡回健診の運用面においてはまだ改善の余地があるため、顧客からの信頼回復に向け職員一丸となって対応を進めている。また住民健診では新型コロナウイルス感染症による影響により集団検診の受診控えが続いていることや当日キャンセルの発生、2022年度より外部委託を行った住民健診予約センター運用の不具合により、予算との乖離が大きくなった。

重点目標の一つ目である「質の高いサービスの提供」では、これまで自然災害など突発的な事象に対し脆弱であった体制の見直しを行い、9月に甚大な被害をもたらした台風15号来襲の際、利用団体に対し円滑な周知・案内を行うことが出来た。また危機管理の視点において、健診会場への移動中に交通事故現場に居合わせた職員が一致協力し人命救助を行った事例について、メディア等を通じ高い評価を受けた。

二つ目の目標である「経営基盤安定に向けた取組み」では、これまでの巡回健診の実績を高く評価され新たに豊橋市の健康診断を受託、4,552名の利用者を受け入れることが出来た。また静岡県および静岡社会健康医学大学院大学からの受託事業である「賀茂地区コホート研究」の実績が高く評価され、2023年度新たに袋井市コホート研究受託につながった。

2022年度の利用者実績として、健康診断やストレスチェック、予防接種など合計で377,215名（予算比-23,626名）の受入れを行うことが出来た。

2023年度は、顧客からの信頼回復を最優先課題とする。今回の教訓を活かし、人的作業から安全で効率的なシステムへの置き換えを促進し、生産性および効率化の向上を目指すとともに、契約から健診実施後フォローまで高品質なサービス提供の構築を行い信頼回復に向けて全力で取組む。合わせて職員とともに定めたセンターのモットー「あしたの元気をおてつだい」を引き続き全員で共有し、職員の働きやすさ、働きがいの追求、「仲間を大切にする風土」づくり等に取り組むとともに、働く仲間・利用者・事業所・地域とともに、「一人ひとりの健康（幸）」の実現のため、質の高い選ばれる巡回健診を目指していく。

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供

顧客に対し安全な健診の提供を行うため、自然災害など突発的な事象による緊急対応フローの見直しを実施、顧客との連携や職員に対する指示命令の明確化を行った。これにより、9月に遠州地区に甚大な被害をもたらした台風15号の際、作成されたフローに基づいて対応を行うことで利用団体に対し円滑に周知・案内を行うことが出来た。

危機管理に対する職員の意識向上にも寄与し、9月に交通事故現場に居合わせた職員が一致協力して人命救助を行った事例についてはメディア等を通じ高い評価を受けた。

2. 経営基盤安定のための取り組み

近隣市町にて受託している巡回健診の実績を評価され、2022年度から新たに豊橋市の健康診断を受託、4,552名の利用者を受け入れることが出来た。これまでそれぞれ単独で行っていた特定健診とがん検診が聖隷で行うことによって同時に実施できる体制が整備されることで受診に掛かる時間も軽減され、利用者からも高い評価を受けている。また、2021年度に静岡県および静岡社会健康医学大学院大学から受託した賀茂地区コホート研究が2年目を迎えた。2021年度はコロナ禍により当初定めた日程の半分の実施となったが、2022年度は聖隷浜松病院をはじめ、聖隷沼津病院や聖隷富士病院との連携により、予定した全日程において885名の検査実施を行うことが出来た。また、この実績が高い評価を受けたことにより、2023年度からは新たに袋井健康長寿研究「ふくけん！」の新規受託に繋げることが出来た。健診の効率化・収益増を図る取り組みとして、小規模な事業所を巡回する契約団体等に向けて集合型健診を提案、2023年度の実施につながる事業となった。健診項目の単価アップや追加、特定健診詳細項目件数増により心電図検査 138,453 件（前年比 110.6%）、眼底検査 13,521 件（前年比 119.6%）と収益増につなげることが出来た。

3. 次世代の育成と働き方改革

職員の継続的なモチベーション向上及びキャリア支援の継続を目的として、役職者を対象とした勉強会を年2回実施した。テーマを「職員間の礼節」とし、20名の役職者が講義やグループワークを通じ、仲間を大切にする風土の醸成に向け活発な意見交換を行った。

11月には他部署の職員に感謝の気持ちをカードにして伝えあう「サンクスカード」キャンペーンを開催、57名の職員が参加した。カードの掲示も行い、これまで接点のなかった職員同士の事を知りあう機会の一助にもなった。職員からも好評であったため2023年度も継続して実施予定としている。

4. 地域における公益的な取り組み

地域住民の健康寿命延伸への普及啓発を目的として浜松商工会議所が主催する「いきいき健康フェスタ」に参加した。健康相談窓口や乳がん検診車の展示を行い、当日は子どもから高齢者まで500名を超える幅広い年代の市民が来場、多くの市民に対し健康に関する啓発を行うことが出来た。

【数値指標】

一般健診	婦人科健診	特殊健診	合 計	職員数 ※
304,575 名	31,426 名	41,214 名	377,215 名	319 名

※聖隷予防検診センターとの合計

在宅・福祉サービス事業部

2022 年度は様々な制約や制限のある中でも利用者の安全を守りつつ、職員のモチベーション、現場全体のモチベーションが下がらぬよう、各エリア各分野でこの支えに努力した。社会福祉業界全体では「職員の心理的安全性」という言葉が使われるようになり、現場の疲労感、疲弊感は限界に近付いていることが語られ始めた。改めて現場のモチベーションを大切にすることは、利用者を守ることに繋がっているのだと気づかされる。しかし、定額報酬に基づく人員基準の順守には限界があり、福祉の質の確保との闘いが現場では行われている。現場における ICT 機器の導入促進を加速度的に進める必要がある。よって 2022 年度は、利用者の記録の省力化、利用者の見守り業務のシステム化、スタッフ間の連絡のインカム化等、ICT 化への先駆的に取り組んだ年度となった。

また、こども基本法の制定、こども家庭庁の発足を 2023 年度に控え、待機児童解消が目的だった子ども施策が大きく変わる。18 歳までの子ども全てに切れ目のない支援が行われ、アウトリーチも含めた子ども子育て支援を行うべく、各市町村において総合的な支援を行う「こども家庭センター」が実施される。聖隷ではこれらに先んじて子どもを取り巻く緩やかなネットワークを構築し、将来的な遠隔診療や災害時支援、医療的ケア児支援等、法人間を超えて子どもと家庭への支援を行う「聖隷こども家庭総合支援センター」を開設した。また、医療型、福祉型の類型を廃止して総合的に支援する「聖隷こども発達支援センターかるみあ和合」を聖隷こども園めぐみと併設する形で建築が開始された。

感染下にあり、制限のある事業活動において、それでも取り組まれた各事業について、今後、丁寧にて地域に貢献できる取り組みとしたい。

【事業部理念】

地域への感謝と貢献

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【中期事業計画における事業部目標】

私たちの仕事は自動化される

Society5.0 時代を見据えて全てが繋がり、共有され、新たな価値が生まれる。

【2022 年事業部目標】

現場改革 thirdstep

現場のモチベーションを確認して、働き方を改革する

多様な人材が活躍できる職場づくりを目指す。

時間意識を高め、健康を確保する

福祉の生産性向上を意識し、価値を生み出す

(各種システム導入等共通の取組)

- ① ICT 入力支援システム HIMVIT を入所 7 施設通所 6 事業所で導入した。(補助金有)

- ② LIFE に対応する ICT システム HIMLIFE の運用を入所 17、通所 18 事業所で順次開始し、LIFE 関連の加算算定を進めた。
- ③ 入所者募集機能強化の為、SNS を使用した利用者家族コミュニケーションシステム HitomeQ コネクトに待機者情報管理機能をベンダーと共同開発した
- ④ 事務業務負担軽減の為、訪問予定調整ソフト ZEST を 3 事業所（山本、神戸、三方原）で、小規模 2 事業所（富丘、三ケ日）では WINCARE のスケジュール管理機能を使用できるようにした。
- ⑤ 訪問介護システムけあピアノートと連携する勤怠管理システムを補助金を活用して新たに開発した。
- ⑥ WELMO 社からの要請を受け「疾患を重視した次期 AI ケアプラン」の開発協力の為の協力を行った。
- ⑦ 障害システム更新に合わせ、従来機能がなかった全事業でのタブレット使用可能なシステムに変更することを決定し、2023 年度利用に向け導入準備を行った。
- ⑧ 保育浜松エリアでは現行システムの見直しを行い、磐田、宝塚に次ぐ保育 ICT システム コドモンを 5 施設で導入した。

（静岡第 1 エリア）

- ① 聖隷こども発達支援センターかるみあ和合建設工事について 2022 年 8 月に起工したが建築資材の調達が遅れ、2023 年度夏迄の工期延長が決定する。
- ② 2023 年度からのこども基本法の施行やこども家庭庁の設置にあわせ。医療的ケア児等やその家族をサービス横断的に支援する為、「聖隷こども家庭総合支援センター」を 10 月より設置し医学的な見地に基づく支援のための取組を開始した。
- ③ 人材の効果的運用の為、訪問看護ステーション住吉第二を 2023 年 4 月より休止とし、訪問看護ステーション住吉のサテライトに変更する。
- ④ 聖隷ケアセンター初生の給食を自営化に変更し、完全調理品の提供等、新たな食事提供方法の確立と食事内容の均質化、働き方の改革を行った。
- ⑤ 「浜松市一時生活支援事業」を浜松市生活自立相談支援センターつなかりにて受託し、生活困窮者に対しこれまで以上に漏れなく支援を提供した
- ⑥ 和合愛光園和合サテライト（29 床）で静岡県介護ロボット ICT 化補助金並びに AMED 補助金を利用しサテライト施設で初めてとなる見守りシステムを導入する。

（静岡第 2 エリア）

- ① 静岡県立浜松学園が静岡県より委譲され、新たな作業種目（事務センター、ランドリー工場、菓子工場）や新規事業（生活介護、ショートステイ事業、就労支援事業 A 型）を開始した。また経営基盤の安定化に努めた。
- ② 三ケ日地区ニーズ増加の為、聖隷ケアセンターいなさ南部を 2023 年度より三ケ日に移転することと、名称を聖隷ケアセンター三ケ日とすることが決まる。
- ③ 福祉共同住宅ファーストステップの定員を 5 月より 12 名から 13 名まで増やした

（静岡第 3 エリア）

- ① 聖隷ぴゅあセンター磐田では 10 月より磐田市初となる地域活動支援センター（I 型）

の運営を受託し、更なる障がい者の社会参加促進を開始する。

- ② 袋井市民病院をはじめ関係機関との連携を強化し、袋井市の利用者獲得を図った
- ③ 森町愛光園ではナースコール設備更新に合わせ大規模修繕に伴う ICT 化補助金を活用して見守りシステム(HitomeQ ケアサポート)、インカムを導入アする。

(関東第 1 エリア)

- ① 浦安市高洲高齢者福祉施設の運営について次期指定管理契約期間を期限とし将来計画の協議が開始された。
- ② 聖隷訪問看護ステーション浦安、稲毛海岸サテライトについて、職員確保困難な中、運営効率化の為、本体事業所に統合した。

(関東第 2 エリア)

- ① 横須賀愛光園大規模修繕に伴う ICT 化事業並びに看護小規模多機能居宅介護事業の創設について補助事業として採択され、1 年を通じた改修工事を実施し、横須賀愛光園の事業価値を高めた
- ② 横須賀市介護保険計画に基づく介護老人福祉施設定員増について、協議の結果、短期入所定員 1 名分を 8 月より入所枠（104→105 人）に変更した。

(宝塚第 1 エリア)

- ① 物価高騰に伴い、給食委託業務内容を見直し、献立等の食事サービスの標準化と、完全調理品の導入の検討を開始した。
- ② 宝塚すみれ保育園閉園後における就労支援事業所開設に向け企画準備を行った

(宝塚第 2 エリア)

- ① ケアハウス花屋敷において経年劣化に伴う、利用者環境改善の為、フロアカーペットの全面更新、浴室ろ過装置更新工事等を行った。
- ② 見守りシステム等の導入 PJ を進め、既存業務や体制の見直しを行い導入準備を進めた。

(淡路エリア)

- ① 聖隷訪問看護ステーション淡路岩屋サテライトを聖隷淡路病院内に移転し、連携体制の強化、業務の効率化を行った。
- ② 聖隷ケアプランセンター淡路と淡路第二を合併し、特定事業所加算等が算定できる体制を整えた。
- ③ 聖隷カーネーションホームにおいて短期入所事業の 2 床増床工事を完了した。

(奄美エリア)

- ① 奄美地区においても他エリアで実績のある、介護保険、障害福祉サービス ICT タブレットシステムの導入を開始する。
- ② 運営管理部も Web で参加しエリア会議を開催し、エリア内職員異動・採用計画の遂行、パート賃金規定の見直しを行い、職員の一元管理ができる仕組みを作った。

(保育浜松エリア)

- ① 聖隷こども園めぐみで、医療的ケア児や発達に課題を持った園児を 1 号認定で受け入れ、聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合との並行通園等の取り組みが開始できた。
- ② 2 月より保育 ICT システムをコドモンに移行し、更なる保育職の業務改善と利用者とのコミュニケーションツールとして活用していく。

(保育磐田エリア)

- ① 建築費の高騰に伴い磐田市東部幼稚園委譲について辞退の申し出を行い、受理された。
- ② 聖隷こうのとり富丘で、同施設内（こども園とかるみあ富丘）での週 5 日の並行通園を開始することができた。
- ③ 磐田市が医療ケアの必要な児童を各こども園で受け入れする為の推進委員会が 2023 年度より発足することが決定し、メンバーとして参加することとなった。

(保育宝塚エリア)

- ① 御殿山児童館、野上児童館の運営受託契約の現状と今後について、宝塚市と協議した。

(運営管理部)

- ① 浜松学園民営化に伴う就労支援 A 型事業所の創設に合わせ、運営管理部労務業務の一部をオフィスハマガクとし株式会社東海道シグマと共に利用者を 3 名配置し、事業団の職員として採用した。
- ② 法人の事業計画に則り運営管理部労務課を法人本部 SSC（シェアードサービスセンター）への移管準備を行った。

和合せいれいの里

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染力拡大に伴い、全国的視野での支援策を立案し、物的支援だけではなく感染拡大施設への支援チームの派遣を実践した。同時に、施設内も幾度か感染拡大の危機にさらされたが、職員が「持ち込まない」、「広げない」対策の徹底に努めたことで、重篤な事態には至らなかった。

介護保険事業では、特別養護老人ホームやデイサービスセンター等に実装された ICT 機器の運用が本格化され、介護職をはじめ専門職の働き方を見直す転換期となった。あわせて、各サービスの運営方針や計画の見直しを図り、利用者ニーズとサービス提供実態との乖離を是正した。また、障害福祉サービス事業では、5 号館となる児童発達支援センターの建築工事が具体化する中、ライフステージの変化に応じた切れ目のない支援が提供できるよう、領域を共有する事業所間の連動強化に努めた。世界情勢等の影響により工期は 2023 年度にずれ込んだが、この延長期間を好機と捉え、センター開設への基盤を強固にするための体制整備を図った。

このように、和合せいれいの里は利用者や家族、地域の方々の「やりたいこと」とサービス提供主体となる我々の「やりたいこと」を合致させることができるよう、各事業所の特性や能力を繋ぎ合わせ、その方のライフステージに応じた適切な支援を切れ目なく提供できる体制を構築し、和合せいれいの里がこの地にある意義を見出し続けている。

1. ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築

- (ア) 訪問看護事業の空白地帯である浜松市西区のニーズに対応すべく訪問看護ステーション住吉が馬郡サテライトを開設した。また、聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合が、利用者ニーズに対応すべく定員を 10 名から 20 名に増加した。
- (イ) 和合せいれいの里組織図を見直し、高齢者（入所・通所）領域である第 1 ケアサービス課、障害者領域である第 2 ケアサービス課、在宅（訪問・相談）領域である第 3 ケアサービス課を設置することで、制度の枠を超えた切れ目のない支援体制の基盤整備を図った。
- (ウ) 単一事業所が情報を抱え込むことなく関連する事業所へ情報発信できるように、分野横断的な会議体を編成し、現在の課題解決だけではなく未来を見通した計画が立案できる仕組みづくりを行った。

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) サービス担当者会議、地域ケア会議等を通して、利用者・家族・地域の方々のニーズの把握に努め、都度、ニーズに合致するように各種事業の軌道修正を図った。
- (イ) 見守り支援システムの実装も影響し、介護者が原因となる事故や重篤な事故の発生は抑制できた。また、これまでは介護者の想像の域を出なかった事故分析も、システムデータをもとに分析が進み、より現実的かつ具体的な再発防止策を立案できた。
- (ウ) 支援困難な方等の緊急宿泊希望は、空床を活用しながら積極的に受け入れを行った。また、医療ニーズの高い方等の受け入れも関連職種と事前の協議を重ね、意欲的に受け入れた。結果、年度を通して高稼働率を維持できた。

- (エ) 新型コロナウイルス感染症による制限は多かったが、利用者・家族の思いを確認しながら実現ができるよう他職種が協議し、柔軟的なサービス提供ができた。
- (オ) 介護職がインカムシステムを実装したことで、個人では対応しづらいこともチーム内で即時相談が行え、利用者を待たせることや不安にさせることなく適切な対応ができるようになった。

3. 新たな働き方・やりがいの創造

- (ア) 資格取得や研修に関する情報は都度発信し、資格取得の支援を行った結果、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員の合格者を一定数輩出できた。
- (イ) 事業所を横断し、関連する次世代リーダー候補が交流する機会や共に課題解決をする機会を設けたことで、一職場では解決できない介助のコアタイムにおける人員不足等の課題も改善するに至った。
- (ウ) 職員教育は指導者個人に任せるのではなく、インカムシステム等を活用しチーム全体で支えることで多角的な支援に努めた。また、OJT だけではなく各種 e-ラーニング等を活用することで技術と知識との底上げを図った。
- (エ) 業務仕分けを継続することで、高齢者・障害者・外国人等をケアサポーターとして雇用し、介護現場の業務省力化を図った。
- (オ) ケア記録システム、見守り支援システム、インカムシステム、移動・移乗用ロボット等の機器を積極的に実装し、専門職が専門職としての業務により注力できる環境を創造した。

4. 運営安定化の推進

- (ア) 2023 年度の児童発達支援センター開設（5 号館）に向けた計画的な投資を図った。
- (イ) 和合愛光園和合サテライトでは見守り支援システム、障害領域ではケア記録システムの検討・導入に至った。その他、大きな環境整備は児童発達支援センター（5 号館）の建築がずれ込んだため 2023 年度の継続課題とする。
- (ウ) 積極的に新たな加算算定や取りこぼしがないように実践を続け、高単価の維持に努めた。
- (エ) エネルギー関連費用や各種物価が高騰する中、より一層の無駄の削減に努め、費用の大幅な増加を抑制できた。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 静岡 DWAT メンバーの登録を継続。出動要請に応じメンバーの調整・手挙げを実施した。
- (イ) 新型コロナウイルスワクチン接種が困難な地域住民に対する、ワクチン接種サポートを実施した。併せて、新型コロナウイルス感染症の状況を把握しながら、介護に対する情報発信を地域の団体等実践した。また、外部企業への足掛かりとして、聖隷福祉事業団法人本部職員への介護保険制度等の説明会を複数回実施し、理解促進、介護離職防止等に貢献することができた。
- (ウ) 聖隷キッチン和合の学習支援事業への弁当配食・困窮家庭へ支援を継続した。
- (エ) 河川里親制度に登録を継続し、隣接河川の環境美化活動を実施した。

【数値実績】

■高齢者入所・通所関係事業

	和合愛光園			和合サテ ライト	和合愛光園デイサ ービスセンター		やま ぶき	聖隷トライ サポート和合	
	特養入所		短期		通所介護			生活 支援 ハウス	通所 介護・ 予防
	従来型 (3号館)	ユニット 型	従来型 (障害含)	ユニット 型	一般型 ・ 予防	認知症 対応型			
利用者定員	62名	40名	20名	29名	50名	12名	5名	40名	
利用延数	22,678 名	14,130 名	6,607 名	10,425 名	8,656 名	2,328 名	0 名	11,302 名	2,102 名
一日平均 利用者数	62.1名	38.7名	18.1名	28.6名	27.9名	7.5名	0名	36.6名	6.8名
稼動率	100.2%	96.8%	90.5%	98.5%	55.9%	62.6%	0%	72.3%	
稼動延日数	365日	365日	365日	365日	310日	310日	365日	309日	
平均介護度	3.63	3.87	3.03	3.81	2.19	3.51	－	0.99	－
単価 (一人一日)	12,383 円	14,927 円	12,605 円	15,061 円	10,514 円	14,151 円	－	6,660 円	9,134 円
正職 常勤換算数	31.2名	22.2名	9.4名	14.7名	6.6名	2.5名	0.2名	10.0名	
パート 常勤換算数	10.6名	3.5名	1.3名	5.6名	10.3名	4.1名	0.8名	6.4名	

■障がい者入所・通所・相談関係事業

	障害者支援施設 みるとす			相談支援事業所 くすのき 特定・児童	浜松市中障がい者相談支援センター
	施設入所支援 生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所		
利用者定員	20名	20名	2名	(者)延数	相談延数
利用者延数	7,248名	6,349名	1,058名	1,253名	10,816名
一日平均利用者数	19.9名	20.6名	2.9名	(児)延数	—
稼働率	99.3%	103.1%	144.9%	406名	—
稼働延日数	365日	308日	365日	—	—
平均介護度・区分	5.85	5.02	4.72		
単価(一人一日)	18,559円	14,906円	9,022円		
正職常勤換算数	13.9名	7.8名	—	5.0名	7.0名
パート常勤換算数	4.9名	8.2名	—	0名	(出向含)

■就労支援事業・放課後等デイサービス事業

	聖隷チャレンジ工房和合				聖隷放課後クラブ はなえみ和合		かるみあ 和合
	就労 移行	就労 継続 B	就労 継続 A	就労 定着	学校日	休校日	児童発達 支援
利用定員	10 名	15 名	15 名	一名	20 名		20 名
利用者述べ人数	2,375 名	4,110 名	1,955 名	103 名	3,329 名	649 名	4,913 名
一日平均利用者数	8.9 名	14.7 名	8.1 名	－	16.4 名		19.7 名
稼働率	89.0%	98.2%	80.5%	－	81.9%		98.7%
稼働日数(延べ)	267 日	279 日	243 日	－	243 日		249 日
単価(一人一日当り)	8,279 円	8,361 円	7,947 円	－	7,222 円	8,068 円	13,908
正職常勤換算数	7.4 名				4.8 名		7.3 名
パート常勤換算数	14.0 名(うち、就労 A 型利用者 6.5 名)				2.5 名		3.3 名

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均 利用者数	月訪問 件数		年訪問 件数		単価		常勤換算 職員数	
	217 名	1,098 件		13,181 件		10,284 円		20.4 名	
聖隷 ヘルパー センター	介護給付			予防給付		単価		常勤換算 職員数	
	平均利 用者数	訪問件数		利用者数		介護(回)	予防(回)		
		月間	年間	月間	年間				
	62 名	721 件	8,652 件	25 名	295 名	4,045 円	4,183 円	16.3 名	
聖隷 ケアプラン センター和	年間請求件数		平均単価			訪問調査		常勤換算 職員数	
	介護	予防	介護	予防		年間件数	単価		
	2,116 件	323 件	19,080 円	4,215 円		0 件	0 円	5.5 名	
地域包括 支援 センター 和合	浜松市受託収入		予防プラン 請求件数		うち 再委託件数		予防プラン 単価	常勤換算 職員数	
	31,000 千円		3,288 件		2,585 件		4,471 円	7.3 名	
	日常生活支援総合事業の予防プラン								
	種別		ケア マネジメント プラン請求件数		うち、 再委託件数		予防ケア マネジメント プラン単価		
	ケアマネジメント A		2,216 件		1,766 件		4,471 円		
	ケアマネジメント B		121 件		0 件		3,246 円		

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生

2022年度、新型コロナウイルス禍で、職員も自己管理を行い、感染症を持ち込まない対策を徹底した結果、施設内での感染症拡大は阻止できた。

また、厨房の自営化、完全調理品の導入によって新しい食事提供体制を構築できた。これらにより栄養管理体制の強化も実施でき、利用者の栄養管理の質の向上に繋げることができた。

1. いかなる時も事業が継続できるように、個々の職員の防災力、感染対応力を高め、予防的対策、発生時対策、発生後対策が滞りなく実施できる。

(ア) スタンダードプリコーションを再確認し、定期的に抗原定性検査を実施、予防できた。

(イ) ビジネスチャットアプリケーションを活用し、タイムリーな情報共有ができた。

(ウ) 運営推進会議を書面のみの実施にとどめたため相互支援体制の構築には至っていない。

2. 「自立支援ケア」「重度化防止」を確実に実践し、最期まで利用者の生きがいを支援する。

(ア) 通所介護は利用者本人の意思に基づいた様々な活動への参加を支援した。

① HIMVIT（タブレット型介護記録入力システム）導入を見据え、独自のソフトは中止したが、既存のソフトにて効率的に心身機能の維持向上に努めた。

② ICF(国際生活機能分類)の概念を学習、利用者の目標を明確化し、個々の社会参加を促すことができた。

③ 自営厨房体制を構築でき、管理栄養士を配置、栄養マネジメント体制が強化できた。

④ 管理栄養士が在宅利用者の栄養相談に乗ることができ持ち帰り食の検討に着手した。

⑤ 泡シャワー（入浴介助用製品）を導入し、利用者の満足度向上、生産性の向上、職員の負担軽減を図ることができた。

(イ) 小規模特養入居者本人の意思、本来の姿に沿った生活を実現し、重度化を防止できた。

① 自営厨房体制の構築により、事業所に管理栄養士を配置でき、栄養マネジメント体制を強化できた。

② 入居者の見守りシステム導入には至らなかったが、導入に向けて機器の検討ができた。

③ パンフレットを作成、関係機関に周知し、新規入居希望者獲得に繋げることができた。

④ 計画的に研修を実施し、利用者、家族の意向に沿ったケアの実現に努めた。

3. 通所介護、小規模特養それぞれにおいて「認知症ケア」の質を高め、利用者の意思決定を支援し、望む生活の実現に取り組む。

(ア) ケアセンター初生全体で、認知症の利用者とのコミュニケーションスキルを高めることができた。

① 「ユマニチュード」のケア技法に関する資料は回覧したが、研修参加には至らなかった。

② 「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」についてはe-ラーニングにて学習し、ケアに繋げることができた。

- (イ) 通所介護における認知症利用者の対応力を向上させた。
- ① 認知症基礎研修未参加者の研修参加が実施できた。
 - ② プログラム「寺子屋」を試行錯誤しながら実践し、MCI(軽度認知障害)の利用者への取り組みを工夫した。
- (ウ) 小規模特養入居者における認知症利用者への対応力を向上させた。
- ① 継続的に検討しているが、新たな認知症ケア加算算定には至っていない。
 - ② 生活総合機能改善機器「フリーダム」をフロアに導入し、少人数スタッフでも機能訓練、脳活性化プログラムへの利用者の参加を進めることができた。
4. サービス・プロフィット・チューンの概念を活かした事業所づくりを今年も進める。
- (ア) 成果が実感できる組織づくりに取り組んだ。
- ① 通所介護に泡シャワー（入浴介助用用品）を導入し負担軽減に寄与した。
 - ② 全職員がeラーニングを受講し、ケアに必要な知識と技術を学ぶことで、ケアの標準化、土台を構築することができた。
 - ③ 積極的にオンラインセミナーを活用し、職員の興味に沿った研修に参加できた。
- (イ) 個々の職員が、能力、特性を活かし、制度枠にとどまらない事業提案をできる組織になるよう努めた。
5. 地域における公益的な取組
- (ア) 福祉避難所の役割を果たすことを念頭に、非常食の整備に取り組んだ。
- (イ) 完全調理品を活用した定期的な見守り安否確認の実施には至らなかった。
- (ウ) 園外掲示板を活用し、福祉介護情報等の発信に努めた。

【数値実績】

	和合愛光園初生サテライト	聖隷デイサービスセンター初生	
		介護給付	総合事業
利 用 者 定 員	29 人	50 人	(50 人)
利 用 延 数	10,436 人	9,628 人	197 人
一 日 平 均 利 用 者 数	28.6 人	31.2 人	5.4 人
稼 動 率 (%)	98.6%	73.2%	
稼 動 延 日 数	365 日	309 日	
平 均 介 護 度	3.62	1.5	—
単 価	14,759 円/日	9,754 円/回	34,373 円/月
職 員 数 (正 職)	14.0 人	6.6 人	
職 員 数 (パ ー ト)	10.0 人	15.5 人	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザ IN 高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

1. 聖隷ケアセンター高丘内の連携を図り、センター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる

- (ア) 訪問看護ステーション高丘は神経難病や困難事例に対しても、利用者・家族の生活を支えるためにチームで協働し対応する事ができた。
- (イ) 聖隷リハビリプラザ IN 高丘は、介護予防や障がいをもった方にも専門的に個別の介入が行えるデイサービスとして、専門職が小グループの体操を担い、利用者の困りごとに直接向き合える仕組みを構築し、介入できた。
- (ウ) 地域包括支援センター高丘は高丘地区認知症高齢者徘徊声掛け訓練や様々な世代への認知症サポーター養成講座の開催等の認知症に関する啓蒙活動を実施した。また、泉地区のゴミ捨て課題に関し聖隷クリストファー大学の協力を得ながら地域の方と課題解決に向けた取り組みを継続した。
- (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は根拠に基づき、チームで複雑化・多様化するニーズに対応できるよう、毎月の事例検討会やアドバンス・ケア・プランニングの勉強会を行いスキルと知識の向上を図った。またデスクネットの活用等で ICT 化への意識作りに努めた。
- (オ) 訪問看護ステーション高丘と聖隷リハビリプラザ IN 高丘は毎月情報共有、事例検討を行う事ができた。
- (カ) 高丘拠点のそれぞれの事業所が日々の実践や成果を高丘ケアセンター学会で発表した。センターの取り組みを福祉学会でも発表した。

2. 職員 1 人ひとりがやりがいを持ち、働きやすい職場風土を醸成する

- (ア) 業務の効率化、業務負担の軽減を目指し、聖隷リハビリプラザ IN 高丘は入力支援システムの HIMVIT を導入。聖隷ケアプランセンター浜松はパンフレット類の PDF 化やデスクネットの活用によりペーパーレスの取り組み等を実施した。
- (イ) 各事業所体制を整え、男性職員の育児休暇取得、2021 年度比 3%増の有給休暇を取得できた。

3. 感染予防に留意し、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築する

- (ア) センター内で勉強会の実施や各自が感染予防に留意し、感染拡大する事はなかった。
- (イ) 高丘地区の防災訓練に参加。地域包括支援センターでは自治会や民生委員、協働センターと防災についての地域ケア会議を開催し情報共有した。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) ロコモーショントレーニング事業の継続を行った。地域交流やフレイル予防を目的に、散歩教室を継続し年間4回実施ができた。
- (イ) 高丘地区の防災訓練に参加した。
- (ウ) 感染予防に留意し、聖隷クリストファー大学各専門学科の実習・介護支援専門員実務研修・看護学生実習、病院看護師（浜松医大、医療センター）研修・職場体験、ボランティア等積極的な受け入れが行えた。

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	職員数 （常勤換算）
202 人	1,042 件	12,506 件	9,479 円	14.16 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ IN 高丘）

介護給付			予防給付		障がい給付		職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	
23.8 名	86.5 名	7346 名	69 名	824 名	4 名	49 名	16.2 名
単価(円)	6,304 円		30,239 円		9,057 円		

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	職員数 （常勤換算）
41,400 千円	3,331 件	2,650 件	6,206 円	
日常生活支援総合事業の予防プラン				7.5 名
種別	予防プラン	うち	予防プラン	
	請求件数	再委託件数	単価	
ケアマネジメント A	2,067 件	1,336 件	4,596 円	
ケアマネジメント B	401 件	0 件		
ケアマネジメント C	0 件	0 件	2,195 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
2,456 件	320 件	16,174 円	4,045 円	11 件	4,400 円	5.8 名

訪問看護ステーション住吉第二

2022 年度訪問看護ステーション住吉第二は、計画に沿った運営を行うことができた。コロナ渦で面会制限がなされる中、総合病院など連携を取りながら在宅の支援に向けた動きを継続して行った。また職場内でグループごとに勉強会や事例検討会を行うことでチーム全体での一人一人の知識の底上げを行い専門的な知識を踏まえ、地域で暮らす方々の支援につながったと考える。

訪問看護ステーション住吉第二は 2023 年度、訪問看護ステーション住吉のサテライト事業所として、事業を継続していく。

1. 他機関と連携し早期からシームレスな支援を行う

- (ア) 退院後不安なく在宅生活がスタートできるよう継続した支援を行った。
- (イ) 支援の必要な外来患者は受診時から同席介入し、医師・看護師と連携を深めることができた。
- (ウ) 相談支援事業所や居宅介護支援事業所、地域包括支援センターなど報告書の手渡しの継続で市の中心部の利用者獲得につながった。

2. 個々の持ち味を生かして、ニードの高い疾患を探求しスキルアップする

- (ア) 精神・神経難病・認知症の各グループで勉強会や事例検討会、実践評価修正を行った結果職場全員の知識を深めた。
- (イ) 職種別ラダーを継続し、スキルアップを図った。
- (ウ) 希望の研修に年 1 回参加（業務内）し共有を行った。

3. 働きがいを感じながら、生き生きと仕事ができる

- (ア) ZEST(スケジュール作成ソフト)を導入しスケジュール作成にかかる時間が短縮された。
- (イ) なんでも語り合える、相談できるあたたかい職場風土を作り離職ゼロとなった。

【数値実績】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	職員数 (常勤換算)
144 人	766 件	9,194 件	9,702 円	13.3 人 (10.77)

聖隷コミュニティケアセンター

2022 年度は、販売事業では店舗運営の経営判断より佐倉店の事業廃止を行い、関東エリア施設販売は浜松で集約する事により効率的な営業展開を行えるようになってきた。

介護保険事業を主体としたサービスを展開していく為、福祉用具の専門知識の底上げと質の向上を職員 1 人 1 人が目指し、勉強会や資格取得に力を入れてきた。

1. 聖隷コミュニティケアセンターの再編

(ア) 高丘販売管理室の移転場所の検討を行い候補場所は挙がったが決定までは至らなかった。

今後も引続き候補地を探していく

(イ) おむつ販売事業、車いす・マットレスの施設貸与事業を浜松学園に業務移管する事ができた

(ウ) 店舗運営の判断を行い、佐倉店は 9 月をもって事業廃止した。関東エリアの施設販売を浜松で集約する事ができた

2. チーム活動を活性化させ組織力を向上させる

(ア) リーダーの部門統制の役割を明確にした。リーダーも管理者同様、販売・貸与部門の予算や事業計画に対しても意識して取り組む事が出来た

(イ) 職員間の協力体制は構築できたが、部門間でそれぞれの役割を相互理解する機会を作る事ができなかった為、連携を強化するまでには至らなかった

(ウ) 店舗の人員は整える事ができなかったが、職場内のヘルプ体制はリーダーを中心に整える事ができた。欠員がでても安定した事業運営を継続する為にも次年度も交換研修等も行いフォロー体制は引き続き構築していく

3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場環境を作る

(ア) 福祉用具専門相談員としての専門知識の底上げ

① 目標参画システムを活用し職員 1 人 1 人が挑戦したい目標や資格を目標設定する事ができ、挑戦する機会が作れた

② 専門相談員として専門知識を高める為、資格取得を目指せる支援を行い、合格者を出す事ができた

③ 職場の勉強会を 2 カ月に 1 度のペースで勉強会を開催する事ができた

(イ) ライフワークバランスを念頭においた職場環境作り

① 年間を通して有給取得率が 58%と前年度に比べ 3%上げる事ができた。次年度は長期休暇もとれる仕組みづくりを行っていく

② 下半期より全ての会議・委員会を業務時間内にできるよう整備する事ができた

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域包括支援センターや行政が行う福祉用具展示や、勉強会等に協賛参加し地域にむけて福祉用具も啓発活動を行う事ができた

【数値指標】

レンタル件数	介護保険 収益	販売収益	住宅改修 収益	職員数 (常勤換算)
14,971 件	195,418 千円	248,533 千円	18,339 千円	28.2 名

浜松市生活自立相談支援センターつながり

2022 年度の相談件数は 962 件となり、2021 年度と比べ約 46%減少した。新型コロナウイルス感染が落ち着いたことにより経済活動が再開され生活困窮世帯が減少したと考えられる。しかし、コロナウイルス感染が始まる前と比較すると相談件数は 1.5 倍と高止まりしている。離職に伴う減収、住居を失う恐れ、病気や障がいがあるなど、複合的な課題を抱える相談者が散見されている。また、食べ物が無い、ライフライン停止等の緊急対応が必要な相談も依然として寄せられている。2023 年度も関係機関と連携し、複合的な課題を抱える生活困窮世帯への支援を実施していく。

1. 地域における公益的な取組

(ア) 生活困窮世帯のうち、住まいを失い、失業、減収した世帯に対して『住まい』と『食事』の提供及び就労支援を一体的に支援する『一時生活支援事業』を受託、運営する。

①2022 年度 4 月 1 日より『浜松市生活困窮者一時生活支援事業』を受託。市内に 5 部屋（単身者用 3 部屋、複数世帯用 2 部屋）の賃貸住宅を準備し、食事の提供も併せて実施。これまでのノウハウを活かした就労支援や家計改善支援を同時に提供する体制にて支援を実施している。

(イ) 『一時生活支援事業』対象者の内、年間 10 世帯を生活再建につなげる。

①就労支援や家計改善支援、転居等の支援を実施し 2022 年度は 6 世帯の生活再建となった。2022 年度の利用相談は 64 件（利用世帯 12 世帯、実人数 13 人）となった。利用ニーズは高く、2023 年度も継続して取り組んでいく。

(ウ) 『一時生活支援事業』の実施を通して、事業の効果及び『住まい』と『食事の提供』以外に生活再建に必要な課題等を浜松市へ提言する。

①転居費用を貯めることが困難な状況や就職活動に必要な交通費や検診費などの費用捻出が難しい状況が見られた。就職活動に必要な経費をサポートする体制や事業用住居を本人へ契約を切り替える事で生活再建につながることを浜松市へ提言した。

2. 就労支援及び就労準備支援

(ア) 就労支援対象者のうち、年間 120 名を目指す。

①年間 114 名の就職となった。毎月支援進捗を確認し適切な支援を迅速に提供できた。

(イ) 就労準備支援対象者の新規利用者 15 名の支援を実施する。

①2021 年度からの継続支援 12 名、新規利用者 15 名の支援を実施した。

(ウ) 協力企業を活用し職場見学、職場体験から就職へ年間 4 名の就職を目指す。

①年間 3 名が協力企業にて職場見学や職場体験を実施し、就職することができた。

(オ) 就労・就労準備支援のケース検討を 2 ケースずつ実施し、支援体制強化を目指す。

①事業所内で 2 ケースの検討を実施した。また、就労支援員と相談員がペアとなり就労支援を実施することができた。

3. 学習サポート及びキャリア形成支援

(ア) キャリア形成の一環として、中学 1 年～3 年生を対象とした、将来の『進路』『生活』を考え、今後の目標設定ができる企画を立案、実施する。

①年間 3 回の企画を実施。『マネーセミナー』『オープンキャンパス』では、将来の家計のイメージや進路のイメージを考える機会となった。『BBQ』では卒業生の OG・OB を含めた交流の場となり、OG・OB が後輩のために役割を発揮する場となった。

(イ) 卒業生を対象に高校定着や就労支援など必要な支援が実施できるよう、早期に課題がキャッチできる、SNS の活用について検討・運用開始できる。

①定期的な規格の案内や生活状況把握について、手紙に加えメールでの連絡を試みた。現状の把握や相談につながったケースも見られた。SNS の本格稼働については継続検討中。

(ウ) 教室に通えない生徒や家庭に課題のある世帯に対して訪問支援を実施し、学習支援及び生活相談支援を実施する。

①2 世帯へ訪問支援を実施。学習教材を届けながら、生徒の状況確認をすることができた。

4. 地域との連携強化

(ア) 生活困窮ケースについて、民生・児童委員や行政機関、福祉サービス提供事業所等とケース検討を年間 4 ケース実施し、地域における『連携支援』を検討、実施できる。

①1 ケース検討を実施した。支援開始前より行政、司法関係者、民生・児童委員、福祉関係者、本人と支援について検討。3 回の検討会を通して連携した支援が展開され、生活再建が達成された。

(イ) 連携支援を実施したケースについて関係機関が集まる研修会等に参加し実践報告する。

①民生・児童委員の研修会や地域包括支援センター主催の圏域会議等で報告することができた。

【数値実績】

	つながり				学習サポート事業
	生活困窮者自立支援事業	生活困窮者一時生活支援事業	学習支援事業	ホームレス巡回支援事業	
利用者定員	- 名	7 名	60 名	- 名	- 名
利用者延べ人数	5,305 名	1,075 名	1,441 名	103 名	376 名
一日平均利用者数	21.8 名	2.9 名	9.0 名	3.3 名	2.7 名
稼働率	-%	58.9%	-%	-%	-%
稼働日数(延べ)	243 日	1,075 日	161 日	31 日	140 日
単価(一人一日当たり)	-円	-円	-円	-円	-円
職員数(常勤換算)	14.5 名				0.6 名

聖隷厚生園信生

2022 年度も引き続き医療と介護・福祉の連携強化を行い、コロナ禍でも利用される方が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一体的な事業展開を目指した。聖隷厚生園信生寮では、廃用性による身体機能の低下を予防するとともに、利用者が生活の中で楽しみを見出せる支援を行うことができた。また、ノーリフトケアによる労働環境の改善が図られ、腰痛者が前年比 40%減となった。在宅部門では、利用者が望む地域生活が選択できるように、終末期ケアの充実や介護保険、障害福祉分野との連携強化をさらに推進することができた。

1. 利用者が楽しく安心して尊厳ある生活ができる支援を行う

- (ア) 身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”を引き出す個別支援を多職種協同で行うことができた。
- (イ) 凍結含浸法による新たな食事形態を開発し、希望する利用者への提供ができた。
- (ウ) 短期入所と聖隷厚生園まじわりの家が合同でケアカンファレンスを行い、共通の利用者の課題共有と統一的なケアを実践し、利用者の安心につなげることができた。
- (エ) 虐待防止セルフチェック表を年 2 回実施し、利用者の尊厳を守る取り組みを行うことができた。虐待防止対策の新たな深化を次年度の課題とした。
- (オ) 感染予防に配慮して利用者の外出企画を再開することができた。

2. 地域課題の解決に向けた取り組み

- (ア) 訪問看護ステーション細江では、意思決定支援をさらに強化させながら、聖隷三方原病院との連携によるターミナルケアの受け入れを積極的に行うことができた。
- (イ) 聖隷ヘルパーセンター浜松北では、活動地域の再編を行うなどして、細江、引佐、三方原、都田 4 地区を中心に地域ニーズに応じていくことができた。
- (ウ) 聖隷ケアプランセンター細江では、聖隷三方原病院の病棟との連携を強化し、活動エリアを西区へ拡大したことで、登録件数を伸ばすことができた。
- (エ) 在宅福祉サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等が合同カンファレンスを定期的に行い、支援困難ケースを通じて実質的な連携強化に努めることができた。
- (オ) 聖隷厚生園まじわりの家では、浜松学園新設の『聖隷ステップサポート』と連携して活動地域の棲み分けを行うことができた。
- (カ) 西部特別支援学校からの体験実習の受け入れを行い、新年度 1 名の新規契約につながった。

3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

- (ア) ノーリフトケア推進を継続することで、腰痛者が前年度比約 40%減少した。
- (イ) 職員が身体的負担を感じている体位交換・オムツ交換の方法を見直すことができた。
- (ウ) 介護アシストスーツを導入したが、具体的な運用につながらず次年度の課題とした。
- (エ) 業務の ICT 化では、個別支援の実施スケジュールから実施・記録入力がより自動化することのできる新たな記録ソフト導入が決定され、その運用は次年度の課題とした。

(オ)新型コロナウイルス等の感染症拡大の予防及び発生時マニュアルの整備、定期的な研修会等の実施に加えて訓練を行った結果、大きな施設内感染拡大には至らなかった。

4. 介護人材の確保と育成の取り組み

- (ア)各専門職ラダー、コンピテンシー評価を活用し、職員の人材育成を図ることができた。
- (イ)EPA 介護福祉士候補生の学習時間を確保できるように業務調整に配慮することに努めた。
- (ウ)聖隷クリストファー大学・介護専門学校等と連携し、実習及びインターンシップの受け入れを行い、2023 年度 2 名の新卒者の採用につなげることができた。
- (エ)聖隷ワース工房浜松学園の就労継続支援 A 型利用者 3 名の受入れと、聖隷厚生園ナルド工房の就労継続支援 B 型では新たにワックスがけ作業の業務委託を行った。

5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

- (ア)大規模災害時や感染拡大時にも事業が継続できるように、BCP（事業継続計画）を作成した。
- (イ)新型コロナウイルス感染拡大をしている施設への職員派遣を行い、支援にあたった。

【数値実績】

■障害者入所・通所事業

	信生寮			まじわりの家	
	入所	短期	日中一時	生活介護	機能訓練
利 用 者 定 員	60 名	10 名	－	14 名	6 名
利 用 者 延 べ 人 数	22,407 名	3,568 名	時間	3,845 名	1,234 名
一 日 平 均 利 用 者 数	61.4 名	9.8 名	－	14.9 名	4.8 名
稼 働 率	102.3%	97.8%	－	106.5%	79.7%
稼 働 日 数（延 べ）	365 日	365 日	365 日	258 日	258 日
単価（一人一日当り）	18,095 円	10,170 円	－	17,587 円	10,846 円
職員数（常勤換算）	57.1 名			13.3 名	

■訪問看護ステーション細江

利用者数		訪問件数		単価	職員数 （常勤換算）
年間	月平均	年間	月平均		
2,431 名	203 名	11,500 件	958 件	10,296 円	17.2 名

■聖隷ケアプランセンター細江

年間請求件数		平均単価		サテライト（三方原）	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防	年間相談件数	
2,127 件	333 件	16,151 円	5,362 円	464 件	4.6 名

■聖隷ヘルパーセンター浜松北

介護給付			予防給付		単価		職員数 (常勤換算)
月平均 利用者数	訪問件数		利用者数		介護(回)	予防(月)	
	年間	月平均	年間	月平均			
46 名	4,454 件	371 件	323 名	27 名	4,231 円	19,447 円	4.9 名

聖隷厚生園讃栄

2022 年度は利用者の活動や生活に関して、事業所単体又は施設内だけでなく、関連する協力機関や事業所、地域と常時連携した支援ができた。地域資源を活用する事で利用者の持っている人間性や能力を新たに見出すことに繋がったと強く感じる一年となった。自立促進において、次年度以降も地域資源の活用は必須事項であることを念頭に支援しなければならないと考える。

1. 利用者が地域の中で活動できる機会を設け、自立促進する

- (ア) 讃栄寮入所者が地域のボランティア活動（河川清掃）に参加し、地域住民と一緒に活動したことでやりがいの提供に繋ぐことができた。
- (イ) 救護施設親睦カラオケ大会（浜北文化ホール）や遠足（浜名湖周辺）などのイベントは感染対策を行った上で実行し、利用者の楽しみの確保に取り組むことができた。
- (ウ) 救護施設から高齢者施設への移管に関して、関係機関との連携を図り、移行支援に取り組むことができたが、施設移管にまでは至らなかった。

2. 日常生活で困らないよう利用者の身体機能維持向上を目指す

- (ア) 作業療法士と連携し、移動、移乗、排泄行為など日常生活動作のリハビリテーションを個別で行い、利用者の急激な機能低下は見られることなく日常生活を送る事ができた。
- (イ) 毎日の散歩、月 1 回のスポーツを行う日を維持し、利用者が屋外・屋内共に身体を動かす機会を設け、体力低下予防に努めることができた。
- (ウ) 利用者と職員の負担軽減を図るため、ICT 機器導入に向けて業務環境を整えようとして取り込んだが、ニーズとシステムの不一致などで導入に至らなかった。引き続き、ニーズの優先度やメーカーとの調整を行い、導入を目指す。

3. 利用者の楽しみである食事内容の充実を図る

- (ア) 食事提供形態の見直しや毎日の口腔体操の定着に向けての取り組みを行い、窒息事故を起こすことなく、安心した食事を提供することができた。
- (イ) 毎月の選択食の提供と外食デリバリー食の提供、季節に応じた利用者参加型の食事行事を開催し、食事を楽しみながら利用者也満足することができた。

4. 利用者が適切な社会資源を利用できるよう関係機関との連携を図る

- (ア) 相談支援事業所ナルドでは、利用者の退院支援の取り組みとして、関連医療機関へサービス提供事業所の見学会の案内や情報提供を行うことができた。
- (イ) 生活訓練事業所ナルドでは、利用者の就労支援事業所への見学を経て、個別の就労支援プログラムを実施することで、就労継続支援 B 型へ 1 名移行することができた。
- (ウ) 福祉共同住宅ファーストステップでは、定員を 12⇒13 床に増床し、単身生活に向けた地域ニーズを受け入れることができた。利用者 2 名は自身に適した環境の他グループホームへ住み替えを行った。

5. 公益的活動における地域貢献など

(ア) 新型コロナウイルス感染拡大に伴う関西施設への職員派遣要請に応じることができた。

(イ) 年間延べ248名の福祉実習生の受入を行うことができた。

【数値実績】

	聖隷厚生園讃栄寮		
	救護施設	救護通所	短期入所 (総合支援法)
利 用 者 定 員	60 名	10 名	4 名
利 用 者 延 べ 人 数	22,935 名	4,004 名	1,329 名
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日
一日平均利用者数	62.8 名	11.0 名	3.6 名
稼働率	104.7%	109.7%	91.0%
単 価（一人一日当り）	9,772 円		7,678 円
職 員 数(常勤換算)	27.9 名		

	生活訓練事業所 ナルド		相談支援事業所 ナルド		福祉共同住宅 ファーストステップ
	生活訓練	生活介護	障害者	障害児	
利 用 者 定 員	10 名	10 名	-	-	13 名
利 用 者 延 べ 人 数	1,945 名	2,329 名	2,618 名	377 名	4,100 名
稼働日数（延べ）	254 日	254 日	-	-	365 日
一日平均利用者数	7.7 名	9.2 名	-	-	11.2 名
稼働率	76.6%	91.7%	-	-	87.0%
単 価（一人一日当り）	10,081 円	8,487 円	-	-	4,741 円
職 員 数(常勤換算)	4.3 名		6.0 名		3.0 名

※福祉共同住宅ファーストステップについては、2022年5月に定員12名→13名に変更。

聖隷厚生園ナルド工房

2022 年度は、静岡県立浜松学園の民営化に伴う事業再編と連動し、菓子製造部門を聖隷ワース工房浜松学園へ移管した。聖隷厚生園ナルド工房では、就労継続支援 B 型の定員増(15 名から 25 名)や菓子製造部門に代わる新たな作業の創出により、定員超過のため受け入れができなかった就労継続支援 B 型利用希望者を受け入れることができた。12 名の新規利用者を獲得し、就労機会の提供をすることができた。

そして、利用者が心身ともに安定して働くことができるように、相談支援事業所や在宅サービス事業所と連携し、利用者の仕事する際の身体の姿勢、使い方等に着目した支援をすることができた。

1. 利用者が仕事にやりがいと自信がもてる支援の提供

- (ア) 菓子製造部門に代わる新たな作業として、聖隷チャレンジ工房磐田シュシュのパンの移動販売と施設での床ワックス清掃作業を開始することができた。
- (イ) 利用者が仕事にやりがいと自信をもてる支援をするために、個々に役割を与え、カンファレンスで成果をフィードバックし、次の目標設定につなげる取り組みができた。
- (ウ) 利用者へ根拠に基づいたフィードバックをするために、作業毎の作業検定の導入や仕事の様子を動画撮影することで、仕事の成果を視覚的に確認できる仕組みを作ることができた。
- (エ) 名刺・IC カード印刷作業において、新たに関西や保育エリアからの注文を受け、利用者の作業量を増やすことができた。
- (オ) 施設内作業とガーデンメンテナンス作業では、定期的にグループワークを実施し、働く場でのルール理解の促進に力を入れ、利用者の就労準備性ピラミッドにおける「基本的労働習慣」を伸ばす支援を行うことができた。
- (カ) 就労移行支援のグループワークに就労継続支援 B 型の就職希望利用者にも参加してもらうことで就職へのイメージを持った支援ができ、就労継続支援 B 型から 1 名の就職者を輩出することができた。

2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み

- (ア) 利用者の仕事をする身体の姿勢等による働き難さの軽減を図るため、専門職を招き、専門的意見をもらい、就労支援を展開することができた。
- (イ) 生活訓練事業所ナルドと協働し、利用者がステップアップできる取り組みとして見学会を実施した結果、1 名の利用者が生活訓練から就労継続支援 B 型へ移行することができた。
- (ウ) 「就労パスポート」(厚生労働省推進ツール)を利用者と一緒に作成し、働く上で必要な配慮等を整理することができた。就職活動時に企業との情報共有ツールとして活用することができたが、就職後に更新することについてはコロナ禍で制限があり不十分であった。
- (エ) 特別支援学校から計画的に実習を受け入れることができ、卒業後の進路先として 4 名を利用につなげることができた。

3. 職員が仕事の達成感をもてる働きやすい環境と人材育成体制の整備

- (ア) 職員間の相互理解を深めるため、3 ヶ月に 1 回の意見交換会を実施することで、仕事の成果を共有できる機会を持つことができた。
- (イ) ICT 等を活用し、業務の効率化を図ることで、カンファレンスにおける事前準備の時間を削減することができ、超過勤務を昨年度よりも年間 159 時間減らすことができた。
- (ウ) WEB 研修会や e-ラーニングを活用し、利用者の障がい特性の理解や職業指導スキル向上、根拠に基づいた支援につなげることができた。
- (エ) 虐待防止セルフチェックを年 2 回(7・3 月)実施し、その結果を職員間で分析することで、利用者への関わりや職場での課題を定期的に振り返ることができた。
- (オ) 感染予防対策として、作業担当毎に定期的なグループワークを行い、手洗いチェッカーを使用する等、職員と利用者が一緒に対策に取り組むことができた。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 有事の際に協力ができる関係作りのために近隣施設と合同防災訓練を企画・提案することができたが、コロナ禍のため実施には至らなかった。

【数値実績】

	聖隷厚生園ナルド工房		
	就労移行支援	就労継続支援 B 型	就労定着支援
利 用 者 定 員	10 名	25 名	20 名(利用者数)
利 用 者 延 べ 人 数	1,927 名	5,183 名	13 名(登録者)
一 日 平 均 利 用 者 数	7.9 名	21.3 名	-名
稼 働 率	79.0%	85.0%	-%
稼働日数(延べ)	244 日	244 日	-日
単価(一人一日当り)	14,436 円	9,095 円	30,203 円
職員数(常勤換算)	11.2 名		

浜松学園

障害者支援施設 聖隷チャレンジ工房浜松学園
就労継続支援 A 型事業所 聖隷ワース工房浜松学園
生活介護事業所 聖隷ステップサポート

2022 年度、浜松学園は静岡県立での運営から“完全民営化”となり、時代と地域ニーズに応えることのできる事業再編を行い、新たなスタートを踏み出すことができた。入所の障害者支援施設は『静岡県立浜松学園』から『聖隷チャレンジ工房浜松学園』と名称変更し、従来の就労移行支援・施設入所支援に就労継続支援 B 型・短期入所を新たに加えた多機能型施設として開始された。通所では就労継続支援 A 型『聖隷ワース工房浜松学園』、肢体不自由者のリハビリと介護を行う『聖隷ステップサポート』を新設した。施設入所をメインとした事業から地域社会と連携し、多様なニーズを抱えた利用者一人ひとりの未来をともに描く支援をして、地域共生社会の実現に向けた第一歩を踏み出すことができた。

1. 「働く」新作業の導入と、“6 カ月定着”が達成できる就労支援を行う

- (ア) 新作業（リネン・事務・菓子製造販売等）を導入し、就労継続支援 B 型事業の目標平均工賃 20,000 円／月以上を達成することができた。
- (イ) 作業評価シートによる評価を半年に 1 回利用者と一緒に行うことができた。
- (ウ) 施設作業→実習→就職→定着支援の時期をサービス担当者会議で決定する仕組みが確立され、各担当者が連携しての支援体制が確立された。
- (エ) ケース担当者を中心に、利用者、作業担当、就労支援員で共同して『就労パスポート』を作成し、相手先企業へわかりやすく利用者の能力や特性を説明することができた。
- (オ) オールしずおかベストコミュニティや障害者就業・生活支援センター等と連携し、2022 年～2023 年に 16 名(目標値 15 名)の 6 カ月以上の就労定着者を輩出することができた。

2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者が地域社会の中で生きる力を養う

- (ア) 特別支援学校等の教育支援計画の内容を引き継ぎ、ケース担当者が利用者の障がい特性に基づくアセスメントを行い、PDCA サイクルによる“チーム”で課題解決できる支援ができた。
- (イ) 利用者の日誌や生活環境 check シートを基に、ケース担当者が全利用者に対して月 2 回の定期面接を行い、自己理解を引き出す支援を行うことができた。
- (ウ) 施設生活で“起こる問題”から、利用者自身がなぜそれが起こったのかを構造的に理解できるよう、行動変容につなげる支援を実施することができた。
- (エ) 利用者による自治会運営では、利用者自身が生活の仕方やルールをグループで考え、自ら決めて生活できることを支援することができた。
- (オ) 利用者と職員がともに計画し楽しめる行事企画（ハロウィンパーティー、クリスマス礼拝・祝会、スポーツ企画など）を実施することができた。

3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる支援を行う

- (ア) 生活支援講座（金銭管理、携帯電話の使い方、性教育、食生活、整理整頓、感染対策）を行うことができた。
- (イ) VRを活用した社会生活技能訓練を導入したが、VRの内容と実生活で起こる生活上の課題とリンクさせることが難しかった。実施方法の再検討を次年度の課題とした。
- (ウ) 電子黒板や iPad を導入し、主に就労支援講座や就労グループワークなどで活用できた。
- (エ) 資格検定などの支援は実施できなかったため、次年度以降の課題とした。

4. 新規事業の経営安定化を目指す取り組みを行う

（聖隷ワース工房浜松学園）

- (ア) 「スコア表」は目標値の 130 点に届かなかった（110 点）。平均勤務時間が短いことが要因となったため、次年度の課題とした。
- (イ) 事務・厨房・聖隷厚生園の介護周辺業務などの委託業務契約で 11 人分の仕事を用意し、生産活動収支が利用者に支払う金額の総額以上とすることができた。
- (ウ) 年間 1 名以上の就職 6 カ月定着者を輩出することができなかったため、次年度の課題とした。

（聖隷ステップサポート）

- (ア) リハビリテーション→就労継続支援につなげる「ステップアップコース」と区分 5・6 の肢体不自由者の介護を中心とした「生活充実コース」の 2 コース制にし、利用者個々の状態に合わせた支援を行うことができた。

（短期入所）

- (ア) 今後浜松学園の利用を検討している中学・高校生を対象に、短期入所を定期的に利用して入園後の生活イメージができる支援を行うことができた。
- (イ) 浜松学園から就職した利用者がレスパイト目的で利用し、離職を防ぐ支援につなげることができた。次年度は多くのケースが利用できるように関係機関へ周知することを課題とした。
- (ウ) 通所の就労支援事業所に通う方に利用を勧める支援は十分に実施できなかった。関係機関との連携を深め、土日利用や送迎ルートの確立など仕組みの再構築を次年度の課題とした。

（全事業）

- (ア) 浜松学園内に障害者相談支援事業所ナルドのサテライトを新たに設置し、利用者の状況に合わせて計画相談支援と連携を取り、スピーディーにサービスが提供できるように支援できた。
- (イ) オープンキャンパスを年 4 回、浜松手をつなぐ育成会会員向けの見学会を 4 回実施し、新規利用につなげるように広く浜松学園の情報を公開する取り組みを行うことができた。

5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化

- (ア) BCP（事業継続計画）の作成を行い、非常災害時に備えることができた。
- (イ) 新型コロナウイルス感染拡大を防止するための研修会を定期的に行うことができた。

- (ウ) e-ラーニングを活用することで障がい者就労支援の知識を全職員で共有し、実際の支援に生かすことができた。
- (エ) 研究論文発表で必要な知識を習得するためのグループディスカッションを定期開催し、静岡エリアの聖隷福祉学会に 2 演題実践研究を発表することができた。

6. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 施設見学や実習、お花のボランティア等、積極的に受け入れを行うことができた。
- (イ) 障がい者のスポーツ団体等にグラウンドや体育館等の学園内施設の無料貸し出しを行うことができた。

【数値実績】

	聖隷チャレンジ工房浜松学園				
	入所	短期入所	就労移行支援	就労継続 B 型	就労定着支援
利 用 者 定 員	60 名	10 名	30 名	30 名	20 名
利 用 者 延 べ 人 数	11,801 名	395 名	7,949 名	5,764 名	139 名
一 日 平 均 利 用 者 数	33.7 名	1 名	30 名	21 名	— 名
稼 働 率	50.0%	14.0%	99.6%	71.6%	— %
稼 働 日 数 (延 べ)	365 日	280 日	268 日	268 日	— 日
単価 (一人一日当り)	2,609 円	5,980 円	8,004 円	6,862 円	20,179 円
常 勤 換 算 職 員 数	27.1 名				

	聖隷ステップサポート	聖隷ワース工房浜松学園
	生活介護	就労継続 A 型
利 用 者 定 員	20 名	15 名
利 用 者 延 べ 人 数	2,305 名	2,198 名
一 日 平 均 利 用 者 数	9 名	9 名
稼 働 率	44.9%	60.3%
稼 働 日 数 (延 べ)	256 日	243 日
単価 (一人一日当り)	11,594 円	7,059 円
常 勤 換 算 職 員 数	7.0 名	5.1 名

軽費老人ホーム もくせいの里

2022 年度もくせいの里では、新たな取り組みとして、入居者の運動機能・認知機能の維持向上のため、聖隷デイサービスセンター三方原との協働により、月 2 回「ロコトレサロンもくもく」を開催することができ、9 割を超える入居者の参加を得ることができた。

新型コロナウイルス感染症の影響については、2022 年 8 月もくせいの里として初めての陽性者が発生したが、感染予防策の実施により、他入居者への感染拡大を防ぐことができた。感染予防対策の実施と、入居者の日常生活の両立を図りながら過ごした 1 年であった。

要支援・要介護の入居者の転倒事故や病気による入院も多く発生し、退院調整やショートステイ利用など、他機関・他事業所との連携強化が課題となった。

【事業・運営報告】

1. 利用者に合わせたサービスの提供

- (ア) サテライト型デイサービス開設に向け検討を行った。改修費用等運営面の課題もあることから見送ることとした。
- (イ) 施設サービス計画書の年間スケジュールに沿って運用し、計画書に基づいた個別支援を実践できた。
- (ウ) 地域包括支援センター、聖隷ケアプランセンター、聖隷ヘルパーセンター等と連携し、要介護 2 までの方を受け入れられる体制の維持に努めた。入居者の身体状況、病状によっては、次の生活場所に移る支援を行った。
- (エ) 低所得者への支援策については財源等の課題もあるため実現できなかった。
- (オ) コロナ禍での生活により地域活動への参加は困難であった。施設内での創作活動やボランティア活動に取り組んだ。

2. 安心と安全を重視したサービスの提供

- (ア) 配食サービス利用者の安否確認時の情報を家族やケアマネジャー等と共有することができた。
- (イ) 感染症の流行に備え、衛生用品等の備蓄を進めた。また、新型コロナの陽性者が出た際は、適切な対応を取り、クラスターとなることを防げた。
- (ウ) 咀嚼・嚥下能力の低下が見られる入居者についてカンファレンスを開催し、能力に応じた食事を提供できた。

3. 職員の資質の向上

- (ア) 静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）の研修を受講し、1 名ではあるが登録員の養成ができた。
- (イ) 県内の軽費老人ホームやケアハウスの見学や情報交換を行うことができた。

4. 地域社会への貢献

- (ア) ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等への配食サービスを継続して実施した。
- (イ) 近隣幼稚園との定期的な交流はコロナの影響でできなかった。学習発表会の観覧や卒園児童に対して、入居者による手作りの品をプレゼントするなどの交流ができた。
- (ウ) 市内の地域包括支援センターや北区の居宅介護支援事業所へ待機者状況等の情報提供を行った。待機者数については現状維持にとどまった。
- (エ) 公民館サロンデーの企画・運営に参画した。地域との交流を目的に 2023 年度も引き続き入居者の参加を促す。

5. その他

- (ア) 設備点検等での指摘事項に基づき、修理や備品の入れ替えを適宜行った。
- (イ) アメニティ向上のため、食堂にティーサーバーを設置し入居者より高評価を得た。

【数値実績】

	軽費老人ホーム	配食サービス	計
利 用 者 定 員	50 名	—	
利 用 者 延 べ 数	18,250 名	16,381 名	
一 日 平 均 利 用 者 数	50 名	53 名	
稼 働 率 (%)	100%	—	
稼 働 日 数 (延 べ)	365 日	309 日	
単 価 (一 人 一 日 当 り)	6,365 円	685 円	
サービス活動収益 (千円)	116,161 千円	11,224 千円	127,385 千円
職 員 数	12.6 名	2.4 名	15.0 名

いなさ愛光園

いなさ愛光園は旧引佐町を中心に高齢者が選択できるサービス提供をできるように努め、信頼されるサービス提供機関として26年間に渡り継続して運営をしてきた。2022年10月からは遠州鉄道伊平線のバス運行が終了したことや運転免許証の返納等で、ごみ捨て、病院受診、買い物等の生活の一部が困難な世帯が増えたが、地域や家族の工夫、近隣での助け合いもあって対応してきた。2024年1月からは北区が再編されて浜名区になるが、地域包括支援センターと連携して、引佐地区・細江地区・三ヶ日地区を中心に活動を進める。

2021年度介護報酬改正では、介護保険施設におけるリスクマネジメントが強化され、施設系サービスにおいて安全対策担当者を配置することになった。保険者に報告した事故件数は、骨折を伴う4件であり、委員会及び部署で振り返りをした。

2022年12月には、新型コロナウイルス感染症陽性と判明し2回目の集団感染（クラスター）となった。感染予防委員会を中心に感染症の対策には十分な対応をしてきたが、新型コロナウイルス感染症陽性の入所者は30名超え、職員は10名を超えた。在宅部門は通常運営ができたことで、利用者への影響は最小限に留めることができた。運営助成として、静岡県からのコロナ関連の補助金や静岡県及び浜松市から介護施設物価高騰対策助成の補助金等をいただいた。

1. ICT機器を活用した新しい介護業務の実践

- (ア) 見守りシステムを活用して事故状況の可視化ができ対策を検討することができた
- (イ) インカムとANPICを活用することで早期の情報発信と共有できる体制ができた
- (ウ) 訪問介護事業所は非常勤職員を含めた全員が記録システムを運用することができた
- (エ) 個人情報の取り扱いに十分に注意するよう各部署で研修をした

2. 利用者の意向やこれまでの生活を尊重した生活支援をすることができる

- (ア) サービス担当者会議を開催して、利用者理解に努めた
- (イ) 認知症実務者研修修了者が10名を超えたことで、認知症の拠点や新規加算を検討した
- (ウ) 看取り介護情報検討シートと看取り加算(19名)を通してご家族の意向を確認した
- (エ) 特別養護老人ホームの新規入所者(29名)に対して在宅職員と情報共有をした

3. 人材育成と働きやすい職場環境に心掛けた

- (ア) ユニット型の入所サービスはクラスター経験を活かして感染拡大防止に努めた
- (イ) 集合型のWeb研修が増加した
- (ウ) 職員のメンタルヘルスや腰痛等の対象者を減少することは難しかった
- (エ) 医療的ケアに対応するために喀痰吸引等修了者を3名増やすことができた

4. 安定した施設運営をする

- (ア) 地域包括支援センターと合同で、三ヶ日町で介護講座を実施した
- (イ) 新たに管理栄養士を採用して、栄養マネジメント強化加算を取得した
- (ウ) 利用者に適したマットレスに変更して、褥瘡マネジメント加算を取得した
- (エ) 建物修繕、設備更新及び公用車両更新を計画的に実施した

(オ) 認知症対応型通所介護の定員を 10 名から 12 名に変更することで、収入増となった

5. 地域における公益的な取組み

(ア) 中山間地域介護予防支援活動	(延べ回数 1 回、延人数 15 人)
(イ) 高齢者サロン活動（伊平）の支援	(延べ回 10 回、延人数 220 人)
(ウ) 社会福祉法人利用者負担軽減事業	(実人員 7 人、延人数 1,110 人)
(エ) 県総合防災訓練（四方浄地区）の参加	(実人数 2 人、延人数 人)

【数値実績】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	介護	予防
利用者定員（名）	30 名	40 名	20 名	35 名	
利用者延べ人数（名）	10,643 名	14,782 名	6,363 名	7,248 名	1,330 名
一日平均利用者数（名）	29.2 名	40.5 名	17.4 名	23.4 名	4.3 名
稼働率（%）	97.2%	101.2%	87.2%	79.1%	
稼働日数（延べ日）	365 日	365 日	365 日	310 日	
単価（一人一日当り）	13,497 円	14,959 円	13,625 円	9,784 円	
職員数（常勤換算）	47.6 名		15.7 名	13.4 名	
	認知症対応型 共同生活介護	居宅介護支援		認知症対応型通所介護	
		介護	予防	介護	予防
利用者定員	9 名			12 名	
利用者延べ人数	3,255 名	1,709 名	658 名	3,135 名	0 名
一日平均利用者数	8.9 名			10.1 名	0 名
稼働率	99.1%			84.2%	
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	310 日	
単価（一人一日当り）	14,011 円	17,632 円	3,836 円	12,345 円	
職員数（常勤換算）	8.4 名	4.0 名		6.7 名	
	訪問介護		居宅介護 （障害）	配食サービス	在宅介護支援 センター
	介護	予防			
利用者定員					
利用者延べ人数	2,274 名	1,034 名	644 名	1,831 名	
一日平均利用者数	6.3 名	2.9 名	1.8 名	6.2 名	
稼働率					
稼働日数（延べ）	361 日		361 日	293 日	365 日
単価（一人一日当り）	4,626 円		3,237 円	684 円	
職員数（常勤換算）			4.7 名		
	合計				
利用者定員					
利用者延べ人数					
一日平均利用者数					
稼働率					
稼働日数（延べ）					
単価（一人一日当り）					
職員数（常勤換算）	100.5 名				

聖隷ケアセンターいなさ

2022 年度は 8050 世帯で象徴されるような複合課題を抱えた世帯も増加し、地域の困りごとの質の変化や新型コロナウイルス感染症の影響が続いた。地域住民の高齢化、介護や生活の担い手不足がより深刻さを増し、生活に困難さを訴える事例が多く見受けられた。地域実状に対応できるよう、拠点機能を活かし、法人内の病院、施設、サービス事業所を中心として介護分野、障がい分野等の地域の支援者などとの連携を強化し支援を行った。

1. 地域ニーズへの対応

(ア) リハビリプラザいなさ

- ・高齢化が進む旧引佐 3 町地区に向けて体力づくり、他者との交流の場としての活用をより推進する為に、一人当たりの利用回数の増加、時間延長の取組を行った。

(イ) ケアプランセンターいなさ南部

- ・担当圏域のうち、特に在宅サービス事業が手薄な三ヶ日地区への支援展開を強化し、聖隷三方原病院等医療機関から自宅退院を目指す方については訪問看護との連携でスムーズな退院支援に繋げていった。

(ウ) 地域包括支援センター細江

- ・多問題世帯や独居世帯の増加、地域の高齢化に伴い、多職種、他機関と連携して世帯への支援を行った。

2. 地域関係機関や団体との連携

(ア) リハビリプラザいなさ

- ・ケアプランセンターいなさ、ケアプランセンターいなさ南部と連携し、継続的に新規利用者の受け入れを行った。また、利用者の状況に応じた、いなさ愛光園の一般型デイサービスや認知症対応型デイサービスへの移行や併用についても連携を行った。
- ・訪問看護ステーション細江、訪問看護ステーション三ヶ日との連携による在宅医療・介護の体制づくりを行うカンファレンスを隔月で実施した。

(イ) ケアプランセンターいなさ南部

- ・法人内居宅介護支援事業所と連携し、担当圏域における介護ニーズへ迅速に応えた。また、聖隷三方原病院との交流の機会を増やし、意見交換や地域のケアマネジャーとの事例検討会議を開催し連携の強化を図った。

(ウ) 地域包括支援センター細江

- ・圏域内の多職種、他機関や法人内事業所と協働すると共に、それらのネットワークづくりを行い、地域包括ケアシステム構築の活動を行った。

3. 経営の安定化の推進

(ア) リハビリプラザいなさ

- ・小グループでの体操の導入や WINCARE の活用により、個別機能訓練加算Ⅰイ・Ⅰロ、個別機能訓練加算Ⅱの加算取得に繋がった。

(イ) ケアプランセンターいなさ南部

- ・積極的に新規担当依頼に応え、平均的に高い数字を維持することができた。

(ウ) 地域包括支援センター細江

- ・増加を続ける介護予防支援及び介護予防マネジメントを滞りなく提供した。

4. 地域における公益的な取組

聖隷ケアセンターいなさ全体

(ア) ロコモ事業による健康づくり、ノルディックウォークの自主運営サークルの支援を行った。

(イ) 地域に出向き、健康講座と相談会を実施した。

(ウ) 静岡大学、聖隷クリストファー大学の学生と協働し、地域の社会資源アプリを作成し、住民及び地域ケアマネジャーを中心とした支援機関に提供した。

【数値実績】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

予防支援／ マネジメント A・B	内再委託件数	予防ケア マネジメント単価（円）	職員数 （常勤換算）
予防支援 4,420 件	3,461 件	4,471 円	8.9 名
マネ A 2,989 件	2,093 件	4,471 円	
マネ B 1,104 件	- 件	3,246 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
1,898 件	389 件	16,070 円	4,194 円	20 件	4,400	4.0 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数 （常勤換算）
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)	
26.9 人	100 人	1,203 人	104 人	1,248 人	7,046 円	27,147 円	17.7 名

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

2022 年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、マンパワーの確保、ご利用者の利用控えなどへの対応に追われた 1 年だった。幸い施設内では感染が拡大することなく運営することができた。

感染状況に留意したうえで、センター内での研修の実施や、地域の活動に参加し近隣の小学校や民生委員と交流することができた。

施設内環境面では、事業の拡大に合わせ職員が増加しており、事務所内の備品の配置を調整しているが事業所が手狭になっている現状である。

【事業報告】

1. 浜松市北部エリアにおいて「地域に求められる」ケアセンターになる

(ア) 浜松市北部の病院・居宅支援事業所等と連携を図り、継続的に新規利用者を受け入れることができた。

(イ) 3 事業合同での事例検討会は実施できなかった。一方で、3 事業所での合同研修や、ケアセンターいなさとの合同研修会（WEB）を実施することができた。

2. 利用者の思いに沿ったケアを提供するための質の向上を目指す

(ア) 利用者の思いを形にするためのケアの質の向上を図る。

① デイサービスセンター三方原

就労希望のある利用者に対し、具体的な作業活動の体験、能力の評価を行い、就労支援サービスに繋げることができた。

小グループでの運動（セミパーソナルトレーニング）を導入したことでケアの質を保ち、かつ職員の負担を削減することができた。

② ケアプランセンター三方原

ターミナルケアマネジメント加算算定に向けて必要な制度の理解ができ、訪問看護ステーションとの連携強化を図ることができた。

③ 訪問看護ステーション三方原

スタッフの働き方を検討しながら、どのように情報交換をしていくことがよいのか職場全体で考えることができた。利用者はもちろんそれを支えるスタッフにおいても健康で、ストレスが軽減できる体制と環境を整えることができた。

3. 地域における公益的な取り組み

(ア) ロコモーショントレーニングサロン活動の内容を継続することができた。

(イ) 新型コロナウイルス感染状況に合わせ、ボランティアの受け入れをすることができた。

(ウ) 地域包括支援センター主催の「認知症高齢者ひとり歩き声かけ模擬訓練」に参加し、近隣の小学校、民生委員等と交流することができた。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	職員数(常勤換算)
191 人	930 件	11,166 件	10,632 円	12.5 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
1,949 件	409 件	16,014 円	3,935 円	104 件	4,400 円	6.4 名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		職員数 (常勤換算)
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)	
32 人	827 人	9,920 人	73 人	872 人	6,562 円	30,200 円	20.4 名

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価	職員数(常勤換算)
1.2 人	30 件	359 件	8,253 円	20.4 名

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

2022年度は、施設理念である、利用者と家族に寄り添い住み慣れた地域で「自分らしく安心して暮らせることを支え続ける」を念頭におき、特に疾病予防に向けた意識向上を目指し活動してきた。また、地域の医療機関やサービス提供事業所との顔の見える関係づくりの強化、新規紹介者を断らない姿勢の継続、積極的な広報活動に取り組んだ。湖西市においても新規利用者紹介に繋がっている。

今後は、早期からサービスが繋がる地域づくり、及び利用者の望む療養を叶えるべく意思決定支援の推進を目指す。

1. 医療機関・サービス提供事業所との関係を強化し、切れ目のない支援に取り組む

積極的な営業活動や勉強会の開催を通して、地域の医療機関・サービス提供事業所との関係強化に取り組んだ。また、聖隷三方原病院の退院支援カンファレンスへ定期的に参加し、退院支援看護師とスムーズな在宅移行ができるよう情報共有に努めた。

2. 疾病予防や介護予防の意識向上を目指す

訪問看護通信を発行し、利用者や家族への意識付けに努めた。入院入所が第1選択であった地域であり介護方法が自己流の家庭が多いため、次年度も訪問看護通信の発行や介護指導を継続していく。

3. 職員が生き生きと仕事ができる

システムを利用した訪問スケジュール管理へ変更し、スケジュール作成時間が短縮され、業務改善に繋がった。

4. 地域における公益的な取り組み

聖隷ケアセンターいなさと連携し、地域住民に向けた健康講座を開催し、フレイル予防や医療機関と繋がる必要性を説明した。

【数値実績】

利用者数		訪問件数		単価	職員数 (常勤換算)
年間	月平均	年間	月平均		
1,140名	95名	5,861件	488件	9,653円	6.14名

浜北愛光園

介護老人福祉施設 浜北愛光園 浜北愛光園デイサービスセンター
障害者相談支援事業所浜松東 訪問看護ステーション貴布祢
聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜
聖隷チャレンジ工房浜北

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の感染対策を継続しつつ今まで休止をしてきたイベントや企画を新しい形で開催し、福祉施設におけるウィズコロナを実践してきた。更に2020年度から導入してきたICT機器について、当初予定の大部分が導入され効果の検証や業務改善を行った。機器を複合的に活用することで大胆な業務改善が実施できた。これらは、職員のやりたかった事を実践する基盤を構築できたと考える。また、複合施設としての強みを生かす為に、在宅利用開始から施設での看取り期までを全体でサポートする為の仕組みや、部門を超えた事例勉強会など事業種別にとられない利用者連携が構築できた。運営については、物価及び水光熱費の高騰や待機者確保が厳しい状況であったが、全体として収支も堅調に運営ができた。

【年度事業目標・年度事業計画】

1. 制度の枠を超えた支援体制の構築

- (ア) サービス種別の垣根をこえて、毎月事例検討会を開催した。その結果相談支援から通所介護、短期入所への利用と浜北愛光園でのワンストップ支援に繋げることができた。
- (イ) コロナ禍で地域に出向くことは出来なかったものの、地区を取り巻く課題の共有ができた。それらの結果を踏まえ、2023年度に地域に出向く足がかりが構築できた。
- (ウ) 役職者で浜北愛光園の強みや弱みを共有した。例えば短期入所に関しては、地域で唯一の看取りケアを実施していることが分かり、他事業所に向けて発信した。

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 利用者・家族・ケアマネジャーに向けて、満足度の調査を実施した。その中で活動に関する要望が多々あり、サービス内容の見直しをおこなった。
- (イ) 職員が参加するリスクマネジメント委員会の上位機関として管理者が参加する安全対策管理委員会を設置し、事故全般の振り返りをおこなった。また、見守り支援システムを活用することで事故後の検証が正確にでき、根拠に基づく対策が立案できた。
- (ウ) 利用者の人生に関わる情報の収集ツールとして、在宅から施設利用まで一貫して情報共有できる独自ツールを開発した。しかし運用に至っておらず2023年度運用開始する。
- (エ) 入所部門ではICT機器を活用し、どの職場へも横断して業務に従事できる職員を配置した。結果、業務改善によってうまれた時間を利用者の個別ケアに充てることができた。
- (オ) 家族との総合コミュニケーションツールとして、ブラウザアプリ（コニカミノルタ株式会社ヒトメクコネクト）を導入し、利用者の様子を動画や画像で家族に配信するなど連絡手段として活用し、利用者家族から好評を得ることができた。

3. 新たな働き方の変革

- (ア) 新規職員に対して毎月グループワークを開催し、職員の精神的ケアを含めた知識技術の研鑽をおこなった。また、次世代の管理者候補として係長に対して課題達成型のワーキンググループを発足し、育成を行った。
- (イ) コロナ禍の影響で施設内での全体研修は最低限の法定研修のみにとどまったが、各職場での最小単位での勉強会を開催する事ができた。また、自職場での勉強会資料を他職場へ配布するなど、知識の共有に努めた。
- (ウ) 導入した機器を活用し、横断的に業務に従事できる職員を配置した。配置した職員は育児中の職員等、変則勤務が難しい者を中心に選抜し、新たな働き方として定着できた。また、横断的に職員を配置することで時間がうまく、利用者ケアに還元できた。
- (エ) 見守り支援システムに関して定量評価を実施した。しかし、単に業務の省力化に関する評価は実施できたが、ケアの質や利用者への影響に関する評価は実施できておらず、2023年度の課題とした。
- (オ) 各職場のカンファレンスで、事例を交えた情報の共有が実施できた。また、月に1回の在宅部門主催の勉強会に入所部門の職員が参加することで、職員個々のキャリアビジョン形成や在宅部門への興味をもつ職員が増加した。

4. 運営安定化の推進

- (ア) 浜北愛光園が主催となり、地域の病院や事業所に声をかけ勉強会と顔合わせ会を開催した。コロナ禍ではあったが12団体が集合したことで浜北愛光園を知ってもらう機会となった。また、2023年度から導入する待機者管理システム（コニカミノルタ株式会社ヒトメクコネクト）について、業者と共に開発に参画した。
- (イ) 報酬改定以降、基準を満たしている項目に関して全ての加算が算定できた。また、適正な人員配置に努め、人件費のコントロールができた。
- (ウ) 購入した物が適切に使用されているかを精査し、必要時類似品を提案するなど品質と費用のバランスを図った。また、コロナ禍で感染対策物品が不足する可能性が考えられたため、拠点施設として備蓄を含めた在庫管理ができた。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域包括支援センターと連携し、家族会等の行事へ参加したくとも介護の為に参加できない住民に対して、自宅で過ごす認知症高齢者等に来園してもらい、家族が行事へ参加している間ケアを提供する取り組みを実施した。
- (イ) コロナ禍での活動等は困難な状況であった為、地域の自治会に赴き地域ニーズの発掘に努めた。地域の学校や企業等へのニーズ調査は感染症防止の観点から中止した。

【数値実績】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 浜松東
	特養入所		短期入所		通所介護		
					一般型	予防	
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型			
利 用 者 定 員	50 名	100 名	20 名	20 名	40 名		
利 用 延 数	18,236 名	36,472 名	6,105 名	4,974 名	6,964 名	229 名	
一日平均利用者数	50.0 名	99.9 名	16.7 名	16.5 名	22.5 名	0.7 名	
稼 動 率 （ % ）	99.9%	99.9%	83.6%	82.3%	58.2%		
稼動延日数	365 日	365 日	365 日	365 日	309 日		
平 均 介 護 度	3.9	3.8	3.2	2.8	2.2		
単価（一人一日）	12,712 円	14,538 円	11,797 円	14,193 円	11,051 円		
職員数(常勤換算)	37.7 名	61.2 名	9.5 名	12.0 名	16.1 名		3.0 名

■訪問看護事業(訪問看護ステーション貴布祢)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)
181名	891件	10,686件	10,177円	14.2名

■居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
2,033件	369件	16,286円	3,832円	3件	4,400円	5.5名

■地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価(円)	職員数 (常勤換算)
3,717件	2,257件	4,471円	6.2名

■聖隷チャレンジ工房浜北

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	職員数 (常勤換算)
就労移行	10名	2,164名	71.4%	303日	9,062円	10.9名
就労継続	20名	6,705名	108.0%	310日	10,277円	
就労定着		116名			29,174円	
生活介護	10名	2,492名	102.5%	243日	7,802円	3.1名

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園
森町愛光園天宮サテライト
森町愛光園デイサービスセンター
森町愛光園ホームヘルパーステーション
聖隷ケアプランセンター森町
聖隷放課後クラブはなえみ森町

2022 年度、森町愛光園の運営は施設内で新型コロナウイルス感染症のクラスターが複数回発生するなど、2021 年度にも増して新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた 1 年となった。そのような逆境の中でもこれまでの感染症対策の知見を活かすことで、それぞれのサービスで新たな挑戦に取り組んだ。施設サービスにおいては入居者が楽しんで生活を送れるよう、行事やレクリエーションの在り方を工夫し、またご家族との時間を過ごせるよう安全な面会や外出の実施に取り組んだ。在宅サービスにおいては、「暮らし」と「リスク」のバランスをとることで利用者の安心を実現し、信頼を得るために居宅介護支援、訪問、通所サービスが協働しながら利用者支援を行った。障害サービスにおいては、ご家族や学校などとの連携を深めることで個々の状態に応じた支援の提供に努めた。また、職員のライフワークバランスの実現と各事業の生産性向上を目的とし今後各事業とも ICT 化を進めていく予定であり、そのための運用方法の検討や導入環境の整備など、働き方を変えていくための体制を整える 1 年でもあった。

1. 働きがいのある職場環境と人材育成の推進

- (ア) 専門職ラダーと e-ラーニングを目標参画と連動させ、人材育成を推進した。
- (イ) タブレット型記録システム（HIMVIT）と見守り支援システム（HitomeQ ケアサポート）の先行導入施設への見学を通じて 2023 年度の導入に向けた準備を進めた。
- (ウ) コロナ禍においても行える行事や企画を職員一人ひとりが方法を工夫しながら行った。
- (エ) 面談などを通じてシニア世代職員が継続して働けるような配置を検討し実施した。

2. 質の高いサービスの提供

- (ア) 現場職員が個々の利用者のニーズに応じたプランニングができるよう教育を行った。
- (イ) 感染状況に応じて、対面面会のほか家族との外出についても方法を検討し実施した。
- (ウ) はなえみ森町の利用者家族や学校と継続的に情報交換を行い、発達段階に応じた支援を提供した。
- (エ) 委員会等の場で職員のサービスの質やケアの質を振り返り、職員育成を行った。

3. 健全経営の推進

- (ア) 地域密着型特養へ市域を超えての入所について行政へ働きかけた結果、可能となった。
- (イ) 新型コロナウイルス感染症の影響により定期的な連携の機会は設けられなかったが、ケース毎担当者間で連携を図ることができた。

- (ウ) 聖隷袋井市民病院のカンファレンスに定期的に参加し、退院時の新規獲得につながった。
- (エ) 設備の更新・修繕に取り組んだが、老朽化に伴う修繕箇所が多く課題として残った。

4. 衛生管理・防火管理体制の向上

- (ア) 本体施設、天宮サテライトとも新型コロナウイルスのクラスターや9月の豪雨災害の経験を通じて業務継続計画を見直し、強化を図ることができた。
- (イ) 感染症、災害の経験を通じて行政や地域包括支援センターとの連携体制を築けた。
- (ウ) 感染症、災害の発生に備えた備品や物品の確保を行った。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の小学校に出向き、福祉講話の講師として職員を派遣した。
- (イ) 近隣自治会の防災訓練に看護師等を派遣することを検討したが実現には至らなかった。
- (ウ) 静岡県災害派遣福祉チームからの要請がなかったため DWAT 職員の派遣は実施せず。

【数値実績】

【数値比較】

	特養		天宮サテライト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利用者定員	60名	20名	29名	12名	42名		
利用者延べ数	21,075名	7,025名	10,372名	2,996名	7,850名	888名	
一日平均利用者数	57.7名	19.3名	28.4名	8.2名	25.5名	2.9名	
稼働延日数	365日		365日	365日	308日		
稼働率	96.2%	96.2%	98.0%	68.4%	67.6%		
単価(1人1日当り)	11,536円	14,163円	14,023円	12,268円	10,107円		
職員数(常勤換算)	38.8名	11.9名	5.8名	21.4名	13.7名		
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護			介護
		介護	予防	介護	予防	障害	合計
利用者定員	—	—	—	—	—	—	—
利用者延べ数	—	2,112名	376名	4,554名	819名	420名	—
一日平均利用者数	—	—	—	12.7名	2.3名	1.2名	—
稼働延日数	—	—	—	359日			—
単価(1人1日当り)	—	14,839円		4,275円		4,200円	—
職員数(常勤換算)	0.1名	5.0名		5.2名			102.0名

	放課後等 デイサービス
利 用 者 定 員	20 名
利用者延べ数	4,202 名
一日平均利用者数	17.3 名
稼 動 延 日 数	243 日
稼 働 率	88.1%
単価 (1人1日当り)	8,103 円
職員数 (常勤換算)	7.4 名

聖隷びゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

磐田市発達支援センターはあと

磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター

磐田市南部障害者相談支援センター

2022年度は、新型コロナウイルス感染症等の影響はあるものの、“保護者同士・地域とのつながり”の再構築に向け歩みだした。「事業所間の連携を強化する取り組み」から自事業所に求められている役割の再認識と新しく取り組むべき視点に気付くことができた。ICTを活用した利用者支援においては一定の効果が認められ今後もより一層取り組んでいくとともに、2023年度は職員の業務効率化につなげていきたいと考える。また、「磐田市発達支援センターはあと」では、早期からこどもの育ちに寄り添い、複合的課題に対応できるよう体制の見直しをなされ、プロポーザルの結果、継続受託が決定した。さらに、地域の実情を踏まえ、設置を希望していた「磐田市地域活動支援センター」の事業はプロポーザルの結果、新規受託することとなり、利用者・関係機関の声と向き合いながら運営を開始した。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する

(ア) 聖隷こども発達支援センターかるみあ

- ① 職員が、療育の基本姿勢「主体性を育むことの大切さ」は理解できたものの、子どもの発達段階に応じて主体性を引き出すことには課題が残った
- ② 保護者同士のつながりのきっかけとなるよう、小グループの座談会を実施した
- ③ 児童発達支援事業と保育所等訪問支援事業の担当が定期的に情報共有し支援に活かすことができ、保護者から高評価をいただいた

(イ) 聖隷放課後クラブはなえみ磐田

- ① ICT を活用し、障害特性に配慮した学びの場を整えることで、対人スキルや生活スキル習得場を充実することができた
- ② 放課後や長期休みの過ごし方を児童同士で共有することを通して、自他の違いに気づき、「時間の使い方」「自分にとっての心地よい」を考える機会となった
- ③ 保護者を介して、学校の教育支援計画にて児童の課題を把握し、支援につなげた
- ④ 先輩保護者の講話を通して、「今」の悩みを分かち合うとともに保護者自身が「数年後の姿」のイメージが持て、子どもとの時間の過ごし方を見直す機会となった

(ウ) 聖隷チャレンジ工房磐田

- ① 年間計画に基づき、年間7名の就職者輩出し、“6か月定着率”は100%であった
- ② 作業種目の拡充・パン卸し業務開始にて、目標平均工賃25,000円/月を達成した
- ③ “就労意欲向上”を目的としたグループワークのパッケージを作成し、実施した
- ④ 基本的労働習慣を身に付けられるよう個別対応を行い、安定利用につなげた
- ⑤ “地域の困りごと対応”(社会福祉協議会)を生産活動として2件実施した

(エ) 磐田市発達支援センターはあと

- ① 子どもが発信したことを保護者が受けとめられるよう、助言・モデリングを行った
- ② “人との関わる力”向上のため、気持ちの言語化や社会生活技能訓練を行った
- ③ 身近な場所で発達相談を受けられる取り組みを市と意見交換し、母子保健事業や巡回相談の在り方等次年度の取り組みにつなげた

(オ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ

- ① “複合課題のある世帯”を見つけるため、連携先を開拓するとともに、同行訪問による情報連携の仕組みを作った
- ② 顔の見えるネットワークから、障がい者支援における新たな課題を発見できた
- ③ 認知症に関する普及啓発活動を通して、認知症になっても自宅で生活が続けられるような地域づくりが必要という意識が地域に芽生えてきた
- ④ サービス利用が不安定な方を対象に、事業所と情報共有し継続利用に努めた

(カ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび

- ① 初来館時の対応マニュアルを作成するとともに、0歳児の初来館は保健師同席のため顔の見える関係を築きやすく、継続来所につながるケースが多かった
- ② 来館者が安心して人と関わりつながりが持てるよう、職員が自然な形で声掛けに注力し、子育て親子の孤立化減少に努めた
- ③ 「であいのひろば」を通して、子育て支援団体と顔の見える関係を再構築できた
- ④ 広報・周知活動を見直し、ファミリーサポート養成研修受講生が増加した

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

(ア) 地域(磐田市南部地区)の防災体制の実情を把握し、磐田南幼稚園と合同で避難確保訓練を実施した

(イ) e-ラーニングを活用した職員の教育体制はできたが、実践へ活かすまでは至らなかった

(ウ) マニュアルの見直しとICTを活用したカンファレンス運営等業務効率化に取り組んだ

(エ) 事業所の情報発信ツールとして事業別ホームページを運用開始するとともに、安定稼働につながるよう新規受け入れ体制を見直した

3. 地域における公益的な取組

(ア) 研修講師派遣 23 件・施設見学 13 件・実習 10 件・ボランティアの受け入れ 551 件を実施した

(イ) イベント参加 (17 件) や事業体ホームページを見直し、施設紹介を行った

(ウ) 「保護者の急な通院」「兄弟兄の行事関係」による“乳幼児一時預かり保育”の希望に応えるため、当日予約と時間延長にできるだけ対応できるよう体制を整えた

【数値実績】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利 用 者 定 員	30 名	—	—	—	14 名	15 名	6 名
利用者延べ人数	7,600 名	518 名	314	630	3,496 名	4,229 名	691 名
一 日 平 均 利 用 者 数	31.1 名	—	—	—	11.9 名	15.2 名	2.5 名
稼 働 率	103.8%	—	—	—	84.9%	101.4%	45.7%
稼働日数(延べ)	244 日	244 日	365 日	365 日	294 日	278 日	252 日
単 価 (一人一日当り)	15,479 円	18,598 円	16,455 円	18,535 円	10,277 円	8,369 円	8,201 円
常勤換算職員数	19.4 名	1.4 名	2.5 名		5.5 名	5.3 名	1.0 名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談	地 域 活 動 支援
利 用 者 定 員	20 名以下	20 名	—	—	—	—	—
利用者延べ人数	153 名	5,459 名	—	—	—	—	—
一 日 平 均 利 用 者 数	—	22.3 名	—	—	—	—	—
稼 働 率	—	111.4%	—	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	294 日	245 日	241 日	308 日	365 日	365 日	128 日
単 価 (一人一日当り)	24,071 円	11,555 円	—	—	—	—	—
常勤換算職員数	0.5 名	11.2 名	9.3 名	6.4 名	4.0 名	2.0 名	2.9 名

浅田在宅地区複合事業

訪問看護ステーション浅田

聖隷ケアプランセンター浅田

2022 年度は新型コロナウイルス感染症の規制が少しずつ緩和され、公益的な取り組みが再開できた。また退院前カンファレンスや地域ケア会議にも積極的に参加し、ステーションとケアプランセンターが連携して困難事例やターミナルの利用者を支援してきた。特定行為や緩和認定看護師など専門分野のスタッフによる勉強会の開催やカンファレンスでケアの振り返りを行うことでスタッフの実践的スキルの向上に繋がった。

【事業・運営計画】

1. 認定取得者の力を最大限に活用し、エンドオブライフケア・呼吸不全や心不全ケアの質向上を目指す。
 - (ア) ケアプランセンターは初回契約時に人生会議手帳を全員に配布し、早期から利用者の意思確認を行った。また必要時利用者や家族とともに記載を行った。
 - (イ) ステーションは緩和認定看護師を中心に、ACP の勉強会を行った。またデスカンファレンスを行うことでケアの振り返りとスタッフのメンタルケアができた。
ケアプランセンターは外部の ACP 研修会に参加した。
 - (ウ) 心臓リハビリ指導士にて心不全ケアの勉強会を行った。また同行訪問にてスタッフに実践的指導を行った。
 - (エ) 訪問診療医（主治医）と連携し、タイムリーな関りができたことで 2021 年度同様、在宅での看取りの件数が多かった。
2. 東区南部・南区の居宅に働きかけ、介護保険利用者を増やす。
 - (ア) 挨拶まわりを行うことで事業所のアピールができた。
 - (イ) 事業所紹介のパンフレットを作成し活用した。
3. 他職種と連携し、様々な困りごとを抱える利用者と家族を看護の立場で支援する。
 - (ア) 包括主催の地域ケア会議に参加し、地域と顔の見える関係作りをはじめた。
 - (イ) 地域のサロンへの出前講座を実施した。
 - (ウ) 困難事例の他職種会議に積極的に参加した。
4. 業務の効率化を図り、捻出した時間をサービスと職員の急速に反映させる。
 - (ア) 直行・直帰の活用を継続。
 - (イ) ゼストでのスケジュール管理を行うことで超過勤務削減できた。
 - (ウ) 事務の仕事を見直し、役割分担することで時間の捻出ができた。

5. 自由に言い合える職場作り、自己効力感を高められるようなフィードバックを行う。
 (ア) 定期的に席替えを行うことで、スタッフ感のコミュニケーションの偏りをなくした。
 (イ) スタッフ間で良い関わりのフィードバックを積極的に行った。
6. より実践的な防災、防犯、感染症発生時の訓練を繰り返し行う。
 (ア) 地域の防災訓練に参加した。
 (イ) 職場内で防災・防犯訓練を実施しマニュアルやBCPの見直しや変更を行った。
 (ウ) コロナ陽性者への訪問時の対応や防護服の着脱方法などを定期的に確認にすることで有事の際困らないようにすることができた。

【数値実績】

訪問看護事業（訪問看護ステーション浅田）

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価（円）		職員数 （常勤換算）
170名	953件	11,440件	医療 11,906円 介護 9,470円		19.0名 (12.5)

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浅田）

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
1,533件	341件	17,836円	4,401円	20件	4,400円	4.0名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

2022年度は2021年度同様、新型コロナウイルス感染症への対応が中心となった1年であった。しかし、2021年度に経験したクラスター対応からの学びをもとに2022年度には3度のクラスターも着実に対応することができ、コロナ禍でも取り組むことができる利用者一人ひとりのための個別ケアを探究して、現場職員が主体となって検討・実践することができた。また、2021年度に取り組みなかった各種加算の取得やICTの導入についても、着実に取り組むことができ、ここ数年の足踏み状態から少しずつではあるが一步前に進んでいった感があった。厳しい環境の中、多くの経験を重ねながら職員一人ひとりが成長していることを感じることもできた1年だった。

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する

(ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

- ①認知症プロジェクトを発足、各フロア1名の入居者を対象とし、センター方式のアセスメント用紙を活用してアセスメントを実施、フロア全職員でアセスメントすることにより、多くの情報が得られ、その方が求めている事、今必要なケア等を見出すことができた。
- ②入居者・家族の望む最期を迎えられるように、まずは現在使用している看取りのしおりや最期の時の過ごし方の書類について、内容の見直しを行った。
- ③嚥下プロジェクト委員会を毎月開催、嚥下ハイリスクの利用者を中心に21名の方に8月からごつくんチェッカーを使用した嚥下評価を行い、介助方法の提案や食事内容の検討に役立てることができた。

(イ) ケアハウス

- ①感染対策強化や高齢化に伴い、外出機会が限られ閉じこもり傾向がより強まったことから、クリーンデイに加え新たに折り紙の会を発足し、閉じこもり・フレイル予防に努めた。
- ②退去要件のパスは未整備であるが、入居者個々の状況に応じ、退去に向けた検討を行った。
- ③体力測定結果の経年資料を作成し、入居者と情報共有をした。
- ④入居者とリスクを共有し、ケアマネジャーやサービス事業所、ご家族の協力を頂きながら予防に努めた。

(ウ) 通所介護

①高洲デイサービスセンター

地域の特性を把握し、また10月から科学的介護推進体制加算を算定することで、介護や看護（機能訓練指導員）が多角的にアセスメントを行い、利用者が在宅生活を安心して続けられるよう入浴支援や機能訓練の実施、認知症予防のための活動などを行うことができた。

②猫実デイサービスセンター

利用者の栄養改善に向けた朝食、服薬管理サービスを継続的に実施、体調の安定と活動性の維持が図れた。10月からは管理栄養士を配置、低栄養状態の早期発見や改善のために栄養アセスメント加算を算定、健康状態の維持、改善の支援ができた。また、個別機能訓練Ⅱ加算を算定することで、年間平均介護度は1.7を維持できた。

2. 職員が専門職としてやりがいを持って仕事に取り組むことができる

- (ア) 正職員はラダーを実施し、自己の能力を客観的に把握するとともに、目標参画等を通じ、個々の職員の意識と取り組みを可視化することで、自主性の向上に取り組んだ。
- (イ) 認知症プロジェクトの効果もあり、入居者個々のニーズに合った個別の関りができ始めていることで、職員の自信創出に繋がっている。
- (ウ) 無資格・未経験の職員に対して人材育成プログラムに沿った育成ができたが、評価検証するまでには至らなかった。
- (エ) 離職防止に向けた取り組みの一環として、公園等の清掃活動やイベント活動に1～3年目の職員が交代で参加、地域住民との交流が図れた。
- (オ) HitomeQ コネクトを導入、約70名の登録があった。導入後は、郵送や電話でのやり取りから一斉送信へ変更となり、職員の負担軽減に寄与している。
- (カ) フロア毎に2名のケアサポーターの配置ができ、介護職員の入居者に関わる時間が増加した。又、感染症が発生した際は、消毒、ごみ捨て、物品補充等の役割を担った。

3. 経営の安定化を図る

(ア) 特別養護老人ホーム

- ①多職種が連携し日々の入居者の健康状態を把握することで、早期の受診ができ入院までに至らなかった事例があった。尿路感染での入院が7件あったため、外部講師による陰部洗浄の勉強会を開催した。
- ②ショートステイから入居への切り替えができたケースは11件あった。空床期間の短縮を目標としたが、1月に10名の退居があり、新入居まで期間を要してしまったことによって、今年度の平均空床期間は9.9日であった。
- ③10月より、科学的介護推進体制加算の取得ができた。

(イ) 短期入所生活介護

- ①個々の利用ニーズを把握し、ニーズに沿ったサービスを提供したことで、新規利用の6割強は定着化に繋がっている。
- ②緊急受け入れ10件、措置利用日数175日であった。

(ウ) ケアハウス

- ①公募停止により待機者はないが、入居希望者からの問い合わせに対し、必要な情報提供に努めた。
- ②ケアハウスの在り方・活用について、浦安市と聖隷福祉事業団の協議を継続している。

(エ) 通所介護

①高洲デイサービスセンター

中町・新町地区の特性である日中独居の方や各地方から呼び寄せで来られた方に対して、楽しく且つ安心して過ごしていただくよう支援を行った。また、スポット利用や振替利用

を柔軟に受け入れ、居宅支援事業所との連携も月 1 回の事業所訪問時に細かい情報提供を行うことで新規利用者獲得に繋げた。

②猫実デイサービスセンター

居宅支援事業者への利用案内、ホームページによる空き曜日の情報提供などによって、年間の平均一日利用人数は 21.3 名であった。朝食、服薬管理サービスの提供による効果を定期的に各居宅支援事業所へ周知したことで、年間の平均朝食サービス利用人数は 4 名以上を維持できた。また栄養アセスメント加算を 10 月から算定することができた。

4. 防災体制の確立

- (ア) 各施設特有の状況に対応する BCP を作成、厨房機能停止時の食事提供訓練を実施した。
- (イ) 「訓練の為の訓練」からの脱却は不十分であるが、防災委員会を通じ意識改革に取り組んだ。

5. 地域における公益的な取組

- ・浦安市新町圏域地域支え合い会議を通して、高洲地区の支部社協南 3 支部が主催するカメ公園プロジェクトに若手職員が参画して、介護予防に資する住民主体の「通いの場」の定期的開催を支援した。
- ・緊急一時保護の受け入れ 10 件（措置利用日数 175 日間）
- ・社会福祉士実習受け入れ 3 名（延べ日数 57 日）
看護師実習受け入れ 34 名（延べ日数 15 日）
介護福祉士受け入れ 1 名（延べ日数 19 日）

【数値実績】

	特 養	短 期	ケアハウス	高洲デイ	猫実デイ	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	250 名
利用者延数	36,046 名	14,236 名	12,050 名	5,416 名	6,535 名	74,283 名
一日平均利用者数	98.8 名	39.0 名	33.0 名	17.7 名	21.4 名	—
稼働率（％）	99％	78％	66.0％	71％	85％	—
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	365 日	306 日	306 日	—
単価（一人一日当り）	—	—	—	—	—	—
職員数（常勤換算）	67.3 名	30.4 名	6.2 名	7.1 名	7.4 名	118.4 名

介護老人福祉施設 浦安愛光園

聖隷はぐくみ浦安

2022 年度は稼働率 97.3%で予算達成、安定した運営ができた。コロナ禍での運営方法の見直しを行った 1 年であり、SNS を開設し施設の情報発信や総合相談機能の強化を図った。その結果、地域の皆様の利便性の向上や、迅速かつニーズに合ったサービス利用につながり、利用者確保や機会損失の低減となった。介護記録システム HIMVIT についてもタイムリーな多職種との情報共有が入院者数や長期入院の減少になった。

サービスの質については加算取得を意識し、排泄・褥瘡・口腔といった日常的なケアの部分から取組み、個別計画の作成・評価を行った。また、人事異動により中堅層を厚くした職員からの OJT の実施、認知症研修を継続し職員育成の課題に取り組んだ。無資格・未経験のプログラムは継続的な見直しを行い、新入職員や中途採用者に実践し定着することができた。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 安全・安心で質の高いサービスを提供する
 - (ア) 感染予防対策が日常的に当たり前になり、その上で行事や余暇活動を実施することができた。オンライン面会の定着、各フロアでの対面面会が年間を通して継続できた。
 - (イ) HIMVIT でのタイムリーな状態変化の共有により早期発見・早期対応ができ、長期入院が減少した。
 - (ウ) 認知症介護実践者研修を職員 1 名が受講。受講者を中心にユニット内の事例検討を実施し施設内で報告を行った。
 - (エ) 既存のエンディングノートを浦安市作成の「わたしの手帖」に内容を合わせながら職員へ ACP の考え方を浸透させた。
2. 多様な人材の確保・育成・定着に向けた取組みの強化
 - (ア) 障がい者雇用については雇用率を維持できたが、シニア世代は採用できても数ヶ月から 1 年前後で退職してしまう傾向にある。
 - (イ) 無資格・未経験の採用者 2 名に対し育成プログラムを実施し定着している。育成プログラムは期間を 3 ヶ月から 3 年に見直し、3 年間で取り組む内容を可視化した。
 - (ウ) 無資格・未経験者のいるユニットに中堅職員を配置し意図的に OJT を実施。介護福祉

士国家試験はEPA 候補生 3 名、無資格 3 名が合格した。

(エ) 各職場で協力体制を整え、計画的に 3 連休を取得することができた。

(オ) 離職防止チームの取り組みを継続し、入職 3 年以内の職員の退職はなかった。一方で
ワクワクする職場づくりは 2023 年度継続課題となった。

3. 地域共生社会の実現

(ア) 地域拠点支援事業の機能を担う事業所として浦安市基幹相談センターや、障がい
福祉課、障がい事業課と共同してケース会議の開催や相談を実践した。

(イ) 年間を通じて予定されていた連携会議、事例検討会、県内の研修会に参加し、個々の
事例を深めたり、地域の課題について検討することで相談支援専門員としての質の向
上に取り組んだ。

(ウ) 共生型サービスの利用調整を行ってきたが、状態の変化により利用までには至らな
かった。

4. 経営の安定と業務改善の継続

(ア) 総合相談機能を意識して高洲地区内の浦安ベテルホーム・聖隷ケアプランセンター浦安
と情報共有を密に行い、入居調整及び入院空床のショートステイ活用を行った結果、稼
働率 97.3%を達成した。

(イ) 見守りシステムについては 2023 年度導入。

(ウ) タブレットやスマホを活用することでデータの共有が可能となり、多職種との連携強化、
申し送り時間の短縮、ペーパーレス化の促進につながった。

(エ) 年間を通して、ユニットリーダー自身が委員長、副委員長を中心として運営を進めたこ
とにより、課題解決に向けた取り組みや考え方について、当事者意識が高まり、受身の
姿勢から主体性を持った活動が行えるようになった。

5. 地域における公益的な取組みと地域貢献

(ア) 生活困窮者・生活保護受給者職場体験実習受け入れを検討したが、コロナ禍では実績
なし。

(イ) 高洲中学校特別支援学級との交流を再開。(年 1 回)

(ウ) 高洲地区全体の防災 BCP マニュアルを作成し、訓練実施ができた。

(エ) 高洲地区の地域貢献プロジェクトに参加し公園清掃等を年 7 回行った。

【数値実績】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74 名	－	－
利用者延べ人数	26,298 名	383 名	－
一日平均利用者数	72.0 名	－	－
稼働率	97.3%	－	－
稼働日数（延べ）	365 日	242 日	－
単価（一人一日当たり）	15,523 円	14,882 円	－
職員数（常勤換算）	48.6 名	1.0 名	49.6 名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2022年度は、新型コロナウイルス感染症でクラスターを3回発生する等、経営面において非常に影響を受けることとなったが、2006年の開設以来2回目の税引前当期活動増減差額で黒字を達成することができた。入所においては、コロナ禍における高齢者のADL低下や認知症症状の進行といった課題に全職種が連携して対応、入所ニーズに応えることで、年間稼働率は91.3%で対予算+1.8%（対前年+0.4%）で稼働予算を達成した。また在宅生活支援機能を強化していく為に、6月より訪問リハビリテーションを開始したことで、ユニット型居室は1月から、従来型居室は3月から在宅超強化型を算定することができた。通所リハビリテーションでは、コロナ禍における自粛利用者が増えたこと等により、1日平均利用人数が31.3名で、対予算で-9.4名（対前年-3.7名）と稼働予算は大幅に未達成となった。年度末には、旧クリニック跡地を通所リハビリテーションの一部として活用する為の改修工事を実施、リハビリニーズに対応出来る環境整備を実施した。また2月にはHIMVITを導入、介護現場のICT化推進の側面だけでなく、介護人材確保に必要な職場環境づくりにも繋がった。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. エビデンスに基づく、利用者本位のケアの追及
 - (ア) 入所申込み時やケアプラン作成時に、様々な復帰プログラムや復帰スケジュールを提示、可視化することで、利用者・家族に在宅復帰までのイメージを持ってもらう取組みを継続した。
 - (イ) 認知症ケア向上のために、まずはDCM研修に2名が受講、修了することができた。
 - (ウ) 要望があった看取りを9名実施、1年を通じてターミナルケアの提供に努めた。
 - (エ) 障がいの特性を更に理解するために、実際の生活の場を見学することや、発足した障がいプロジェクトの活動を通じて、職員の個別ケア対応力を高めた。
 - (オ) 利用者・職員双方の安全とケア環境向上の為、福祉機器更新を計画するも一部の導入に終わった。
2. 専門職としての自己実現の場と働きがい、働きやすさのある職場風土の醸成
 - (ア) チームケアは5つのプロジェクト（各3年計画）を立ち上げ、初年度としては、職員の知識・技術の習得に注力した。
 - (イ) ケアマネプロジェクトを発足、新たに有資格者や資格取得希望者を選出し、施設ケアマネジャーの役割理解の促進と実務経験を通じて、今後中核となる職員育成を行った。
 - (ウ) お互いの良いところ見つけ伝え合う「いいところプロジェクト」の活動は継続、活動内容はSNS等を通じて発信した。
 - (エ) 業務負荷の軽減、特に夜勤者の負担軽減を図ることを目的に、新たな勤務体制の導入検証を実施、記録入力業務の確保、介護事故軽減等の成果を得た。

(カ) 2月にHIMVITを導入、ペーパーレス化や記録伝送による効果検証を開始した。

3. 地域の介護ニーズ・地域共生社会の実現を通じた経営安定化

(ア) 年間5名以上の医療型障がい短期入所対象利用者の定期的受入れを目標としたが、コロナ禍における利用自粛の影響によって、2名の受入れとなった。

(イ) 6月より訪問リハビリテーションを開始、施設が持つ通所リハビリテーションや短期入所サービスとの密な連携による在宅療養支援施設としての役割強化に繋がった。

(ウ) ユニット型居室は1月から、従来型居室は3月から在宅超強化型を算定することができた。

(エ) 3月からクリニック跡地利用による通所リハビリテーションの拡張・改修を実施、今後、高齢化が進む市内外の利用ニーズに応じていく環境整備を行った。

(オ) リハビリ成果の可視化を目的にバランスや筋力の数値化が可能なICT機器を導入実施するも、利用者満足度向上に繋がらず、新たなICT機器の導入検討を開始した。

4. 防災・防犯体制の強化

(ア) 浦安地区BCPは防災委員会で作成、今後は訓練を通じて精度を高めていく。

(イ) 介護保険法改正に基づく災害時等の地域連携、協力体制を構築する為に、まずは地域との関係性づくりを開始した。

(ウ) 新型コロナクラスター発生等はあったが、感染対策委員会を主に日々の予防と発生時のレベル別シミュレーションを徹底することで更なる拡大は阻止することができた。

5. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進

(ア) 高洲地区の支部社協南3支部主催の浦安市公園里親制度に若手職員を中心に参加、清掃活動や交流を行った。

(イ) ボランティアの方が中庭の移動式プランターを作成、コロナ禍における利用者の楽しみづくりの一環となった。

(ウ) 施設運営等のプロモーションとして、SNS(インスタグラム)を通じて様々な情報を発信(90件)、フォロワー数は1,000名超となった。

6. 社会福祉施設の役割遂行

(ア) 生活保護受給者11名の受け入れ、無料又は低額老人保健施設申請者は22名となり、事業の基準(10%)を超えて年間約12%を達成した。

【数値指標】

	入所			通所リハビリ		合計
	従来	ユニット	短期入所	一般 (短時間含)	予防	
利 用 定 員	56名	44名	空床利用	45名		145名
利 用 者 延 べ 数	18,971名	12,392名	1,964名	8,787名	904名	43,018名
一日平均利用者数	52.0名	33.9名	5.4名	28.4名	2.9名	-
一日平均利用者総数	91.3名			31.3名		122.6名
稼 動 率	91.3%			69.6%		-
稼動日数(延べ)	365日			309日		-
単価(1人1日当り)	15,637円			12,035円		-
職員数(常勤換算)	-			-		81.9名

聖隷訪問看護ステーション浦安

2022年度は、サテライト稲毛海岸が独立運営できるか評価の年度であった。サテライトにパート職員3名を採用し、浦安の職員が兼務しない訪問体制を整えられた。新入職員の育成をしながら、予算達成を目指して新規依頼を受けてきたが、常勤換算に見合ったご利用者数の増加は達成できず、2ヶ所の職場の組織運営は様々な課題が多かった。サテライトから単独事業所への移行は見通しが立たず、運営と経営の両面で今後の継続は難しく、年度末にはサテライト稲毛海岸を閉鎖することとなった。一方、浦安については2022年度から医療保険、介護保険ともに加算取得の申請をし、訪問単価を上げたが、休日加算が取れなくなったこともあり、予想された単価にはならなかった。2023年度は職員を浦安へ集約することにより事業規模を拡大し、機能強化型1を目指していきたい。

1. 聖隷訪問看護ステーション浦安の特徴を生かし、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護ステーションになる
 - (ア) ターミナルケア算定は、20件/年の在宅看取りを行っており、加算取得要件を満たしている。精神障がいのある訪問は、運営上の負担も大きいので調整しながら受けている。ACPに沿った看護ケアをチーム全体で進めている。
 - (イ) 東京海上日動ベターライフサービス㈱の居宅介護支援事業所・訪問介護事業所と情報共有しながら、重度のご利用者にも訪問し、良好な連携が取れている。
 - (ウ) サテライト稲毛海岸は閉鎖となったが、浦安では法人の枠を超えた連携が定着している市内の訪問看護ステーション協議会で同職種のつながりもできてきている。
2. 聖隷訪問看護ステーション浦安サテライト稲毛海岸の経営を安定させ、開設から3年で独立運営できる基盤づくりをしていく。
 - (ア) サテライトについては、予算通りの利用者数と訪問件数達成できたが、常勤換算には見合っていなかった。
 - (イ) 浦安とサテライトの訪問を兼務でこなす運営から、独立した人員配置で訪問する運営に変換できたが、独立までの組織上の課題解決が困難だった。
 - (ウ) サテライト職員としてパート職員を採用して、育成をしてきた。
3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る
 - (ア) スケジュール管理は、検討結果オリジナルのエクセルによる管理を選択している。記録の簡素化について再三検討し、徐々に改善できている。
 - (イ) 各職員の看護の質の向上への意識が高く、オンラインなど外部研修に参加している。
 - (ウ) スケジュール作成方法の改善、リモート会議は継続中。
4. 地域における公益的取組
 - (ア) 建物内併設のケアローソンにて、月に一度の健康相談を継続した。
 - (イ) 順天堂大学、了徳寺大学の地域看護実習を受けている。

【数値実績】

	介護（有償含む）		医療		合計		
	浦安	サテライト	浦安	サテライト	浦安	サテ	計
利 用 者	505 名	231 名	488 名	100 名	993 名	331 名	1,324 名
訪 問 件 数	2,543 件	1,305 件	3,427 件	941 件	5,970 件	2,246 件	8,216 件
単価（1 件当り）	9,349 円		10,369 円		9,896 円		
職員数（常勤換算）					平均 12.2 名		

聖隷ケアプランセンター浦安

2022 年度は地域包括ケアシステムの推進の取り組みとして、コロナ禍で面会などの制限がある中、病院を退院するケースを中心にリモートでの連携を強化したケアマネジメントを実践してきた。また地域包括支援センターと、困難な事例に対して連携・協働を行い、地域包括ケアシステムの一翼を担うことができた。2023 年度も地域との連携を強化して、地域包括ケアシステムの推進に取り組む。

【事業・運営計画】

1. 地域包括ケアシステムの遂行

(ア) 浦安せいの里との連携を強化し、利用者が住み慣れた地域で生活できるように退所ケースなどをサポートすることができた。

(イ) 市内の病院やクリニック、訪問看護事業所など医療機関と連携を図り看取り期の利用者を支援することで、2023 年度特定医療介護連携加算を取得することができた。

2. ケアマネジメントの質の向上

(ア) 計画的に研修や勉強会に参加をすることで個々の視点が広がり、利用者のケアマネジメントに活かすことができた。

(イ) 個々で目的をもって事例検討会に参加をすることができたが、開催はできなかった。

3. 安定した経営と働きやすい職場づくり

(ア) 年間を通じて新規利用者 82 件を受けることができたが、終了ケース 75 件と多く経営面での課題となった。

(イ) 意識的に業務を調整・整理をすることで 10 日以上有給消化をし、仕事に集中して取り組めた。

【数値実績】

一日平均 利用者数	年間 利用者数	稼働日数	単価（1 人 1 日当り）	職員数 （常勤換算）
—	1,678 名	246 日	15,183 円	3.7 名

浦安市高洲地域包括支援センター

2022 年度は、コロナ禍ではあったものの少しずつ公共施設の感染対策による制限も緩和され、地域との交流や活動を再開することができた。地域との交流等は参集で予定通りの開催となった。一部のサロン活動では WEB を使用、遠方の家族介護者の参加もあり、感染対策以外の有効性も見いだすことができた。2023 年度は当地域包括支援センターの高洲公民館内への移設予定がある。市民の生活圏内へ移設するため、気軽に立ち寄ることのできる身近なセンターとなるよう浦安市と協力しながら進めていく。

1. 地域における機能と役割の強化

- (ア) 近隣の大学や社会福祉協議会と共同でのサロン活動は、予定通りの開催ができた。民生委員や関係機関・事業所へは適宜訪問を継続、地域包括の周知活動や出前講座を行うことで複数の相談を受けた。出張相談を 3 か所で行ったことも地域への周知に繋がり、総合相談件数も 2021 年度と比較して延べ件数で約 200 件の増加となった。相談ケースも遠方や国外からの呼び寄せや、認知症相談、多問題、8050 問題など年々複雑になっている。
- (イ) 居宅介護支援事業所とは毎月事例検討会を開催したことで地域のケアマネジメント力の向上を図るとともに、関係性を深めることができた。

2. 職員の資質向上のための取り組み

- (ア) 相談ケースへの職員の対応力向上のため、市主催の研修や職種毎の研修に延べ 50 件参加、伝達研修も行い職種を越えて学びを深めている。適切な支援方法の確認をするとともに職員個人の負担とならないよう、朝礼でのケース共有や事例検討も適宜行うことで、チームでの支援体制の強化に繋がった。
- (イ) 働きやすい職場づくりとしてのお互いの業務の可視化については、取り組みとしては十分ではなく 2023 年度への継続課題となった。また、職場として週 1 回のノー残業デーは年間を通して実施した。

【数値指標】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	職員数 (常勤換算)
40,400 千円	予防支援 1,056 件	237 件	4,800 円	48,112 千円	5.9 名
	マネA 521 件	93 件	4,800 円		

松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園

松戸愛光園ショートステイ

松戸愛光園デイサービス

松戸愛光園ケアプランセンター

聖隷はぐくみ松戸

2022年度の松戸愛光園は見守りシステム導入を行い、利用者のQOL向上と介護職員の負担軽減を目指して取り組みを行った。また、新型コロナウイルス感染症では施設内でのクラスター発生があった。保健所等の関係機関の支援も受け早期の終息を図ることが出来た。

これからもICTを活用したサービスの質の向上と職員の働きやすさを追及しながら、地域のニーズに合わせた事業を提供していく。

1. 高齢者・障がい者への地域ニーズに合わせた専門的なサービスの提供

- (ア) 入所・短期入所では、タブレットなどのICT機器を活用し、職員間でのケアプラン共有を進めることが出来た。
- (イ) ACPについて施設内での研修を実施して職員教育と看取りでの取り組みについて検討をすることが出来た。
- (ウ) 相談員全員での効果的で計画的な営業活動を実施できた。
- (エ) 通所介護事業では、利用者満足度調査を実施してサービス提供内容の改善を行うことができた。
- (オ) 居宅介護支援事業では、近隣医療機関との連携を図り終末期の利用者受入れを積極的に進めることができた。
- (カ) 新規開設の障がい者生活介護事業は、コロナ禍での利用控えや介護職員の不足等もあり開設を中止し、共生型生活介護での受け入れを継続した。

2. 職員が自分らしく働ける職場づくり

- (ア) 事業ごとで広報誌を作成し広く情報発信ができる取り組みを行った。
- (イ) 職員のやりたいことを面接や会議等の場面を通して共有し、支援を行った。
- (ウ) 各種学校の実習を継続し、新卒採用者4名の内3名を実習等の受入れ学校から採用することができた。

3. デジタル化推進と設備更新による安全性向上と効率化推進

- (ア) 見守りシステム本格運用を開始し、システムの活用のみならず介護職員の働き方改革を行うことが出来た。
- (イ) インカムは活用方法の検討は行ったが、導入については次年度へ延期とした。
- (ウ) 中央監視装置、電動ベットなど経年劣化した設備等更新を実施した。

4. 社会貢献活動の実施

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園と協働で、松戸地区福祉学会については感染対策を図りながら実施した。
- (イ) 地域の二次福祉避難所として、実際の災害時を想定した必要物品の確保を松戸市と協力して進めることが出来た。

【数値実績】

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護	障害	介護	総合事業	障害
利用者定員	103 名	21 名		34 名		
利用延数	36,040 名	6,386 名	172 名	5,793 名	1,667 名	261 名
一日平均利用者数	98.7 名	17.5 名	0.5 名	18.8 名	5.4 名	0.8 名
稼働率 (%)	95.9%	85.5%		73.7%		
稼働延日数	365 日	365 日		308 日		
単価 (一人一日)	15,489 円	15,141 円	10,402 円	11,342 円	4,102 円	9,902 円
職員数 (常勤換算)	71.4 名	12.3 名		15.5 名		

	ケアプランセンター		障害者 (児) 相談支援事業
	介護	予防	
利用者定員	—		—
利用延数	1,492 名	367 名	305 名
一日平均利用者数	—		—
稼働率 (%)	—		—
稼働延日数	—		—
単価	17,131 円	4,586 円	14,344 円
職員数 (常勤換算)	4.0 名		1.0 名

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園 聖隷訪問看護ステーション横須賀
横須賀愛光園デイサービスセンター 聖隷ヘルパーステーション横須賀
西第二地域包括支援センター 聖隷ケアプランセンター横須賀

2022 年度、地域医療介護総合確保基金や横須賀市第 8 期介護保険事業計画に基づく施設整備等の補助金を活用し、老朽化した施設・設備の大規模修繕工事、看護小規模多機能型居宅介護の整備、デイサービスリニューアルについて実施完了することができた。

各事業を継続しながら長期間にわたる工事であり、また感染症への対応や資材調達等の問題もあったが、利用者や職員、関係機関の協力のもと大きな事故もなく実施することができ、今後に向けて新たなスタートラインに立つことができたと考える。

1. 老朽化した施設、設備の大規模修繕と新たな価値の創造

- (ア) 計画した大規模修繕について 2023 年 3 月末をもって完了することができた
- (イ) 看護小規模多機能型居宅介護の開設にむけた整備工事と開設準備を計画通り実施できた
- (ウ) 事務所の改修が完了し、在宅事業も含めた事務職員の一体運営に取り組むことができた

2. 人材の確保と育成を推進する

- (ア) 新人、未経験者への教育支援について計画に沿った実施と評価に取り組むことができた
- (イ) 厨房改修後の一部洗浄業務の切り分けによる介護助手の取り組みを開始することができた
- (ウ) 年間を通じて感染対策の継続を行ったが、2 度のクラスターが発生してしまった
- (エ) 超過勤務時間削減について年間を通じて取り組みを継続し、2021 年度比 12%減となった

3. 利用者一人一人に合わせた質の高いサービスの提供と経営の安定化

(ア) 特別養護老人ホーム、短期入所

- ① 見守りシステム、インカムを導入し、『横須賀わくわくプロジェクト』を中心に、システムを活用した業務の検討、実施に取り組むことができた
- ② 横須賀市第 8 期介護保険事業計画の選定を受け、短期入所 1 床を特別養護老人ホームへの転用ができた

(イ) デイサービスセンター

- ① 事業を継続しながら大規模改修を実施し、新たな浴室や運動機器などの導入ができた

(ウ) 西第二地域包括支援センター

- ① 介護予防、権利擁護啓発活動の推進に向けた取り組みが継続できた
- ② 業務の見直し等、標準化に向けた取り組みが不十分であり課題を残す形となった

(エ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀

- ① 看護師の補充やスキルアップに取り組み、質の向上と利用実績の向上ができた
- ② 看護小規模多機能型居宅介護開設に向けて、一体型としての運営を開始する準備を行うことができた

(オ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀

- ① 関係機関との連携の強化や介護スキルの強化に重点を置き取り組みを行ったが、退職や欠員の補充ができず、実績件数未達となった

(カ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

- ① 研修や事例検討会を通じて職員のスキル向上を図ったが、信頼関係作りに関しては課題が残った
- ② 柔軟な受け入れができる体制が継続でき、特定事業所加算Ⅱの維持ができた

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 感染症対策のため地域行事等については中止となったが、地域ボランティアセンター運営への参加や地域清掃活動の継続ができた

【数値実績】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括支援センター
	従来型	ユニット型			
利 用 者 定 員	65 名	40 名	15 名	30 名	—
利 用 延 数	22,906 名	14,263 名	4,551 名	5,513 名	—
一日平均利用者数	62.3 名	39.1 名	12.5 名	17.8 名	—
稼 動 率	97.2%	97.7%	80.9%	59.5%	—
稼 動 延 日 数	365 日	365 日	365 日	309 日	—
単価 (1 人 1 日)	12,923 円	15,678 円	12,390 円	10,600 円	—
職員数 (常勤換算)	34.1 名	27.2 名	8.9 名	8.7 名	5.1 名

	聖隷訪問看護ステーション横須賀		聖隷ヘルパーステーション横須賀			
	介護給付	医療給付	介護給付	総合事業	自立支援	有償等
月 平 均 利 用 者 数	109.8 名	46.3 名	75.7 名	16.3 名	26.9 名	—
月 平 均 訪 問 件 数	599.6 件	332.8 件	877.3 件	64.6 件	229.3 件	—
単 価	11,023 円/件	12,326 円/件	5,262 円/時間	4,363 円/時間	4,765 円/時間	—
職員数 (常勤換算)	14.3 名		7.2 名			

聖隷ケアプランセンター横須賀						
年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
1,756 件	147 件	17,763 円	4,039 円	86 件	4,112 円	4.8 名

宝塚せいの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター、聖隷ケアプランセンターすみれ
宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター

2022年度は、介護補助者や介護ロボット、記録支援システム等を導入する目的を職員が理解した上で、業務省力化や効率化、勤務シフトといった働き方を見直していくことを計画していたが、新型コロナウイルス感染症への対応により厳しい体制状況が続いた。そのような状況にあっても利用者、家族に安心と安全を提供する取り組みを継続した。その為、年間の退去者数及び入院者数は2021年度に比べ減少させることができた。短期入所、デイサービスセンター、ケアプランセンターの在宅事業は、稼働率、紹介率といった数字を意識すると共に、繋がらなかったケースを振り返る事で、次に繋がる情報共有が進んでいる。また、宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センターでは、各専門職団体の権利擁護・成年後見ネットワークの構築や見直しを行った市民後見人の養成講座が定着している。地域自治会等との連携では、大規模な催しについては2022年度も見送られたが、定例会議には出席し、顔の見える関係性は継続されている。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 利用者の個別性を尊重したサービスの提供
 - (ア) 利用者個々の「できる力」に視点をおき、日常の支援に努めた。
 - (イ) 施設内活動のみと制限がある中でも、創意工夫を凝らし季節感のあるレクリエーションを提供することができた。
 - (ウ) 他職種協働による入居者・利用者の心身状態に応じた支援の提供により、入院者数や退去者数を2021年度に比べ減少させることができた。
2. 職員にとって「働きがいのある職場」環境の構築
 - (ア) 全職員へ聖隷・施設理念を記載したカードを配布し、理念に基づくケアの浸透を図った。
 - (イ) 見守り機器による夜間巡視等の負荷を軽減させることができ介護リフトによる移乗介助等が定着し、職員と利用者ともに安全と安心できる介護の実践ができている。

(ウ) 新たなコミュニケーションツールを導入しオンライン面会等に活用することができた。

3. 職員教育の推進

(ア) 利用者の状態変化の早期発見と対応に努め、行政報告を伴う事故件数や入院者数を 2021 年度に比べ減少させることができた。

(イ) 生活相談員を中心に在宅サービスと施設サービス間での情報共有を図り、シームレスなサービスを提供することができた。

(ウ) マネジャーが中心となり支援内容の再確認と改善を図った。

(エ) 各委員会や担当者が中心となり、システムや機器等の理解に努めた。

4. 地域に信頼される施設運営と公益的取組

(ア) 地域のサロンに専門職を派遣し、講師協力等を行った。

(イ) 研修室にて地域の福祉従事者ネットワーク会議や市民後見人の養成講座等を実施した。

(ウ) 新型コロナウイルス感染症の影響により、催事交流等はできなかった。

(エ) 宝塚市社会福祉法人連絡協議会に参画し、情報交換等を行った。

(オ) 新型コロナウイルス感染症の影響により、講座等の開催や実習の受入れはできなかった。

5. 環境活動への取り組み

(ア) 年間を通し空調設備等の節電運用に努めた。

(イ) 地域の清掃活動等に参加した。

【数値実績】

	特養入所 (ユニット)	短期 入所	通所介護 (一般)	居宅介護支援		権利擁護 支援センター
				介護	予防	
利 用 者 定 員	100 名	20 名	30 名			
利用者・請求延べ数	34,908 名	6,804 名	5,991 名	2,623 件	166 件	
一日平均利用者数	95.6 名	18.6 名	19.5 名			
稼働率	95.6%	93.2%	64.8%			
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	308 日			
単 価 (一人一日・件当り)	16,084 円	16,543 円	11,628 円	17,983 円	4,445 円	
職員数（常勤換算）	74 名	13.6 名	14.9 名	8.2 名		3.6 名

宝塚せいの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

2022 年度は、睡眠時見守りセンサーを活用した夜勤 1.5 勤務体制による柔軟な勤務体制により、入居者の日常生活支援や活動等の向上を図ることを計画していたが、新型コロナウイルス感染症への対応により厳しい体制状況が続いた。そのため外出等の活動的な企画が行えない中、施設内での企画を増やす事で、入居者の介護予防と生活の質を維持する事に留まった。

ケアハウス宝塚の入居者状況は、宝塚すみれ栄光園よりも要介護度は低いが平均年齢は高い状況にあり、2022 年度は 12 名が退去、内 7 名が施設で看取りを迎えており年々増えている。反して入居希望待機者が減っている状況にあり、これまでの入居者募集活動等を見直す必要性を感じている。ICT 化の取組みとして、新たな記録支援システムによる業務の省力化や入居者、家族とのコミュニケーションツールを導入しオンライン面会等に活用することができた。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 入居者がより「自分らしさ」を実現できる支援に向けて
 - (ア) 入居者の状態変化の早期発見と対応に努め、退去者数を 2021 年度に比べ減少させることができた。
 - (イ) 入居者の状態に応じ、住替えや看取りケアと最期まで協働した支援に努めた。
 - (ウ) 活動に制限がある中でも、介護予防や季節を感じられる活動を実施することができた。
2. 職員にとって「働きがいのある職場」環境、職員教育の推進
 - (ア) 全職員へ聖隷・施設理念を記載したカードを配布し、理念に基づくケアの浸透を図った。
 - (イ) 見守り機器による夜間巡視等の負荷を軽減させることができ介護リフトによる移乗介助等が定着し、職員と入居者ともに安全と安心できる介護の実践ができている。
 - (ウ) 職員全体で共有するまでは至っていないが、新たな支援や体制を見出すことができた。
 - (エ) 新たなコミュニケーションツールを導入しオンライン面会等に活用することができた。

3. 職員教育の推進

- (ア) 入居者個々の「できる力」と「活動」に視点をおき、日常生活の支援に努めた。
- (イ) 生活相談員を中心に在宅サービスと施設サービス間での情報共有を図り、シームレスなサービスを提供することができた。
- (ウ) マネジャーが中心となり支援内容の再確認と改善を図った。
- (エ) 各委員会や担当者が中心となり、システムや機器等の理解に努めた。

4. 地域に信頼される施設運営と公益的取組

- (ア) 地域のサロンに専門職を派遣し、講師協力等を行った。
- (イ) 研修室にて地域の福祉従事者ネットワーク会議や市民後見人の養成講座等を実施した。
- (ウ) 新型コロナウイルス感染症の影響により、催事交流等はできなかった。
- (エ) 宝塚市社会福祉法人連絡協議会に参画し、情報交換等を行った。
- (オ) 新型コロナウイルス感染症の影響により、講座等の開催や実習の受入れはできなかった。

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 年間を通し空調設備等の節電運用に努めた。
- (イ) 地域の清掃活動等に参加した。

【数値実績】

	介護付きケアハウス
利 用 者 定 員	70 名
利 用 者 延 べ 数	24,561 名
一 日 平 均 利 用 者 数	67.3 名
稼 動 率	96.1%
稼 動 日 数 (延 べ)	365 日
単 価 (一 人 一 日 当 り)	14,222 円
職 員 数 (常 勤 換 算)	40.8 名

宝塚せいのりの里

介護付き有料老人ホーム 結いホーム宝塚

2022 年度結いホーム宝塚の運営は、2021 年度に比べ入院者数・入院日数ともに減少したことで、安定した稼働を維持することができた。しかし、入居待機者の確保が厳しい状況は変わらず、かつ市内特別養護老人ホームの入居待機者も減少の一途をたどっている状況においては、強い危機感を持ち、より一層入居者募集活動に注力していかなければならないと感じている。

また、年度を通して介護職員の欠員が続き、入居者からも不安視する声が聞かれた。採用活動を継続する一方で、負担の分散を図る体制作りと新人育成を担うプリセプターに対する研修を行った。今後も、職員一人ひとりがやりがいや自身の成長を実感できる人材育成・支援体制の確立に取り組み、働く者にとっても魅力のある施設にしていくことで、職員の採用と定着に繋げたい。

結いホーム宝塚でも大規模なクラスターが発生するなど、2022 年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年だった。制限のある生活が長期に渡る中で、入居者には少しでも充実した生活を送っていただけるよう日々のアクティビティや企画イベントの実施に努めた。

【事業報告】

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供

- (ア) 新型コロナウイルス感染症により、施設内で過ごすことを余儀なくされたが、施設内でも季節感を感じたり、活動的に過ごせるよう趣向を凝らしたアクティビティを提供した。
また、レクリエーション機器の導入によって、アクティビティの企画・提供が苦手な職員も提供する機会が増えた。
- (イ) コミュニケーション機器を使用し、個別に写真やメッセージの送信を行い、喜ばれている。
- (ウ) 面会・外出の制限内容の変更については、感染状況を見ながら緩和できるところでは緩和する柔軟な対応ができた。
- (エ) 職種間を横断的にマネジメントできる職員の育成が必要である。
- (オ) 見守りセンサーのモニター確認による夜間巡視の省力化と夜勤 6 名から 5 名への変更は定着させることができた。また、インカムが職員間のコミュニケーションを促進させている。
しかし、機器導入の目的としている入居者の日中活動の充実や職員の働き方改善には課題を残した。

2. 職員一人ひとりを大切にできる職場環境・職員教育の推進

- (ア) 入浴機器・移乗機器を複数試行したが導入には至っていない。情報収集と試行を継続し入浴介助の環境改善を目指す。
- (イ) 係長を中心に、他フロアとの応援協力体制構築を進めたことで、特定のフロアに人員不足の負担が偏ることを軽減できた。
- (ウ) 業務の切り出しと整理が進み、サポーターが業務を把握し自立して動けるようになった。
- (エ) 体制構築までには至っていないが、プリセプターに対して研修を実施し、プリセプターが意図的にプリセプティイーに関わることができ、両者に成長が確認できた。

3. 安定した施設運営

- (ア) 広報委員会を中心に、入居者の生活の様子を伝えるブログの配信が定着し、外部に情報を発信する意識は高まってきている。
- (イ) 102 室を有効に活用しながら、年間平均で予算を上回る稼働ができた。
- (ウ) 経年により目立ってきた汚れに対して特別清掃を行い、共用部・居室の美化に努めた。

4. 地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み

- (ア) 新型コロナウイルス感染症の影響で、一部のボランティアの受け入れにとどまった。
- (イ) 安倉コミュニティにて防災に関する話し合いが始まっており、継続的に参画していく。
- (ウ) 地域のサロンに専門職を派遣し、講師協力を行った。
- (エ) 新型コロナウイルス感染症の影響で、受け入れには繋がらなかった。

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 水光熱費は高騰の影響で予算を大きく上回った。空調使用箇所と温度・時間の設定にて電気代の低減を図った。
- (イ) 近隣住民と地域の清掃活動を実施した。

【数値実績】

	介護付き有料老人ホーム
利 用 者 定 員	100 名
利 用 者 延 べ 人 数	35,201 名
一 日 平 均 利 用 者 数	96.4 名
稼 働 率	96.4%
稼 働 日 数 (延 べ)	365 日
単 価 (一 人 一 日 当 り)	17,419 円
職 員 数 (常 勤 換 算)	63.2 名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園、短期入所生活介護

2022 年度は、開設 43 年目を迎え宝塚市で最も歴史の長い特別養護老人ホームとして宝塚栄光園は、利用者の生活環境の整備と職員の労働環境の充実の実践を行った。2 階フロアの利用者の食事スペースの改修を行い、心地よい環境づくりに取り組むことができた。また新たな ICT を導入し、更なる職員の業務効率改善に取り組み、利用者のサービスの質の向上に繋げた。2022 年度も新型コロナウイルス感染症対策は継続されたが、対策を変更し利用者の QOL 向上に努めた。運営は、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響を受けたが、安定して経営を行うことができた。

1. 利用者のために

(ア) 新たな記録システムや見守り機器を活用し業務を効率化することでケアの充実を図る。

①新たな記録システム（HIMVIT）導入により、現場で記録が直接入力でき業務効率化に繋がりケアの充実を図れた。

②見守り機器（眠り Scan）については、2021 年度同様インカムと連動し他の部屋で対応中に即座に駆けつけることができ、また夜間の巡視においても利用者の睡眠状況に合わせて対応できた。

(イ) 新型コロナウイルス感染症流行下においても利用者と家族の繋がりを大切にし、生活の中での楽しみを提供する。

①家族との面会については、新型コロナウイルス感染症対策として 1 階で衝立を使用した面会を行ってきたが、利用者の QOL 向上に向けて時間や面会者の制限はあるものの、各フロア面会室での直接対面での面会を始めた。

②生活総合機能改善機器のレンタルを開始し、音楽・体操・映像などのプログラムの活用により、利用者の QOL 向上に貢献した。

(ウ) 宝塚エデンの園附属診療所のセラピストと連携した個別機能訓練を継続し、生活の質の向上を図る

①宝塚エデンの園附属診療所のセラピストと個別機能訓練で連携を継続し、利用者の現存機能維持に繋ぐことができた。

(エ) 地域のニーズに応えるために、積極的かつ柔軟な短期入所の受け入れ体制を整える

①多様な家庭状況・身体状況により自宅での生活が困難である方を積極的・緊急的に受け入れ、介護・看護・相談が連携し対応できた。

2. 職員のために

(ア) 職員が安心して業務を行えるように、ICT 機器を活用した客観的データに基づいて業務判断の標準化を図る

①業務判断の標準化は出来なかったが、HIMVIT 導入により、記録入力の時間短縮が図れた。

(イ) 経験や役割に応じた職員間で想いを共有する場を設け、働きやすい環境を整える

①職員自ら展示会などで情報収集、機器検討を行い、現場で使える介護リフトなどを導入した。

3. 施設を守る

(ア) 入居・短期入所のベッドコントロールを図り、稼働率を維持し経営を安定させる。

①新型コロナウイルス感染症蔓延により、新入居やショートステイ受け入れを停止したこともあり稼働率へ影響が出た月もあったが、2022 年度としてはほぼ予算通りとなった。

(イ) 新型コロナウイルス感染症罹患者施設内療養の経験に基づき、継続できる事業体制構築の一環として大規模災害や感染症に対する計画を作成する。

①感染、災害 BCP について厚生労働省フォーマットに沿って作成したが、宝塚栄光園としての個別性や実働性に乏しかった。

4. 地域における公益的な取組み

(ア) 園内に留まらず、地域とともに防犯訓練を開催する

①防犯訓練はできなかったが、災害時の対応について地域住民の防災会議に出席し意見交換を行った。

(イ) 新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、地域に向けた介護技術や認知症予防等の勉強会及び資料の配布を実施する

①新型コロナウイルス感染症蔓延により実施できなかった。

(ウ) 自治会活動に積極的に出向き、地域との関わりを深める

①自治会会議のため宝塚栄光園の施設を使用してもらい顔見知りの関係となった。また地域の課題解決（公共交通機関減便に対する改善要求など）を共に行った。

②地区の中学校との対面での交流は図れなかったが、吹奏楽部より利用者へ演奏の DVD を頂き、利用者に鑑賞してもらい感想を伝えた。

【数値実績】

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 名	17 名	87 名
利用者延べ数	23,934 名	6,492 名	30,426 名
稼働延日数	365 日	365 日	365 日
一日平均利用者数	65.6 名	17.8 名	83.4 名
稼働率	93.7%	105%	95.8%
単価（1 人 1 日当り）	13,792 円	12,904 円	13,602 円
職員数（常勤換算）	43.15 名	8.11 名	51.26 名

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター

2022 年度は、「在宅で最後の時まで過ごしたい」と願う利用者のために、地域における聖隷ケアセンター宝塚の存在価値を見出せるように取り組みを行った。

1. 在宅で最期まで過ごせる支援の提供

- (ア) 身体介護に特化した職員の育成に重点を置くために、正職員全員が喀痰吸引資格を取得することができた。認知症介護実践リーダー研修修了者は取得できなかった。
- (イ) 職場内研修を定期的に 10 回実施し、カンファレンスを中心にサービス提供責任者のスキルアップを図った。
- (ウ) 新たな要支援向けのサービスの創出は、保険者の対応ができておらず実施できなかった。
- (エ) 新型コロナウイルス感染症のため、デイサービスにおける外出、調理、買い物等や、利用者同士の繋がりに目を向けたプログラムの作成はできたが、実施に至らなかった。
- (オ) 生活相談員の育成に向けて、宝塚地区内のデイサービス相談員向け研修を 3 回実施した。

2. 業務の ICT 化を進めていく

- (ア) けあピアノートを活用し、利用記録の省力化とサービス予定の共有が簡単に実施できた。
- (イ) WINCARE とけあピアノートの活用で登録ヘルパーの労務管理のシステム構築ができた。

3. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成

- (ア) 法人内事業所の訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、デイサービスセンター、ケアプランセンター、地域包括支援センターの間で利用者のための連携強化を行った。
- (イ) 役職を担える候補者の目途を立てることはできたが、登用には至らなかった。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 宝塚第二地区内の拠点 4 か所において、地域住民が集える活動・参加・協働の場を年 2 回実施できた。
- (イ) 専門職と地域住民の交流の場として、サロン開催を年 1 回開催できた。

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)	
111 人	1,132 件	13,581 件	12 人	147 人	4,836 円	17,367 円	15.8 人

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	総合(月)	
28.4	773 人	8,107 人	2.8 人	140 人	9,925 円	40,509 円	16.3 人

宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚 聖隷ケアプランセンター宝塚 逆瀬川地域包括支援センター

2022 年度は、「在宅で最後の時まで過ごしたい」と願う利用者のために、地域における聖隷ケアセンター宝塚の存在価値を見出せるように取り組みを行った。

1. 在宅で最期まで過ごせる支援の提供

- (ア) 施設を含め医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を支援できる体制を構築できた。
特定医療行為研修の受講をすることはできなかった。
- (イ) 聖隷訪問看護ステーション宝塚においては機能強化型訪問看護管理療養費 1 を、聖隷ケアプランセンター宝塚においては医療介護連携加算を、それぞれ継続的に算定することができた。
- (ウ) 関係機関や地域住民に対して、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に関する啓発活動をデイサービスセンター利用者も含め自治会・老人会・サロン等の場を活用し、地域住民に対し、ACP 啓発を年 5 回実施することができた。

2. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成

- (ア) 法人内事業所の訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、デイサービスセンター、ケアプランセンター、地域包括支援センターの間で利用者のための連携強化を行った。
- (イ) 役職を担える職員育成のため、訪問看護ステーションではリーダー職員を配置して新たに 1 名の管理者を輩出できた。

3. 資源の効率的活用と生産性の向上

- (ア) ケアセンター宝塚内で事務職員会議を定期的実施し、今後の事務業務の在り方についての議論を行った。
- (イ) ケアセンター宝塚内でデジタル化推進会議を実施し、WINCARE の効率的運用を周知した。

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 宝塚第二地区内の拠点 4 か所において、地域住民が集える活動・参加・協働の場を年に 2 回実施できた。
- (イ) 専門職と地域住民の交流の場を持って、サロン開催を年に 1 回開催ができた。

(ウ) 地域連携交流会（地域支援会議）を年４回開催した。高齢分野・障がい分野（保育園、薬局薬剤師、行政、社会福祉協議会、スクールソーシャルワーカー、民生委員など幅広いネットワークの構築につながった。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)
医療	65 人	661 人	7,928 人	9,534 円	20.7 人
介護	104 人	577 人	6,918 人	8,720 円	
予防	16 人	37 人	440 人	7,660 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防			
3,686 件	197 件	19,353 円	30,556 円	2,302 件	5,422 円	15.6 人

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		職員数 (常勤換算)
予防	予防（委託）	予防	委託（委託）	
4,327 件	2,094 件	5,707 円	5,437 円	12.3 人

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター 聖隷デイサービスセンターあゆむ

新型コロナウイルス感染症流行のなか、サービス提供をする上での安全性担保、感染症予防対策に尽力し、「今、困っている」利用者へのサービスが途切れないよう調整した。医療ニーズを伴う中重度利用者へのサービス提供を中心としてサービスの提供ができ、地域の中で在宅介護を支える役割を発揮できている。

[事業・運営計画]

1. 質の高い介護サービスを提供し、利用者が在宅生活を継続できるように支援する
 - (ア) 利用者・家族が安心できる、安全な介護サービスを提供する
 - ①中重度介護が必要な介護度 3 以上の利用者を 50%以上確保できた。
 - ②職員への介護技術マニュアルを整備するなど、人材育成に努めることができた。
 - ③ケアの安全性を高める介護機器を検討したが、導入には至らなかった。
 - (イ) 関係機関とのシームレスな情報共有で医療ニーズへ対応する
 - ①MCS を活用し、タイムリーな情報共有を行った。
 - ②看護職の人員体制を維持し、看取り期、気管切開等の利用者受け入れを行った。
2. 認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるように支援する
 - (ア) 利用者それぞれが穏やかな時間を過ごせる個別ケアを提供する
 - ①利用者個々への対応を深め、前頭側頭型認知症などの周辺症状に対応できた。
 - ②作業療法士と協同して行動変化や日常生活における認知症の影響を評価し、アプローチすることが出来た。
 - (イ) 介護者が自宅介護のモチベーションを保てるように関わる
 - ①電話・連絡帳等で家族とのコミュニケーション機会を増やし、事業所と利用者家族が関係構築できる場作りを検討したが、コロナ禍もあり実施には至らなかった。
3. 地域における公益な取り組み
 - (ア) 逆瀬台地域の高齢単身者・高齢世帯への見守り活動に協力する
 - ①自治会・地域包括支援センター・社福祉協議会と協力し、いきいき 100 歳体操を再開することができたが、地域の高齢者への弁当配達「助け愛デリ」については、企画はできたが実施まで至らなかった。

【数値目標】通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)	
55 人	505 人	4,594 人	3 人	243 人	14,479 円	45,769 円	23.5 名

【数値目標】地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価(円)		職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用者数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (月)	予防 (月)	
22 人	160 人	1,800 人	—	—	17,040 円	—	5.8 名

聖隷デイサービスセンター結い

コロナ禍の中で利用者の活動量が低下し、身体機能への影響が出ていることから、安心して通うことができるデイサービスとなるよう、職員一人一人が「知識・技術・意識」を高く持ち、感染の予防と対策に注力した。利用者・職員の感染はあったものの、クラスターの発生を防ぎ年間を通して通常営業を行うことができた。また、利用者へ重要なポイントをしっかりと伝え、理解・協力が得られたことで、安心・安全なデイサービスとして環境を整えることができた。

個別機能訓練の充実を図る目的で、看護師に機能訓練指導員としての役割を追加し、セラピスト不在でも個別機能訓練が実施できるよう体制を準備していたところ、理学療法士 1 名の退職により体制を整える事に終始することになり、継続の課題として残った。地域の方の困りごとに耳を傾け、それぞれの専門職の視点で課題を解決し、活動と参加の向上に繋がるサービスを今後も提供していきたい。

今後も自立支援と要介護状態の重度化防止の為に、より質の高いサービスを提供するための知識・技術の向上と、利用者対応のレスポンス性の向上に繋がる機械の導入も積極的に考え、職員・事業所全体のボトムアップを図る。そして、地域貢献活動の再開と地域に溶け込むことが、聖隷デイサービスセンター結いの存在価値の向上に繋がる事項となる。

【事業・運営計画】

1. 地域の利用者を個別機能訓練サービス支援提供できるデイサービスを目指す。
 - (ア) セラピスト減少の中でも同じサービスが提供できるよう、仕組みから見直しを図った。
 - (イ) 医療機関退院後に、リハビリが必要な方の受け入れを居宅支援事業所からの紹介を受け、対応実績を残すことができた。
 - (ウ) 訪問看護と連携し、セラピスト間の情報共有ができた。また地域連携病院との連携も継続することで、多角的な視点を得、刺激を受けながら専門的アプローチを行った。
2. 報酬改定・制度の変化に対応し、事業継続できるよう運営体制変更していく。
 - (ア) 利用比率は要介護 6 割：要支援 4 割以上を目指し要介護者の受け入れを強化できた。
 - (イ) 業務見直しを行い介護度の上昇に対応するために職員一人一人のスキルを把握しながら、スキル向上よりも職員間の差を解消する取り組みができた。
 - (ウ) 法人内の 4 デイサービス事業所の相談員と共に、相談員に求められる人材育成の心得を含めた講習会を実施し、相談技術の向上と事業所間の横の繋がりを強化することができた。
 - (エ) 介護技術、認知症の理解を深める勉強会を会議内で講義方式で行った他、実践の場で OJT を実施した。
3. 地域とのつながりの更なる発展
 - (ア) 感染症対策を徹底の上、ぷらっと野上において施設設備を開放し機能訓練の体験をする場の提供を行った。
 - (イ) 機能訓練を通して地域向けにセラピストが行う介護予防講習会の開催のために地域包括支

援センターと協力して計画を立案した。

(ウ) 福祉展覧会の準備を進め、地域住民の福祉に対する不安・悩みを聴取する場を用意する計画を立案した。

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		職員数 (常勤換算)
平均利 用者数	月間利 用件数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (日)	予防 (月)	
15.9 人	409 件	4,903 人	69 人	4,042 人	5,728 円	30,000 円	11.9 名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

2022年度は営業職員をこれまでの6名から5名に体制変更し、コンパクトな事業運営に取り組んだ。貸与の請求代行サービスを導入し効率化を図り、事務職員が営業のサポートを行えるようにした。2024年の介護報酬改定を見据え、要支援認定者や要介護1、2の利用者や自己負担割合2割、3割の利用者へ給付に頼らず福祉用具を届けられるよう、取り組みを継続していく。

【事業報告】

1. 同法人からの福祉用具貸与依頼件数を増やす

- (ア) 営業職員の営業エリアを担当制から全員で全てのエリアを対応するよう変更した。変更後、居宅介護支援事業所からの貸与件数が体制変更前と比較して10%増加した。
- (イ) 貸与請求代行サービスの導入により請求業務の効率化が図れ、請求事務担当者が営業担当者のサポートを行う体制が構築できた。
- (ウ) 災害や感染症などの緊急事態における事業継続のための体制作りに向け、受発注業務などの見直しを行い、全員で利用者へ対応できるよう取り組みを行った。

2. 障がい者事業に向けた取り組み

- (ア) 宝塚栄光園の施設貸与車椅子の定期メンテナンスの実施に向けて協議し、2023年度より当事業所の職員がメンテナンスを実施することとなった。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 宝塚地区の聖隷デイサービスセンターや地域包括支援センターと協力し、地域に向けた福祉用具の相談や紹介を行う企画を立てたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

【数値実績】

年 間 貸与件数	年 間 貸与収益	年 間 販売収益	年 間 住宅改修収益	職員数 (常勤換算)
9,093 件	100,427 千円	71,967 千円	13,940 千円	10 人

花屋敷せいのりの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園
花屋敷デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション山本
花屋敷地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター花屋敷
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2022年度は、新しい生活様式へ順応しながらも感染対策による制限が必要な日々が続き、2021年度と同様に利用者・職員ともに心身への影響は大きく、辛い1年であった。しかし、コロナ禍において安定した事業運営を継続することができた。

特に訪問看護ステーションと協働し、デイサービスやショートステイでリハビリテーションや医療的ケアを必要とする利用者の受入を積極的に取り組むことができた。また、入浴機器の入替えを行い、利用者にとって安心と安全を図ると共に、職員にとってもやりがいと魅力ある職場に繋がる環境整備を行うことができた。

1. 「安心して暮らせる」サービス機能を活かした繋がりある支援と定着

- (ア) 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・相談支援事業所が協働し、特に障害分野で未だ表出されていない地域ニーズの把握に努め、必要なサービスに繋げることができた。
- (イ) 通所介護では、リハビリテーションやアクティビティを中心とした短時間利用や中重度利用者の受入体制を構築し、積極的に受入れることができた。
- (ウ) 短期入所生活介護では、医療的ケアを必要とする利用者の受入れを行うことができた。
- (エ) 在宅サービスと施設サービスが種別を問わず協働した支援体制を促進させる体制を整えることはできたが、地域へ周知することはできなかった。

2. 利用者満足度の高いサービスの提供

- (ア) アドバンスケアプランニングの考え方を共有し、看取りケアの有り方を考えるとともにそのプロセスをケアプランや日々のケアにも反映させることができた。
- (イ) セラピストによる機能評価や歯科医師等と連携したケア共有による誤嚥性肺炎等の予防に努め、体調変化の早期発見と迅速な対応を行い、状態悪化の抑制に努めることができた。
- (ウ) 利用者の活動支援や季節を感じられるイベントは小規模で実施することができたが、ICTを活用したレクリエーションを実施することはできなかった。
- (エ) パブリックスペースの運用を見直し、環境整備計画の一部を実施することができた。

3. 職員が専門職としての成長を感じられ、自己実現の追求支援が行える職場づくり

- (ア) 施設内で各階層に応じた OFF-JT 研修を行うことはできなかった。
- (イ) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職員配置を行うことができた。
- (ウ) 目標参画や各種ラダーに基づいたキャリア支援を行い、モチベーションの向上を図ることができた。

(エ) 施設環境を踏まえ、新たな働き方を意識した福祉機器の導入を行うことができた。

4. 運営安定化の推進

(ア) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施することができた。

(イ) 4S 活動の推進と感染対策及び災害対策を見直し、BCP の作成を開始することができた。

5. 地域における公益的な取組み

(ア) 近隣の小・中学校等に講演や福祉体験等はコロナ禍のため実施することができなかった。

(イ) 継続した地域コミュニティへ参画し、在宅福祉をテーマにして相談会開催や防犯・防災活動に取り組むことができた。

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

		特養入所 ユニット型		短期入所 ユニット型空床型		通所介護		
						通常規模型	予防型	
利 用 者 定 員		108 名		12 名		35 名	12 名	
利 用 延 数		37,899 名		4,408 名		5,744 名	428 名	
一 日 平 均 利 用 者 数		103.8 名		12.0 名		18 名	1.3 名	
稼 動 率 (%)		96%		100%		41%		
稼 動 延 日 数		365 日		365 日		311 日		
平 均 介 護 度		4.2		3.5		2.4	1.4	
単 価 (一 人 一 日)		15,891 円		16,590 円		11,838 円		
職 員 数 (常 勤 換 算)		70.4 名		8.27 名		13.9 名		
		地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)		
宝塚市受託収入(千円)		37,786 千円		—	—	13,559 千円		
年 間 請 求 件 数		予防プラン 請求件数	3,415 件	399 件	177 件	—		
		予防プラン 委託件数	1,266 件					
平 均 単 価		予防プラン 単価(円)	4,200 円	14,867 円	16,661 円	—		
職 員 数 (常 勤 換 算)		11.3 名		4 名				
	聖隷訪問看護ステーション				聖隷ケアプランセンター			
	平均利用 者数	月訪問 件数	年訪問 件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)	年訪問 件数	単価(円)	職員数 (常勤換算)
医療	47 人	293 件	3,512 件	10,683 円	15.2 名	—	—	—
介護	113 人	590 件	7,081 件	9,363 円		3,470 件	19,042 円	9.54 名
予防	29 人	88 件	1,056 件	10,563 円		269 件	4,427 円	

ケアハウス花屋敷

2022 年度、新型コロナウイルス感染が始まって 3 年目、引き続き感染対策を実施しながらの運営となった。新型コロナウイルスの正体がある程度わかり、行事なども工夫して実施できたものもあるが、入居者に十分に楽しんでもいただけるまでに至らなかった。2022 年度後半には園内で新型コロナウイルス感染者が多数発生したが、幸い重症化する利用者はいなかった。また、新型コロナウイルス感染症の対応において同法人内で協力して取り組むことができた。もう一つ大きな問題として職員不足があった。職員配置数が少ないこともあるが、休職や退職した職員もあり、計画通りに進まなかったことも多かった。人員不足は今後もあり得るため、ケアハウス花屋敷もケア対応において ICT 化による効率化等が必要である。

1. 生活の中で楽しむこと、心地よく過ごせる環境を提供する

(ア) 施設内の設えに心配りする

①季節ごとの飾りつけや花や緑を飾るなどできた。

②入居者もいろいろな作品を提供して下さり、定期的に展示内容を変更しながら行うことができた。

(イ) 新型コロナウイルス感染状況に応じた行事の開催

感染状況が落ち着いた時期には食堂でのオンライン鑑賞を定期的に行うことができた。

(ウ) 喫茶コーナーを職員で運営し、入居者同士の交流の場を再開する

開催頻度は少なかったが職員で喫茶コーナーを開くことで、入居者の集える場の提供ができた。

(エ) 恒例のさつま芋栽培～芋ほり～焼き芋と蒸し芋の会を開催し、皆で楽しむことができた。

2. アドバンス・ケア・プランニングについて入居者に理解してもらい、職員の理解も深め支援に生かす

(ア) 入居者・家族対象の研修は実施できなかった。

(イ) 定期的な入居者情報収集時には、急変時の対応について希望など一部聞き取りを実施したが、継続的に入居者の思いを聞き取り、共有していく必要がある。

3. 健康維持・増進の取り組み

(ア) 健康体操

①聖隷訪問看護ステーション山本のセラピストに月一度健康体操の枠を担当してもらい実施できた。

②ケアハウス花屋敷の職員がプログラム作成についてアドバイスを受け、実施することができた。

③専門職が行うオンラインプログラムは次の(イ)の取り組みができた為実施しなかった。

(イ) 新たな取り組みとして、認知機能にも良い影響を与える「スリーA」というプログラムを定期開催することができた。

4. 職員の対応力強化

- (ア) 消防署から救急蘇生用の物品を借りることができなかったため、急変時のシュミレーションを実施できなかった。
- (イ) 学研 e-ラーニングの活用が十分できなかった。
- (ウ) 職員人員不足により、研修受講できなかった。

5. 運営の安定化の推進

- (ア) 職員人員不足と新型コロナウイルス感染症対応により、営業活動がほぼできず地域への施設紹介活動も1回のみとなった。この3年、ほとんど営業活動が出来ておらず、その影響は非常に大きかった。
- (イ) 入居者が最期まで花屋敷せいの里で過ごすことができる仕組みづくりについて、施設、在宅事業が連携し、引き続き取り組むことができた。

6. 安全で栄養バランスの取れた美味しい食事を提供する

- (ア) 人件費、食材料費、光熱費、すべてが高騰している中、質を落とすことなく食事提供をすることができた。
- (イ) ケアハウス花屋敷の3大行事（敬老会、クリスマス、新年）には通常とは違う食事を提供することで、入居者に食の楽しみを味わってもらうことができた。

7. 地域における公益的な取組

- (ア) サロンへ出張講座や施設紹介を実施することができた。
- (イ) アドバンス・ケア・プランニングの講演を地域のサロンで開催できた。

【数値実績】

定員	100 名
稼働率	95.25%
単価（一人一日）	34.768 円
職員数	12.4 名

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

2022年度は、感染対策に取り組みながら住み慣れた地域で安心して暮らすことがきえるように対応力を強化した。自宅で過ごしたいという希望や望む生き方を達成できるように多職種と連携を強化することで切れ目のない支援や在宅看取りにつなぐことができた。聖隷訪問看護ステーション北神戸及び聖隷ケアプランセンター北神戸ともに人材確保の厳しい状況が続いている。2023年度は人員を整えて地域ニーズに対応できる事業展開を拡大していきたい。

1. 専門性の高い人材を育成し利用者のニーズに沿ったサービスを提供する。

- (ア) ①専門分野の看護研修には計画的に参加し専門知識や対応力の向上を図ることができた。
- ②小児専門病院の看護研修に参加し、病院職員と繋がることで医療依存度の高い小児の新規利用者依頼を受けた。重度障がい児施設とセラピスト同士の情報共有は継続して行えた。
- ③血液疾患終末期への在宅輸血や抗がん剤治療にもタイムリーに対応できた。
- (イ) 他職種と連携し癌末期利用者に限らず利用者への意思決定支援の取り組みを強化した在宅看取りを行えた。
- (ウ) 退院当日から継続看護や家族支援ができるように聖隷ケアプランセンター北神戸、聖隷訪問看護ステーション北神戸とタイムリーに情報共有し迅速に対応した。

2. 各機関との連携を強化し、地域ニーズの解決に取り組む。

- (ア) 神戸市北区認知症初期集中支援チーム員として初期対応し、その後の支援についても自施設での訪問看護利用移行につなげることができた。
- (イ) 神戸市北区ケアマネジャー連絡会の企画運営に参画し他事業所も交えた事例検討会を開催し地域の介護支援専門員の対応力向上に取り組んだ。
- (ウ) 介護職員の喀痰吸引の現状について地域課題を話し合い、神戸市北区介護医療サポートセンターと合同で地域の介護職員に向けたフォローアップ研修を講義と演習で実施し喀痰等吸引手技の再確認や注意点を指導した。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 神戸市北区認知症初期集中支援チーム員として1名を派遣した。
- (イ) 神戸市介護保険認定審査会審査員として2名を派遣した。
- (ウ) 神戸市委託事業介護予防講座に講師として2名を派遣した。
- (エ) 神戸市看護大学生実習の受け入れ、及び神戸市看護大学臨床教授・臨床講師を務めた。

【数値実績】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション北神戸）

平均利用者数 （人）		月訪問件数 （件）		年訪問件数 （件）		単価 （円）		職員数 （常勤換算・人）
介護	医療	介護	医療	介護	医療	介護	医療	
68	61	356	423	4,270	5,080	8,943	9,991	

13.2

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数（件）		平均単価（円）		職員数 （常勤換算・人）
介護	予防	介護	予防	
1,202	561	17,693	3,520	

4.5

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム

聖隷カーネーションホームデイサービスセンター

聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうつつこ

聖隷ケアプランセンター淡路 聖隷在宅介護支援センター淡路

2022 年度の聖隷カーネーションホームは、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生等による減収・コスト増、また感染対応中における利用者の ADL 低下や職員の疲労蓄積など、非常に厳しい経営となった。こうした中、現場職員の懸命の努力と聖隷の強みを活かした法人内のサポートで支えられたことに心から感謝したい。一方、過酷な状況下にあっても DX・仕事の自動化の促進、付加価値のある機器・設備更新、理念に基づくケアの提供など、今後を見据えた改革の面でも一定の進捗を図ることができた。これらの取り組みを継続し、2023 年度以降の運営改善・経営改善に繋げていく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは…～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
 - (ア) 記録支援システム HIMVT による記録・情報共有の迅速化は浸透したが、利用者個々のスタイルに適したサービス提供はまだ途上にあり、今後も引き続き取り組んでいく。
 - (イ) 障害福祉サービスの相談受付、精神科患者、ALS 患者など、地域内の他施設では受け入れが難しい利用者を受け入れることができた。
 - (ウ) 見守りシステムの候補機種を選定できたが、導入は 2023 年度に持ち越すこととなった。また、今後の入浴機器更新と併せ、リフトの導入を検討し、より安全・安楽な入浴環境を整備していく。
2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進
 - (ア) 理念や事業計画に連動した目標管理を促進し、各職場や職員個々の目標達成を支援するとともに、次世代リーダー候補者の発掘・抜擢・育成を推進した。

- (イ) ノーリフトケアを推進したが、ボード・マット等の活用にとどまっており、今後入浴リフトの導入・活用も進め、より身体的負担の少ない介護環境を整備していく。
- (ウ) EPA 介護福祉士候補生や無資格者への資格取得支援を行い、3 名の介護福祉士国家試験合格者を輩出した。

3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善

- (ア) HitomeQ コネクト新機能開発に参画し、利用者家族連絡機能、募集・待機者管理機能の導入に至った。2023 年度から運用を開始し、家族や待機者への利便向上と新規申込者の増加につなげていく。
- (イ) 感染症の影響で稼働率は 2021 年度を下回ったが、短期入所 2 床増床整備や褥瘡・排泄など取得可能な加算項目の増加に取り組み、サービス向上・収益改善を図った。
- (ウ) 災害・感染症・事故の影響を最小限に抑え、安心して生活できるよう BCP 作成に取り組み、ほぼ完成に至った。

4. 公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓

- (ア) 淡路市や社協、他法人事業所等と協働して地域における認知症ケアの向上に努め、認知症家族会や認知症サポーター講座を開催した。
- (イ) 聖隷淡路病院との連携会議を定期開催し、退院連携の強化を図った結果、17 名の新規利用に繋がった。
- (ウ) 地元住民との防災連携はコロナ禍にあって大きな進捗はなかったが、2023 年度の実施に向けて消防関係者・近隣関係者との協議を継続した。

【数値実績】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54 名	16 名	25 名		12 名
利用者延べ人数	18,762 名	5,150 名	5,831 名	594 名	2,205 名
一日平均利用者数	51.4 名	14.1 名	19.2 名	1.6 名	7.5 名
稼働率 (%)	95.1%	88.2%	84.9%		62.5%
稼働日数 (延べ)	365 日	365 日	303 日		294 日
平均介護度	3.64	3.39	2.22	—	3.03
単価 (1 人 1 日当り)	12,181 円	11,958 円	9,560 円	5,303 円	11,954 円
職員数 (常勤換算)	33.5 名	6.3 名	9.1 名		5.9 名
年間請求件数	ケアプランセンター		在宅介護支援センター		
	介護	予防			
	1,902 件	368 件			
訪問調査年間件数	47 件				
職員数 (常勤換算)	5.7 名		1.2 名		

淡路栄光園

特別養護老人ホーム 淡路栄光園

デイサービスセンター淡路

2022 年度は 7、8 月と 3 月に 2 度新型コロナウイルス集団感染が発生した。短期入所・通所介護のサービスを縮小し、利用者と職員にはさらなる感染管理や制限を求めることとなった。感染管理に翻弄され苦しく、不自由な 1 年であったものの、利用者や職員、多くの関係者の協力と支援により園内での感染が無事終息した。利用者の命と生活を守ることができたことについて深く感謝を述べたい。

さて、2022 年度の淡路栄光園は数年前から整備をかけてきた最新のケア機器を「誰でも同じように業務を行える」ための業務標準化ツールとして活用、発展させることができた。必要な業務を改めて整理することで、生まれた時間を利用者ケアの充実につなげ年度目標である「基本的なケアの強化」に取り組むことができた。今後も入浴・食事・排泄という 3 大介護強化計画を継続し、利用者の生活の質を高められるよう取り組んでいきたい。施設としての活動や行事は感染拡大により諦めざるをえなかったが、2023 年度は社会情勢に合わせて徐々に再開し「利用者に喜んでもらえる行事やレクリエーションの充実」、「家族や地域とのつながりの深化」をテーマに職員全員で検討していく。その取り組みの先には利用者や家族、地域の喜びがあること、その取り組みのプロセスと結果には職員の成長があることを念頭に日々邁進していきたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 淡路栄光園の利用者がより快適に、楽しみがもてる施設になる。
2. 淡路栄光園の職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。
3. 淡路栄光園が今後も安定、継続して利用者サービスができる施設になる。
4. 地域包括ケアシステムの推進とともに、地域の方々に貢献できる施設になる。

【事業・運営計画】

1. 淡路栄光園の利用者が安心して、より快適に暮らせる施設になる。
 - (ア) 新たに 1 階・2 階それぞれにリフト浴を導入設置した。要介護状態に合わせた安全な入浴介助を実施することが可能となった。入浴にて身体を清潔に保つことができたことで、2021 年度 8 件発生した蜂窩織炎での入院数が 3 件に減少した。
 - (イ) 食堂と居室の照明を LED 化した。明るさが精神面にも影響を及ぼすことは医学的にも解明されており、明るい空間で過ごすことで利用者が心穏やかに生活できていると実感する。
 - (ウ) 新型コロナ感染拡大の影響により地域行事への参加はできなかった。感染対策をしたうえでも施設内で実施可能なレクリエーションを実施した。

2. 淡路栄光園の職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。

- (ア) 職員の巡視、見守り業務の負担軽減につながる見守りセンサー、インカム機器の導入に向けて検討したが機器選定までには至らず、2023 年度に繰り越しとなる。
- (イ) 家族とのコミュニケーションを促進する為のシステム（HitomeQ コネクト）を導入し、面会予約を開始した。これまで電話受付だった面会予約が簡単にできるようになり家族から好評を得ている。家族のスマートモバイル普及率も高くなっており、2023 年度は家族向け発送書類の電子化や広報紙のペーパーレス化を検討していく。
- (ウ) 看取り係を発足し、家族向けの看取りパンフレットを作成した。施設看取りへの理解を深めることができ、施設と家族が協力し看取りケアを実施することができた。

3. 淡路栄光園が今後も選ばれ続け、安定、継続して利用者サービスできる施設になる。

- (ア) ホームページ、ブログの定期更新ができなかった。スマートモバイルを活用した広報・営業についても 2023 年度に繰り越しとなる。事業部全体で開催する HitomeQ コネクト会議に参加し法人内入所施設と連携し施設入所のインターネット申込みについて協議を重ねた。2023 年度に本格運用できるよう準備を進めることはできた。
- (イ) 利用者のサービス向上のために短期入所個別リハ加算、栄養マネジメント強化加算、生活機能向上連携加算の算定を検討したが、人員体制が整わず 2023 年度に繰り越しとなる。
- (ウ) BCP 計画が作成完了。非常時の事業継続を目的に非常用発電機の更新も実施した。

4. 地域包括ケアシステムの推進ともに、地域の方々に貢献できる施設になる。

- (ア) デイサービスセンター淡路にて、地域の祭りへの参加、移動販売車の受入を実施した。2023 年度はコロナ禍にはできなかった利用者と地域との直接交流を具体的に検討し、地域とのつながりを実感できるよう取り組んでいく。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 兵庫県認定地域サポート型施設の活動として、岩屋地域の高齢者見守り活動を実施した。
- (イ) 淡路市消防防災課と共同し福祉避難所開設訓練を実施した。災害時に要配慮者の避難受け入れがスムーズに行えるよう地域関係者と訓練することができた。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60 名	19 名	18 名	
利用者延べ数	21,816 人	6,383 人	3,680 人	368 人
一日平均利用者数	59.7 人	17.5 人	11.9 人	1.2 人
稼働率	99.5%	92.1%	72.7%	
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	307 日	
単価（一人一日当り）	12,170 円	11,747 円	9,768 円	4,641 円
職員数（常勤換算）	40.6 名	5.6 名	6.6 名	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路

聖隷ケアプランセンター淡路第二

聖隷ヘルパーステーション淡路

聖隷ライフサポート津名

2022年度は当センターにおける協働体制や事業所間連携の強化を図った。これにより、介護と看護の連携や介護支援専門員の終末期ケアへの介入等、当センターの特色である医療依存度の高い利用者への対応を職種間で情報共有し協働することができるようになった。しかし、人材の確保が困難であった為、丁寧な対応ができる職員の育成が不十分で今後の課題となっている。

当地域は最期迄自宅で暮らし続けたいと希望される方が増加している。その為、今後も聖隷淡路病院やエリア内関連機関と連携し利用者が望む「暮らし」の支援を強化していく。

【事業・運営計画】

1. 利用者に応じた支援が適切に提供できる。

- (ア) 多職種で行う事例検討会を定期的に行い、利用者を通じた協働の検討を行った。
- (イ) 職場会で利用者支援についての評価を行い、ケアの統一化を図った。
- (ウ) 聖隷淡路病院で看取りのカンファレンス等を多職種で実施し、対応の検証等を行った。
- (エ) リスク・苦情・ハラスメント事例をセンター全体で共有し、解決策を業務に反映した。

2. 必要な情報のデジタル化と業務のスリム化を図る。

- (ア) エリア内事業所間で WINCARE 掲示板を用いた利用者情報共有を図った。
- (イ) ZEST・けあピアノートの更なる活用で業務の省力化を図った。
- (ウ) 不要なデータ文書破棄やペーパーレス化は不十分で今後も継続する。
- (エ) タブレット等の活用で記録時間削減に向けた取り組みを行った。
- (オ) 聖隷淡路病院とケアセンターを結んだ Web 会議を実施可能とし、研修参加も増加した。

3. 人材の確保と育成の強化

- (ア) 丁寧な利用者対応に向けた同行訪問が、職員不足にて実施できなかった。
- (ウ) やりがいにつながる支援の検証の具体策が不十分で実施が困難であった。
- (エ) 職員の私的時間充実や、業務負担感の軽減等の解決が十分図れなかった。
- (オ) エリア内研修や会議等、人事交流の機会に参加することはできた。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 市内訪問看護事業所が集い事例検討会を行った。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

月平均訪問件数		年間訪問件数		単価		職員数 (常勤換算)
医療	介護	医療	介護	医療	介護	20.7 名
236.8 件	768.5 件	2,842 件	9,222 件	11,410 円	9,945 円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路第二）

月平均請求件数		年間請求件数		単価		職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防	介護	予防	3.7 名
99.5 件	19.8 件	1,195 件	238 件	16,628 円	5,011 円	

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害（自立支援）		障害（移動支援）	
年間訪問 件数	単価	年間訪問 件数	単価	年間訪問 件数	単価	年間訪問 件数	単価
11,184 件	4,104 円	1,447 件	2,811 円	3,475 件	4,460 円	58 件	4,220 円
職員数（常勤換算）				7.0 名			

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

利用定員	介護給付		予防給付	
25 名	延べ利用者数	4,528 名	延べ利用者数	2,162 名
稼働日数	1 日平均数	17.7 名	1 日平均数	8.5 名
255 日	単価（1 人 1 日）	7,298 円	単価（1 人 1 日）	5,016 円
職員数（常勤換算）			9.0 名	

聖隷こども園夢舞台

保育の連続性や一人ひとりの子どもの特性などを意識することの大切さを職員へ投げかけていくことで、相談や具体的ななかかわり方を考え、実践していく姿が増えていったように思う。子どもを中心にした保育の考え方は、定着しつつあるように感じる場面も多々あった。

また、特性をもつ子どもも多い現状の中、園での子どもの姿を保護者に具体的に伝え、一緒に考えていける関係づくりも積極的に行うことができた。

1. 入所状況

4月に新入園児、0歳児1名、1歳児5名、2歳児6名、3歳児6名、4歳児2名の20名を迎え計123名でスタートし、3月までに133名の児童数となった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア)保育内容

① 統合保育の実践

障がい児は、5歳児1名、4歳児3名 3歳児1名（療育手帳5名）であった。

発達が気になる児は、5歳児3名、4歳児2名、3歳児2名、2歳児1名、（市の巡回相談にかかっている児）が在籍となった。また、極度に偏食のある子どもや、イメージする力、理解力が幼い子どもなど特徴のある子どもも数名いる。淡路市の巡回指導、発達心理相談、保健師より対応について助言・指導を受け、他機関と連携をしながら進めていった。また、保護者に園での子どもの姿を伝えることを意識し、面談なども随時行った。

② 交流

中学生との交流は、トライアルでの受け入れに留まってしまったが、小学校とは、学校訪問や和太鼓鑑賞なども行うことができた。また、就学に向けての引継ぎは3校とも園へ訪問して下さり、子どもの姿を丁寧にお伝えすることができた。

(イ)地域ニーズに対応

① 延長保育

地域の特性上、18:00～19:00の延長保育を利用する児童は平均7名ほどであった。感染症の拡大を抑えるため、合同保育の時間をできる限り遅くし、配慮をした。

② 一時預かり

年間延べ利用者数は66名となった。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、一時保育の利用が極端に減少するが、途中入園児の慣らし保育を一時保育利用で対応するなど臨機応変に行った。

③ 病後児保育

登録児童数（在園児18名、他園児43名 新規登録者17名）、受け入れ実績は3名であった。市内の子育てセンターに毎月「ほけんだより」を配布し、病後児保育事業の案内は、淡路エリアの聖隷施設にも置いて頂くようにした。

④ 子育て支援

園庭開放やプログラムを通して、地域の子育て家庭の交流の場となり、園庭開放の参加から入園に繋がったケースも数件あった。

(ウ)職員研修

宝塚の3保育園が主催する「あゆみ合同研修会」に、WEBで参加をした。宝塚保育学会や淡路エリア福祉研究発表会での発表も、積極的に参加の意志表示があり自分達の学びを発表することへの意識がより高まった。また、年度末研修では、浜松・磐田・奄美・宝塚・淡路地区がWEBで同じ研修を受けることができた。

3. 地域における公益的な取組

- (ア)トライやるウィークでは、中学生の職場体験実習として6名の受け入れを行った。教育・保育実習生の受け入れは、3名、あわじ特別支援学校からも1名行った。
岩屋地域のハピくる祭りは、5歳児のダンス映像で参加をする形を初めてとった。

【数値実績】

① 歳児別入所児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	1	2	3	4	4	4	3	4	4	4	4	5	42	3.5
1歳児	10	10	12	12	12	13	14	13	14	14	12	12	148	12.3
2歳児	24	24	24	24	24	24	23	23	23	24	24	24	285	23.7
3歳児	17	17	19	20	19	19	19	19	19	19	20	19	226	18.8
4歳児	37	37	38	39	39	39	39	39	39	39	39	39	463	38.5
5歳児	34	34	34	34	34	35	35	35	35	35	34	34	413	34.4
合計	123	124	130	133	132	134	133	133	134	135	133	133	1577	131.4

② 保育日数及び出席状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延人数	3075	2852	3380	3325	3432	3216	3325	3192	3216	3105	2926	3458	38502
保育日	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	293
日平均	123	124	130	133	132	134	133	133	134	135	133	133	1577
一時預り	17	20	7	1	0	6	1	7	3	0	3	1	66
一号預り	0	0	5	0	1	10	5	12	16	18	29	24	120
延長保育	155	170	198	174	164	153	203	203	197	168	164	268	2217
病後児保育	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
保育教諭(パ)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
保育補助	3	3	3	3	3	4	4	4	3	3	4	4
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	30	30	30	30	30	31	31	31	30	30	31	31

野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ にじっこくらぶ（放課後児童クラブ）

家庭との連携や園理解につながることを視野に入れ、乳児クラスの連絡帳で週1回クラス配信を取り入れ、園だよりで職員の様子を掲載するなど園の様子が楽しめるよう見える化を試みた。行事への参加率は良く関心の高さが伺えるが、新型コロナウイルス感染症への園の対応について十分な理解を得られない場面もあった為、開催方法を検討しながら行事の意図を伝えていきたい。

乳児クラスでは常に粗大あそびができる空間を設置し、職員間の連携のもと、一人一人のやりたい思いから運動能力を引き出せる環境を整えることができた。引き続き、どのような場面でもお互いに思いを伝えられる職員集団となるよう連携を含めていきたい。

1. 入所状況

4月に0歳児9名、1歳児5名、2歳児1名、3歳児1名、4歳児2名と系列園の4歳児10名、計28名の新入園を迎え106名でスタートし、定員90名に対して117.7%の入所率であった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

- ①統合保育…4歳児3名・5歳児1名が加配対象であった。精神科医や臨床心理士による年間4回の巡回指導と職員知識向上のための研修に協力を得た。2歳児では家庭から発達相談に行かれ対象児との判断であったが時期が間に合わず全体でフォローする等の配慮を行った。
- ②交流…同法人の2つのデイサービスを含め、他施設と花の日や収穫感謝祭の訪問で交流を図った。のがみっこくらぶとはなつまつりごっこやハロウィン仮装披露等に関わった。
- ③保護者に向けて…クラス懇談会では適切な空間を確保しながら保護者間の距離が縮まり親近感が持てるよう、保護者の話を中心に進めるようにした。クリスマス祝会は、2歳児クラスも場所の使い方や参加人数等協力の中、開催することができ、2023年度に繋げられた。
- ④動植物…育てる植物をクラスで決め土作りから野菜栽培を楽しんだ。保護者へは菌糸ビンで飼育するクワガタムシやカブトムシ、アゲハ蝶の幼虫を園内に置いて興味を引き出した。
- ⑤防災…園内研修グループから防災への関心が高まり、係りを設置し、防災委員会を通してマニュアルの見直し等を進めていった。

（イ）地域のニーズに対応

- ①一時保育…ニーズは多く問い合わせも多数あり、随時登録の面接を実施し対応した。コロナ禍で保育を自粛する期間もあったが、利用数は増えていった。
- ②延長保育…18時16分～19時が平均7名の申請があったが、全体的に早い迎えであった。
- ③行政との連携…課題を抱える家庭に対して、兄弟児の学校の相談に家庭児童相談室と共にケース会議に参加し対応について検討した。継続的に見守りが必要な家庭には行政と定期的な情報交換をしつつ、園での見守りや声掛けを意識して対応した。

（ウ）職員研修

- ①年2回（9月3月）あゆみ合同研修と年度末研修にWeb参加した。
- ②第9回宝塚保育学会は、1月に開催することで取り組む期間が十分に持てた。3年ぶりに対面で開催し他園の考えをその場で聞ける等リアルタイムで成果を感じられた。また、園内

研修として「SDG s」「病気けが」「業務改善」「わらべうた」「運動」に取り組んだ。

3. 地域における公益的な取組

(ア) 園庭開放、季節の製作、保護者向けの体験、積み木、伝統芸能・楽器を取り入れるプログラムを取り入れ、在宅子育て世帯に対して子育ての楽しさを感じられる支援を行った。

(イ) コロナ禍での育児疲れを感じている保護者や多胎児保育の家庭を一時保育で対応する等、子育て支援につなげることができた。

4. 放課後児童クラブ（のがみっこ・にじっこ）

2つのクラブ共に利用希望者が多く、定員 19 名と 25 名の合計 44 名で始まる。のがみっこクラブの児童は、ほぼ小学校育成会の待機児童であったが、待機の順番が回ってきてもそのままクラブを利用する児童がほとんどであった。対象学区を統一したため会議を一緒に行えたしながら活動内容の偏りを減らし、児童の意欲を引き出す活動を意識して提供した。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108	9.0
1 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
2 歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
3 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
4 歳児	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25	25	25	307	25.6
5 歳児	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28.0
合計	106	106	106	106	106	106	106	105	105	105	105	105	1,267	105.58

②保育日数及び出席状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ人数	1,874	1,786	2,183	1,781	1,593	1,805	2,001	1,930	1,914	1,708	1,833	2,059
保育日数	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26
一日平均	75.0	77.7	84.0	71.2	61.3	75.2	80.0	80.4	79.8	74.3	83.3	79.2
一時保育	94	81	110	79	60	91	77	113	102	97	115	108
学童保育	686	651	745	697	610	666	657	670	646	589	612	755

③職員数（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	18	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	16	14	14	15	14	14	14	13	13	13	14	13
計	37	36	36	37	36	36	36	35	35	35	36	35
調理（委託）	6	6	6	5	6	5	5	5	5	5	6	5

野上児童館

コロナ禍で行えるプログラムを検討しながらできる限り開催に努めた。支援が必要な保護者へのアプローチを行政と連携を取りながら進めて参加を促していった。児童館の「役割」や「かわり」を常に意識できるよう会議や面談等で周知しつつ、意見を言い合える職員集団を目指した。

1. 利用状況

乳幼児並びに小学生の利用は、定着し安定した来館者数はある。中高生の利用につながる方法として中学生の目を引くようなデザインのチラシを用意し毎月の利用を目指したが定着までは至らなかった。

2. 活動報告（地域における公益的な取組を含む）

（ア）乳幼児子育て支援活動

「こあら」「うさぎ」「パンダ」のグループでねらいを持ち、未就学児の親子を対象にプログラムを行った。安心して参加できる活動になるよう内容や距離感等対策を心がけた。例年しているプログラムも対応をその都度検討し開催の方法を考えていった。

（イ）小学生集団あそび支援活動

例年行う「児童館まつり」のやり方を検討し、昨年とも違う内容で行った。子どもボランティアの参加の仕方も意見を出し合い、準備の段階で利用者の協力を仰ぐことにすると、楽しんでいる姿が見られ、館内の装飾が日に日に活気づいていき1週間の予定を2週間に変更するなど好評だった。また今年度は各児童館が連携して行う大型児童館主催の事業「ミニたからづか」を3年ぶりに開催し、地域から参加申し込みもあった。自然体験では地すべり資料館に行くことで過去に起こった災害について学んだり、現在の対策を知ったりする機会となった。

（ウ）中高生の居場所づくり推進事業

中高生タイムの利用は定着とまではいかないが声を掛け合って利用する姿もある。周知が進むよう学校へチラシ配布をこまめに行うよう試みた。

（エ）実習生やボランティアの受け入れ

中学生の職業体験活動は学校が再開し、館としても受け入れた。実習生は例年通り受け入れを行った。

（オ）運営委員会の充実

運営委員会は、年間3回行った。自治会会長の交代による運営委員長の変更や中学校校長の交代等による委員変更はあったが、引き続き活発な意見交換の場となっている。

3. 職員の資質向上

職員同士で「児童館」のかかわり方をそれぞれ考えたり、伝えたりして意識を高めた。また、市主催の外部研修等に参加することでスキルが定着するよう機会を大事にした。『ミニたからづか』へ応援に行くことで、この事業を知らない職員にも大いに刺激となった。

【数値実績】

① 利用状況 本館（単位：名）

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合 計	開館日数	一日平均
4 月	272	198	37	0	507	245	752	25	30.08
5 月	260	117	3	0	380	232	612	23	26.61
6 月	401	136	4	0	541	350	891	26	34.27
7 月	374	289	14	4	681	336	1,017	25	40.68
8 月	318	361	17	0	696	278	974	26	37.46
9 月	354	244	10	2	610	321	931	24	38.79
10 月	392	220	11	0	623	348	971	25	38.84
11 月	321	132	1	0	454	290	744	24	31.00
12 月	266	160	13	0	439	241	680	24	28.33
1 月	262	114	0	0	376	242	618	23	26.87
2 月	277	66	0	0	343	237	580	22	26.36
3 月	501	260	7	2	770	324	1,094	26	42.08
計	3,998	2,297	117	8	6,420	3,444	9,864	293	33.67

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、消毒対応等閉館時間有り

② 利用状況 出前児童館（単位：名）

	常設 型				派遣 型				イベント型
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
4 月	8	56	0	47	0	0	0	0	0
5 月	6	43	0	36	0	0	0	0	0
6 月	9	88	0	83	0	0	0	0	0
7 月	8	58	0	60	0	0	0	0	0
8 月	7	47	1	44	0	0	0	0	0
9 月	8	78	1	71	0	0	0	0	0
10 月	8	75	0	63	0	0	0	0	0
11 月	7	60	0	54	0	0	0	0	0
12 月	8	65	1	59	1	0	144	0	0
1 月	6	54	0	49	0	0	0	0	0
2 月	7	54	1	55	0	0	0	0	0
3 月	8	71	0	69	1	0	111	0	0
計	90	749	4	690	2	0	255	0	0

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、常設型は消毒対応等閉館時間有り、派遣型は1校2回のみの開催

逆瀬川あゆみ保育園

新型コロナウイルス感染症の影響も随分薄れ、日常が戻りつつある 1 年であった。行事も少しずつ実施し、なつまつりは日常の活動として子ども達のみで「なつまつりごっこ」を行った。子ども達の姿から、やりとりをする喜びやまつりの雰囲気を身近に感じとったように思う。2023 年度以降も保育の中で、ごっこ遊びとして継続していきたい。

また、2022 年度は危機管理にしっかり取り組んだ 1 年となった。4 月に誤嚥窒息・突然死の資料や動画を活用して園内研修を行った。実際に起こった子どもの事故の報告書を使って自園が取り組めることを考えディスカッションを実施した。午睡チェックの記録の見直しを行い、確実にチェック出来るようにしたことで、職員の危機意識の向上に繋がった。

1. 入所状況

4 月に新入園児 0 歳児 10 名、1 歳児 2 名を迎え、計 51 名でスタートした。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容など

①統合保育

3 歳児クラス、2 名に加配担当者 1 名を配置し、コミュニケーションが苦手な児の仲介をし、想いを代弁し、友だちとの交流の手助けをした。積み重ねることで語彙が増えコミュニケーション能力が非常に高まった。保護者と毎月面談を行い、想いを受け止めるようにした。

②防災・危機管理

乳児の誤嚥・窒息、園児の取り残し、水の事故などについて、動画や資料を用いて園内研修を行った。特に誤嚥窒息は実際に起こった事故の報告書を用いて（パンによる窒息）窒息の起こる仕組みを知り、食事の食べさせ方などを職員自らが考えることで危機意識を高めた。また、様々な場面を想定し避難訓練を行い、避難時に通る場所や出口の確認や振り返りをその都度行った。

③食育

3 歳児は、新型コロナウイルス感染症によりクッキングの自粛を行ったが、年度の後半は感染予防に努めながら野菜や果物の形や色、香りや感触を確かめる体験（りんごの食べ比べ等）をし、季節を感じることができた。園庭で育てた野菜を調理し食べてみる、春の七草を実際に見て触ってみてから七草粥を食べる体験をした。

(イ) 保育ニーズに対応

①延長保育

18 時 15 分～19 時の延長保育を行った。延長登録児は 1 名。在宅ワークがあり、0 名の日が続いた。

②一時保育

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数は少なかった。年度の後半は少しずつ面接も行い、利用人数を増やしていったが、利用児の中には、言語発達の遅れや、コミュニケ

ーションがとりづらい児が多数いた為、児の状況に合わせた保育が必要となり、結果的に大幅な利用増にはならなかった。

(ウ) 地域における公益的な取組

①毎年、中学生体験活動「トライやるウィーク」として市内２校の中学２年生を、受け入れていたが 2022 年度は希望者が無かった。保育実習生は３名を受け入れた。

②室内開放・園庭開放を行なった。室内開放時に足育、看護師や栄養士相談も入れ込み保護者支援を行った。前半は利用人数が少なかったが段々と増え、後半になると予約申し込みの日に電話が殺到し、すぐに予約が埋まってしまう状況だった。

(エ) 保育室環境の改善、施設整備

予めから保護者の希望のあった自転車置き場にテントを設置し、夕刻の暗い時間帯に人感センサーにより点灯するライトをつけた。また、老朽化していた昼寝用ベッドをすべて買い替えた。給食室に、０歳児りんご加熱用の電子レンジを設置した。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	10	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	142	11.8
1 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
2 歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156	13.0
3 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
合計	51	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	53	634	52.8

② 保育日数及び

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ人数	869	803	1,046	873	835	842	950	878	865	833	888	1,012
保育日数	25	23	26	25	25	24	25	24	24	23	22	26
1 日平均	34.7	34.9	40.2	34.9	33.4	35.0	38.0	36.5	36.0	36.2	40.3	38.9
一時保育	26	21	40	34	35	32	26	41	24	19	32	32

③ 職員の状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3
パート	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
計	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	32
調理（委託）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

御殿山あゆみ保育園

2022 年度も感染症対応に追われた一年であった。クリスマス祝会の時期にコロナ感染が広がり行事の延期を余儀なくされたが、保護者の理解も得られ、園全体としても落ち着いて対応した。状況の変化に慌てることなく、今まで通り子どもたちにとって何が大切かを考えながら保育することができた。一年を通して子ども主体の保育を実践し、行事にもつなげた。0 歳児の定員を 15 名から 9 名に変更し、これまで以上に子どもの生活リズムに合わせた保育を実践することができた。1 歳児は進級児と新入園児の生活を分けて保育を行ったため、それぞれの生活が守られて過ごすことが出来た。開園して 20 年が経ち、修繕が必要な所が出ているため計画的に進めていくことが今後の課題である。

1. 入所状況

4 月に 27 名の新入園児を迎え、計 129 名（緊急枠含む）でスタート。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

(ア) 保育内容

①統合保育

特別支援児は、5 歳児クラスに 3 名、4 歳児クラスに 2 名、2 歳児クラスに 2 名が在籍した。年 2 回の専門医による巡回指導を受け、専門機関と連携を取ることができた。また、保護者との面談も定期的に行い、コミュニケーションを図った。発達心理相談員による年 2 回の巡回指導により、困惑する事が多い子どもの対応について助言を受けた。講義にも参加し、内容は全職員に周知した。月に 1 度ケース会議を実施し、状況の共有を行った。

②危機管理

危機管理委員会を月に 1 回行い、ヒヤリハットや危険個所の検証、職員への周知、など様々な取り組みを行い職員の意識向上に努めた。

③食育

季節ごとに旬の食材を給食で提供し、自分たちで育てた野菜に触れたり、食べたりすることで、食物への関心が高まった。幼児クラスは、ぶどう、みかんの果物を品種ごとに食べ比べし、SDGs の取り組みとして、みかんの皮やコーヒー殻等を染色する体験を行った。

(イ) 地域のニーズに対応

①延長保育

18 時 16 分～19 時の延長保育を行い、登録者は 5 名。リモートワークの家庭もあり、全体的に迎えの時間が早くなっており、延長時間までに迎えに来る家庭が増えている。

②子育て支援

室内開放、園庭開放、子育て講演会、保育士とあそぼう、給食相談会、離乳食相談会年 6 回、看護師によるミニミニ講座 12 回や子育て相談を行った。開放に参加し、在宅保護者の悩みやニーズを聴く機会を設けた。子育て支援は、延べ 810 名の参加があった。

(ウ) 保育環境の改善、施設整備

園庭を出来る限り職員が整備し、子どもの遊びが広がるような工夫をした。4、5 歳児クラスのトイレを温便座に変更。各保育室は発達に合わせた定期的な保育環境の見直しを行った。

(エ) 職員研修

園内研修は、わらべうたを行い、理論を学びながら実践的な研修を受けた。「第9回宝塚保育学会」に参加し、研究グループごとに学会や園内で発表した。リモートで外部研修へ多数参加し、足育の講師を招いて子どもの足についても学びを深めた。

3. 公益的な取り組み

大学生の保育実習を2名、高校生ボランティアは1名、中学生の職業体験（トライやるウィーク）に4名を受け入れた。地域の乳幼児親子と園児数名が子育て支援プログラムに参加し、数回交流の場を持った。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	6	6	6	8	9	9	9	9	9	9	9	9	98	8.2
1歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
2歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
3歳児	24	24	24	24	24	24	25	25	25	25	25	25	294	24.5
4歳児	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	299	24.9
5歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
合計	129	130	130	132	133	133	134	134	134	134	134	134	1,591	132.6

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2,318	2,153	2,555	2,079	1,819	2,231	2,520	2,402	2,161	2,059	2,119	2,495
保育日数	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26
一日平均	92.7	93.6	98.3	83.2	70.0	93.0	101.6	100.1	90.0	89.5	96.3	96.0
一時保育	46	54	50	73	53	56	73	87	80	63	82	103

③ 職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	18	18	18	18	18	17	16	16	16	16	16	16
計	39	39	39	39	39	38	37	37	37	37	37	3
調理(委託)	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7

御殿山児童館

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中での運営ではあったが、様々なプログラムを時代に合った形で実施することができた。来館者も徐々に増え始め、児童館を安心して過ごせる居場所としての役割を担うことができた。乳幼児のプログラムではコロナ禍でずっと家にこもっていた保護者の不安や悩み、子育ての大変さを皆で共感し、仲間づくりを行い、事業に取り組むことができた。

児童健全育成プログラムでは、徐々にプログラムを再開、様々な体験が出来る様に、工夫し展開していった。また、異学年交流や、仲間作り、自主性を育て、児童健全育成に貢献した。児童館に来館する小学生も増え、人数制限で思うように遊べないこともあったが、安心して過ごせる居場所を作ることができた。

年長児童健全育成プログラムでは、“サードプレイス”として児童館を第3の居場所としてもらえるように働きかけた。毎週木曜日に行っている「中高生タイム」では、学校が異なる先輩と後輩が仲良くなり、受験や進路の話、学校の話などで仲間づくりを行った。来館する中高生が楽しかったと思える居場所を作ることができた。

【事業・運営状況】

1. 地域との連帯の強化

(ア) 地域との関わりを深め、協力体制をとれるよう地域の会議に参加し、児童館での利用者の様子や気になる親子・児童についての情報の共有と連携に努めた。

2. サービスの質の向上

(ア) 来館者が安心して遊ぶことのできるよう、感染防止対策を講じ、環境作りを考えた。また安全管理と事故等、有事の際に備え新規利用者は緊急連絡先等を登録し、管理を行った。

(イ) 乳幼児親子を対象とした子育て支援プログラムは、より成長に合わせたプログラム内容とし、発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育ち」を支援した。

(ウ) 小学生を対象にした集団あそび支援プログラムについては、距離がとれる遊び、屋外での遊びなど、感染防止対策を意識した内容の充実を図り、仲間作りを行った。

(エ) 中高生を対象にした居場所づくり推進事業では、毎週1回開館時間を延長して行った。

(オ) 出前児童館事業として、児童館が近隣にない地域に出向き、地域住民のより身近な居場所作りと、地域の子育て力の向上に繋がる、遊びのノウハウの提供や安全管理の指導を行った。

(カ) 利用者の声をより集められるように意見箱を設置した。寄せられた意見は職員会議等で共有し、検討が必要な案件は話し合いをして対応した。

3. 職員の資質向上

(ア) 宝塚市児童館交流研修に参加し、技術や実施プログラムの内容の向上に努めた。

(イ) 児童館事業に携わる職員全員が同じ方向性で取り組んでいけるように、月 1 回の職員会議や担当（乳幼児・小学生・中高生・出前）ごとの部会を行い、話し合いの機会を持った。

4. 公益的な取り組み

(ア) 聖和短期大学、2 名の保育実習を受け入れた。

【数値実績】

①延利用者数

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	他大人	大人計	合 計	開館日数	一日平均
4 月	842	577	105	15	1,539	156	437	1,976	25	79.04
5 月	699	471	31	12	1,213	138	389	1,602	23	69.65
6 月	659	549	57	17	1,282	81	454	1,736	26	66.77
7 月	433	1,061	105	22	1,621	38	376	1,997	25	79.88
8 月	399	979	76	25	1,479	41	364	1,843	26	70.88
9 月	990	510	55	13	1,568	130	634	2,202	24	91.75
10 月	979	414	97	5	1,495	153	545	2,040	25	81.60
11 月	810	445	72	5	1,332	122	477	1,809	24	75.38
12 月	814	462	105	9	1,390	124	460	1,850	23	80.43
1 月	770	379	54	5	1,208	103	466	1,674	23	72.78
2 月	888	327	35	2	1,252	118	516	1,768	22	80.36
3 月	1,051	575	60	11	1,697	169	624	2,321	26	89.27
計	9,334	6,749	852	141	17,076	1,373	5,742	22,818	292	78.14

②出前児童館回数・利用者数

	常 設 型				派 遣 型				イベント
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
4 月	8	58	0	49	3	7	0	7	0
5 月	7	44	0	43	4	9	65	14	0
6 月	8	70	0	68	6	14	110	15	0
7 月	7	51	0	49	4	0	79	0	0
8 月	8	43	0	38	3	4	1	4	0
9 月	7	71	0	65	5	6	107	5	0
10 月	8	80	0	71	5	4	122	5	0
11 月	8	76	0	70	4	6	131	5	0
12 月	8	104	0	90	6	9	117	8	0
1 月	6	63	0	55	4	2	61	2	0
2 月	8	91	0	84	5	3	105	3	0
3 月	7	79	0	68	4	4	50	3	0
計	90	830	0	750	50	61	948	64	0

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園 デイサービス ホームヘルプ事業所

訪問入浴事業所 在宅介護支援センター 春日デイサービス

聖隷チャレンジ工房カナン

2022 年度は新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延し、職員も感染等により勤務体制が厳しい状況の中、サービスを停止することなく事業継続できたことは、利用者等の協力や職員の努力の賜物と考える。

また、離島の交通手段が厳しい条件のもと、サービスの質の向上のために、介護・看護職員のイーラーニング研修、安全な移動介護の手技徹底のための勉強会の実施や、ノーリフトケア（抱えない移動方法）の実践を行った。また、ICT 記録システム HIMVIT の実装や島内初となる特殊シャワー浴導入により、人材確保が厳しい中、介護サービスの質の維持・向上しながら職員の負担軽減に努めた。

2023 年度は安心・安全なサービス提供を更に高めるために、ICT 等見守り機器導入を実施し、既存事業の強化を図り、地域にとって欠かすことのできない福祉拠点となることを目指す。

【事業実績】

1. 利用者の満足向上の取り組みとして

- (ア) 感染症が発生する中、感染対策の徹底・事業継続計画を実施し、介護・障害福祉・地域福祉サービスが途切れることがないように努めた。
- (イ) 利用者の安全を目的とした移動介護の技術向上のために研修を実施した。また、特殊シャワー浴槽導入やリフト機器等を活用し、安全なサービスの提供へ努めた。
- (ウ) 認定特定行為業務従事認定者 5 名増員し、夜間帯においても喀痰吸引等への体制整備を強化した。
- (エ) ACP 研修を実施し、最期まで利用者がその人らしく過ごすことができるよう、ご家族と共に看取り介護の実践や、生き甲斐づくりに努めた。

2. 職員の満足向上のための取組として

- (ア) 聖隷チャレンジ工房カナンに定時の消毒作業及び、衛生物品管理業務を委託し、介護業務の負担軽減に努めた。
- (イ) 介護・看護職員の基本的技術の確認や知識向上を目的としたイーラーニング研修を実施した。またキャリアラダーに基づく目標管理を実施し、専門性の向上に努めた。
- (ウ) 記録システム機器導入により、記録やバイタル測定に要する時間を短縮し、介護に不慣れな職員への技術指導や技術向上に向けた OJT 等の取り組みを開始した。

3. 事業の成長と安定した経営基盤の構築として

- (ア) 入所者の健康管理及び職員個々の感染対策の徹底を管理するとともに、協力歯科医院と共に口腔ケアを実施し、誤嚥性肺炎等の入院防止に努めた。
- (イ) 感染症に不安を持つ利用者に対し、安心したサービスが利用できるよう連絡や訪問を実施・調整し、利用日振替や利用継続につなげ健全経営に努めた。

(ウ) 夜間帯に認定特定行為業務従事認定者を配置し、利用者へのサービスを高めるとともに、夜勤職員配置加算Ⅲを算定開始した。

4. 地域における公益的な取組として

(ア) 地域住民に福祉拠点施設の経験や機能を活かし、介護者勉強会の開催、認知症高齢者の徘徊等を想定した行方不明捜索訓練を実施した。

(イ) 津波警報発令時に備え、高台にある奄美佳南園に避難者受入れができるよう、受け入れ支援の体制整備や炊き出し訓練を実施し、災害時の備えに努めた。

【数値指標】

	特養		短期入所		奄美佳南園デイサービス		
	従来型	ユニット	介護	障害	介護	予防	障害
利用者定員	50名	30名	10名		18名		
利用者延べ数	17,243名	10,794名	3,663名	101名	2,863名	152名	531名
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	308日	308日	308日
一日平均利用者数	47.24名	29.57名	10.04名	0.28名	9.30名	0.49名	1.72名
稼働率	94.48%	98.58%	100.36%	2.77%	51.64%	2.74%	9.58%
単価(1人1日当り)	12,797円	15,207円	11,950円	13,659円	11,949円	9,326円	5,446円
職員数(常勤換算)	32.4名	19.6名	4.9名		9.3名		
	春日デイサービス		訪問入浴介護		ホームヘルプ		訪問給食
	介護	予防	介護	障害	介護	障害	
利用者定員	18名		—	—	—	—	—
利用者延べ数	2,903名	1,408名	403名	123名	4,605名	163名	13,693名
稼働延日数	306日	306日	260日	260日	365日	365日	365日
一日平均利用者数	9.44名	4.57名	1.55名	0.47名	12.14名	0.48名	37.52名
稼働率	52.44%	25.39%	—	—	—	—	—
単価(1人1日当り)	9,909円	6,206円	16,794円	14,162円	4,824円	3,697円	800円
職員数(常勤換算)	5.4名		2.5名		5.5名		2.7名
	ケアプラン		就労支援		在宅介護	一時生活	合計
	介護	予防	移行支援	継続B	支援	支援	
利用者定員	—	—	6名	14名	—	—	—
利用者延べ数	779名	120名	638名	3,991名	1,447名	232名	—
稼働延日数	232日	232日	294日	294日	237日	365日	—
一日平均利用者数	3.36名	0.52名	2.19名	13.88名	6.11名	0.63名	—
稼働率	—	—	36.49%	99.14%	—	—	—
単価(1人1日当り)	14,560円	4,158円	10,574円	10,294円	—	6,873円	—
職員数(常勤換算)	2.0名		8.6名		1.5名	—	94.4名

春日保育園

2022 年度は乳児、幼児ともに 125 名の受け入れが出来た。0・1 歳児の途中入園受け入れを積極的に行い安定した運営につながった事は職員一人ひとりの努力の賜物である。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも子どもたちの安全を確保し、育ちを保障するため保育に精進してきた。集団生活の場であること、子どもたちや保護者、職員の安全を守る上で、保護者に園の感染対応ルールを理解・協力を得ることは必要不可欠である。保護者のご理解により継続した感染対策を行いながら、園と家庭が連携し行事等進めることができた実感する。

また、子どもたち一人ひとりに対し丁寧な保育、支援に努めた。子どもたちの「主体性」を意識した保育環境の整備を重点対策として取り組んできた。自ら遊びを選択出来る遊具配置や視覚支援でわかりやすく提示するなど職員自身も考え取り組む事ができた。今後も子どもたちの「最善の利益」を考え、発達や年齢にあった遊びの保障、環境作り、保育内容の充実を図る。

【入所状況】

年間平均入所率は 100.5%（前年 102.5%）である。4 月当初 113 名（うち新入児 21 名）から受け入れを開始し、年度途中入園 12 名である。

1. 保育園の機能強化と専門性の向上

- （ア）聖隷福祉事業団の理念、職員行動指針、園の施設理念を日々確認しながら、職員一人ひとりが個々の目標を見出すとともに発達にあわせた丁寧な保育、支援に努めた。
- （イ）保護者とのコミュニケーションツールとして、ICT を活用し日々の様子を配信することができた。子どもの育ちを共有することにつながった。
- （ウ）奄美福祉学会に向けた取り組みを継続した。職員全体で研究を進め、保育環境の大切さを学び取り組むことができた。
- （エ）親子教室を継続的に取り組む中で、保護者同士のつながりが生まれ、保護者の意識、声かけも変わり子どもと共に成長する姿が見られた。

2. 統合保育の実施と専門機関との連携

- （ア）地域の児童発達支援事業所を利用する子どもたち（14 名）を積極的に受け入れると同時に、個別支援計画を立案しそれに沿った保育を実践した。職員配置により加算が取得できた。
- （イ）クラスの枠にとらわれず園全体で支援の必要な園児の情報共有を行い、共通した関わりを意識した保育を提供することができた。

3. 地域における公益的な取組

- （ア）地域向け広報誌を毎月作成し、子育て等に関する情報発信・提供を行った。
- （イ）感染予防対策を行いながら、中高生の職場体験（3 校 10 名）やボランティア（2 名）を受け入れ、次世代育成の取り組みを実施した。
- （ウ）地域の新川祭りに賛同し、こいのぼり制作の実施、提供をした。

4. 施設整備、保育室環境作り

- (ア) シロアリによる保育室・廊下の腐食が発生した為、床の張り替え工事を実施した。
今後も建物の老朽化は進行する為、計画的に修繕範囲、スケジュール調整を行い、
対処していく。
- (イ) 子どもが自分で遊びを選択できるよう遊具配置を工夫する等保育室の環境作りに
努めた。

【経営実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳	8	10	11	11	11	12	13	13	13	13	14	14	143	11.9
1歳	12	14	14	14	14	14	14	14	16	17	17	17	177	14.75
2歳	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	287	23.9
3歳	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	228	19
4歳	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28
5歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276	23
計	113	118	119	119	119	120	121	121	123	124	125	125	1447	120.5

② 保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ数	2193	1977	2170	1882	1436	2056	2376	2352	2108	2148	2088	2404
保育日数	23	23	24	23	26	24	25	24	23	23	22	26
一日平均	95.3	85.9	90	81.8	55.2	85.6	95	98	91.6	93.4	94.9	92.5

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正.パ)	19.3	19.3	19.3	18.8	18.8	18.3	18.3	17.7	17.7	17.7	17.7	17.7
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	2.3	2.3	2.3	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	3.1	3.1	3.1	3.1
看護師(パ)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
保育補助(パ)	2	2.5	2.5	2.5	2.5	1.5	1.5	1.5	2.1	2.1	2.7	2.7
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計(換算数)	27.1	27.6	27.6	27.2	27.2	26.1	26.1	25.5	26.8	26.8	27.4	27.4

のぞみ園

児童発達支援センター
放課後等デイサービス
相談支援

2022年度は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を大きく受けた1年であったが、通所による発達支援、地域の子育て支援、待機児童解消の取り組みなどを行うと同時に、働き方改革の一環として超過勤務削減にも取り組んだ。

また、オンライン環境を活用した定期的な研修会を外部専門家と連携して実施することができた。このことは、職員の資質向上と保護者が学ぶ機会にもつながる取り組みとなった。

2023年度は、これから求められる児童発達支援センターの機能と役割を念頭に、利用ニーズに即した事業内容を改めて見直し、地域課題の解決に積極的に関与できるように事業を推し進めていく。この取り組みを通して、地域の子育て支援と障害児支援の中核を担う福祉施設としての事業価値を更に高めていく。

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化

- (ア) 感染症の拡大により児童発達支援事業の利用控えが多くでたが、待機児童の受入れ調整や一人当たりの利用日数の見直しなど、利用者のニーズに即してタイムリーな調整を行うと同時に、優先順位をつけた支出調整を行うことで安定した経営状態を維持することができた。
- (イ) 鹿児島大学助教授と業務委託契約を結び、成長段階に応じた発達相談や地域、保護者、職員向け研修会の開催などを実施することができた。
- (ウ) 保護者との連絡にソーシャルネットワークサービスを活用し、タイムリーに保護者と連絡が取りあえる体制作りに取り組んだ。
- (エ) 保護者会と密な連携を取りながら、コロナ禍における親子活動や交流をどのような形で行うか様々な検討を行い、勉強会や防災研修などを合同で実施することができた。ペアレントプログラムについては、開催予定月の感染拡大により実施することができなかった。
- (オ) 将来の福祉人材の学ぶ機会や福祉の職場を知る機会として、感染症対策を徹底しながら可能な限り福祉実習の受け入れを行うことができた（奄美看護福祉専門学校:28名・鹿児島女子短期大学:3名・中学校の職場体験:2名・幼稚園教諭資質向上実習:1名）

2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み

- (ア) オンライン研修の受講を積極的に推進し、個人のキャリアアップだけでなく、加算取得や事業に必須の資格取得支援を計画的に進めることができた。（児童発達支援管理責任者研修1名・強度行動障害支援者養成研修：3名・医療的ケア児等コーディネーター養成研修1名）
- (イ) SDGS委員会を立ち上げ、毎月の努力目標を掲げ事業所全体で意識啓発に取り組むと同

時に、「古着でワクチン」の取組みに賛同し、いらなくなった衣類の回収と寄付を行った。

- (ウ) 働き方改革として超過勤務 7%削減（2021 年度比）の目標を掲げ、業務の見直しと毎月の超過勤務状況の把握と周知、ノー残業ダイの呼びかけなどを実施し 14%削減を達成することができた。

3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みと公益的な取り組み

- (ア) 公益的な取り組みとして、のぞみ園独自の地域向け親子教室を無料で開催し、地域の子育て支援や、保護者の「気づき」へのアプローチを行い、早期療育支援へつなげることができた。
- (イ) 保護者会と合同でワークショップ形式の防災研修や非常食の試食会を開催することができたと同時に、「自然災害発生時における業務継続計画」を作成した。

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援
利用者定員	25 名		20 名	
利用者延べ人数	5,638 名	36 名	4,610 名	518 名
一日平均利用者	23.59 名	0.15 名	19.29 名	2.1 名
稼働率	94.4%		96.5%	
稼働日数（延べ）	239 日		239 日	
単価（一人 1 日当り）	14,038 円	18,278 円	7,052 円	19,958 円
職員数	18.2 名	0.7 名	6.9 名	3.2 名

聖隷かがやき

児童発達支援センター

(児童発達支援・保育所等訪問支援・障害児相談支援)

放課後等デイサービス

2022年度は「早期療育」に対する理解促進の取り組みとして、児童発達支援では公開療育、放課後等デイサービスでは施設見学を実施した。この取り組みは、「子どもの理解」を深め、地域と共に成長を支援していくことの大事さを関係機関と共有できる機会となり、早期支援と地域との連携強化に大きく結びついた。

また、リモート環境を活用した研修や交流を通して、支援者としての役割や意義についての学びを深め、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中でも、利用者目線に立ったサービスを提供するという職員一人ひとりの意識向上につながった。

2023年度はこれまでの支援体制に加え、育児に悩みを抱える家庭の子育て相談や地域で抱える問題にも取り組み、子どもの支援施設として必要とされる施設作りを目指していく。

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化

(ア) 子ども支援

- ①個別の発達支援や家庭支援をチームで共有するための振り返りを行うことでより丁寧な個別支援を実践した。
- ②遊びの活動に満足することや気持ちの切り替えができるように視覚支援や見通しの持てる環境を整えた。
- ③放課後等デイサービスでの低学年、中学年以上の利用曜日を振り分け、年間計画をもとに個別支援や「野菜育て」などの集団支援を実施した。

(イ) 家族支援

- ①個別面談や自宅訪問で「個別支援計画」の丁寧な説明を行い、保護者と課題を共有することや成長を確かめ、共に喜び合える関係づくりに取り組んだ。
- ②感染症対策を講じながらペアレントプログラムを年1回実施した。
- ③子育てに対する不安軽減や将来の見通しを持つ機会として、保護者会と連携して懇親会や勉強会を開催することができた。

(ウ) 地域支援

- ①安心して就学を迎えられるように就学に向けて関係機関との連携を図り、個々に合った適切な学習環境への支援ができた。
- ②学校との定期的な話し合いの場を通して、顔の見える関係作りができた。

(エ) 経営の安定化

- ①地域の関係機関との連携によって安定した利用につながった。
- ②小学校教職員向けの施設見学会4回、保育所、幼稚園職員向けの公開療育5回開催した

ことで、「早期療育」への理解が高まり、見学者の増加につなげることができた。

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

(ア) 目標参画、保育士ラダーを活用し個々の目標を明確化できた。

(イ) 資格取得研修への派遣や、勉強会、研修参加調整などを通して職員のスキルアップを図った。

3. 地域における公益的な取り組み

(ア) 自施設で親子教室を開催し、地域の子育て支援に取り組んだ。

(イ) 年間計画をもとに計画的な防災訓練を実施した。自治体との福祉避難施設について今後協議していく

(ウ) 放課後等デイサービスの「畑づくり」の取り組みを通して、地域住民（老人クラブ）との交流を行うことができた。

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利 用 者 定 員	20 名		10 名		
利 用 者 延 べ 数	3,416 名	30 名	2,443 名	155 名	153 名
稼 働 延 日 数	246 日	246 日	246 日	246 日	246 日
一 日 平 均 利 用 者 数	13.9 名	0.1 名	9.9 名		
稼 働 率	69.5%		99.0%		
単価（1人1日当り）	12,992 円	13,833 円	9,652 円	14,368 円	8,490 円
職員数（常勤換算）	7.4 名	0.7 名	4.9 名	0.9 名	0.3 名

聖隷こども園わかば

2022年度は乳児、幼児で181名の園児を受け入れることができた。0歳児は20名の受け入れに止まり、定員24名には届かなかった。年間通して乳児の入園希望が少なく、地域における少子化の現状を実感することになった。一時預かり事業においては、希望の多い乳児の受け入れを積極的に行った。今後加速化する少子化に対し、地域の枠にとらわれず利用者を確保していく必要がある。その為にも多様化する保護者のニーズを理解し、積極的に園見学に対応していく。また、子どもの発達の連続性を考慮した教育・保育を提供することができるよう今まで以上に保育の質の向上に力を入れていく。

施設設備の修繕については、計画的に必要な整備を行なうことができた。2階テラス張替えの修繕では、人工芝となったことでテラスでの遊びが充実し、0、1歳児が安全に過ごすことができる。経年劣化による設備面の修繕は今後も計画的に進め、子どもたちが安全に、職員が安心して過ごせるように配慮する。

副主任を中心に会議の持ち方や内容について考え、職員間での意見交換の時間を確保した。子どもへの関わりや保育環境の見直し等保育を振り返る機会となり、保育の面白さを職員同士実感することができた。今後も子どもたちの最善の利益を考え、子どもたちに対してより質の高い教育・保育の提供ができるよう保育内容の充実を図るとともに、職員にとって働きやすい職場環境の構築に尽力していく。

【入所状況】

年間平均入所率は86.9%

途中入所は0歳児12名 1歳児1名 ・転居により4名途中退園

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. より質の高い教育・保育を実践する

- (ア)「全体的な計画」が園の指針であることを理解した上で、年齢別に計画を立てたことで、職員一人ひとりが園児の発達の連続性を考慮した保育を実践することができた。
- (イ) 会議等で職員間の意見交換の時間を意識的に確保したことで、日常的に保育実践の振り返りを行う機会が増え、保育環境を見直すきっかけになった。また、子どもの理解が深まったことで職員が保育の楽しさ、面白さを実感することができるようになった。

2. 保育職としての専門性を高める

- (ア) 職員一人ひとりが園の理念・目標である「全体的な計画」を理解した上で園内研修に臨み、写真や映像といった客観的な資料を基に子どもを丁寧に観る姿勢を学んだ。
- (イ) 保育職ラダーと自己評価の取り組みを通して、職員が自己の課題と役割を明確にし、業務に取り組むことで資質向上につながった。

3. 様々な視点から保育環境の充実を図る

- (ア) 食育では、毎日の食事体験を大切にするとともに、管理栄養士を中心に子どもと保護者に向けた食への意欲、関心を育てていく取り組みを継続的に行った。また、厨房職員と保育者が協力し合い「絵本献立」「全国の料理」の給食を提供し、給食だより等で献立内容を保

護者へ伝えることで食事の大切さを伝えた。

- (イ) 子育て支援ひろばでは、年間を通して多くの子育て親子が参加した。土曜日の講座では、託児の希望に応じたことで多くの参加者を確保することができた。また、常設のひろば・妊婦支援・孫支援・発達に不安のある子どもへの支援の他、週1日地域に出向いた出張ひろば等も行い、特に、相談事業に力を注いだ。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 感染症の感染拡大防止の観点から、近隣施設との交流はできなかったが、学生の職場体験の受け入れ等については、双方で連絡を取り合いながら安全に留意した上で実施した。また、園庭の開放や、電話による地域の子育て家庭に対する育児相談を行った。

【数値実績】

① 歳児別入所児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	10	11	13	15	18	20	21	21	21	20	20	199	16.6
1歳児	29	29	29	29	29	30	30	30	30	29	29	29	352	29.3
2歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	32	395	32.9
3歳児	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408	34
4歳児	33	33	33	32	32	32	32	32	32	32	32	32	387	32.2
5歳児	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408	34
計	172	173	174	175	177	181	183	184	184	183	182	181	2149	179.1

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3202	3002	3517	3094	2667	3238	3465	3364	3182	2991	3134	3502	38358	3196.5
保育日数(日)	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	23	26	294	24.5
一日平均(名)	128	130	135	123	102	134	138	140	132	130	136	134	1562	130.1
一時預かり(名)	0	4	13	9	10	0	1	6	2	14	29	20	108	9
病後児(名)	2	0	7	8	5	0	6	2	1	0	6	2	39	3.25
延長保育(名)	36	29	38	36	32	41	33	40	44	29	29	37	424	35.3

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
保育教諭(パ)	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
看護師(正・パ)	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1	1・1
調理師(パ)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士助手	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	52

聖隷こども園桜ヶ丘

2022 年度は、乳児を中心に北区の待機児童の減少等も影響し 4 月は見込みを 12 名下回った。0 歳児は 9 月以降入所数が増え予定数を達成できたが、1 歳児は 1 年を通じて未達成となった。魅力あふれる園となるために何ができるか職員が意見を出し合い、園舎玄関周りのリノベーションを行った。今後も随時保育環境の見直しを図り、地域に向けた情報発信を継続しながら、園見学等の問い合わせに真摯に対応し入園につなげていく。延長保育事業と一時預かり事業は、定期利用者がいたことで安定した運営を行うことができた。

また、主任と副主任が中心となり『会議の質を高める』ことを目的に業務改善に取り組んだ。事前に議題を配信し、各クラスで話し合いの機会を持てるようスケジュールに余裕を持たせ、より多くの職員の意見が反映される仕組みを作った。

【入所状況】

4 月の新入園児 13 名、年度途中入所は 0 歳児 13 名、1 歳児 5 名、2 歳児 3 名、3 歳児 1 名の計 22 名であった。また、転居等家庭の都合で 5 名の転園や退園があった。年間平均入所率は 79.4% であった。

【事業目標及び重点施策への取り組み】

1. 教育・保育の質の向上

- (ア) 子どもの最善の利益を考え、施設理念や保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする教育・保育」を実践した。また、全体的な計画、教育課程に基づき「子ども主体の保育」を実践した。
- (イ) 浜松市の「保育所等巡回支援事業」を継続利用し、個別配慮の必要な子の関わり方や専門知識を学び、保護者に共有した。また、障害のある園児の並行通園施設や医療機関と連携を図り、きめ細やかな保育を行った。
- (ウ) 乳児クラスで「ゆるやかな育児担当制保育」を取り入れ、一人ひとりの生活の流れが安定し見通しが持てるように援助し、子どもが主体的に生活を送れるようにした。
- (エ) 園舎玄関周りがわくわくする空間となるように、職員が案を出し合いリノベーションを行った。

2. 保育職としての専門性の向上

- (ア) 保育職ラダーを活用し、職員個々の課題を明確化できたことで、職員全体の資質向上につながった。
- (イ) 保育の質の向上を目指して、園内勉強会を定期的に行った。また、積極的に WEB 研修やキャリアアップ研修を受講することで教育・保育の専門性を身につけることができた。
- (ウ) ピアジェの構成論に基づいた研修を実施し、職員が乳幼児の知的発達を理解し、保育に活かすことができた。

3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 保育支援システム（コドモン）を 2023 年度 2 月に導入した。登降園管理を電子化することで職員の業務効率化を図った。今後、記録業務の省力化や本来の保育業務に専念できる時間を増やしていく。

4. 子育て支援と地域における公益的な取り組み

(ア) 次世代育成のため、高校生の職場体験や実習生の受け入れを行った。

(イ) 親子ひろばの園庭開放や企画を通して、地域の子育て家庭の遊びの場、育児相談の場を提供した。

(ウ) 都田南小学校の1年生と5歳児の交流を通し、授業参観や学校探検を行うことで就学に対する不安を軽減できた。

5. 新型コロナウイルス感染症予防の取り組み

(ア) 室内消毒清掃・換気・手洗い（手指消毒）・毎朝の健康観察等の感染対策を徹底しながらコロナ禍における、日々の保育の在り方や行事の内容・開催方法を検討した。

【数値指標】

①歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
0歳児	4	4	5	7	7	9	13	14	15	17	17	17	129	10.7
1歳児	21	22	22	22	22	22	24	24	23	24	24	23	273	22.7
2歳児	28	29	29	30	30	30	30	30	30	30	30	30	356	29.6
3歳児	28	28	27	27	27	27	27	27	27	28	28	28	329	27.4
4歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
5歳児	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	372	31
計	142	144	144	147	147	149	155	156	156	160	160	159	1819	151

②保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
延べ人数(名)	2205	2359	2978	2523	2269	2651	2693	2790	2287	2511	2275	3055	30596	2549
保育日数(日)	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	293	24
一日平均(名)	88	102	114	100	87	110	107	116	95	109	103	117	1248	104
一時預かり(名)	5	7	13	6	10	9	9	12	17	10	10	11	119	9.9
延長保育(名)	66	52	74	79	25	83	70	70	55	68	68	72	782	65

③職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	17	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
保育教諭(パ)	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7
管理栄養士(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
その他(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育助手(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
計	40	39	39	39	39	39	39	39	39	39	40	40

聖隷こども園ひかりの子

新型コロナウイルス感染症における感染予防を考慮した生活が続く中、園内での過ごし方や、行事の開催方法の見直しを行い、その時々感染状況を考慮しながら保護者参加型の保育や行事を開催できた。保護者参加型の行事は、園での子どもの姿を保護者と共有でき、また日々の保育実践に対して保護者の理解を得る場であることから、行事の目的やねらいを明確にし、子どもの育ちをどのように保護者に伝えるか等、職員同士意見交換を行った。一方で、地域社会との交流は不十分であった。地域に開かれ、信頼される園となるために今後の課題としたい。

また、2022年度末に新しい保育システムを導入した。職員の業務改善に加え、専門性の向上、保護者との多様な連絡ツールとして今後さらに活用を広げていく。

【入所状況】

年間平均入所率は89.1%。

途中入園はほぼ在園児の下の子であった。途中退園がいたが臨機応変に対応することで不足を補うことができた。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 教育・保育の質の向上

- (ア) 教育・保育理念に基づき事例検討会を開催し、職員同士が意見を交わし理解を深めた。
- (イ) 子どもの非認知能力を培うため、必要に応じて保育の形態を工夫し、感染症予防を意識しながら、日々の生活や遊びの中で他者との交流が図れる環境を整えた。
- (ウ) 「子ども主体の保育」を実現するために、会議にグループワークを取り入れ、子どもを多角的に観る力を養った。
- (エ) 保護者参加型の保育や行事を開催することで、園と保護者との相互理解に努めた。

2. 教育・保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備

- (ア) 職員個々のキャリアステージに応じた内外の研修に参加する機会をもつことができた。また、他園の保育を見学する機会を設けると同時に、他園の職員を受け入れることで自分たちの保育を振り返るきっかけになり、「子ども主体」の保育を意識することができた。
- (イ) 職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、組織的に役割を担える取り組みを実施した。しかしながら一部の職員に業務が集中する傾向もあり、職員育成のための支援等、組織として継続して取り組む必要性を感じた。

3. 地域・他機関との連携

- (ア) 感染状況により、園児と地域との直接的な関わりはできなかったが、学童保育事業等を通して近隣小学校と連絡を取り合うことができ、小学校との関係構築に繋がった。

4. 安全・危機管理に対する取り組み

- (ア) 職員がリスク管理の重要性を理解するため、園内研修を実施した。同時に有事の際の連携体制の整理を行い、共有した。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 親子ひろばでは、温かな雰囲気と対応を心がけ、職員や親同士が顔見知りとなり継続的

に子育ての悩みや楽しさを共有できる場となった。

(イ) 感染対策を図りつつ、ボランティアや実習生の受け入れを行った。

6. 保育環境の改善、施設整備

(ア) 空調機器の老朽化による機器能力の低下及び機器生産終了により部品供給ができないことから、機器更新を実施した。

(イ) 0歳児保育室に園児用手洗い場を新たに設置したことで、子どもの主体的に手洗いができるように、職員の負担軽減にもつながった。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	9	10	12	13	13	16	19	19	19	20	20	21	191	15.9
1歳児	32	32	32	32	32	32	31	30	31	31	31	31	377	31.4
2歳児	36	36	35	35	35	36	36	36	36	34	34	35	424	35.3
3歳児	42	42	41	40	40	41	41	41	41	41	41	41	492	41
4歳児	38	38	38	38	37	38	38	38	39	39	39	39	459	38.2
5歳児	39	39	39	39	40	40	40	40	40	40	40	40	476	39.6
計	196	197	197	197	197	203	205	204	206	205	205	207	2419	201.5

② 保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3574	3148	3682	3456	3064	3635	3735	3614	3784	3226	3504	3923	42345	3528.7
保育日数(日)	24	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	292	24.3
一日平均(名)	149	137	142	138	118	151	149	150	158	140	159	151	145	145
一時預かり(名)	0	0	8	22	16	3	1	5	7	10	13	1	86	7.2
延長保育(名)	59	43	53	43	43	47	56	48	51	38	60	66	607	10.5
学童保育(名)	189	167	215	226	185	192	189	191	196	165	194	148	2257	188
親子ひろば(名)	14	15	20	24	21	33	30	29	23	22	29	15	275	22.9

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	20	20	20	21	21	21	21	21	21	21	21	21
保育教諭(パ)	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
調理師(正・パ)	1・6	1・6	1・6	1・6	1・7	1・6	1・5	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助・アルバイト	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1	2・1
計	56	56	56	57	58	57	56	57	57	57	57	57

聖隷こども園めぐみ

事業所内保育所めぐみ保育園との統合による新体制が2年目となった2022年度は、よりよい保育環境を作るために試行錯誤を繰り返し、職員間の意思疎通を図ることに重点を置くことで保育体制も安定した。定員の増加により乳児の受け入れを積極的に行う事が出来、経営の安定にも繋がっている。また保育浜松エリアにおいて、ニーズの高い医療ケア児や発達に課題を持った園児の入園について、園で入所決定が可能な1号認定にて受け入れ、聖隷こども発達支援事業所かみあ和合との連携により並行通園を行うなど個別の対応が出来た。2023年秋に新規開設予定の児童発達支援センターかみあ和合との連携作りを視野に入れ、職員の合同研修を実施する等今後の連携につなげていく。

新型コロナウイルスの感染拡大の状況が続く中、園児・保護者・職員等の安全を守りながら園として出来ることを考え、子どもたちにとって必要な経験を保障していくために保育内容・行事を見直した。今後はWith/After コロナへと移行するが、関係機関との情報交換等を基に柔軟に対応していく。

職員がモチベーションを高く持って働くことが出来るようサポート体制を整える事を課題としていたが、業務の省力化や、有給取得率の向上等仕事と家庭と両立を支援できるよう取り組みを進めた。新しい保育支援システム（コドモン）への移行に向けては、職員のスキルアップと利用者とのコミュニケーションツールとしての活用を目指すためのものであることを職員間で意識化できるよう準備に力を入れた。今後も子どもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い教育・保育の提供が出来るよう保育内容の充実を目指す。

【入所状況】

4月新入園36名、年度途中の入園16名 途中退園8名 年間入所率は89.5%。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上

- (ア)「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を職員間で共有し園内研修で学びを深めた。
- (イ) 聖隷の保育の基本となるキリスト教保育や事故を防止する危機管理等、園の課題を明確にし、職員間で共有する時間を継続的に作った。
- (ウ) 聖隷保育学会への取り組みを継続し、保育の質の向上につながるよう取り組んだ。
- (エ) 保育職ラダーで自己の課題を明確にし、様々な研修への参加を通して保育力の向上を目指した。

2. 和合せいれの里の施設との連携をすすめる

- (ア) コロナ禍で和合せいれの里の利用者との直接的な交流はできなかったが、子どもたちが制作したメッセージカードを届けるなどの交流を続けた。
- (イ) 児童発達支援センターかみあ和合の2023年9月開園に向け、関係施設間の連絡会の開催や、合同研修会開催などの連携がはじまった。

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭を支援する場所として親子ひろばや病後児保育室を継続した。在園の

保護者に対しては懇談会、講演会などを開催し育児に関する発信を行った。

(イ) 中高生の職場体験の受け入れを行い、次世代育成の取り組みに貢献した。

4. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 新しい保育支援システム（コドモン）への移行に向け各園代表者による委員会では準備を進め、2023年2月に導入した。

(イ) 浜松エリア主任・副主任会を継続し職場内の問題解決に向けて取り組んだ。今後も現場の声が生かされる風土づくり、働きやすい職場の環境づくりを継続する。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数(名) 入所率 89.5%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	8	9	10	10	10	12	15	16	16	17	18	149	12.4
1歳児	35	35	32	32	34	34	34	34	36	36	36	36	414	34.5
2歳児	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432	36.0
3歳児	38	38	37	37	37	36	36	36	36	36	37	37	441	36.8
4歳児	40	41	40	40	40	40	40	40	40	40	39	39	479	39.9
5歳児	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	33	33	406	33.8
計	191	192	188	189	191	190	192	195	198	198	198	199	2321	193.4

② 保育日数及び延べ出席・利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3403	3205	3753	3232	2661	2695	3463	3352	3197	3085	3286	3765	39097	3258.0
保育日数(日)	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	24	26	295	24.6
1日平均(名)	136	139	144	102	102	124	139	140	133	134	137	145	132.5	132.4
一時預かり(名)	5	16	26	25	6	1	4	4	10	2	6	10	115	9.58
病後児保育(名)	0	2	1	1	3	5	0	4	1	1	8	0	26	2.17
親子ひろば(名)	8	2	4	8	3	2	6	4	2	8	4	4	55	4.58
延長保育(名)	148	93	103	104	103	79	146	134	127	108	87	137	1369	114.1

③ 職員の状況(名) 正規職5名育休でスタート、年度途中より3名復帰、新たに2名育休入

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	27	27	27	28	28	28	28	28	28	28	28	28
保育士(パ)	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9
保育補助	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3
看護師(兼務・パ)	1・0	1・0	1・0	1・1	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2
管理栄養士(委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	46	46	46	48	48	47	47	47	47	47	47	47

聖隷浜松病院ひばり保育園

2022 年度は、医師、看護師以外の従業員の入園需要にも応えられるよう職員体制を整え、聖隷浜松病院と連携を密に取ることで、2021 年度以上に従業員枠の入所率を上げることができた。また、地域枠においては定員を超えて受け入れることができた。引き続き入園希望園児の確実な情報収集、調整等を行い、運営の安定化を図っていく。

コロナ禍の保育が続く中で、職員のモチベーション向上、業務省力にも重点を置き、現場職員が中心となって業務改善に取り組む体制作りをしたことで、各職員の業務改善への意識向上につながった。また、浜松地区、磐田地区の園と連携を図りながら、2023 年 2 月より新しい保育支援システム（コドモン）を導入した。2023 年度より本稼働するコドモンを有効活用し、業務省力、効率向上を図ると共に日常的な業務を通して保育の言語化、可視化にも取り組む。

保育の質向上においては、幼児クラスを中心にピアジェの構成論の考えを取り入れた「子ども会議」を基に保育展開し、子どもの主体的な生活と遊びを支える連続的な保育実践をすすめることができた。引き続き園内勉強会を継続し、全体的な計画に基づく保育、子どもの育ちを支える保育者の在り方を学び、保育の質向上を図る。

1. 入所状況

年間平均入所率は 67.3%。4 月は新入園児 16 名を迎え 123 名でスタートし、3 月末には 147 名の在籍となり、4 月から 24 名の増となった。

2. 重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）質の高い保育サービスの提供

- ①全体的な計画をもとに発達の連続性を意識した保育を提供するため、サークルタイムや子ども会議を通して、子ども主体の保育を継続的に展開することができた。
- ②保育ドキュメンテーションによる子どもの育ち、保育の可視化を継続したことで、保育者間での子ども理解の深まりと共に、保護者の保育理解へとつなげることができた。
- ③保育学会への参加や他園からの見学の受け入れも実施したことで、経験を自園の保育に生かすことができた。

（イ）専門性の向上を図る

- ①研修計画に沿って園外研修への参加を促進し学びの機会を増やすことができた。
- ②継続的な園内研修を実施し、構成論の保育根拠に基づく保育や子どもの育ちを支える保育者の在り方を学ぶことで、職員同士が互いの保育を共有し子どもを見る視点の向上につながった。

（ウ）職員の働きやすい環境づくり

- ①保育記録業務の省力化を目的に、2023 年 2 月に新しい保育支援システム（コドモン）を導入した。
- ②業務改善に向け各クラスにて業務改善担当者を任命し、課題に対しての振り返りを毎月行った。職員が中心となって取り組むことで園全体で業務改善に対する意識向上が見られた。

③職員会議内で保育ドキュメンテーションを活用し他クラスの保育理解を深め、園内の保育士交換を実施したことで、職員間の意見交換が増え、保育理解につなげることができた。

3. 地域における公益的な取り組み

(ア) コロナ禍により地域からの参加は得られなかったが、育児講演会や人形劇等を開催した。
住吉地区の文化展に参加することで、地域との交流の機会をもつことができた。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月 平均
0歳児	7	7	8	10	10	14	18	18	19	20	22	22	175	14.6
1歳児	29	30	31	33	34	34	34	34	34	34	34	35	396	33.0
2歳児	38	38	38	38	38	37	37	37	36	36	36	36	445	37.1
3歳児	16	16	16	16	16	16	16	16	16	18	18	19	199	16.6
4歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
5歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	11	11	11	114	9.5
計	123	124	126	130	131	134	138	138	138	143	145	147	1,617	134.8

② 保育日数および延べ出席（利用）状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月 平均
延べ人数（名）	2246	1725	2446	1928	2182	2285	2486	2387	2561	2292	2405	2628	27571	2297.6
保育日数（日）	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	293	24.4
一日平均（名）	90	75	94	77	84	95	99	99	107	100	109	101	1130	94.2
延長保育（名）	111	112	116	102	103	97	87	96	113	77	87	84	1185	98.8

③ 職員の状況（名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士（正）	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
保育士（パ）	10	10	10	10	10	9	10	10	9	9	9	9
看護師（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員/用務員	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/2
計	39	39	39	39	39	38	39	39	38	38	38	39

聖隷のあ保育園

2022年度は開園から4年目を迎え、年間を通して安定した利用者数の確保ができた。転勤による急な転園や幼稚園への早期入園が重なり、4月は見込みを下回ったが、その後徐々に入園数を伸ばし、9月には定員を超えて利用者を確保できた。特定妊婦や要保護児童の入園もあり、受け入れ態勢の整備や園児個々の支援方法について職員一体で考えることができた。

新型コロナウイルス感染者が園内で発生するなど、緊急対応が求められる場面もあったが、法人本部と情報を共有しながら、利用者と職員の健康管理及び衛生管理の徹底につとめた。保育内容や行事についても保護者の協力を得ながら実施し、子どもたちにとって必要な経験を保障できた。外部研修はリモート開催が主流となり、職員個々の経験に合わせた研修に参加することができた。園内研修では小規模保育事業所であることを自園の強みとして捉え、質の高い保育の提供について学びを深めることができた。

連携園である「聖隷こども園ひかりの子」と土曜日共同保育が円滑に行われている。しかし、地理的に遠いため3歳児以降の転園者は少なく、連携園以外に転園する家庭が多いため保護者の意向に応じた支援を継続していく。

今後子どもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い教育・保育の提供ができるよう人材育成に努め、保育内容の充実を図ると共に、働きやすい職場環境を維持していく。

【入所状況】

4月は16名でスタートし、9月に定員越えとなる。年間入所率は 96.3%である。

【年度事業目標・年度重点施策】

1. 保育の質を向上し、質の高い保育と保護者支援を行う。

園内勉強会ではキリスト教保育を基に、自園の強みである子ども一人ひとりの成長発達に合わせた丁寧な保育について職員同士再確認し合い、保育実践を行うことで、職員のスキルアップにつながった。

2. 保育システムによる業務省力と働きやすい職場環境づくりを目指す。

レイバー表と仕事の進捗状況表を用いて職員同士のコミュニケーションを意識し、報告、連絡、相談の徹底をした。職員の連携が円滑に取れるようになったことで、休憩時間の確保や、就業時間内に業務を終えることが出来、職員がストレスなく働ける環境作りができた。連携園である「聖隷こども園ひかりの子」とは土曜日共同保育の実施により、協力体制を整えることが出来た。

3. 地域における公益的な取組

地域の感染症対策の状況を確認しながら、自治会（老人会）や近隣施設との交流が継続してできた。実習生の受け入れもでき、保育士育成の支援ができた。また、園が洪水等の浸水区域であることを発信し、避難確保計画の策定と浸水を意識した非常災害訓練を実施する等、万一の時に備えている。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名） 入所率 96.3%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	3	3	3	3	5	6	6	6	6	6	6	6	60	4.7
1歳児	7	7	7	8	8	9	9	9	9	9	9	10	75	8.4
2歳児	6	5	5	5	5	6	6	5	5	4	4	4	63	5.0
計	16	15	15	16	18	21	21	20	20	19	19	20	220	18.3

② 保育日数および延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	283	233	266	260	193	325	343	323	285	280	279	352	3421	285.0
保育日数(日)	25	23	26	24	26	24	25	24	24	23	22	26	292	24.3
一日平均(名)	11	10	10	11	7	14	14	13	12	12	13	14	12	11.0
延長保育(名)	6	2	1	4	1	1	5	7	4	6	4	5	46	3.8

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職場長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
保育士(パ)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(兼務)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

こうのとりの保育園

新型コロナウイルス感染症拡大が長期化し、乳幼児においても感染が続く中、その時の状況によって対応を考えながら保育を継続してきた。園児の成長発達に繋がる園での生活や体験活動ができるように感染防止対策を講じながら工夫を重ねる中、行事等の活動をクラスごと少人数で行うことで、年齢発達に合わせた子ども中心の内容で楽しむことが出来るようになった。今後も、子どもの安全・安心が何より優先される保育現場であるため、点検、確認、振り返りを行い、さらなる危機管理の意識を高めていく。

【入所状況】

4月新入园児 14名。年度途中新入园児 11名のうち、育休明け0歳児が9名で、年間入所率は114%であった。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上への取り組み

子どもの生活のリズムを大切に、健康で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整えるために、子どもと保育者の双方向的なやりとりを意識し、流れる日課を取り入れた。幼児クラスでも子どもが主体的に遊びを選び、自らがやりたいと意欲的に取り組むことができるようになってきている。また、保育を深めるために、子どもを見つめ、悩み工夫しながらも、園内での対話を重ね、「今できること」から実践を重ね、チーム力の向上にもつながった。

2. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

保育支援システム「コドモン」の有効な運用方法等について園内だけでなくエリア内で検討し、統一をした。業務省力化を目指して、記録業務時間の確保等、職員全員の意識を高めながら皆で取り組んだ。子どもに寄り添う思いや視点を持って子どもの姿を観察し、それを園だより、クラスだより、ドキュメンテーション等を活用し、保護者に解りやすく伝えることで、園と家庭との相互理解ができ、信頼感、安心感にもつなげることができた。

3. 統合保育の実践

障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」では、日々の生活の中で在園児との交流を行い、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的に保育を行う事ができた。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 磐田市の保健師等と連携し、支援センター「エンジェル」を初めて利用する親子対象の「はじめのいっば」を始めたことで、子育て家庭の交流の場としての活用、子育て家庭の抱えている課題の相談を受ける機会が広がった。

(イ) 地域の祭典屋台の来園や保育士体験等、地域住民や中高校生が子育てに関わる機会をつく

ることができた。引き続き地域福祉に貢献できるよう取り組んでいく。

5. 保育環境の改善、施設整備

(ア) 修繕…受水槽漏水修理、園庭と園庭遊具の整備、床、壁紙交換

(イ) 購入…園庭南側フェンス追加、給食室消毒保管庫

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	6	9	13	13	14	15	15	15	15	15	15	15	160	13.3
1歳児	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	20.0
2歳児	26	26	25	25	25	26	26	26	26	26	26	26	309	25.7
3歳児	26	26	26	26	26	26	25	26	26	26	26	26	311	25.9
4歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
5歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
計	130	133	136	136	137	139	138	139	139	139	139	139	1,644	137.0

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2,431	2,189	2,777	2,435	1,975	2,407	2,428	2,415	2,100	2,092	2,408	2,551	28,208	2350.6
保育日数(日)	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	293	24.4
一日平均(名)	97	95	107	97	76	100	97	101	88	91	109	98	1156	96.3
一時預り(名)	31	57	70	70	73	73	80	61	67	65	65	67	779	64.9
延長保育(名)	54	72	97	74	57	85	38	63	45	44	46	93	768	64.0
学童保育(名)	76	4	12	72	198	2	2	0	20	3	0	46	435	36.2
休日保育(名)	16	15	12	20	17	36	21	33	8	20	23	21	242	20.1
病後児(名)	1	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2
支援センター(名)	260	239	386	360	426	347	304	355	378	341	321	369	4086	340.5

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	14・21	14・22	14・22	14・22	14・22	14・22	13・22	13・22	13・22	13・22	13・22	13・22
看護師(正)	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
調理師(正・パ)	1・4	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・6	1・6	1・6
事務員(正・パ)	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
補助他・アルバイト	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	47	49	49	49	48	48	47	47	47	48	48	48

聖隷こども園こうのとり東

放課後児童クラブ “オリーブ”

2022年度は、安定した職員配置により途中入園の希望にも応じることができた。新型コロナウイルス感染拡大の状況が続く中で、これまでの感染対策の経験を活かし、園児、保護者、職員の安全を守りながら園として出来ることを考え、子どもたちにとって必要な経験を保障していくために保育内容や行事を見直した。特に保護者参加型の保育や行事は、その時々感染状況も考慮し保護者の理解と協力も得ながら、日程・人数を分散する等形を変えて実施できた。

保育支援システム（コドモン）の運用2年目を迎えたが、保育磐田エリアの各園代表職員が定期的に集まってシステム運用会議を開催し、業務改善の取り組みや、運用面での課題について意見を交わし合い、統一化を図った。また園内では保育の質向上を目指し職員同士が、子どもの主体性を育むための保育者のかかわり方を学び合う機会を継続的に確保することができた。一方で記録時間を確保する取り組みを実施しているが、定着とはならなかった。引き続き、職員がモチベーションを高く持って仕事に取り組むことができる働きやすい環境づくりを意識し、園内環境を充実させ保育の質向上に力を入れていく。

【入所状況】

4月に新入園児28名を迎え、189名でスタートした。年度途中入所は19名、転居など家庭都合による途中退園が4名いた。3月末には204名在籍となり、全体の年間入所率は92.0%であった。

【年度事業目標・年度重点施策への取り組み】

1. 保育の質の向上

- (ア) 保育者が「一人ひとりを大切にする保育」を心がけ、子どもの主体性を考える事例検討を通し、子どもの“やってみたい”を引き出すことや、子どもの思いを尊重し、必要な経験を保障することの重要性を再確認した。
- (イ) 感染対策を取りながら保護者支援を実践した。保護者が保育に参加する機会を設け、懇談会については保護者同士の意見交換が出来るよう人数や時間に配慮したことで、園と家庭、保護者同士が子どもの成長を共有できる機会が持てた。

2. 統合保育・他機関との連携

子ども一人一人の違いを認め、療育機関と並行通園をしている家庭のみならず、発達に課題を感じる子どもの家庭に対しても面談を重ねながら「磐田市発達支援センターはあと」等の専門機関に繋げるなど連携を図ってきた。また、保護者に障害があり育児能力の乏しさから手厚い就学支援が必要と感じられる家庭については、卒園後も支援が途切れないよう市や関係機関との連絡会を設け情報共有するなど、小学校への円滑な接続に繋がった。地域柄もあり、外国籍家庭も多く在園しているため、今後も子どもの成長発達だけでなく家庭状況に応じた個別支援を継続していく。

3. 食育の推進と環境

厨房職員と保育教諭が連携を取り、絵本献立など毎日の給食献立に工夫を凝らすだけでなく、

米・野菜作りや食育講座を通して子どもが食に触れ、クッキング活動を通して食を味わう機会を設け、子どもたちの食への関心を高めることができた。

4. 地域における公益的な取り組み

地域住民に支えられて田植えや稲刈り行事を実施し、また地域のシニアクラブ運動会に年長児が参加するなど、世代を超えた交流の機会が増えた。園庭開放についても感染症の状況を鑑みて開催し、年7回と2021年度より多く実施することができた。

5. 放課後児童クラブ“オリーブ”

定員を超えて利用希望があり、地域のニーズの高さを感じた。長期休み期間は利用児童が増え、特に夏期休暇中は園内外で新型コロナウイルス感染者が出ている状況にあったため、学習と遊びの活動スケジュールを時差管理する等、感染対策を見直しながら子どもたちが安心して過ごせる場を提供した。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	10	9	10	12	14	17	18	18	19	18	20	173	14.4
1歳児	32	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	395	32.9
2歳児	32	32	32	32	34	34	34	34	34	34	35	35	402	33.5
3歳児	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	504	42
4歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	34	34	34	34	416	34.7
5歳児	40	40	41	41	41	41	40	40	40	40	40	40	484	40.3
計	189	192	192	193	197	199	201	202	201	202	202	204	2,374	194.8

② 保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3,289	3,061	3,923	2,937	2,414	3,158	3,465	3,547	3,341	2,947	3,398	3,694	39,174	3264.5
保育日数(日)	25	23	26	25	25	24	26	24	24	23	22	26	293	24.4
一日平均(名)	132	133	151	117	97	132	133	148	139	128	154	142	1605	133.8
延長保育(名)	92	73	56	76	52	59	47	65	76	53	40	50	739	61.6
学童保育(名)	525	442	537	500	439	464	503	471	471	437	476	574	5,839	486.6
病後児(名)	2	1	1	4	0	2	1	3	2	0	4	0	20	1.6
外国人保育(名)	21	21	22	22	22	22	21	21	20	20	20	20	252	21.0

③ 職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	20・17	20・17	20・16	20・17	20・17	20・17	21・17	21・17	21・17	21・17	20・18	20・18
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(パ)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補助他・アルバイト	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2
計	48	48	47	48	48	48	49	49	48	48	48	48

聖隷こども園こうのとり豊田

2022 年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、園の行事について開催方法を検討し予定通り全て実施することが出来た。クラス等のグループ単位で行う中で、園児一人ひとりの成長発達に応じた内容を組み立てる事ができ新たな保育の気づきも得る事が出来た。今後の行事の在り方について考える上で参考にしていく。磐田地区 4 園が 4 月より保育 ICT システムコードモンの帳票について主任・副主任を中心に検討会議を計画的に実施した。磐田・浜松地区で共通化できたと共に検討会議の経験を通して副主任等が課題解決力や意識を高めるきっかけにもなり園の活性化に繋がった。地域の子育て支援については、年度後半に『0 歳児開放日』等を設け乳児の生活や育ち等について理解を深めたり相談等に応じたりすることができた。また、地域の方に園を知って頂く機会にもなった。

1. 入所状況

4 月に新入园児 22 名を迎えて 158 名でスタートした。年度途中の入園が 18 名、退園が 4 名であった。最終的には 2、3 号認定が定員 140 名に対して 91.9%、1 号認定が定員 15 名に対して 56.7%の入所率であった。

2. 年度事業目標・年度重点施策への取り組み

(ア)教育・保育の質の向上

同朋大学の専任講師を年 2 回招き、保育を観察して保育環境についてアドバイスを頂き園全体で学びを行った。実践を通して保育の変化や効果を職員間で共有し理論を基にした実践が各クラスへと広がっていき質の向上へと繋がった。

(イ)家庭と連携して子育てを共有する

保育 ICT システムを通して、子どもの学びの過程や育ちについて写真を用いて視覚的に伝えたことで保育の可視化に繋がり、保育や子育てについて家庭と共有することができた。感染症対策を行いながら年間を通じて保育参加を推奨し、保育の可視化や実施後の面談で園児について分かち合う機会を持つことができた。

(ウ)職員間で連携し保育の専門性を高め、働きやすい職場環境を作る

副主任が、主幹保育教諭と共に業務改善に向けて仕事内容等について見直しを行い、各担当（クラスや行事）の業務内容を園全体に可視化することで担当の枠を超えて役割を担うことが出来た。その過程において職員間の協同性にも繋がった。

(エ)地域における公益的な取り組み

新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらベビープログラムを実施し、地域の親子の交流の場を提供したり子育て等の相談にも応じたりすることができた。

地域の乳児の子育て家庭を園に招いて『0 歳児開放日』を 2～3 月に実施した。0 歳児の保育を見て頂きながら子育て等についての相談にも応じることができた。

(オ)環境整備・修繕

購入：園児用椅子・机、園庭物置、室内用鉄棒、室内用玩具他

修繕：排煙窓、エレベーター修繕、園庭総合遊具下ゴム舗装、クライミングウォール撤去他

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	6	7	7	8	10	11	14	15	16	17	18	19	148	12.3
1歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24
2歳児	28	28	28	28	27	28	28	27	27	28	28	28	333	27.8
3歳児	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33
4歳児	32	32	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	394	32.8
5歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35
(内広域)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	158	159	160	161	162	164	167	167	168	170	171	172	1979	164.9

② 保育日数及び延べ出席(利用)状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	2745	2640	3341	2438	2305	2838	3094	2861	3047	2593	2953	3203	34058	2838.1
保育日数(日)	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	293	24.4
一日平均(名)	109.8	114.7	128.5	97.52	88.65	118.2	123.7	119.2	126.9	112.7	134.2	123.1	116.2	116.31
一時預り(名) (内こひつじ)	8	0	3 (3)	4 (3)	15 (5)	22 (8)	8 (8)	18 (6)	19 (8)	20 (10)	27 (16)	20 (11)	164 (78)	13.66 (6.5)
一時預かり(幼稚園型)	39	78	99	70	35	19	28	28	25	27	27	31	506	42.16
延長保育(名)	67	42	41	34	32	37	63	31	51	45	40	41	524	43.66
学童保育(名)	166	121	159	163	211	127	122	121	136	110	117	149	1702	141.8

③ 職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
保育教諭(パ)	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	1・5	0・6	0・6	0・6	0・6	0・6
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員・子育て支援員(パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘

聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘

開設から3年が経ち、3事業それぞれの目標達成に向けて努力を重ね、目標数値達成につながった。新規採用職員を2名迎え、組織運営も年々充実し安定してきた。特に、副主任が中心となって開催した勉強会や後輩指導の取り組みによって、それぞれの思いが少しずつ反映され職員のモチベーションをあげることに繋がった。ICT化に伴う保育システム（コドモン）の導入から2年が経過し運用も定着してきた。更に2022年度は、かるみあでもコドモンが導入されたことで、こども園とかるみあの両保護者へ同時に情報提供することが可能になった。

子どもの保育や職員同士の学び合い等の3事業の交流は、思うようにいかないこともあったが、それぞれの専門性を活かし、思いを出し合って、より質の高い乳幼児の教育・保育、療育を提供することに時間を費やしてきた。引き続き、多様性を認め合い、だれもが人間らしく幸せに暮らせる社会を目指していきたい。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1. 施設運営

3事業がそれぞれの役割を活かしながら、保育教諭・保育士・看護師・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・調理師が、相互に関係し合い、それぞれの専門性を活かし、より質の高い教育・保育・療育をめざした。2022年度は初めて、同施設内（かるみあ富丘とこども園）での週5日の並行通園を開始することができた。2023年度からは、磐田市が医療ケアの必要な児童を各こども園で受け入れする為の推進委員会が発足されることとなった。そのメンバーとしてこうのとり富丘の看護師も参加することとなった。今後もこうのとり富丘だからこそできるその役割を果たしていきたい。

また、新型コロナウイルス感染症等の感染症を予防し拡大を防止するために、ナース会が中心となり、解決策や方針を共有化し、子どもたちのいのちを守り、安全で安心できる施設をめざした。

2022年度も法人内外の研修参加、職種別ラダーを活用し、職員のスキルアップを行った。キャリアアップ研修にはできるだけ参加できるように調整した。参加者に勉強会や年度末研修の場で研修発表を実施し、職員全体の学びの時間となった。3事業のワーキンググループを立ち上げ、『お仕事探検』など相互に関わることで、職種を問わず、それぞれの職員が自発的に連携する姿が見られ、専門性の幅を広げられた。

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

4月に新入園児を迎え128名でスタートした。年度途中入園児うち、育児休暇あけの0歳児が11名。最終的には140名の児童を受け入れることができた。年間入園率は108.5%であった。

(ア) お互いを見合う保育の実践、語り合える職場環境や職員間の関係づくりに取り組み、保育の質の向上に繋がった。

(イ) 『生活リズムを整えるために家庭でできること』と題し、医学博士の神山潤先生の講演

会を実施した。家庭生活に合わせた具体的な内容で、生活リズムを再考する一助となった。
(ウ) ゆるやかな育児担当制を学び、少人数グループでの個別対応を行ってきた。一律的な方法ではなく、年齢に合わせて子どもの姿に添ったものになるよう進めていきたい

(エ) 3 事業合同の施設だよりを地域向けに年 2 回発行できた。

3. 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

(ア) 子どもが多様な繋がりや豊かな経験の中で好きなこと、もの、場所、人をふやしていく施設の環境や事業の多様性、物的・人的資源を工夫・活用したことで、通所、居宅において個々の支援内容が十分に実践でき支援計画の目標終結率が 70%を超え、利用児 1 名については居宅から通所へと完全移行を果たした。

(イ) 保護者が、子どもや自身のありのままを受け止め、「自分らしさ」を大切にする個別面談に加え、所内相談のグループ開催について、実施時間や方法についてのご意見とともに、全ての参加保護者より次年度開催継続希望が聞かれた。

(ウ) 障害の有無や程度に関わらず、地域の中でともに過ごす機会を提供するこども園の子どもたちと共に過ごす時間が持てた他、花の日に加え収穫祭の折にも訪問を通して地域に出かける機会を持つことができ、保育所等訪問支援においては、本人や保護者が希望する在籍園への全日通園を支えた。

(エ) 施設管理を適切に行い、安全で安心な施設づくりを続ける施設の状況と対策を施設内で共有、協議、実行し、正確な情報を迅速に保護者に提供し続けたことで、感染拡大時期、蔓延時期においても事業を停止させることなく、また利用控えが発生することなく運営を安定的に継続できた。

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

(ア) 磐周地区の法人内事業所との連携

聖隷袋井市民病院とのカンファレンスや、包括、障害との事例検討を継続し、利用に繋がったケースができた。

(イ) 利用者のニーズに沿ったケアの提供ができる

カンファレンスでの事例検討を行ったが、結論まで導くことができないこともあった。今後事例検討の方法の工夫を行う。

(ウ) 聖隷こうのとり富丘内、訪問看護ステーション内での役割を明確にして、実行する3 事業の活動やステーションでの委員会など役割を持ち活動できた。パート職員も含め、役割分担を行い活動していく。

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 地域の方の好意でじゃがいも掘りやサツマイモ掘りの体験ができた。

地域に根ざすことを目的とした、実習生やボランティアの受け入れ、また多世代の方たちが子育てに関わることが出来るように、子育ての場を作る取り組みを行った。

6. 保育環境の改善、施設整備

(ア) 修繕と整備…ドア、壁紙の貼り換え・植え込みや園庭整備

(イ) 購入…靴箱・机・椅子・配膳台・ワンタッチテント（プール時着替え用）等

【数値実績】

■聖隷こども園こうのとり富丘

① 歳児別入所保育児童数（名） 定員 129 名

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	10	11	12	14	15	17	18	18	18	20	21	21	195	16.3
1 歳児	22	22	22	21	22	23	24	24	24	24	24	24	276	23.0
2 歳児	21	21	21	21	21	21	21	21	22	21	21	21	253	21.1
3 歳児	25	24	23	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
4 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
5 歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
計	128	128	128	130	132	135	137	137	138	139	140	140	1612	134.3

② 保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数(名)	2343	2047	2515	2057	1701	2198	2551	2267	2323	2044	2201	2350	26597	2216.4
保育日数(日)	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	22	289	24
一日平均(名)	93.7	89	97.7	82.2	65.4	91.5	102	94.4	96.7	88.8	100	106.8	1107.6	92.3
一時預り(名)	11	13	14	18	14	15	14	23	7	1	13	12	155	12.9
延長保育(名)	10	8	12	6	8	9	2	13	9	7	9	8	101	8.4
病後児(名)	0	1	0	5	1	1	13	2	8	1	0	1	33	2.8

③ 職員の状況(名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正・パ)	23・8	23・9	23・9	23・9	23・9	23・9	22・9	22・9	22・9	22・9	22・9	22・9
看護師(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	0・8	0・8	0・8	0・8	0・8	0・8	0・8	0・8	0・7	0・7	0・7	0・7
事務員(正・パ)	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
補助他・アルバイト	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1	0・1
計	43	44	44	44	44	44	43	43	42	42	42	42

*産休・育休の職員 3 名含む

■聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

利用者定員	10 名
利用者延べ人数	2,850 名
一日平均利用者数	11.6 名
稼働率	116.25%
稼働日数(延べ)	245 日
単価	20,637 円
常勤換算職員数	8.7 名

■聖隷訪問看護ステーション富丘

平均利用者数	76 名
月間訪問件数	388 件
年訪問件数	4656 件
単価	9,544 円
常勤換算職員数	7.4 名

高齢者公益事業部

2022 年度は新型コロナウイルス感染症の第 7 波、第 8 波に加え、光熱費の高騰、食材費の上昇等、厳しい経営環境となったものの、宝塚エデンの園建て替え工事の現地事務所を開設し、油壺エデンの園の管理費を改定する等、各施設の経営の安定と永続性の確保のために必要なことを着実に実行することができた。

人材の採用・育成・定着では、外部の専門家を招聘して施設長を対象とする 2 回の集合研修を実施したほか、採用力を強化するため事業部の採用ホームページを拡充した。

サービスについては、2022 年 7 月に第 1 回有料老人ホーム実践研究発表会を開催することができた。入浴の質を高めると同時に職員の身体的負担を軽減するため、職員の主体的な行動によりマイクロバブル入浴装置を各施設に導入した。ICT により標準サービス及び科学的介護を推進するため、ETS2020（業務基幹システム）を活用し、サービス量の評価を実施する準備に着手したほか、見守りシステム（居室内に設置した各種センサーにより入居者の状態をリアルタイムに把握できるシステム）を新たに 2 施設で導入した。

入居者募集では、テレビ・ラジオ CM、新聞・雑誌への広告出稿、小規模型集合セミナー、個別見学会等に注力した。明日見らいふ南大沢では、2023 年度から東京都住宅供給公社より当法人が入居者募集業務を受託するため、その準備を行った。下半期には 2023 年 5 月に開設 50 周年を迎える浜名湖エデンの園の広報を通じて、エデンの園の歴史と実績に基づく募集活動を展開し、2023 年度につなげる。

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化

2025 年度着工、2031 年完成を目指す宝塚エデンの園の建替え工事の計画は、定期的に入居者説明会を開催したほか、2022 年 10 月に現地事務所を開設し、事前準備の体制を整えた。また、聖隷の理念、事業部の運営方針の浸透をはかるため、事業部長が各施設の役職者等と意見交換会を行った。

2. 経営の安定と永続性の確保

2022 年 10 月から油壺エデンの園の管理費を月額 80,850 円（2 人入居 112,750 円）から 90,200 円（2 人入居 126,500 円）に改定した。

2022 年度も大規模セミナーは開催できなかったが、BS・ラジオ CM、地域ごとの新聞広告をはじめ、エデンの園 50 周年の広報を目的に新聞全面広告の全国版掲載により広範囲なブランディングを展開したことに加え、NHK ドキュメント 72 時間の歴代ベスト 10 で第 3 位に選出されたことによる効果も相まって個別見学会等につなげることができた。予算未達となったものの、入居契約は、契約件数 139 件、契約金額 45 億 1 千万円となった。

災害対策では、非常用 LED 照明、簡易トイレ等を追加整備した。

3. 人材の採用・育成・定着の強化

次世代の施設長、副施設長を担う職員を育成するため、2021 年度に開催した事業部管理者研修

の行動計画の進捗報告会を行い、受講者の成果を全施設で共有した。また、コロナ禍により研修機会が減っている入職３年以内の職員を対象とする集合研修を３か所で実施したほか、厳しい経営環境のなか舵取りを担う施設長の総合力を高めるため、外部の専門家２名を招き、２回の集合研修を行った。

職員がより快適に働くことができるよう、腰痛軽減アシストベストを全職員に貸与した。

また、事業部の採用ホームページを拡充し、「働きたい」と思える各施設の特徴と強みを「見える化」し、発信し続けるための仕組みを整えた。

４．サービスの質・安全・効率の向上

有料老人ホーム事業のサービスの質向上を目的とし、一般財団法人日本老人福祉財団、公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団と共同で、第１回有料老人ホーム実践研究発表会を開催した。

特定施設入居者生活介護の相互監査を４施設で実施し、法令に基づき適切にサービスが提供できているか監査するとともに、互いの運用を学びあう場とした。

2021年度の介護報酬改定を踏まえ、2023年３月までに全施設で自然災害、感染症のBCP（業務継続計画）の作成が完成した。2023年度は作成したBCPに基づく実践的な訓練を行い、実効性を担保したい。

５．新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

見守りシステムは、2022年度に油壺エデンの園と奈良ニッセイエデンの園で導入した。月１回の定例会を通じてケアの運用を見直し、改善につなげている。

コロナの感染リスクを低減するため入居者と職員の接触時間を短縮し、乾燥を中心とする皮膚トラブルを改善するため、職員の主体的な取り組みがマイクロバブル入浴装置の導入につながり、計７施設で導入が完了した。

ETS2020は、見守りシステムとの連携等、定期的なシステム改修により文字通り基幹システムとして成長を続けているが、施設間で利活用に差が生じつつあるため、2023年度は検証と振り返りを行い、運用の改善を図りたい。

６．地域における公益的な取り組み

SDGsとしての活動を念頭に置き、介護フェスタ、認知症講演会、地域の清掃活動、共同防災訓練等を継続している。

【数値実績】

（直営施設）		浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢１	藤沢２	計
目標件数		33件	12件	17件	35件	18件	17件	11件	4件	147件
募集実績		34件 40名	10件 14名	17件 19名	33件 42名	19件 22名	13件 13名	13件 15名	0件 0名	139件 165名
入居率	期首	91.1%	89.5%	80.1%	94.1%	93.3%	80.0%	97.6%	84.0%	91.1%
	期末	93.5%	85.8%	80.8%	94.6%	95.1%	80.0%	97.6%	82.0%	91.1%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2022年度の当初から新型コロナウイルス感染者がいよいよ園内でも発生し、前期はいかに感染拡大を抑え込むかに重きを置きながら運営を行った。その甲斐もあり、園内で感染が拡大した事例はなく、後期は徐々に社会的にも新規感染が減少し、園内にも少し安堵と落ち着きが広がった。

感染対策はその時々の様子を見極めつつ緩急を織り交ぜて実施し、それに合わせてリスクを最小限に抑えながらどのようなサービスが提供できるかを常に考え、入居者が健康の維持や季節の楽しみを味わえるよう心がけた。各種体操や、トレーニングルームを活用した入居者の筋力低下予防や健康維持に努め、近隣のお散歩企画も積極的に取り入れた。

四季折々の行事は好評であった2021年度と同様、楽器の演奏やパフォーマーを中心に2部制で開催する他、介護棟でも演奏をしてもらい、より多くの入居者が生の迫力を楽しむことができた。特に、浜松市出身の女性落語家を招いた落語会は大変好評で、地元浜松のネタを盛り込んだ噺に、多くの入居者が聞き入った。これらの催しは園内放送でも視聴できる旨入居者に案内しているが、かねてより音響の悪さが指摘されている。何らかの手立てを講じて早期改善を目指したい。

サービスにおいては、「入居時から看取りまでその人らしく」を実現するために、各種カンファレンスを全職種の職員で実施した。特に一般居室と介護居室の担当者間の隔たりが小さくなったことで、情報共有や各種連携、介護居室への住替えが一層円滑になった。

経営面では、エネルギー関連の電気や燃料が想定以上に高騰し、また全ての物品や食材の値上がりが続いたことで支出のコントロール機能を失いかけたが、各部署が、そして各職員がそれぞれの立場で何ができるかを考え、実行に移すよう努めた。その結果、2022年度は予算に対し有料老人ホーム会計で約84万円、診療所会計で約826万円、合計で約910万円の赤字削減ができ、予算を達成できた。

公益事業は新型コロナウイルス感染対策の影響もあって、最低限の地域清掃活動や三方原地区の自治会を含めた各施設の災害時連絡訓練実施に留まり、望むほどの地域交流にいたらなかった。

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践

- (ア) 前年度からの取り組みが継続でき、2021年度より活発な意見交換ができた。
- (イ) 入居前の情報も積極的に取り込み個々の情報の一元化が拡大できた。
- (ウ) マニュアルが適宜更新でき一定程度の質は保たれているが、検証にはいたらなかった。
- (エ) コロナ禍にあり地域とつながる取り組みは最小限しかできなかった。

2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり

- (ア) 日々の朝礼や園内研修等を通じて「聖隷理念」「施設理念」を継承する取り組みはできた。
- (イ) 階層（世代）に合わせた人材育成をどのように行っていくか、検討していく。
- (ウ) 専門職がより専門性を発揮できるよう、システム導入や業務改善を継続していく。
- (エ) 障がい者雇用枠の拡大を各課で検討したが、実現には至らなかった。

3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保

- (ア) 34件40名の新入居者を迎え入居率93.5%で年度を終了、目標の93%を達成できた。
- (イ) システムを活用したペーパーレスや業務のスリム化が進みつつある。
- (ウ) コロナ対応等で一時的に業務が集中することもあったが、課を跨いだ職員の協力体制によ

り乗り切ることができた。

4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供

- (ア) 新型コロナウイルスの単発的な感染はあったが園内感染は最小限に留めることができた。
- (イ) コンプライアンスに関して、集合研修の実施や管理会議で徹底の検証を実施できた。
- (ウ) 実践に即した防災訓練を実施し多くの課題を見出した。2023 年度の改善につなげる。
- (エ) 感染並びに防災の BCP を完成できた。今後職員で共有していく。

5. 入居者と共に取り組む「新しい浜名湖エデンの園」づくり

- (ア) 2023 年度の開園 50 周年に向けたプロジェクトが始動、施設と事業部で連携を図った。
- (イ) トレーニングルームに新たなマシンを導入した。今後稼働率を高めていけるよう検討する。
- (ウ) 折々で可能な範囲の各種イベントは実施できた。コロナ禍前の状態に戻す検討を開始した。
- (エ) 入居者と共に地域・園内の清掃活動の実施。その他の地域貢献策はコロナ禍で未検討。

6. 地域における公益的な取組

2018 年度に登録した「浜松市ささえあいポイント事業」のボランティア受入施設を継続した。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	401 戸（80 戸）	162 名	319 名	481 名

表 2：地域別契約状況

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
人数	0 名	1 名	63 名	398 名	14 名	3 名	0 名	2 名	481 名
構成比	0.0%	0.2%	13.1%	82.8%	2.9%	0.6%	0.0%	0.4%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	36 名	69 名	96 名	94 名	71 名	75 名	25 名	15 名	0 名	481 名
構成比	7.5%	14.3%	20.0%	19.5%	14.8%	15.6%	5.2%	3.1%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
81.9 歳	80.1 歳	82.8 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男性	17 名	7 名	(5 名)
女性	23 名	20 名	(18 名)
計	40 名	27 名	(23 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	122 名	20 名	10 名	37 名	18 名	19 名	14 名	4 名
期末人数	129 名	24 名	8 名	39 名	16 名	19 名	18 名	5 名
月平均人数	137.7 名	23.9 名	10.7 名	41.9 名	16.2 名	23.3 名	16.0 名	5.7 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	129.3 名
-----------	---------

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2022年度は、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）が拡大と収束を繰り返す中、入居者の協力のもと感染予防の徹底と感染時の拡大防止対策の実施等、職員の不断の取組によりクラスターを発生させることなく運営することができた。しかし、長期にわたる面会や行事などの様々な制限は、日常生活上の不便のみならず、人と人との触れ合いの減少等によって、入居者の心身への不調に少なからず影響を与えていたものとする。そのような状況を少しでも軽減するための取組として、職員が自発的にコロナ禍でも実施できるコンサートや入居者・職員が交流できるイベントなどを企画・実施することができた。

建替え計画においては、数度にわたり全体会や棟別説明会を開催し、様々な意見を重ね2025年度着工に向けて一定の理解を得ることができた。

経営面では、資源価格の高騰による事業費（食材費や光熱費等）の増加や建替え計画に伴う新規入居契約の制限等による事業収益の減少により、非常に厳しい状況となった。2022年度の取組を各部署・各職員においてしっかりと振り返り、入居者の協力を得ながら職員一丸となりこの厳しい経営環境を乗り越えていきたい。

1. 入居者満足度の向上

- (ア) 2019年度開催以来の棟別懇談会を開催し、多くの課題が発見できた。
- (イ) 食事満足度調査を実施し、サービスに関する全ての項目において2021年度を上回った。
- (ウ) 入居者向けの外部講師による認知症講座を開催した。
- (エ) コロナ禍でも入居者と職員とが触れ合うことのできるイベントを実施した。
- (オ) 建替え計画に関する定期的な全体会及び棟別説明会を実施した。

2. 職員満足度の向上

- (ア) 役職者全員で、自身の思いを語り合う時間を設け、理念の浸透を図った。
- (イ) 他部署の状況を把握する機会を持つことで、職場間連携が強化され業務が短縮・効率化された。
- (ウ) 看護・介護職におけるeラーニング（インターネットを利用した学習形態）受講の推進により、受講率（任意受講の自己学習）が2021年度比で38%向上した。
- (エ) 各部署や衛生委員会、管理会議において超過勤務時間について多面的に確認を行い、改善を促すことができた。
- (オ) 全ての介護居室に見守りシステム（ベッドや居室などにセンサーを設置し別の場所にいる職員に入居者の情報を知らせるシステム）を導入し、入居者の安全確保と職員の業務軽減を図った。

3. 健全経営体制の維持

- (ア) 組織横断的なプロジェクトチームを結成し、介護状態となっても安心して快適な住空間を実現する専門職が考えるモデルルームの提案を行い新しい募集活動の形を構築した。
- (イ) 診療所において効果的なベッドコントロールを実施し、収益予算を維持した。
- (ウ) 毎月管理会議において各職場のコンプライアンスに関する事項の点検を実施した。

(エ) 食堂では、人気メニューを取り入れたワンプレートメニューの開発による喫食率向上への取組を行い、診療所においては宝塚市特定健診等を活用し収益改善を図った。

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 離園者対応訓練はコロナにより中止したが、不審者対応訓練は実施できた。
- (イ) 災害や緊急時における事業継続計画を策定した。
- (ウ) コロナ発生時にコロナチームを立ち上げることで感染拡大を防ぐことができた。
- (エ) リスク、苦情への迅速な対応を行うと同時に各部署での共有を図った。

5. SDGs としての活動を念頭にいた、地域における公益的な取組み

- (ア) 地域住民との共同避難訓練は、コロナ禍により未開催となった。
- (イ) 地域住民への婦人科検診実施の積極的な案内により 9 名が受診した。
- (ウ) 障害者雇用率は継続達成し、健康・生きがい就労トライアル（シニア世代の社会参加を可能にするための宝塚市のプロジェクト）に参画し 1 名が就労した。
- (エ) WAC 事業における高齢者理解や認知症講演会は、コロナ禍により未開催となった。

表 1：契約状況

	戸数(複数入居)	男性	女性	計
人数	350 戸 (50 戸)	94 名	306 名	400 名

表 2：地域別契約状況

	近畿	関東	東海	甲信越	中国	北海道	北陸	四国	九州	計
人数	341 名	24 名	19 名	2 名	6 名	1 名	2 名	5 名	0 名	400 名
構成比	85.3%	6%	4.8%	0.5%	1.5%	0.2%	0.5%	1.2%	0%	100.0%

表 3：年齢構成

(単位：名・%)

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	28 名	77 名	103 名	85 名	51 名	38 名	12 名	6 名	0 名	400 名
構成比	7%	19.2%	25.8%	21.3%	12.7%	9.5%	3%	1.5%	0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
84 歳	82.3 歳	84 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男性	5 名	10 名	(8 名)
女性	9 名	22 名	(20 名)
計	14 名	32 名	(28 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	112 名	27 名	8 名	32 名	13 名	16 名	9 名	7 名
期末人数	104 名	24 名	8 名	33 名	13 名	16 名	7 名	3 名
月平均人数	106.6 名	26.5 名	7.4 名	30.7 名	13.3 名	16.2 名	8.9 名	3.6 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	128.5 名
-----------	---------

介護付有料老人ホーム 松山エデンの園

2022 年度、松山エデンの園では前年に引き続きコロナウィルス感染拡大を防ぎ入居者が安心安全に生活が送れるように努め、職員の感染者は散発したが特に介護居室では感染者を出すことなく運営することができた。経営面では新入居契約を 17 戸 18 名とし募集活動に注力した。特に介護棟への直接入居募集の強化に向けて介護居室における医療補助行為の見直しや部署間の連携強化に努め目標数値は達成したものの、退去者が 17 名ということもあり入居率は 80.8%にとどまった。

2023 年度は感染症に対する制限が緩和されるため、入居者が楽しみにされている園内行事の再開に向け全職場で協力しながら取り組む体制を整えていきたい。また、毎年多くの方が逝去されているため、人生会議の実施を定着させ、施設理念である入居者の幸せづくりの支援を継続していく。

1. 入居募集と経営の安定

- (ア) 新規契約戸数 17 戸 18 名に対し 17 戸 19 名で達成した。
- (イ) 入居検討者のニーズに応じた受け入れを柔軟に対応することとし、介護棟への直接入居の目標 6 件を達成した。
- (ウ) 全職員の入居募集活動への協力と連携については、園内募集会議では各課から協力できることの提案・討議を毎月実施した。また介護居室入居希望者の事前面談にケア職員も同行する新たな取り組みを開始した。
- (エ) 介護サービスの適切な移行と介護保険収益の確保については、介護保険新規契約者 8 件区分変更 11 件、住み替え 5 件と積極的に行ったが、入院や逝去に伴い予算未達となった。
- (オ) 省エネ活動の継続的な取り組みと適切な設備更新では、施設内の LED 化を進めることができた。

2. 人材の確保と育成

- (ア) 事業部管理者研修計画の実践では、研修参加者が主となり実施指導に対して取り組みを行えたが、十分な理解と準備までは至らなかった。
- (イ) 目標参画、各種ラダーを活かした職員評価と教育の実践では、それぞれの活動をリンクさせながら OJT に繋げることが不十分であった。

3. よりよいサービスの提供

- (ア) 見守りシステムを介護棟 2 階に導入し、睡眠や排泄に関するアセスメントができケアプランに反映させたり、夜勤の巡視時間の見直しが行えた。
- (イ) ETS2020（業務基幹システム）を活用したケア業務の効率化では、予定・実績の入力をタブレットで完結できるように変更し、予定管理はペーパーレス化に繋がった。

4. 安心安全な施設環境作り

- (ア) 防災対策の強化では、松山エデンの園版防災のしおりの作成、BCP の作成、入居者参加型の防災訓練、防犯訓練を行うことができた。
- (イ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止については、集団感染を防ぐことができた。

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域での災害を想定した防災体制の強化、環境保全活動への取組みでは、コロナの影響もあり合同での話し合いや訓練を行うことができなかった。
- (イ) 地域の医療・介護連携への参画では、近隣病院の地域連携室や居宅事業者への訪問実施と地域のケアマネジャー連絡協議会への参加を行うことができた。
- (ウ) 近隣の幼稚園児を招き、入居者が作ったさつま芋の芋堀りをしてもらい、掘った芋をプレゼントした。

【数値実績】

表 1：契約状況 (単位：名)

	戸数 (複数入居)	男性	女性	計
人数	118 戸 (16 戸)	45	89	134

表 2：地域別契約状況 (単位：名・%)

	四国	近畿	関東	東海	九州	中国	計
人数	109	11	5	6	1	2	134
構成比	81.4	8.2	3.7	4.5	0.7	1.5	100.0

表 3：年齢構成 (単位：名・%)

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	9	28	33	31	9	9	12	3	0	134
構成比	6.8	20.9	24.6	23.1	6.7	6.7	9.0	2.2	0	100.0

表 4：平均年齢 (単位：歳)

平均	男性	女性
82.44	84.04	83.51

表 5：入・退去状況 (単位：名)

	入居	退去	(死亡退去)
男	7	5	(4)
女	12	12	(10)
計	19	17	(14)

表 6：介護保険利用者 (介護保険請求者数) (単位：名)

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	44	12	2	11	4	7	0	8
期末人数	50	15	3	7	9	7	3	6
月平均人数	44.5	11.7	2.8	8.3	6.7	6.5	1.7	6.8

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2022 年度も新型コロナウイルス感染症対策が最優先課題とした運営を行うことになったが、そのような中でも入居者に潤いのある生活をしていただくことを試行錯誤しながら取り組んだ 1 年となった。

2022 年 10 月に管理費改定を行ったが、物価、水光熱費の高騰が大きく影響し厳しい施設運営となった。募集活動は目標達成には若干未達であったがラジオ等も活用しながら個別のデイリーライフ見学会を丁寧に継続することで 33 件の新規入居契約を獲得することができた。

運営面では、感染状況に合わせた行事開催ではあったが、秋季に介護予防活動の取り組みとして「いきいきフレイル予防週間」を開催し 170 名を超える入居者に参加いただきコミュニケーションの場とすることもできた。以前より課題となっていた園共通マニュアルの見直しと改定を全課で行い運用の体制も構築できた。感染症、及び非常災害時の BCP が完成できたため、訓練を重ね、より安全性を高めるような整備を進めたい。今後も基本的感染防止対策を継続しながら入居者サービスの向上、永続性の確保のための有料老人ホーム・診療所の経営の安定化を図りたい。

1. 安心、安全を基盤としたサービスの質向上

- (ア) 入居者の状態変化をケア会議等で情報共有と検討を行い適正なサービスを提供した。
- (イ) 第 7 波、第 8 波の影響を受けたが、全課が協力しクラスターには至らなかった。
- (ウ) モニタリングで ETS2020（業務基幹システム）を活用しサービスと業務効率が向上した。
- (エ) 感染対策を行いながら、音楽コンサート、米寿のお祝い会等の開催ができた。
- (オ) ご当地メニュー、食事懇談会開催など取り組みを行ったが喫食率アップは課題となった。
- (カ) 外部講師による接遇勉強会の開催、課ごとの接遇目標に取り組んだ。
- (キ) うみかぜテレビも活用し入居者向けの園内危険箇所注意喚起の講習会を実施した。

2. 自ら考え行動できる職員の育成

- (ア) 個々の特性を大切にしながら積極的に役割を果たせるような関わりを継続した。
- (イ) 各課の中堅職員 6 名を対象とした園内研修実施と他課との交換研修を実施した。
- (ウ) 部署間の情報共有、業務連携の強化により診療所の夜勤体制を変更した。
- (エ) 職員個々のスキルアップを目的とした e-ラーニングやラダーの活用を継続した。

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 管理費改定は実施できたが、入居率 95.0%以上の確保はできなかった。
- (イ) 3・5 号館の建物改修工事、8 号館カーペット張替え工事等の計画修繕は実施した。
- (ウ) 生活援助サービスの定期評価の定着により介護サービスへのスムーズな移行ができた。
- (エ) 「いきいきフレイル予防週間」を開催しフレイル測定、ペタンクは好評であった。
- (オ) 逝去、転院により入院患者数は伸びず、診療所体制の整備は今後も課題である。

4. SDGs を意識した環境・省エネへの取り組みと地域との関わり

- (ア) 省エネルギーの取り組みとして共用部全体の照明 927 か所を LED 化した。
- (イ) 地域貢献活動（環境保全）としてワクチン 43 個分のエコキャップ回収を行った。
- (ウ) 働きやすい職場環境整備は継続課題である。

(エ) 障がい者雇用に向けた活動は行ったが、採用まで至らなかった。

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

(ア) 自然災害発生時の BCP は作成できたが、防犯訓練は実施できなかった。

(イ) 直近 3 年間の新入居者を参加対象とした防災訓練実施、及び入居者向けの防災グッズの販売会を実施した。

(ウ) 三浦市との地域防災協定を継続している。

6. その他の公益的事業について

(ア) 三浦市社会福祉協議会の協力のもと介護フェスタを開催した。

(イ) 三浦市のフレイルチェック事業に職員（フレイルサポーター）を派遣した。

実績：7 回開催、延 149 人の地域住民対象に毎回 1 人の職員が参加

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	401 名（89 名）	166 名	324 名	490 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	信越	四国	北海道	中国	東北	外国	計
人数	450 名	16 名	14 名	1 名	5 名	0 名	1 名	0 名	2 名	1 名	490 名
構成比	91.8%	3.3%	2.9%	0.2%	1.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.4%	0.2%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	40 名	83 名	105 名	98 名	70 名	52 名	31 名	10 名	1 名	490 名
構成比	8.2%	16.9%	21.4%	20.0%	14.3%	10.6%	6.3%	2.1%	0.2%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
83.0 歳	81.3 歳	83.8 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	18 名	11 名	(11 名)
女	24 名	27 名	(23 名)
計	42 名	38 名	(34 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	133 名	14 名	18 名	29 名	24 名	17 名	17 名	14 名
期末人数	140 名	22 名	22 名	38 名	14 名	13 名	16 名	15 名
月平均人数	131.2 名	16.2 名	19.4 名	33.6 名	17.9 名	13.1 名	16.6 名	14.4 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	134.6 名
-----------	---------

介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園

2022年度は「カーサ・デ・かんぽ浦安」の移譲から15年の節目を迎え、コロナ禍ではあったが感染予防対策を講じ、入居者と共に15周年を記念したイベントを実施しお祝いをした。また、介護予防活動を中心に体操や講演会、音楽イベント等を対面で実施し多くの入居者に参加していただいた。入居者の意見を直接聞ける場である運営懇談会や入居者全体会についても再開できた。各種活動を実施するためにも園内が安全な場であることに注力し、入居者の協力のもと感染予防対策を講じてきた。加えて、入居者の施設内でのコロナワクチン接種や職員が施設に持ち込まないように、千葉県指導の定期的な抗原検査の実施といった対策を行い、陽性者が確認されたとしても拡大せず収束させることができた。防災対策は、いざという時に入居者の安全を守れるよう備品や備蓄品の見直しと更新を行った。防災訓練については、実際の災害時に活かすため、入居者参加型で実施し入居者の安全・安心につながるよう取組んだ。

経営面では、光熱水費や物価高騰の影響を最小限に食い止めるためにも、経費節減に取組んだ。園内で使用している消耗品の見直しや節電につながる備品の更新について、厨房を中心に積極的に実施した。入居者募集の面では、大規模イベントは自粛したが、個別見学の継続や新たな広告媒体の活用等により目標の入居率95%を達成できた。また、苦戦してきた看護介護職員の採用について、ICT化・介護ロボット導入の促進等による魅力ある職場作りに努めた結果、職員を予定数確保することができた。

1. 良質なサービスの追求

相談窓口の機能向上のため、フロントカウンターにスイングドアを取り付け、入居者に寄り添った対応ができるよう改善した。一般居室窓口は処置スペースを新たに作り、待ち時間の解消を図った。各職場間の連携を深めるため、情報共有ツールの作成や合同会議の実施等によりサービスの質の向上に努めた。入居者から質問の多かった自立者への生活援助サービスについて、介護フェスタにて説明会を実施し、生活上の不安や疑問を払拭する一助とすることができた。見守り機能向上のため、正面玄関、通用口、中庭出入り口に顔認証カメラを新設した。また、介護居室は昨年導入した見守りシステムを積極的に活用し、ケアの質向上に努めた。レストランでは、季節や気温に配慮した食事提供時の温度管理やメニューの工夫や手作りデザートの振る舞い等を実施し食べる楽しみを意識した取組みを行った。

2. 働きがいのある職場風土の醸成

職員のスキルアップのため、看護・介護職のオンライン研修システム e ラーニングや外部研修の活用に加え、目標参画システムによる個人の目標管理を実施した。メンタルヘルス向上の取組みについては、ストレスチェックの受検率100%を継続できた。ストレスチェックから得られた情報や職員アンケートの結果等を踏まえ、各職場で業務改善の取組みを実施し、働きがいのある職場風土の醸成に努めた。

3. 安心・安全な施設づくり

設備面では園内が明るく清潔感を感じられるよう門扉の修繕やエントランスのカーペットの張替えを行った。また、老朽化に伴う設備更新にも注力し環境改善に努め、既存棟屋根

の防水を含めた改修や埋設排水管の更新工事等を実施した。災害時及び感染症発生時のBCP（事業継続計画）を策定し有事の際の入居者の生活の確保に向け準備を進めた。

4. 安定した施設経営の実現

経営の安定のため、積極的な募集活動を展開し目標の入居率95%を達成することが出来た。反面、喫食率は予算に大きく届かない結果となった。満足度調査の結果や食後アンケート意見を参考に選んでいただけるレストラン作りに努めていく。環境・省エネへの取組みについては、増築棟のLED交換工事を実施し園内のほぼすべてをLED化することができた。

5. 地域における公益的な取組み

保育園との津波・高潮時の避難訓練の合同開催や学童クラブとの季節ごとの交流が継続できた。また、地域交流のため、コロナ禍でも感染対策を講じて近隣大学からの学生実習の受け入れを再開した。新たな交流として、地域の子ども食堂へ消費期限間近となった災害備蓄食品の寄付を実施し地域貢献に努めた。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	213 戸（34 戸）	85 名	162 名	247 名

表2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	231 名	7 名	2 名	2 名	0 名	4 名	1 名	247 名
構成比	93.5%	2.8%	0.8%	0.8%	0.0%	1.6%	0.4%	100.0%

表3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	22 名	34 名	67 名	55 名	41 名	21 名	6 名	1 名	0 名	247 名
構成比	8.9%	13.8%	27.1%	22.3%	16.6%	8.5%	2.4%	0.4%	0.0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
84.0 歳	82.1 歳	85.0 歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	11 名	5 名	（2 名）
女	11 名	13 名	（11 名）
計	22 名	18 名	（13 名）

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	69 名	14 名	10 名	14 名	9 名	8 名	10 名	4 名
期末人数	69 名	15 名	10 名	17 名	6 名	5 名	7 名	9 名
月平均人数	70.6 名	15.9 名	10.8 名	16.0 名	7.3 名	6.8 名	8.6 名	5.2 名

表7：職員数

職員数（常勤換算）	67.8 名
-----------	--------

介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園

2022 年度はエンドオブライフ・ケアや認知症ケアの充実を図るために、全居室に設置した見守りシステムを本格運用した年度であった。この活用により入居者の「自分らしい生活」を支えるために最適なタイミングで、根拠ある介護実践を行えるようになり、職員の「人にしかできないこと」に重点を置く視点につながったと考えている。また、コロナ以前に実施していた入居者・家族参加のサービス担当者会議や故人との思い出やケアを家族とともに振り返る「思い出カンファレンス」を再開することができ、人とのつながりを実感できる 1 年となった。

新たな事業の導入として、空室を活用した短期利用特定施設入居者生活介護を開始し、利用実績を得ることができた。

1. 安全・安心・良質なサービスの提供

- (ア) 見守りシステムから収集されたデータを、事故発生時の原因分析・対策検討や入居者の睡眠状態を改善するための取り組みに活用することができた。
- (イ) 認知症ケア体制の強化において、認知症の方を対象としたアクティビティ活動「ひまわりの会」を充実させる取り組みを実施した。
- (ウ) 聖隷横浜病院と連携を図りエンドオブライフ・ケアを提供し、逝去後は入居者への関わりを振り返る「思い出カンファレンス」を家族参加のもと開催した。
- (エ) リスク対策の強化として、苦情が発生した際、効果測定まで確実にいけるよう IA システムを活用する流れを整理した。
- (オ) 入居者満足度調査結果をもとに、アクティビティや食事の味付け、献立を改善した。
- (カ) 入居者が生き生きと暮らせる活躍の場や機会を創設する取り組みとして、入居者による健康講座や入居者の作品を展示する作品展を初開催した。

2. 人財の育成、定着の強化

- (ア) 教育体系の構築と目標参画システム・各職種ラダーを活用した人材育成において、介護職・看護師はラダーと連動した役割や目標を設定し、取り組むことができた。
- (イ) 役職者のマネジメント能力の向上を目指し、各役職者は自分自身が高めたいマネジメント能力を目標設定し、取り組むことができた。
- (ウ) 専門職の知識・技術向上を図る取り組みとして、ゆうゆうの里との交流研修に参加し、参加者は自職場での問題解決に取り組むことができた。
- (エ) 「働き方改革」を推進するため業務内に会議、カンファレンスを行うよう工夫したが、コロナ関連による職員の欠勤により超過勤務時間の削減には至らなかった。
- (オ) 職員のキャリアアップ支援と研修受講環境の整備として、施設研修（法定研修を含む）の多くを集合型から e ラーニングへ変更したことで受講率が向上した。

3. 経営基盤の安定と持続性の確保

- (ア) 平均入居率 95.0% に対し実績は 82.0%、平均要介護度 2.5 に対し実績は 2.7 であった。
- (イ) 入居者募集活動として関連機関のケアマネジャー等とネットワーク作りに注力した結果、2021 年度には入居実績がなかった病院や有料老人ホームから入居につながった。

- (ウ) 空室を活用した新たな事業として 12 月に短期利用を開始し、体験入居も再開した。
- (エ) 各職場の役職者が目標稼働率や経営状況を把握するため毎月の管理会議内において役職者が持ち回りで月次報告を行った。
- (オ) BCP（感染症・自然災害）を整備することができた。実効性は 2023 年度に検証予定。

4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域防災連携の構築に向け、近隣高齢者福祉施設等周辺状況の調査、災害支援ナースの設置を目指したが実現には至らず継続課題とする。
- (イ) 地域貢献のための活動は実施できず。当園の強みを活かした地域貢献活動を検討する。
- (ウ) 地域住民向け講座は実施に至らず。実施に向け社会福祉協議会へ働きかけのみとなった。

5. 環境・省エネ活動への取組みの強化

- (ア) 入居者とともに、エコキャップ推進活動に参加した。
- (イ) 省エネ活動として、共用部の電灯を LED へ変更した。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	41 戸（0 戸）	9 名	32 名	41 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	40 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	41 名
構成比	98%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	100%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	10 名	16 名	7 名	2 名	2 名	4 名	0 名	0 名	0 名	41 名
構成比	24%	39%	17%	5%	5%	10%	0%	0%	0%	100%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
89.0 歳	87.3 歳	89.5 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	7 名	5 名	（3 名）
女	6 名	8 名	（8 名）
計	13 名	13 名	（11 名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	40 名	0 名	4 名	6 名	11 名	8 名	6 名	5 名
期末人数	41 名	1 名	3 名	5 名	10 名	7 名	5 名	10 名
月平均人数	41.3 名	0.2 名	3.9 名	5.7 名	11.0 名	6.9 名	5.7 名	7.9 名

表 7：職員数

職員数（常勤換算）	46.8 名
-----------	--------

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2022 年度も新型コロナウイルス感染症の影響は受けたものの、事業所間での協力体制がとれ、また入居者・利用者の協力のもと事業継続ができた。外出企画や季節行事も 2021 年度より更に以前に近づける形で開催することができた。また ICT、ロボット化の推進では、増設した見守りシステムの検証や移乗用リフト、訪問介護記録システムの導入、その他入居検討者や就職希望者への情報提供を目的にウェルフェアタウンの SNS を開設した。2023 年度は、開設 12 年が経過した一番館（住宅型有料老人ホーム）入居者へのサービス体制の仕組みづくりについて在宅部門や二番館と共に継続して検討を行っていく。

1. 利用者満足度をあげるサービスの提供

感染対策を状況に合わせ柔軟に変化させることで、入居者サークル活動や有観客でのコンサートを開催した。また施設内でマイナンバー登録会を実施した。一番館入居者への新たな支援体制について検討を始めたが、導入段階には至らず継続して検討していく。

2. 状況の変化に応じた事業所運営

光熱水費の高騰に伴い、空調の中央管理化や節水効果が期待できる食器洗浄機の入替えを行った。また感染症や自然災害に対する BCP 策定を行った。今後その BCP に沿った訓練を行い、精度をあげていく。

3. 接遇をはじめとする人材育成の実践

タウン内において『おもてなしの心を持つ』という目標を設定して、各職場において取り組みを行った。またハラスメントにおける研修や慶應義塾大学と連携して『介護施設の BCP の動向』、『自立度の高い方への認知症ケア』についての講演会を行った。

4. ウェルフェアタウン内外における連携強化

新型コロナウイルス感染症による出勤可能職員の減少に伴い、各事業所間で連携を図ることで事業運営が継続できた。また、神奈川県、県立保健福祉大学等が行った自立支援ロボットを活用した共同研究に参加した。藤沢市が行う実証実験にも積極的に参加し、デイサービスで効果のあった歩行解析アプリを導入した。また各事業所の広報誌の共有を行い事業所間の理解推進を図った。

5. 地域社会における公益的な取り組み

2021 年度より参加している『フードバンク藤沢』の活動を継続し、職員に協力を募って食品の提供を行ったほか、地域住民を対象とした介護食や福祉用具使用時の注意点を学ぶ家族介護者教室を藤沢市より委託を受けシリーズで 3 回開催することができた。

【藤沢エデンの園一番館】

2022 年度の新規契約戸数は実績 12 件 15 名（予算 11 件 14 名）で目標達成できた。しかし二番館住み替え等による退去が年度末に多く、入居率は 97.6%に止まった。災害対策については、BCP 策定に伴い入居者用の「防災のしおり」の改訂、厨房業務が継続できない時の体制整備を行った。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	204（51 戸）	86 名	169 名	255 名
職員数（常勤換算）	49.7 名			

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	中部	九州	中国	東北	四国	計
人数	225 名	9 名	16 名	0 名	2 名	2 名	1 名	255 名
構成比	88.2%	3.5%	6.3%	0.0%	0.8%	0.8%	0.4%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	2 名	33 名	59 名	69 名	47 名	36 名	7 名	2 名	0 名	255 名
構成比	0.8%	12.9%	23.1%	27.2%	18.4%	14.1%	2.7%	0.8%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
81.8 歳	82.2 歳	81.5 歳

表 5：入・退去状況 *退去数には二番館への住み替え数を含む

	入居	退去	（死亡退去）
男	5 名	7 名	（3）名
女	10 名	10 名	（6）名
計	15 名	17 名	（9）名

【藤沢エデンの園二番館】

一番館からの住替者を優先し 5 名を受け入れ、直接入居は募集を一時停止した。その結果、2022 年度末には入居率 84%となった。今後は職員が働きやすい職場環境づくりを目指し、業務改善とともに ICT 導入も行っていく。入居者が安心して入居、住替ができるよう、感染症対策を含め、安全、安心なサービスの提供を行っていく。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	41 戸（0 戸）	7 名	34 名	41 名
職員数（常勤換算）	35.8 名			

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	中部	九州	中国	東北	計
人数	35 名	0 名	5 名	1 名	0 名	0 名	41 名
構成比	85.4%	0.0%	12.2%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	6 名	12 名	14 名	6 名	3 名	0 名	0 名	0 名	0 名	41 名
構成比	14.6%	29.3%	34.2%	14.6%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
88.8 歳	88.4 歳	88.9 歳

表 5：入・退去状況 *入居数には一番館からの住替数を含む

	入居	退去	(死亡退去)
男	2 名	2 名	(2) 名
女	3 名	4 名	(4) 名
計	5 名	6 名	(6) 名

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	43 名	0 名	3 名	7 名	11 名	12 名	5 名	5 名
期末人数	41 名	0 名	1 名	9 名	13 名	7 名	4 名	7 名
月平均人数	42.5 名	0 名	1.6 名	8.3 名	14.2 名	6.8 名	5.6 名	6.0 名

【藤沢愛光園】

新型コロナウイルス感染症では、2023 年 1 月の第 8 波で感染者が発生したものの感染を拡大させることなく最小限に留めることができた。その中で入居者の身体的負担軽減のための離床アシストベッドの追加購入や見守りシステムを増設してサービスの質の向上を行った。

【数値実績】

	特養入所		短期入所		合計
	既存	ユニット	既存	ユニット	
利 用 者 定 員	0 名	100 名	0 名	20 名	—
利用者延べ数	0 名	35,234 名	0 名	6,246 名	—
稼 動 延 日 数	365 日		365 日		—
一日平均利用者数	0 名	96.5 名	0 名	17.1 名	—
稼 働 率	0.0%	96.5%	0.0%	85.6%	—
単価 (1 人 1 日当り)	15,404 円		15,333 円		—
職員数(常勤換算)	69.4 名		14.7 名		84.1 名

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

2022 年度は、在宅看取り数が増え、近隣の医療機関とさらに連携を深めることができた。リハビリも周辺認知が進み依頼も多くなった。2023 年度は BCP の作成を行いながら、平時より取り組むことで災害時や不測の事態に備えることができるよう、人材確保や育成に取り組んでいく。園内外の連携を強化し、質の向上に努める。

【数値実績】

	月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	単 価	職員数 (常勤換算)
実績	114.4 名	642.8 件	7,714 件	10,201 円	9.4 名

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

認知症利用者への知識・技術の向上を図るため外部研修に参加した。12 月には訪問介護記録システムを導入し、ICT 化の推進を図った。2023 年度は認知症ケアの専門性を高める研修に参加し、質・技術向上に取り組んでいく。

【数値実績】

	介護給付			予防・総合事業		自立支援		単 価			職員数 (常勤換算)
	月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数	月間 訪問数	年間 訪問数	介護給付 (回)	予防総合 事業(回)	自立支援 (回)	
実績	34.5 名	429.0 件	5,148 件	96.6 件	1,159 件	217.0 件	2,604 件	4,045 円	20,275 円	4,404 円	5.5 名

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

特定事業所加算Ⅱは継続し、新規利用者もコンスタントに受け入れることができた。藤沢エデンの園一番館入居者向けに介護保険の制度説明を行った。地域包括支援センターからの困難ケースも受託した。地域やエデンの入居者の在宅生活が継続できるようなケアマネジメントを実践する。

【数値実績】

	年間請求件数		単 価		訪問調査		職員数 (常勤換算)
	介護	予防・ 総合事業	介護	予防・ 総合事業	件数	単価	
実績	1,697 件	526 件	17,182 円	3,851 円	146 件	4,931 円	4.1 名

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

「利用者へ個別性の高い機能訓練の提供」に向けて、AI ソフトのトルトを導入し機能評価と個別の運動メニューを作成、更に定期的な自宅訪問で在宅生活に必要な生活動作の確認をした上で、より個別性の高い機能訓練計画を立案・提供できるようになった。2023 年度も一人一人の在宅生活に沿った訓練計画を作成・提供し、利用者には選ばれるデイサービスとしてより発展させていく。

【数値実績】

	介護給付			予防・総合事業		単 価		職員数 (常勤換算)
	一日 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	介護給付(回)	予防総合 事業(回)	
一日	19.9 件	513 件	6,152 件	8 件	99 件	11,493 円	41,125 円	10.8 名
半日	2.2 件	57 件	680 件			6,782 円		

ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2022 年度は開園 30 周年をむかえ、記念行事等は感染対策により縮小せざるを得ないものもあったが、可能な限り多くの入居者・利用者・職員に特別な日を感じてもらえる企画を実施した。

新型コロナ対策において第 6 波以降は、より感染力の強いオミクロン株により入居者、職員においても感染者発生は避けられない事を想定し、施設内療養、重症化予防の体制整備に注力した。入居者においては重症化予防のため、クリニックにおける抗ウイルス薬の処方体制整備、職員においては勤務制限を最小化するため、有症状、濃厚接触時に迅速に検査を実施する体制を構築した結果、施設内における重症化を防ぐことができた。

ケア部門においては「その人らしさを最期まで支えるケアの推進」のため、引き続きマイメモリーシート（入居者人生録）の活用と他職場間の連携により人生会議開催の体制を強化し、人生会議の対象を看取り期だけではなく、自立の入居者まで拡大することができた。同時に、入居者、職員を対象とした認知症講座の開催や園内ボランティア活動などエデン版・地域包括ケアシステムによる、自助、共助を促す取り組みも実施することができた。

クリニックでは引き続き園内外を対象とした新型コロナワクチン接種への取り組みに加え、新たに皮膚科を開設し、皮膚トラブルの多い高齢者のニーズにこたえることができた。

奈良ベテルホームでは新型コロナ、ノロウイルスとクラスターが発生し入所においては運営、経営ともに大きな影響を受け減収となったが、通所リハビリテーションについては休止することなく予算を達成することができた。物価、光熱費高騰の影響は特に施設系の事業において影響が顕著で、奈良エデンの園、奈良ベテルホームは予算を大きく下回る決算となった。今後も持続可能な事業とするための、経営面における抜本的な対策が必要である。

一方で、在宅部門は新型コロナによる影響はあるものの、光熱費高騰等の影響をうけにくいこと、堅調な利用者ニーズを背景に 3 事業所ともに予算を上回る決算となった。

各施設別の取り組みについては、以下の通り報告する。

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

(ア) 聖隷理念の浸透と実践

(イ) その人らしさを最期まで支えるケアの推進

(ウ) エデン版・地域包括ケアシステムの充実

①入居者ボランティア「虹のわ」（約 20 名）の活動を活性化し、「エデン版・地域包括ケアシステム」において、生きがい作りや共助の精神を育む取り組みを実施した。

②人生会議を一般居室自立者にも対象を拡大。実績 8 件（一般居室/自立：3 名 要介護：4 名、介護居室/3 名）であったが、対象の入居者や身元引受人、初参加の職員からは感動したとの声が多く聞かれた。

③見守り入浴利用の満足度向上に向け、新たに入浴カンファレンスを開始。拒否があった場合の対応の充実として清拭や更衣とともに足浴を実施した。

④生活支援サービスの 1 ヶ月以上の継続利用者に対して支援計画書を作成し、6 ヶ月以内を目安に、必要な方への介護保険への切替えを適切に実施することができた。

- ⑤デイサロン万葉への物理療法機器の導入により、入居者の選択肢を増やし、個別機能訓練の質向上につなげた。居室で閉じこもりがちの入居者など4〜5名/日の利用実績となった。
- ⑥生きがいくくりへの取り組みとして「エデンギャラリー」を開始。
 - (2 サークル、個人枠3名出展、展示替え4回/年)
- ⑦ミモザガーデン入居者ボランティア活動 (2回/月:8月除く) 毎回約10名参加
 - (いちご・ひまわり・コスモス・チューリップ等) 苗や植ええ〜収穫までを行った。
- (エ) 食べる楽しみの追及と安定した食堂運用
 - ①食べる楽しいを追求した企画の充実(有名店監修メニュー、豊洲市場鮮魚仲卸店の活用)
- (オ) 開園30周年記念の取り組み
 - ②30周年祝賀企画は入居者全員が享受できるよう努めた。[30周年記念飾り棚、記念御膳(306食)、記念饅頭(嚙下配慮用、関係職員含む1060個)、式典録画放映(観覧者50名)]。
- 2. 安定した経営基盤の確立
 - (ア) 複合施設の連携を活かした入居者・利用者・患者ニーズの把握と確保
 - (イ) 施設会計収支の安定化
 - ①介護保険の新規契約者は、目標20名に対し実績20名で目標達成。
 - 介護居室への住み替えは、目標10件に対し8件で目標未達であった。
 - ②有料各部門連携による要援助者の遠足(春・秋)企画を実施した。
 - (ウ) 防災・防犯対策・教育と訓練の強化
 - ①自衛消防隊組織の班長になる全職場長に対し「自衛消防業務講習」の受講を必須とした。
 - 各班リーダークラスの職員に受講対象を拡大し資格取得を進めている。
 - ②火災報知器発報時の非常放送および防災盤の操作訓練および勉強会を実施した。
 - (エ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
 - ①誤作動発報防止のため、共用部における熱・煙感知器の大規模更新を実施した。
 - ②共同墓苑増設計画提案と着手(第4墓苑隣地確保と図案作成)
 - ③新規駐車場、駐輪場増設工事計画について施設係、財団と連携し検討した。
 - (オ) SDGsの活動を念頭に置いた取り組み
 - ①約30%の会議体でペーパーレスを実施。
 - 各職場の書面台帳等についてもシステムを活用し、ペーパーレス化を推進している。
- 3. 人財の育成・活用・定着の強化
 - (ア) 採用力強化と定着への取り組み
 - ①中途求職者情報のコネクション拡大のため看護学校訪問(関西採用センター依頼)
 - ②介護職の安定確保に向け2025新卒外国人採用予算化(聖隷クリストファー大学専門学校)
 - (イ) 働き方改革への取り組みの継続
 - ①電子ホワイトボード導入。オンライン会議と会議体のペーパーレス化への環境を整備した。
 - ②介護予防の開催運用を変更し、サービスの質を維持しつつ省力化を実現した。
 - (脳トレ/設営準備削減、対応人数削減: 平日2名→1名、日曜日2名→0名)
 - (歩こう会/月4回→2回 要望に沿った企画に内容を充実)
 - (ウ) 社会的責任を満たすための多様性に対応した就労環境の提供と雇用の確保
 - ①外国人職員の採用(留学生パート9名、2023年度新卒採用2名)

- ②外国人の就労環境整備の啓蒙についての動画作成と各職場への配信を行った
- (エ) 各種ツールを活用した職員教育の実践
 - ①介護eラーニング視聴の目標達成者は90%を超え、未ログイン者(0%)は0名となった。
- (オ) 気づきと行動力のある職員の育成
- (カ) 交換研修・専門研修等への計画的参加と資格の取得支援
 - ①ゆうゆうの里・エデン主任・係長交流研修への参加
 - ②ケアマネジャー資格取得支援として、試験対策の勉強会を開催した。
- (キ) 活気ある明るい職場づくりと職員の心身の健康管理への取り組み
 - ①ストレスチェック結果を元にした各職場長へのフィードバックと、それに対するアクションプランを作成し各職場で実践している。
- 4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染症予防対策の徹底と集団感染の防止
 - ①感染予防委員会より、全職員を対象の動画によるガウンテクニックの指導研修を実施した。
 - ②居室サービス課では課内業務に特化した感染予防マニュアルと動画を作成し配信した。
 - (イ) 接遇マナー改善の取り組みによる職員意識の向上
 - ①個人目標に接遇に関する項目の設定を必須とし、各職場の実施状況を評価した。
 - ②生活サービス課では「e-あいさつ宣言」に取り組み、接遇評価カードにおいて1回目7割、2回目9割の好評価を得た。
 - ③有老協主催の接遇研修に職員3名が参加。職場会で内容を共有した。
 - (ウ) 身体拘束、虐待防止への取り組みの継続
 - ①人財育成委員会主催による課題配信。前期・後期全職員が受講完了している。
 - (エ) Pm-SHELL活用によるリスク分析力向上と効果測定による再発事故防止
 - ①事故予防グループ主催のPm-SHELL勉強会(4回シリーズ)を開催した。
 - (オ) 満足度調査実施結果に基づき改善計画の実践
 - ①2021調査で12%不満足であった接遇に対する取り組みとして、挨拶運動を実施した。
 - ②介護居室における個別機能訓練充実のため機材を導入し、1人あたり4.8回⇒6回/月に増加。
- 5. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) WAC施設としての地域貢献・交流
 - (イ) 地域との災害時の協力体制強化
 - (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動
 - ①河合町立かがやきの森こども園との世代間交流を継続している。10月には入居者手作りのプレゼントを贈呈。作成に関わった入居者と園児の交流は新型コロナ拡大のため中止。
 - ②リハビリスタッフが河合町地域ケア会議や医療福祉連携会議委員として参加した。
 - ③誕生者会(12回)、外出企画で上牧町就労支援事業所の洋菓子店とコラボレーション。
 - ④サークルの地域参加再開(絵画14名、銭太鼓10名、卓球5名、ゲートボール6名)
 - 園長杯ゲートボールでは地域会員を交えて対戦した。
 - ⑤月歩こう会「片岡城址」上牧町ボランティア4名、入居者39名参加
 - ⑥3年ぶりに開催・再開予定をしていた町の防災訓練については雨天中止となった。

■入居者募集活動状況

新規契約戸数は18戸で、(対前年+6戸) その内、8戸が2人入居であった。また、退去が31人(一般20人、介護居室11人)、介護居室への住替えが8戸(対前年比+3戸)あった。その結果、年度末の入居状況は一般居室354戸(対前年比±0戸)、介護居室46戸(対前年比-3戸)となり、入居率は一般居室97.8%、介護居室92.0%、全体で97.1%であった。

■介護保険状況

介護保険認定者は2023年3月31日現在で要支援1:15名(含介護居室0名)、要支援2:29名(同0名)、要介護1:33名(同4名)、要介護2:15名(同5名)、要介護3:16名(同12名)、要介護4:19名(同15名)、要介護5:12名(同10名)、合計:139名(同46名)となった。

【数値実績】

表1:契約状況

(3月末現在)

	居室数	契約数(内複数入居)	入居率
一般居室	362	354(115)	97.8%
介護居室	50	46(0)	92.0%
合 計	412	403(116)	97.1%

(3月末現在)

男 性	女 性	全 体
162	353	515
31.5%	68.5%	100.0%

表2:地域別契約状況

(3月末現在)

	近畿	関東	中国	東海	北陸	四国	九州	北海道	合計
件 数	357	16	1	20	1	4	1	0	400
構成比	89.3%	4.0%	0.3%	5.0%	0.3%	1.0%	0.3%	0.0%	100.0%

表3:年齢構成

(3月末現在)

	～60	～64	～69	～74	～79	～84	～89	～94	95～	合計
人 数	0	2	15	73	83	128	86	92	36	515
構成比	0.0%	0.4%	2.9%	14.2%	16.1%	24.9%	16.7%	17.9%	7.0%	100.0%

表4:平均年齢

(3月末現在)

男 性	女 性	全 体
82.0歳	83.4歳	82.9歳

表5:入・退居状況

(3月末現在)

	入居	退去(内死亡退去)
男性	11	8(8)
女性	16	23(22)
合計	27	31(30)

表6:介護保険利用者(介護保険請求者数)

(3月末現在)

	合 計	内 訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
期首人数	125人	11人	28人	26人	19人	16人	16人	9人
期末人数	127人	13人	26人	30人	13人	15人	18人	12人
月平均人数※	125人	14人	25人	28人	15人	15人	17人	11人

◆高齢者総合福祉センター「ふれあいプラザ」

2022 年度は、新型コロナ対策に十分に配慮した上で、隣接の河合町立文化会館まほろばホールを利用して一部の講座を実施した。また、園内の感染状況が拡大する中においては、地域住民の参加機会を減らすことなく、地域住民限定で講座を開催した。

講師都合により 2021 年度に終了した「色鉛筆ぬり絵講座」には再開を望む声が多く寄せられた。新規講師開拓と準備を行い、2023 年 4 月より「大人のぬり絵講座」としてリニューアル開講する予定である。

コロナ禍でも開催できる新規講座を模索し、発声を伴わない・10 名程度の少人数制で運営できる新規講座として「筆文字アート講座」「押し花アート講座」「ガラスアート講座」を開催した。

大ホールでの音楽イベント、外出企画については、新型コロナの影響で開催を見送った。

◆ニッセイ聖隷クリニック

2022 年度は、新型コロナウイルスに対する発熱外来認定医療機関として約 550 名の患者の受入を行い、各種検査及び治療を行った。新型コロナワクチン接種は、ご入居者、職員、地域住民の 3 回目～5 回目の追加接種の受入を行った。4 月には新規診療科として皮膚科を開設した。毎週ほぼ予約枠が埋まるほどの患者数となっている。11 月からは 80 列の CT へ更新。冠動脈造影 CT 及び各種造影 CT の撮影ができるように体制整備を行った。健診については、河合町住民向けに DM を発行し、健診受診者へは 30 周年の記念品としてボールペンの配布を行った。また、新規業者の定期健診の受入を約 30 名行った。受診者数は例年減少傾向にあったが、前年度並みの推移となった。

◆奈良ベテルホーム

2022 年度は、8 月～9 月、11 月～12 月、2023 年 1 月～2 月にかけて 2 階、3 階各フロアとも新型コロナ感染症の感染拡大、また、2023 年 2 月下旬に 3 階フロアで感染性胃腸炎（ノロウイルス）の集団発生も起こり、入所とショートステイの受け入れ停止が多く運営は厳しい年度となった。入所に関しては、新型コロナ感染症の第 6～8 波の感染拡大や近隣病院の入院患者の退院支援の停止などがあり入所相談がほぼない状況であった。2023 年 2 月下旬に新型コロナの感染が落ち着いたこともあり、近隣病院、居宅支援事業所から新規入所、ショートステイ相談が増え利用増となった。通所リハビリテーションについては新型コロナによる休止はなく、利用者の新規相談が増加し、概ね予算通りとなった。また、当期利益については、世界情勢の不安定化による物価、燃料費、水光熱費の高騰の影響が大きく予算未達となった。

◆ニッセイせいいい在宅介護サービスセンター・ベル西大和店

2022 年度も新型コロナによる感染対応に迫られる年度となった。利用者やヘルパー・職員の感染もあり業務継続の対応に迫られたが、訪問内容や地域事業所と連携するなど工夫しながら業務をとめることなく前年度を上回る収益を上げることができた。

◆訪問看護ステーション西大和

2022 年度は、感染症拡大のもと事業継続を目標に人員確保、感染対策に取り組むと共に、選ばれる事業者を目指してより丁寧、より誠実なケア・連携をスタッフ全員で心がけた。

◆ニッセイせいいけアプランセンター西大和

2022 年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けながら、各市町村からの新規依頼や飛び込みの依頼を受けることで新規利用者数が大幅に増加した。また、医療・介護・地域との連携強化を図り、利用者の想いに寄り添い、地域のニーズに合わせ対応したことで予算が達成できた。

◆その他公益的事業

- (ア) 実習生受入(実人数 8 名 延べ日数 92 日)
- (イ) 文化教養講座(開催数 22 講座:参加者 220 名)
- (ウ) エデン河合町こども園訪問(年 2 回)
- (エ) 献血(実人数 31 名)
- (オ) 利用者等からの余剰食品回収によるフードバンク奈良への食品寄贈
- (カ) 古着回収によるポリオワクチン寄贈(古着 de ワクチン)
- (キ) 使い捨てカイロの回収と利用企業への寄贈(土壌改良剤への転換)
- (ク) 使用済み切手回収と国際医療団体への寄贈
- (ケ) 河合町主催の福祉交流会における車いす体験・歩行分析体験実施(地域連携グループ 13 名)
- (コ) 参加者:車いす体験 38 名、歩行分析 29 名
- (サ) 小学校児童の下校時見守り活動(入居者・全職場)

《コロナの影響による未実施内容》

- ・外部ボランティア受入
行事ボランティア受入
- ・介護の日ふれあいフェスタ開催
- ・地域住民・入居者を対象としたコンサート・講演会
- ・河合町開催マーケットへ参加・売上金は町社協寄贈
- ・エデン介護教室
- ・ベテル介護教室

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2022年度は引き続いて新型コロナウイルスへの対策について入居者ならびに職員には多大な制限と負担をかけたが、イベントの再開など少しずつではあるが従来の生活を取り戻すことができた。また、8月に4号館が竣工し、介護居室6室の増室が叶った。加えて介護浴室の改修や見守りシステムの本格稼働、入居者用メールボックスやコージェネレーションシステムの更新工事など設備整備が大きく進んだ。入居状況は、契約数332戸（一般居室297戸、介護居室35戸）、入居率は一般居室94.3%、介護居室81.4%、全体で92.7%となり対前年度を1.9%下回る結果であった。

【2022 年度事業の振り返り】

1. 有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

（ア）各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上

新型コロナウイルス感染時の対応など各課が協働してスムーズな対応ができるようになった。また、コロナ禍からの回復に向けて、各課が協力して院内イベントや外出企画などを催行することができた。また8月より見守りシステムの本格稼働により QOL の向上と業務効率化が進んだ。EQC の再構築によって、業務の標準化を進める基盤ができた。

（イ）人材育成と連携

一般居室サービス課と介護居室サービス課間で計3名職場交換を行った。e-ラーニングや動画を活用した研修が定着した。新型コロナウイルス陽性となる職員が重なった際には事業本部および浦安エデンの園より職員派遣の支援をいただいた。

（ウ）経営基盤の安定

4号館開設による住替えが順調に進み、過去最高の新規入居契約25件につながった。電気、ガス、食材などの高騰を受け、一層の節約に努めたが非常に厳しい収支状況となった。

（エ）リスク管理体制の強化

感染と災害のBCPを作成。感染シミュレーションを実施し実効性を確認した。行方不明者捜索訓練の実施。正面玄関に広角のカメラを設置し、効果を発揮した。IA入力数が21年度352件から22年度は525件へ増加し、入力の意識が向上した。

（オ）社会・地域への貢献と連携

障害者の就労支援事業受け入れを再開した。

2. 松戸ニッセイ聖隷クリニック

新型コロナウイルスワクチン接種の実施医療機関となり、入居者および職員へのワクチン接種を2回実施した。新型コロナウイルスPCR検査、抗原検査等の検査体制は継続し入居者新型コロナウイルス陽性者の入院受け入れを実施し当クリニックの存在意義が確認できた。

3. 高齢者総合福祉センター

感染対策を徹底し、コンサートは入居者と地域の方を分けた2部制にするなどして有観客で開催した。また、定期教室は12教室中、9教室が通常開催できるようになった。

4. ニッセイエデンヘルパーステーション（訪問介護）

4号館に事務所を移転した。感染防止の装備をはじめ、全職員のワクチン接種、頻回なPCR検査、定期の抗原検査など感染対策を講じてきた。訪問利用者の新型コロナウイルス陽性に伴う職員の感染にも直面したが、対策の効果もあり感染拡大には至らずサービス提供することができた。また、「認知症への対応力向上に向けた取組みの推進」では、職員の専門研修への参加により実際に対応可能な体制を整えることができた。

【地域における公益的な取組】

- ・松戸市社会福祉協議会と連携してフードバンク活動を2回/年実施した。
- ・松戸市との災害時における避難所等の提供に関する協定の継続。

【数値実績】

表1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	332 戸（81 戸）	123 名	290 名	413 名

表2：地域別契約状況

	関東	東海	東北	近畿	信越	北陸	中国	四国	合計
人数	392 名	9 名	1 名	4 名	2 名	2 名	2 名	1 名	413 名
構成比	94.9%	2.2%	0.2%	1.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.2%	100.0%

表3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	45 名	101 名	87 名	70 名	46 名	49 名	11 名	4 名	0 名	413 名
構成比	10.8%	24.5%	21.1%	16.9%	11.1%	11.9%	2.7%	1.0%	0.0%	100.0%

表4：平均年齢

平均	男性	女性
84.9 歳	83.7 歳	85.4 歳

表5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	11 名	6 名	（6 名）
女	18 名	22 名	（22 名）
計	29 名	28 名	（28 名）

表6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	122 名	29 名	23 名	27 名	16 名	12 名	12 名	3 名
期末人数	124 名	30 名	22 名	18 名	19 名	8 名	19 名	8 名
月平均人数	125.9 名	31.5 名	21.9 名	23.4 名	18.6 名	10.1 名	15.8 名	4.6 名

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2022 年度、明日見らいふ南大沢(東京都住宅供給公社からの運営受託事業)は開設して 26 年が経過し、284 世帯、入居者 307 名、平均年齢が 87.6 歳で終えることとなった。施設としてはクラスターの発生など引き続き新型コロナウイルス感染対策に追われる 1 年ではあったが、一方で社会的には制限緩和へ大きくシフトし始め、次のステージに踏み出し始める新しい動きを感じる年であった。また、2023 年度から始まる複数年契約の初年度に向けて、募集業務をはじめ各方面で体制を整えることが重要な時期であった。万全な体制の確保ができなかった点については速やかに整えていきたい。2022 年度事業の結果・成果について、以下のとおり報告する。

【事業・運営計画】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供

(ア) 誰もがいきいき暮らせるためのプログラムづくり

(イ) 生活利便サービスの充実に向けた取り組みの継続

①JA 八王子や、障がい者施設『草むら』による移動販売を新たにスタートし、地域との交流を広めるとともに、外出自粛生活の中で生活用品購入の環境を整備した。

(ウ) 介護未認定者やサービスにつながりにくいケースに対する支援の実践

①デイケアの運営を評価・見直し、利用者の状態や利用者数、および業務効率・リスク等を総合的に検討し、食堂の一部を改装して新しい形での提供体制に変更した。

(エ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり

①感染対策を行いながら入居者宅を訪問し、生活の変化についての聞き取りを再開して入居者情報の収集に努めた。

(オ) サービス充実のための新しい福祉用具・ICT 機器導入の検討

①見守りシステムは検討を行い公社に提案したが、公社判断により来年度以降に持ち越しとなった。インカムは実践導入を開始し、職場間連携の強化など実務に浸透させることができた。

2. 人材の育成

(ア) 次世代の育成・専門性の向上

(イ) 接遇向上への取り組み

①昨年度よりスタートした接遇プロジェクト会議では、外部講師を招いての接遇研修を開催し、職員への教育活動を行った。また、次年度に継続する仕組みを確立し継続的な運営の基礎づくりができた。

(ウ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

3. 地域との交流・協力関係づくり

(ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり

①あすみ秋祭りでは近隣地域で活動しているキッチンカーによる販売や暮らしの用品フェアに新たな介護用品店舗が参加するなど地域との連携が少しずつ定着してきている。

(イ) 明日見らいふ南大沢の特徴を活かした地域との交流への取り組み

(ウ) 地域活動への参加

4. 環境・エコ活動への取り組み

(ア) 入居者と共同・協働による環境活動の実施

(イ) 省エネへの取り組みの継続

(ウ) 防災対策・ハードの見直し

5. 入居者募集

(ア) コロナ禍に対応できる新たな募集活動

①募集業務引継ぎの期間として体制の整備や、管理会議を通して職員に向けて活動報告を行うなど、入居者のみならず公社および職員に対しても積極的にアピールした。

(イ) 新規入居者のスムーズな受入れ

○公益的事業について

- ・フードロス対策として、地域の NPO 法人へ消費期限が短くなった備蓄食料の寄付を行った。
- ・入居者ととともに施設周辺までエリアを拡大した地域環境デイ（ゴミ拾い）を継続した。

■2023 年 3 月 31 日時点

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男 性	女 性	計
人 数	284 戸（23 戸）	78 名	229 名	307 名

表 2：地域別契約状況

（単位：名・％）

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	中国	計
人 数	286 名	6 名	7 名	1 名	1 名	3 名	2 名	1 名	307 名
構成比	93.1%	2.0%	2.3%	0.3%	0.3%	1.0%	0.7%	0.3%	100%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人 数	34 名	99 名	81 名	63 名	23 名	7 名	0 名	0 名	0 名	307 名
構成比	11.1%	32.2%	26.4%	20.5%	7.5%	2.3%	0%	0%	0%	100%

表 4：平均年齢

全 体	男 性	女 性
87.6 歳	87.5 歳	87.7 歳

表 5：入・退去状況

		入居	退去	(死亡退去)
	男 性	1 名	9 名	(9 名)
	女 性	8 名	23 名	(22 名)
	計	9 名	32 名	(31 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	97 名	18 名	12 名	25 名	10 名	14 名	15 名	3 名
期末人数	108 名	15 名	14 名	29 名	25 名	13 名	11 名	1 名
月平均人数	103.2 名	17.7 名	11.2 名	28.5 名	16.3 名	14.5 名	12.8 名	2.3 名

法人本部

新型コロナウイルス感染症への対応の長期化に加えて、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー、穀物価格の高騰、さらに円安の影響により物価が大きく上昇し、水光熱費をはじめとする事業経費が増大するなど、事業団全体の経営、運営にも大きな影響を与えた。法人本部として情報収集に努めるとともに、職域接種の実施、国の感染症対応に合わせて、感染時の休職日数、職員の行動制限の通達を行った。年間を通して、厳しい人員管理、予算管理、投資抑制が求められるなか、流行時は職員、職員家族の罹患者が増加し、各施設では大変厳しい事業運営を迫られることとなり、人的応援および稼働の調整をはかった。また、ウクライナ紛争に関しては、「ウクライナ希望のつばさ SHIZUOKA」へ参画し、ウクライナからの避難民に住宅・物資の提供を行っている。

Vison2025 に掲げる重要課題「聖隷 DX」として、様々なシステム運用が ICT 化されていくなか、社会問題となった身代金要求型コンピューターウイルス攻撃に関しても、サイバーセキュリティへの対策強化を行った。健康推進室を設置し、健康経営に取り組んだ結果、2019 年度以来 2 年振りに健康経営優良法人「ホワイト 500」の認定を受けることができた。職員が健康で、安心して、やりがいを持って働く環境を作ることによって、質の高いサービス提供と人材確保につながるとして継続して取り組んでいく。

そして、2030 年の創立 100 周年に向けて「聖隷みらい創造プロジェクト」が始動し、2030 年に聖隷のあるべき姿としてまとめられた提言は、より具体的な項目として推し進めていくこととなった。聖隷健康診断センター東伊場クリニック開設準備室、労務業務の集約を行うシェアードサービスセンター設置の準備、利用者の利便性向上を目的とした「聖隷アプリ」の導入、事業団ホームページリニューアルへの着手など、2023 年度に向けた取り組みが行われた。

社会情勢が事業運営にも大きな影響を及ぼすなか、厳しい経営環境であったが、2022 年度は各事業の努力により堅実な結果を残すことができた。

【各部の報告】

《総務部》

2022 年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症に伴う日々の生活や働き方の見直しを行い、新しい生活様式を取り入れながら徐々にコロナ禍前の状況に戻していく 1 年であった。WEB 会議は定着し、様々な会議や打ち合わせに用いられるようになった。

大規模広域法人としての強みを活かした仕組化の推進については、2022 年 10 月に保健事業部の労務業務を集約し、2023 年 4 月に法人本部、保健事業部、在宅・福祉サービス事業部の労務業務の集約化する新たな部署（シェアードサービスセンター）が設立された。

ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進としては、新たな福利厚生制度として選択制確定拠出年金（DC）の導入検討を行い、2023 年 12 月の導入に向けて 2022 年 9 月に運営管理期間を決定し、その後、制度案の作成を進めた。

聖隷 DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進については、メールアドレスの全職員

登録を目標として周知した結果、登録率 88%（同 22%増）となり、給与明細の電子交付率は 89%（前年比 6%増）となった。身上異動届の WEB 申請は、事業部間を越えたチームにて WEB 申請における運用検証を実施し、2023 年 4 月に全事業部導入を実現した。また、ペーパーレス化及び職員の利便性向上の観点より、互助会証のデジタル化、互助会医療見舞金 WEB 申請化、両立支援ハンドブックの電子化を 2023 年 4 月に実施した。

《人事企画部》

新型コロナウイルス感染症の感染拡大から 3 年目を迎え、未だ様々な場面で行動制限を余儀なくされた 1 年だった。人事企画部は、各施設と共に感染状況の各フェイズに対応しながら役割を遂行した。

職員の新卒・中途採用者に関しては例年と同様、各施設が人員不足にならぬよう注力した。対面型のイベントや学内説明会への出展数を増やし、就職希望者には事業団の福利厚生や魅力を直接伝える機会を拡大した。また動画配信による事業団の紹介も積極的に行い、事業団ホームページ内の採用コンテンツ「聖隷チャンネル」の内容充実を図った。障がい者雇用は、施設や事業団就労支援事業所との連携を強化し、ジョブマッチング（働く部署を明確にした採用）を推奨した。その結果、見学者 12 名、実習者 3 名の受け入れから 4 名の障がい者雇用につながった。外国人採用は、在留資格「介護」の人材 6 名と EPA 介護福祉士候補者 4 名を迎え入れた。

職員の育成は、コロナ禍の状況を鑑みて、集合研修とオンライン研修を組み合わせるなど階層別研修の実施方法を再考して開催した。また、外部研修事業では、研修管理システム「manaable（マナブル）」を導入し、外部研修に活用した。紙媒体で実施していた研修申込・支払い管理・講義などの一連業務がペーパーレスで効率的な運用になることから、今後は事業団内研修にも活用できるように検討を進める。

役職者定期評価制度は、運用方法や評価ツール（人事考課シート）を変更し、次長職以上の役職者を対象として開始した。2023 年度からは課長職の定期評価を実施するとともに、役職者の評価制度を再構築した後の検証を行う。また、評価する上で評価者の育成や評価のばらつきなどの課題があったため、公平公正な評価になるよう評価者研修を実施した。今後も、定期的に評価者研修を継続する予定である。EPA 介護福祉士候補者の学習支援は、国家試験合格率の向上と、学習支援に対する施設の業務負担を軽減することを目的に、事業団内の各地域で異なる学習支援方法を統一した。さらに、授業の理解度を基準に候補者をクラス分けし、年間を通して各レベルに合わせた支援を行うことで国家試験合格率 83%の結果が得られた。

社会的な課題である「地域包括ケアシステム」を実現するため、医療・福祉のニーズに応じて看護師特定行為研修を企画・開講している。今まで開講していた研修の修了者に加え、2022 年度は在宅領域の特定看護師を育成することができ、地域の利用者により速く、質も確保された医行為が提供できた。今後は特定看護師が各地域でさらに活躍できるよう、研修を受講しやすい環境をつくり人材育成を強化する。

少子・高齢社会の進展により、医療・福祉人材の確保不足はきわめて重要な社会的課題である。人事企画部は、聖隷で働く職員が「働きがい」を感じ、最高の質を追求したサービスが提供できる組織づくりを通して社会や地域の人々へ貢献できるよう努めていく。

《財務部》

新型コロナ拡大や物価急騰などによる不安定な経済環境の中、事業団経営管理機能の強化や経理業務効率化、集約化、税法改正対応に向けた準備に取り組んだ年であった。

経営管理機能の強化としては、2021年度からスタートした「投資管理委員会」で検討した案件について事業開始後に当初計画通り進んでいるか事後検証をスタートさせた。また、中期財務計画を策定するために、2030年度までの事業団全体の投資案件を整理し、その上で2023年度目標利益を設定し、予算編成につなげた。予算編成時には、事業団と事業部との事業計画の連動性をより強くするために、事業計画事前ディスカッションを新たに実施し、事業計画の方向性を合わせる取り組みを行った。

経理業務効率化については、経費精算システムの導入事業所が100事業所で、全体の90.1%であった。2022年度中の100%導入を目指していたが完了出来なかったため、引き続き未導入事業所の導入を進め、現金業務省力化やキャッシュレス化を進めていきたい。また経理業務集約化については、2023年4月より横須賀、奄美地区の記帳業務を財務部にて処理することとなった。今後、どのように集約化を進めていくか検討を進めていきたい。

最後に、2023年10月より適格請求書等保存方式（いわゆるインボイス制度）の導入、2024年1月より電子帳簿保存法の改正と大きな法改正が行われる。現在、その対応のために準備を進めているが、きちんと法対応するだけでなく、業務効率化にも繋げていけるよう対応していきたい。

《総合情報システム部》

2022年度は、世界的な脅威となっているサイバー攻撃対策に注力した。従来のセキュリティ対策ソフトから、ランサムウェア等のサイバー攻撃を検知できる対策ソフト（EDR 製品※）を選定し導入した。併せて、24時間365日セキュリティ監視できる環境を整えるため、SOC サービス※を契約した。そのほか、Emotet と呼ばれるメールの添付ファイルから感染を行うマルウェア※が暗号付き圧縮ファイルを悪用している現状を受け、オンラインストレージを導入した。医療機関における外部からの不正アクセスが増えていることを受け、医療機器等のメンテナンスに利用されているVPNルータの脆弱性について、定期的に確認を行っている。

各事業部へのシステム導入・更新支援についても継続対応した。病院事業部では、2024年1月以降、関連2法人を含めた9施設で電子カルテシステムの更新が予定されているため、6月より聖隷浜松病院、聖隷三方原病院のシステム課長を加え、事業団全体のシステム課題の共有、施設事情を踏まえた検討をスタートさせた。保健事業部では、2022年4月に稼働した新健診システムの安定稼働を目的とした検討会を開始した。操作性やレスポンス面での課題については、今後の継続課題となっている。また、2023年5月に開設される聖隷健康診断センター東伊場クリニック開設プロジェクトに参加し、システム面でのプロジェクト管理を担当した。在宅・福祉サービス事業部、高齢者公益事業部では、昨年に引き続き見守り支援システムの導入（新規3施設、増設4施設）をサポートした。また同システムで使用する無線LANの構築では、設計段階から関わりを持ち、計画通りの構築を支援した。

事業団全体でのWEB会議やクラウドサービスの利用が拡大しており、逼迫するネットワーク網を改善するため、静岡県内の専用線サービスの見直しとインターネット回線の増強を実施した。

聖隷 DX 関連では、聖隷利用者アクセス向上を目的とした聖隷アプリの検討を、秘書・広報課と共同して進めている。11 月に 4 社を招いてプロポーザルを実施し、3 月より導入プロジェクトを立ち上げ準備を進めている。

次世代の情報部門を担う人材育成にも力を入れた。各事業部情報システム部門協力のもと、中堅職員が聖隷富士病院、聖隷沼津病院の病院システム更新プロジェクトに参加し経験を積む機会を継続している。

※EDR(Endpoint Detection and Response)：パソコンやサーバーでの不正な動きを検知し、対応を支援するサービス。

※SOC(Security Operation Center)サービス：24 時間 365 日でサイバー攻撃を監視し、検出・対応するサービス。

※マルウェア：コンピューターやその利用者に被害をもたらすことを目的とした、悪意のあるソフトウェア

《総合企画室》

引き続きコロナ禍において、検査物品調達、職域接種の実施を行い、事業部の運営を支援した。厳しい経営環境が続く中、関連法人を含む病院支援に引き続き取り組み、保健事業部においてもシステム導入に起因して発生した運用諸問題へ業務支援を行った。医師キャリアセンターとしては 11 名の医師採用（常勤 3 名、非常勤 8 名）に関与することができた。

青木理事長の全国社会福祉法人経営者協議会、静岡県の外務役職業務や講演への対応支援を始め、シンクタンク機能として、ブリーフィングを継続し、制度改正、法改正、各種審議会の情報収集を行った。また、日本重症患者ジェット機搬送ネットワーク（JCCN）の設立支援や全国労働安全衛生団体連合会への出向を行い、対外的な連携も進めている。

投資管理委員会、モニタリング会議の事務局を担当、医療法人さわやか会議渡プロジェクトに参画し、聖隷健康診断センター東伊場クリニック開設に取り組んだ。創立 100 周年に向け、2030 年の聖隷のあるべき姿を目指した「聖隷みらい創造プロジェクト」が始動し、グルーワークの事務局として理事長への提言取りまとめを支援した。

広報は、社内報編集委員会事務局として、制作会社の変更に伴う、誌面充実、リニューアル、eブックによる閲覧数向上に取り組み、閲覧者からのアンケート回答数を伸ばしている。その他、ホームページ更新や聖隷アプリ導入に向けたプロポーザルを実施した。SDGs については、小学校、こども園への出張授業や、機関誌において「聖隷における SDGs」を掲載するなど発信強化に努めた。

《健康推進室》

健康推進室は、健康経営推進、メンタルヘルス推進、健康管理を 3 本柱に事業団全体を組織横断的に関わる機能を有している。

2022 年度は、職員の健康全般に関して取り組む「ヘルスケア委員会」を 4 月に設立し、組織横断的に取り組みを共有し、好事例を展開できるようになった。さらに、必要な健康施策を適時実行したことにより、健康経営優良法人認定審査においては高評価をいただき、「健康経営優良法人 2023 ホワイト 500」の再認定を受けることができた。

メンタルヘルスにおいては、ストレスチェックにエンゲージメントやプレゼンティーズムを測定する指標を追加し、職場改善の定量的な目標を設定することができるようになった。なお、ストレスチェックの受験率は97.6%で前年に対して向上した。

健康管理においては、健康診断後の事後指導体制の構築のため、データ管理方法や各種施策について健康保険組合と連携を強化（コラボヘルス）した。なお、定期健診受診率（99.2%）、再検査受診率（61.0%）と前年に対して向上した。

健康推進室では、職員が元気に働きがいを持って働き続けるための施策立案や各施設、各現場支援を充実させていく。

《監査室》

2022年度は、新型コロナウイルス感染状況がある程度落ち着きを見せたことで、当初の予定通り78施設の往査を達成した。1施設当たりの指摘数は前年度より減少し、概ね効率的かつ効果的な業務が遂行されていることを確認した。また、重要な指摘項目をピックアップして運営会議に報告し、情報共有を図った。

内部通報窓口においては、過去最高となる通報件数を記録し、窓口の認知度が着実に向上していることを実感した。全通報のうち、常に最も高い割合を占めるパワーハラスメントに関して、全職員を対象としたアンケート調査を実施し、その結果と考察を公開した。アンケート調査については継続して行う予定である。

2022年度施設整備事業報告

施設種別	特別養護老人ホーム		
施設名	横須賀愛光園		
所在地	神奈川県横須賀市武3-39-1		
工事名	横須賀愛光園大規模修繕工事		
事業完了年月日	2023年2月17日		
施設の構造	鉄筋コンクリート造・3階建て		
延床面積	5,734.19㎡		
総事業費	土地購入費		
	建築工事費	222,508,000	(税込)
	設計監理費	14,740,000	(税込)
	備品費	46,699,086	(税込)
	その他費用	990,000	(税込)
	事業費 計	284,937,086	(税込)
財源	銀行より借入 (本部借入金含む)	0	
	法定補助金	117,312,000	
	福祉基金繰入	0	
	自己資金	167,625,086	
	財源 計	284,937,086	
備考			



法人の概要

- ・ 法人名 社会福祉法人 せいれいふくしじぎょうだん 聖 隷 福 祉 事 業 団
- ・ 創立 1930 年（昭和 5 年）5 月
- ・ 基本理念 キリスト教精神に基づく「隣人愛」
- ・ 代表者 理事長 あおき 青木 よしはる 善 治
- ・ 所在地 静岡県浜松市中区元城町 218 番地 26（法人登記）
- ・ 事業内容
 1. 医療事業（病院・診療所・ホスピスなど）
 2. 保健事業（健康増進・健康診断・人間ドック・疾病予防・
労働環境測定など）
 3. 福祉事業（特別養護老人ホーム・障害者支援施設・救護施設・
無料又は低額診療・保育事業・有料老人ホーム事業など）
 4. 介護サービス事業（介護老人保健施設・通所事業・
訪問看護ステーション・在宅訪問事業など）
- ・ 事業規模 施設・事業数 : 212 施設 517 事業 (2023 年 3 月時点)
職 員 数 : 16,553 名 (非常勤含む) (2023 年 3 月時点)
サービス活動収益 : 1,311 億円 (2022 年度)

実施する事業の概要

【第1種社会福祉事業】

2023年3月31日現在

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
救護施設	聖隷厚生園讃栄寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市	久保 範	23
特別養護老人ホーム	和合愛光園	102	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	83
特別養護老人ホーム	和合愛光園和合サテライト	29	2014年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	13
特別養護老人ホーム	和合愛光園初生サテライト	29	2012年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	12
特別養護老人ホーム	いなさ愛光園	70	1997年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	52
特別養護老人ホーム	浜北愛光園	150	1999年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	105
特別養護老人ホーム	森町愛光園	80	1993年4月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	44
特別養護老人ホーム	森町愛光園天宮サテライト	29	2012年4月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	13
特別養護老人ホーム	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	100	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	71
特別養護老人ホーム	浦安愛光園	74	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	4
特別養護老人ホーム	松戸愛光園	103	2003年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	62
特別養護老人ホーム	横須賀愛光園	104	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	56
特別養護老人ホーム	宝塚すみれ栄光園	100	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	63
特別養護老人ホーム	宝塚栄光園	70	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	39
特別養護老人ホーム	花屋敷栄光園	108	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	64
特別養護老人ホーム	聖隷カーネーションホーム	54	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	33
特別養護老人ホーム	淡路栄光園	60	1999年4月1日	兵庫県淡路市	吉川 和幸	34
特別養護老人ホーム	奄美佳南園	80	1974年5月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	40
特別養護老人ホーム	藤沢愛光園	100	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	森岡 由美	75
軽費老人ホーム	もくせいの里	50	1978年12月1日	静岡県浜松市	宮崎 弘光	10
軽費老人ホーム	浦安市ケアハウス(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市	伊藤 智之	4
軽費老人ホーム	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	30
軽費老人ホーム	ケアハウス花屋敷	100	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	中野 聡美	7
障害者支援施設	障害者支援施設みるとす	20	2003年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	12
障害者支援施設	聖隷厚生園信生寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	42
障害者支援施設	浜松学園	60	2019年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	18
障害児入所施設	聖隷おおぞら療育センター	150	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	179
障害児入所施設	聖隷チャレンジ工房浜松学園	60	2022年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	18

【第2種社会福祉事業】

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
医療保護施設	聖隷三方原病院	940	1942年11月9日	静岡県浜松市	荻野 和功	1,531
保育所	春日保育園	120	1972年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山 春香	15
保育所	こうのとり保育園	120	1971年11月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	15
保育所	野上あゆみ保育園	90	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	小南 律子	22
保育所	逆瀬川あゆみ保育園	45	2002年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 昭子	12

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
保育所	御殿山あゆみ保育園	120	2003年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	21
地域子育て支援拠点事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山 春香	15
地域子育て支援拠点事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	27
地域子育て支援拠点事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	15
地域子育て支援拠点事業	野上あゆみ保育園	—	2008年11月1日	兵庫県宝塚市	小南 律子	22
地域子育て支援拠点事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2002年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 昭子	12
一時預かり事業	聖隷こども園夢舞台	—	2017年4月1日	兵庫県淡路市	辻田 紀子	22
一時預かり事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市	吉山 春香	15
一時預かり事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	27
一時預かり事業	聖隷こども園桜ヶ丘	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	太田 康子	17
一時預かり事業	聖隷こども園ひかりの子	—	2009年4月1日	静岡県浜松市	森下 美由紀	22
一時預かり事業	聖隷こども園めぐみ	—	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	29
一時預かり事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	15
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり東	—	2009年4月1日	静岡県磐田市	大塚 麻紀子	21
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり豊田	—	2011年4月1日	静岡県磐田市	平野 春江	17
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	永島 弘美	24
一時預かり事業	野上あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	小南 律子	20
一時預かり事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 昭子	12
一時預かり事業	御殿山あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	21
児童厚生施設	野上児童館	—	2008年11月4日	兵庫県宝塚市	小南 律子	—
児童厚生施設	御殿山児童館	—	2003年4月1日	兵庫県宝塚市	岸本 正子	—
助産施設	聖隷三方原病院併設助産所	6	1994年9月19日	静岡県浜松市	荻野 和功	—
助産施設	聖隷浜松病院併設助産所	10	1969年6月1日	静岡県浜松市	岡 俊明	—
老人デイサービスセンター	聖隷トライサポート和合	40	2001年8月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	11
老人デイサービスセンター	和合愛光園デイサービスセンター	62	1999年4月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	9
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター初生	50	2004年4月1日	静岡県浜松市	浅地 義紀	8
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市	村上 和文	4
老人デイサービスセンター	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	1997年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	6
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザいなさ	35	2015年10月1日	静岡県浜松市	竹田 拓未	5
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市	柴本 千晶	5
老人デイサービスセンター	浜北愛光園デイサービスセンター	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	3
老人デイサービスセンター	森町愛光園デイサービスセンター	42	1993年4月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	6
老人デイサービスセンター	浦安市高洲高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	4
老人デイサービスセンター	浦安市猫実高齢者デイサービスセンター(受託経営)	25	1999年10月1日	千葉県浦安市	副島 克行	3
老人デイサービスセンター	松戸愛光園デイサービスセンター	34	2003年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	3
老人デイサービスセンター	横須賀愛光園デイサービスセンター	30	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	2
老人デイサービスセンター	宝塚すみれ栄光園 デイサービスセンター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	5
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 仁秀	5

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	1995年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	7
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	2
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市	高風 玲太	3
老人デイサービスセンター	花屋敷デイサービスセンター	59	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	7
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	37	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	3
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンターうっこ	12	2015年8月1日	兵庫県淡路市	田村 健	3
老人デイサービスセンター	淡路栄光園デイサービスセンター	35	1999年4月1日	兵庫県淡路市	吉川 和幸	2
老人デイサービスセンター	聖隷ライフサポート津名	25	2020年4月1日	兵庫県淡路市	澤田 卓也	3
老人デイサービスセンター	奄美佳南園デイサービスセンター	20	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
老人デイサービスセンター	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	1996年11月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター藤沢	40	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	金子 英里	5
老人短期入所事業	老人短期入所事業(和合愛光園)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	83
老人短期入所事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	13
老人短期入所事業	和合愛光園初生サテライト	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	12
老人短期入所事業	老人短期入所事業(いなさ愛光園)	20	1997年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	52
老人短期入所事業	老人短期入所事業(浜北愛光園)	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	105
老人短期入所事業	老人短期入所事業(森町愛光園)	12	1993年4月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	44
老人短期入所事業	森町愛光園天宮サテライト	—	2012年4月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	13
老人短期入所事業	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市	副島 克行	71
老人短期入所事業	浦安愛光園	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	38
老人短期入所事業	老人短期入所事業(松戸愛光園)	21	2003年6月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	62
老人短期入所事業	老人短期入所事業(横須賀愛光園)	16	1992年6月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	56
老人短期入所事業	老人短期入所事業 (宝塚すみれ栄光園)	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	63
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚栄光園)	15	1993年4月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	39
老人短期入所事業	老人短期入所事業(花屋敷栄光園)	12	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	64
老人短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	33
老人短期入所事業	老人短期入所事業(淡路栄光園)	19	1999年4月1日	兵庫県淡路市	吉川 和幸	34
老人短期入所事業	老人短期入所事業(奄美佳南園)	10	1999年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	40
老人短期入所事業	老人短期入所事業(藤沢愛光園)	20	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	森岡 由美	75
老人介護支援センター	いなさ愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	52
老人介護支援センター	森町愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1998年10月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	5
老人介護支援センター	聖隷在宅介護支援センター淡路 (受託経営)	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市	新箭 幸平	1
老人介護支援センター	奄美佳南園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	2
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	6
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	5
老人居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	2
老人居宅介護等事業	森町愛光園 ホームヘルパーステーション	—	1998年10月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	2
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市	樋口 範子	6

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1997年10月1日	兵庫県宝塚市	赤井 祐	12
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	7
老人居宅介護等事業	奄美佳南園ホームヘルプ事業所	—	1993年10月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	3
老人居宅介護等事業	ニッセイせいい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
老人居宅介護等事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	伊東 ひとみ	5
認知症対応型老人共同生活援助事業	ほのぼのケアガーデン	9	2001年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	7
障害福祉サービス事業	聖隷おおぞら療育センター	20	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	179
障害福祉サービス事業	あさひ	35	2006年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	15
障害福祉サービス事業	和合愛光園	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	83
障害福祉サービス事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	13
障害福祉サービス事業	障害者支援施設みるとす	40	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	12
障害福祉サービス事業	聖隷トライサポート和合	共生型	2019年8月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	11
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房和合	10	2012年3月15日	静岡県浜松市	小野 英之	8
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	6
障害福祉サービス事業	和合愛光園初生サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	12
障害福祉サービス事業	聖隷リハビリプラザIN高丘	40	2021年4月1日	静岡県浜松市	村上 和文	4
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園信生寮	60	1993年4月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	42
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園まじわりの家	6	2011年10月1日	静岡県浜松市	石川 明彦	6
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	5
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園讃栄寮	4	1978年4月1日	静岡県浜松市	久保 範	23
障害福祉サービス事業	生活訓練事業所ナルド	10	2011年10月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	4
障害福祉サービス事業	福祉共同住宅 ファーストステップ	13	2019年6月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	1
障害福祉サービス事業	聖隷厚生園ナルド工房	10	2007年4月1日	静岡県浜松市	長谷川 展之	7
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房浜松学園	10	2019年10月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	4
障害福祉サービス事業	聖隷ワース工房浜松学園	15	2022年4月1日	静岡県浜松市	林 俊之	16
障害福祉サービス事業	聖隷ステップサポート	20	2022年4月1日	静岡県浜松市	原 正子	16
障害福祉サービス事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2017年11月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	2
障害福祉サービス事業	聖隷デイサービスセンター三方原	共生型	2018年10月1日	静岡県浜松市	柴本 千晶	5
障害福祉サービス事業	浜北愛光園	—	2013年1月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	105
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房浜北	15	2014年4月1日	静岡県浜松市	後藤 里奈	11
障害福祉サービス事業	生活介護事業所きらめき	20	2019年4月1日	静岡県浜松市	—	3
障害福祉サービス事業	森町愛光園デイサービスセンター	基準該当	2017年4月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	6
障害福祉サービス事業	森町愛光園ホームヘルパーステーション	—	2016年7月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	2
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市	中道 景	7
障害福祉サービス事業	浦安愛光園	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	38
障害福祉サービス事業	浦安ベテルホーム	—	2018年9月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	59
障害福祉サービス事業	松戸愛光園	—	2018年2月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	62

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
障害福祉サービス事業	松戸愛光園デイサービスセンター	共生型	2019年2月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	3
障害福祉サービス事業	横須賀愛光園	—	2019年1月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	56
障害福祉サービス事業	横須賀愛光園デイサービスセンター	共生型	2019年10月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	2
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市	樋口 範子	6
障害福祉サービス事業	宝塚すみれ栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	63
障害福祉サービス事業	宝塚すみれ栄光園 デイサービスセンター	共生型	2018年10月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	5
障害福祉サービス事業	宝塚栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	39
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市	赤井 祐	12
障害福祉サービス事業	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	基準 該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	7
障害福祉サービス事業	花屋敷栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	64
障害福祉サービス事業	花屋敷デイサービスセンター	基準 該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	7
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	7
障害福祉サービス事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	40
障害福祉サービス事業	奄美佳南園 デイサービスセンター	基準 該当	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
障害福祉サービス事業	奄美佳南園 ホームヘルプ事業所	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
障害福祉サービス事業	聖隷チャレンジ工房カナン	6	2017年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
障害福祉サービス事業	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	16
障害福祉サービス事業	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	16
障害福祉サービス事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年5月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	3
障害福祉サービス事業	ニッセイせいれい在宅介護サービス センターベル西大和店	—	2006年10月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
障害福祉サービス事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	2017年7月1日	千葉県松戸市	伊東 ひとみ	5
地域活動支援センター	地域活動支援センターナルド (受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	3
地域活動支援センター	磐田市地域活動支援センター	—	2022年10月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	3
無料又は低額診療事業	聖隷淡路病院	152	1999年12月1日	兵庫県淡路市	黒田 勝哉	169
無料又は低額診療事業	聖隷横浜病院	300	2003年3月1日	神奈川県横浜市	大内 基史	—
無料又は低額診療事業	聖隷佐倉市民病院	400	2004年3月1日	千葉県佐倉市	鈴木 理志	—
無料又は低額介護老人保健施設	三方原ベテルホーム	150	1991年5月1日	静岡県浜松市	浅井 精一	84
無料又は低額介護老人保健施設	浦安ベテルホーム	100	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	59
障害児通所支援事業	児童発達支援センターひかりの子	15	2012年4月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	8
障害児通所支援事業	聖隷放課後クラブはなえみ和合	20	2016年10月1日	静岡県浜松市	表 絢子	4
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援事業所 かるみあ和合	20	2021年6月1日	静岡県浜松市	松井 愛子	7
障害児通所支援事業	聖隷放課後クラブはなえみ森町	20	2017年4月1日	静岡県周智郡	望月 繕子	5
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援センターかるみあ	30	2013年10月1日	静岡県磐田市	松井 愛子	11
障害児通所支援事業	聖隷放課後クラブはなえみ磐田	10	2017年4月10日	静岡県磐田市	小野田 樹	6
障害児通所支援事業	磐田市発達支援センターはあと (受託経営)	—	2007年11月1日	静岡県磐田市	猪原 裕子	6
障害児通所支援事業	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	16
障害児通所支援事業	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	16
障害児通所支援事業	聖隷こども発達支援事業所 かるみあ富丘	10	2016年4月1日	静岡県磐田市	大塚 美美	5

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
一般相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2013年4月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	7
特定相談支援事業	相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	3
特定相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	古橋 清史	5
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	7
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所浜松東	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	都筑 雄一	1
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
特定相談支援事業	磐田市南部障害者相談支援センター	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	4
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	三谷 晋一	1
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	1
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市	田口 勇夫	2
特定相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	16
特定相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	16
障害児相談支援事業	相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市	木部 哲也	3
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2015年4月1日	静岡県浜松市	古橋 清史	5
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所ナルド	—	2012年6月1日	静岡県浜松市	松田 好弘	7
障害児相談支援事業	浜松市障害者相談支援事業所浜松東	—	2013年9月1日	静岡県浜松市	都筑 雄一	1
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	1
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
障害児相談支援事業	磐田市南部障害者相談支援センター	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	4
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市	三谷 晋一	1
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	1
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市	田口 勇夫	2
障害児相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市	福崎 充	16
障害児相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡	赤塚 美穂子	16
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園夢舞台	120	2017年4月1日	兵庫県淡路市	辻田 紀子	22
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園わかば	206	1966年11月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	27
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園桜ヶ丘	190	1975年4月1日	静岡県浜松市	太田 康子	17
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園ひかりの子	236	1976年4月1日	静岡県浜松市	森下 美由紀	22
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園めぐみ	166	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	29
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり東	215	1978年4月1日	静岡県磐田市	大塚 麻紀子	21
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり豊田	155	2011年4月1日	静岡県磐田市	平野 春江	17
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり富丘	129	2020年4月1日	静岡県磐田市	永島 弘美	24
病児保育事業	聖隷こども園夢舞台	3	2019年1月1日	兵庫県淡路市	辻田 紀子	22
病児保育事業	聖隷こども園わかば	4	2015年4月1日	静岡県浜松市	岡田 絵里子	27
病児保育事業	聖隷こども園めぐみ	4	2017年4月1日	静岡県浜松市	富永 裕美	29
病児保育事業	こうのとり保育園	6	2015年4月1日	静岡県磐田市	梶山 美里	15
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり東	4	2015年4月1日	静岡県磐田市	大塚 麻紀子	21
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり富丘	4	2020年4月1日	静岡県磐田市	永島 弘美	24

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
放課後児童健全育成事業	オリーブ(聖隷こども園こうのとり東)	—	2015年4月1日	静岡県磐田市	大塚 麻紀子	21
放課後児童健全育成事業	野上あゆみ保育園	19	2014年6月1日	兵庫県宝塚市	小南 律子	23
子育て援助活動支援事業	磐田市子育て支援総合センター「のびのび」	—	2003年7月1日	静岡県磐田市	井上 佳子	2
小規模保育所	聖隷のあ保育園	19	2019年4月1日	静岡県浜松市	石川 綾乃	6

【公益事業】

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
医療施設	聖隷浜松病院	750	1962年3月5日	静岡県浜松市	岡 俊明	2,110
医療施設	浜松市リハビリテーション病院(受託経営)	225	2008年4月1日	静岡県浜松市	藤島 一郎	447
医療施設	袋井市立聖隷袋井市民病院(受託経営)	150	2013年5月1日	静岡県袋井市	林 泰広	186
医療施設	聖隷浜松病院附属診療所 聖隷健康診断センター	—	1975年5月16日	静岡県浜松市	武藤 繁貴	187
医療施設	診療所聖隷予防検診センター	11	1987年4月1日	静岡県浜松市	森 厚嘉	137
医療施設	聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	—	2010年4月1日	静岡県静岡市	鈴木 美香	145
医療施設	聖隷静岡健診クリニック	—	2013年4月1日	静岡県静岡市	鈴木 美香	20
医療施設	地域・企業健診センター	—	2008年1月1日	静岡県静岡市	鳥羽山 滋生	156
医療施設	浜名湖エデンの園診療所	—	2000年3月15日	静岡県浜松市	日置 弥之	3
医療施設	宝塚エデンの園附属診療所	19	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	飯田 俊博	12
医療施設	油壺エデンの園附属診療所	15	1986年11月1日	神奈川県三浦市	渡邊 弘美	11
医療施設	ニッセイ聖隷クリニック	19	1992年3月18日	奈良県北葛城郡	進藤 敬久	23
医療施設	松戸ニッセイ聖隷クリニック	19	1997年3月1日	千葉県松戸市	山田 好則	22
医療施設	聖隷クリニック南大沢	—	1996年6月1日	東京都八王子市	宮城島 正行	5
有料老人ホーム	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	44
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	1973年5月1日	静岡県浜松市	溝口 壱	106
有料老人ホーム	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1979年4月1日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	77
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	1980年6月20日	愛媛県松山市	橋本 美穂	41
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	1986年11月1日	神奈川県三浦市	笹ヶ瀬 慶造	92
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	49
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	39
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム 藤沢エデンの園一番館	418	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	若野 倫義	29
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	江口 洋	34
有料老人ホーム	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	86
有料老人ホーム	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	86
有料老人ホーム	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	1996年6月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	78
地域における公的介護施設等の計画的な整備等の促進に関する法律第2条に規定する特定民間施設	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1996年7月22日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	77
地域における公的介護施設等の計画的な整備等の促進に関する法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	山田 千世	1
地域における公的介護施設等の計画的な整備等の促進に関する法律第2条に規定する特定民間施設	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	86
地域における公的介護施設等の計画的な整備等の促進に関する法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	5

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
地域における公的介護施設等の計画的な整備等の促進に関する法律第2条に規定する特定民間施設	ニッセイせいい在宅介護サービスセンターペル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
地域における公的介護施設等の計画的な整備等の促進に関する法律第2条に規定する特定民間施設	ウェル・エイジング・プラザ松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	86
地域における公的介護施設等の計画的な整備等の促進に関する法律第2条に規定する特定民間施設	高齢者総合福祉センター	—	1997年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	2
地域における公的介護施設等の計画的な整備等の促進に関する法律第2条に規定する特定民間施設	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	伊東 ひとみ	5
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	ウェル・エイジング・プラザ奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	86
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	高齢者総合福祉センター	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	枅田 悦弘	5
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	ニッセイ聖隷クリニック	19	1992年3月18日	奈良県北葛城郡	進藤 敬久	23
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月17日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	66
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	ニッセイせいい在宅介護サービスセンターペル西大和店	—	1992年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	訪問看護ステーション西大和	—	1994年6月15日	奈良県北葛城郡	林 弘美	7
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	ニッセイせいいケアプランセンター西大和	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田 俊恵	5
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	ウェル・エイジング・プラザ松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	86
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	高齢者総合福祉センター	—	1997年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	2
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	松戸ニッセイ聖隷クリニック	19	1997年3月1日	千葉県松戸市	山田 好則	22
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	1998年10月1日	千葉県松戸市	伊東 ひとみ	5
ケア付き高齢者住宅	ケア付き高齢者住宅「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	1996年6月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	78
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	せいい訪問看護ステーション横浜	—	2003年4月1日	神奈川県横浜市	川並 あさき	9
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	せいい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市	竹澤 英恵	7
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉	—	1993年1月18日	静岡県浜松市	山口 美津子	12
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション高丘	—	1997年11月1日	静岡県浜松市	水野 彰子	10
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉第二	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	松下 麻里子	8
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション細江	—	1995年3月1日	静岡県浜松市	尾田 優美子	12
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	藤野 有美子	10
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	—	2020年10月1日	静岡県浜松市	伊藤 純子	5
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション貴布祢	—	1997年2月1日	静岡県浜松市	白幡 友子	7
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション浅田	—	1995年10月1日	静岡県浜松市	河合 希代美	10
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市	垣野内 恵子	6
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	1998年11月1日	神奈川県横須賀市	久保田 南美	10
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	1995年10月1日	兵庫県宝塚市	黒田 千晶	14
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市	中西 幸子	12
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	1997年5月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	9
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2000年3月1日	兵庫県淡路市	於田 里実	17
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	工藤 成美	4
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	米倉 直美	7
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション西大和	—	1994年6月15日	奈良県北葛城郡	林 弘美	7
高齢者生活支援ハウス	やまぶき(受託経営)	5	1999年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	1

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
居宅介護支援事業	せいれいケアプランセンター佐倉	—	2019年6月1日	千葉県佐倉市	金子 綾子	2
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター和	—	2007年2月1日	静岡県浜松市	紋谷 めぐみ	6
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜松	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	市原 夏織	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター細江	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	澤田石 理恵	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ南部	—	2015年10月1日	静岡県浜松市	加藤 勇	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	深澤 和弘	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜北	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	鈴木 響子	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター森町	—	2000年4月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	5
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浅田	—	2016年10月1日	静岡県浜松市	牧野 光子	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浦安	—	2011年6月1日	千葉県浦安市	三谷 晋一	4
居宅介護支援事業	松戸愛光園ケアプランセンター	—	2004年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター横須賀	—	2000年4月1日	神奈川県横須賀市	亀田 由美子	3
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターすみれ	—	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	高松 英理	6
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター宝塚	—	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	大浦 有紀子	7
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター花屋敷	—	2003年10月1日	兵庫県宝塚市	田口 勇夫	8
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター北神戸	—	2000年4月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	2
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター淡路	—	2010年5月1日	兵庫県淡路市	新箭 幸平	3
居宅介護等事業	聖隷ケアプランセンター淡路第二	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市	於田 里実	4
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター藤沢	—	2011年3月1日	神奈川県藤沢市	坂井 あかね	4
居宅介護支援事業	ニッセイせいれいケアプランセンター西大和	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	松田 俊恵	5
訪問入浴介護事業	奄美佳南園訪問入浴事業所	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	1
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	林 俊之	14
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	藤井 謙太郎	6
福祉用具貸与事業	ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市	林 俊之	14
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市	藤井 謙太郎	6
特定福祉用具販売事業	ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
特定介護予防福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	林 俊之	14
特定介護予防福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	藤井 謙太郎	6
特定介護予防福祉用具販売事業	ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル西大和店	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
居宅療養管理指導事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	荻野 和功	—
訪問看護事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	荻野 和功	—
特定施設入居者生活介護事業	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	30
特定施設入居者生活介護事業	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	44
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	2000年4月1日	静岡県浜松市	溝口 壱	106
特定施設入居者生活介護事業	ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	2000年4月1日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	77
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	2000年4月1日	愛媛県松山市	橋本 美穂	41

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	2000年4月1日	神奈川県三浦市	笹ヶ瀬 慶造	92
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	49
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	39
特定施設入居者生活介護事業	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	江口 洋	34
特定施設入居者生活介護事業	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	2000年4月1日	奈良県北葛城郡	栢田 悦弘	86
特定施設入居者生活介護事業	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	2000年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	86
特定施設入居者生活介護事業	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	2000年4月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	78
地域包括支援センター	地域包括支援センター和合 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	松山 美津代	4
地域包括支援センター	地域包括支援センター高丘 (受託経営)	—	2012年10月1日	静岡県浜松市	石田 真規子	7
地域包括支援センター	地域包括支援センター細江 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	前田 知恵美	8
地域包括支援センター	地域包括支援センター北浜 (受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	鈴木 勇太	5
地域包括支援センター	磐田市南部地域包括支援センター (受託経営)	—	2019年4月1日	静岡県磐田市	松下 由紀	3
地域包括支援センター	浦安市高洲地域包括支援センター (受託経営)	—	2016年4月1日	千葉県浦安市	浅地 香織	5
地域包括支援センター	西第二地域包括支援センター (受託経営)	—	2008年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	5
地域包括支援センター	逆瀬川地域包括支援センター (受託経営)	—	2007年4月1日	兵庫県宝塚市	森川 亜矢子	8
地域包括支援センター	花屋敷地域包括支援センター (受託経営)	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	大浦 幸生	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	三方原ベテルホーム	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	浅井 精一	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷淡路病院	—	2014年4月1日	兵庫県淡路市	黒田 勝哉	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	せいいい訪問看護ステーション横浜	—	2003年4月1日	神奈川県横浜市	川並 あさき	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	せいいい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市	竹澤 英恵	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜松市リハビリテーション病院	—	2017年10月1日	静岡県浜松市	藤島 一郎	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷袋井市民病院	—	2019年4月1日	静岡県袋井市	林 泰広	—
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園特別養護老人ホーム	20	2006年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	83
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	13
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷トライサポート和合	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	11
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園デイサービスセンター	62	2006年4月1日	静岡県浜松市	金原 智恵	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーセンター	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	白野 静香	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション住吉	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	山口 美津子	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	和合愛光園初生サテライト	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	弓桁 智浩	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター初生	50	2006年4月1日	静岡県浜松市	浅地 義紀	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション高丘	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	水野 彰子	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市	村上 和文	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション住吉第二	—	2012年4月1日	静岡県浜松市	松下 麻里子	8
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション細江	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	尾田 優美子	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市	中野 淳	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園 特別養護老人ホーム	20	2006年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	52
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	2006年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	2

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ほのぼのケアガーデン	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	川合 厚志	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷リハビリプラザいなさ	35	2015年10月1日	静岡県浜松市	竹田 拓未	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市	藤野 有美子	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市	柴本 千晶	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	—	2020年10月1日	静岡県浜松市	伊藤 純子	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜北愛光園 特別養護老人ホーム	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	105
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浜北愛光園 デイサービスセンター	40	2006年4月1日	静岡県浜松市	上野 拓朗	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション貴布祢	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	白幡 友子	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 特別養護老人ホーム	12	2006年4月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	44
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 デイサービスセンター	42	2006年4月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園 ホームヘルプステーション	—	2006年4月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	森町愛光園天宮サテライト	—	2012年4月1日	静岡県周智郡	飛田 耕志	13
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション浅田	—	2006年4月1日	静岡県浜松市	河合 希代美	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市特別養護老人ホーム	50	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	71
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市高洲高齢者 デイサービスセンター	25	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安市猫実高齢者 デイサービスセンター	25	2006年4月1日	千葉県浦安市	副島 克行	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安愛光園	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	石川 智行	38
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	浦安ベテルホーム	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	59
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市	垣野内 恵子	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	松戸愛光園 特別養護老人ホーム	21	2006年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	62
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	松戸愛光園 デイサービスセンター	34	2006年4月1日	千葉県松戸市	森井 正孝	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	横須賀愛光園 特別養護老人ホーム	16	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	56
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	横須賀愛光園 デイサービスセンター	30	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	深澤 庸一	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルプステーション横須賀	—	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	樋口 範子	6
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	2006年4月1日	神奈川県横須賀市	久保田 南美	10
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚すみれ栄光園 特別養護老人ホーム	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	63
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚すみれ栄光園 デイサービスセンター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市	平川 昌弘	30
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市	中原 純平	44
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	宝塚栄光園	15	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	萬雲 房美	39
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルプステーション宝塚	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	赤井 祐	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	植田 仁秀	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	黒田 千晶	14
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市	西垣 真一	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市	高風 玲太	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	花屋敷栄光園 特別養護老人ホーム	12	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	64
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	花屋敷デイサービスセンター	59	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	山野井 泰裕	7

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市	中西 幸子	12
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	2006年4月1日	兵庫県神戸市	伊藤 由美子	9
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	33
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	37	2014年4月1日	兵庫県淡路市	田村 健	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	淡路栄光園	19	2006年4月1日	兵庫県淡路市	吉川 和幸	34
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	淡路栄光園デイサービスセンター	35	2006年4月1日	兵庫県淡路市	吉川 和幸	2
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2006年4月1日	兵庫県淡路市	於田 里実	17
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市	鷲尾 雅永	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ライフサポート津名	25	2020年4月1日	兵庫県淡路市	澤田 卓也	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 特別養護老人ホーム	10	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	40
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 デイサービスセンター	20	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 ホームヘルプ事業所	—	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園 訪問入浴事業所	—	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	1
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	2006年4月1日	鹿児島県奄美市	村田 勇樹	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション富丘	—	2020年4月1日	静岡県磐田市	工藤 成美	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	519	2006年4月1日	静岡県浜松市	溝口 壱	106
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	2006年4月1日	兵庫県宝塚市	請川 哲也	77
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	2006年4月1日	愛媛県松山市	橋本 美穂	41
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	2006年4月1日	神奈川県三浦市	笹ヶ瀬 慶造	92
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市	安達 美由紀	49
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市	小久保 ゆき	39
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	江口 洋	34
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	米倉 直美	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市	與五澤 幸子	3
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	枘田 悦弘	86
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	奈良ベテルホーム	116	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	66
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ニッセイせいい在宅介護サービス センターバール西大和店	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	山平 光子	4
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	訪問看護ステーション西大和	—	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	林 弘美	7
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	2006年4月1日	千葉県松戸市	臼井 健太	86
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ニッセイエデンヘルパーステーション	—	2006年4月1日	千葉県松戸市	伊東 ひとみ	5
介護保険法に基づく介護予防サービス事業	ケア付き高齢者住宅 「明日見らいふ南大沢」(運営受託)	482	2006年4月1日	東京都八王子市	鈴木 直弘	78
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市中障がい者相談支援センター (受託経営)	—	2020年4月1日	静岡県浜松市	藤川 晴海	5
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	宝塚市高齢者・障害者権利擁護支援センター	—	2021年4月1日	兵庫県宝塚市	古結 智	3
社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業	法人本部	—	2007年4月1日	静岡県浜松市	青木 善治	117
身体障害者向け住宅の事業	聖隷厚生園信生寮(シオンハウス)	5	1992年10月1日	静岡県浜松市	村田 孝弘	1
事業所内保育所	聖隷浜松病院ひばり保育園	200	2015年4月1日	静岡県浜松市	松井 理会	24
浜松市生活困窮者自立促進支援モデル事業	浜松市生活自立相談支援センター つながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	青柳 雄大	11

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
無料職業紹介事業	浜松市生活自立相談支援センター つながり(受託事業)	—	2014年4月1日	静岡県浜松市	青柳 雄大	11
訪問リハビリテーションの事業	三方原ベテルホーム	—	2020年4月1日	静岡県浜松市	浅井 精一	84
訪問リハビリテーションの事業	聖隷淡路病院	—	2019年4月1日	兵庫県淡路市	黒田 勝哉	6
訪問リハビリテーションの事業	浜松市リハビリテーション病院	—	2017年10月1日	静岡県浜松市	藤島 一郎	—
訪問リハビリテーションの事業	聖隷袋井市民病院	—	2019年4月1日	静岡県袋井市	林 泰広	—
訪問リハビリテーションの事業	浦安ベテルホーム	—	2022年6月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	59
訪問リハビリテーションの事業	奈良ベテルホーム	—	2018年10月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	66
通所リハビリテーションの事業	三方原ベテルホーム	50	2000年4月1日	静岡県浜松市	浅井 精一	84
通所リハビリテーションの事業	浜松市リハビリテーション病院	54	2019年4月1日	静岡県浜松市	藤島 一郎	—
通所リハビリテーションの事業	浦安ベテルホーム	45	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	59
通所リハビリテーションの事業	奈良ベテルホーム	47	2006年4月1日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	66
短期入所療養介護事業	三方原ベテルホーム	—	2000年4月1日	静岡県浜松市	浅井 精一	84
短期入所療養介護事業	浦安ベテルホーム	—	2006年4月1日	千葉県浦安市	大作 昌義	59
短期入所療養介護事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月17日	奈良県北葛城郡	井上 國晴	66

【収益事業】

施設(事業)の種類	施 設 名	定員	開設年月日	所 在 地	施設長	職員数
貸事務所	法人本部	—	2005年1月1日	静岡県浜松市	青木 善治	117

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 役員名簿

	氏 名	役 職 名	理事会 開催日
理事長	青木 善治	代表執行役員 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団会長 (一財)芙蓉協会理事長 (一財)恵愛会理事長 (学)聖隷学園理事	4月 8日 4月 22日 5月 13日 5月 27日
理事	岡 俊明	専務執行役員・聖隷浜松病院院長 (学)聖隷学園理事	6月 3日 6月 24日
理事	荻野 和功	専務執行役員・聖隷三方原病院院長 (学)聖隷学園理事 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員	7月 8日 7月 22日 8月 12日
理事	鎌田 裕子	常務執行役員・人事企画部長 (福)さくま理事 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員 (一財)日本老人福祉財団評議員	8月 26日 9月 9日 9月 30日
理事	日下部 行宏	常務執行役員 (一財)芙蓉協会常務理事 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員	10月 14日 10月 28日 11月 11日
理事	津幡 佳伸	常務執行役員・在宅・福祉サービス事業部長 (福)松溪会理事長 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団理事 (福)さくま理事 (一財)日本老人福祉財団評議員 (福)神戸聖隷福祉事業団評議員 (福)十字の園評議員	11月 25日 12月 2日 12月 23日 1月 13日
理事	彦坂 浩史	常務執行役員・総務部長 (医)聖愛会常務理事 (一財)恵愛会理事 (一財)日本老人福祉財団理事 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員 (福)小羊学園評議員	1月 27日 2月 10日 2月 24日 3月 10日
理事	平川 健二	常務執行役員・高齢者公益事業部長 (公財)ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事 (一財)日本老人福祉財団理事 (医)聖愛会評議員	3月 24日
理事	福田 崇典	専務執行役員・保健事業部長 (一財)芙蓉協会評議員 (一財)恵愛会評議員	

	氏 名	役 職 名
監事	佐野 國治	
監事	白木 政幸	
監事	鈴木 睦明	(一財)日本老人福祉財団評議員
監事	武居 敏	(福)松溪会評議員

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 評議員名簿

	氏 名	役 職 名	評議員会 開催日
評議員	青木 雅人	一般財団法人日本老人福祉財団理事長	6月 24日 10月 28日 3月 24日
評議員	伊藤 孝	一般財団法人芙蓉協会副理事長・聖隷沼津病院院長	
評議員	内山 勝徳	浜松商工会議所理事・総務企画部長	
評議員	大石 一雄	社会福祉法人さくま理事長	
評議員	小野田 全宏	特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会理事長	
評議員	小里 俊幸	一般財団法人恵愛会副理事長・聖隷富士病院院長	
評議員	小柳 守弘	学校法人聖隷学園専務理事・法人事務局長	
評議員	鈴木 貴之	公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事	
評議員	中村 一彦	東京海上日動ベターライフサービス株式会社代表取締役社長	
評議員	森本 俊子		

(2023年3月31日時点・五十音順)

附属明細書

該当ありません。